



SAS® 9.4

システムオプション リファレンス

第3版

The correct bibliographic citation for this manual is as follows: SAS Institute Inc. 2014. *SAS® 9.4 System Options: リファレンス(第3版)*. Cary, NC: SAS Institute Inc.

SAS® 9.4 System Options: リファレンス(第3版)

Copyright © 2014, SAS Institute Inc., Cary, NC, USA

All rights reserved. Produced in the United States of America.

For a hard-copy book: No part of this publication may be reproduced, stored in a retrieval system, or transmitted, in any form or by any means, electronic, mechanical, photocopying, or otherwise, without the prior written permission of the publisher, SAS Institute Inc.

For a web download or e-book: Your use of this publication shall be governed by the terms established by the vendor at the time you acquire this publication.

The scanning, uploading, and distribution of this book via the Internet or any other means without the permission of the publisher is illegal and punishable by law. Please purchase only authorized electronic editions and do not participate in or encourage electronic piracy of copyrighted materials. Your support of others' rights is appreciated.

U.S. Government License Rights; Restricted Rights: The Software and its documentation is commercial computer software developed at private expense and is provided with RESTRICTED RIGHTS to the United States Government. Use, duplication or disclosure of the Software by the United States Government is subject to the license terms of this Agreement pursuant to, as applicable, FAR 12.212, DFAR 227.7202-1(a), DFAR 227.7202-3(a) and DFAR 227.7202-4 and, to the extent required under U.S. federal law, the minimum restricted rights as set out in FAR 52.227-19 (DEC 2007). If FAR 52.227-19 is applicable, this provision serves as notice under clause (c) thereof and no other notice is required to be affixed to the Software or documentation. The Government's rights in Software and documentation shall be only those set forth in this Agreement.

SAS Institute Inc., SAS Campus Drive, Cary, North Carolina 27513-2414.

August 2014

SAS® and all other SAS Institute Inc. product or service names are registered trademarks or trademarks of SAS Institute Inc. in the USA and other countries. ® indicates USA registration.

Other brand and product names are trademarks of their respective companies.

目次

本書について	v
SAS 9.4 システムオプションの新機能	xi
1 部 SAS システムオプションについて 1	
1 章・SAS システムオプションで把握するべき事項	3
システムオプションについて	3
構文	4
SAS システムオプションの使用	4
比較	17
2 部 SAS システムオプションを処理する SAS 関数およびス テートメント 19	
2 章・SAS システムオプションを処理する SAS 関数	21
ディクショナリ	21
3 章・SAS システムオプションを処理する SAS ステートメント	27
ディクショナリ	27
3 部 SAS システムオプション 29	
4 章・システムオプションのディクショナリ	31
他の SAS ドキュメントで説明されている SAS システムオプション	35
カテゴリ別の SAS システムオプション	36
ディクショナリ	53
4 部 SAS システムオプションを処理する SAS プロシージャ 317	
5 章・OPTIONS プロシージャ	319
概要: OPTIONS プロシージャ	319
構文: OPTIONS プロシージャ	320
システムオプションリストの表示	325
オプションの情報の表示	326
システムオプショングループの情報を表示する	328
制限オプションの表示	332
保存可能オプションの表示	333
結果: OPTIONS プロシージャ	334
例: OPTIONS プロシージャ	335

6 章・OPTLOAD プロシージャ	341
概要: OPTLOAD プロシージャ	341
構文: OPTLOAD プロシージャ	341
例: 保存済みシステムオプションのデータセットのロード	343
7 章・OPTSAVE プロシージャ	347
概要: OPTSAVE プロシージャ	347
構文: OPTSAVE プロシージャ	347
単一オプションが保存可能かを指定する	349
保存可能なオプションのリストの作成	349
例: データセットのシステムオプションの保存	350

5 部 付録 353

付録 1・タイムゾーンIDとタイムゾーン名	355
エリア: Africa (アフリカ)	355
エリア: America (アメリカ-北、中央、および南)	357
エリア: Antarctica	366
エリア: Asia	367
エリア: Atlantic	371
エリア: Australia	372
エリア: Miscellaneous	373
エリア:ヨーロッパ	379
エリア:Pacific	383
推奨資料	387
キーワード	389

本書について

SAS 言語の構文規則

SAS 言語の構文規則の概要

SAS では、SAS 言語要素の構文ドキュメントに共通の規則を使用しています。これらの規則により、SAS 構文の構成要素を簡単に識別できます。規則は、次の項目に分類されます。

- 構文の構成要素
- スタイル規則
- 特殊文字
- SAS ライブラリと外部ファイルの参照

構文のコンポーネント

言語要素の多くでは、その構文の構成要素はキーワードと引数から構成されます。キーワードのみ必要な言語要素もあります。また、キーワードに等号(=)が続く言語要素もあります。複数の引数を含む構文で区切り記号を使用する場合と使用しない場合を説明するために、引数の構文の形式が複数示されています。

キーワード

プログラムの作成ときに使用する SAS 言語要素名です。キーワードはリテラルであり、通常、構文の先頭の単語です。CALL ルーチンでは、最初の 2 つの単語がキーワードです。

これらの例の SAS 構文では、キーワードには太字が使用されています。

CHAR (*string, position*)

CALL RANBIN (*seed, n, p, x*);

ALTER (*alter-password*)

BEST *w.*

REMOVE <*data-set-name*>

この例では、CALL ルーチンの最初の 2 つの単語がキーワードです。

CALL RANBIN(*seed, n, p, x*)

引数なしで 1 つのキーワードから構成される SAS ステートメント構文もあります。

DO;

... *SAS code* ...

END;

2つのキーワード値のいずれか1つの指定が必要なシステムオプションもあります。

DUPLEX | NODUPLEX

プロジェクトによっては、ステートメント構文中に複数のキーワードが含まれます。

CREATE <UNIQUE> INDEX *index-name* ON *table-name* (*column-1* <, *column-2*, ...>)

引数

数値定数、文字定数、変数、式のいずれかです。引数は、キーワードに続くか、キーワードの後の等号に続きます。SASでは、引数を使用して、言語要素を処理します。引数が必須の場合もオプションの場合もあります。構文では、オプションの引数は山かっこ(<>)で囲まれます。

この例では、*string* と *position* がキーワード CHAR に続きます。これらの引数は、CHAR 関数の必須引数です。

CHAR (*string*, *position*)

引数ごとに値が指定されます。この例の SAS コードでは、引数 *string* の値は 'summer'、引数 *position* の値は 4 です。

```
x=char ('summer', 4);
```

この例では、*string* および *substring* は必須引数ですが、*modifiers* と *startpos* はオプションです。

FIND(*string*, *substring* <,*modifiers*> <,*startpos*>

argument(s)

引数は必ず1つ必要であり、複数の引数が許可されます。引数の間はスペースで区切ります。カンマ(,)などの区切り記号は、引数間に必要ありません。

たとえば、MISSING ステートメントは、この形式で複数の引数を含みます。

MISSING *character(s)*;

<LITERAL_ARGUMENT> *argument-1* <<LITERAL_ARGUMENT> *argument-2* ... >
引数は必ず1つ必要であり、リテラル引数がこの引数に関連付けられます。リテラルと引数のペアは複数指定できます。リテラルと引数の間に区切り記号は必要ありません。省略記号(...)は、追加のリテラルと引数が許可されることを示します。

たとえば、BY ステートメントはこの引数を含みます。

BY <DESCENDING> *variable-1* <<DESCENDING> *variable-2* ...>;

argument-1 <option(s)> <argument-2 <option(s)> ...>

引数は必ず1つ必要であり、1つ以上のオプションがこの引数に関連付けられます。複数の引数と関連するオプションを指定できます。引数とオプションの間に区切り記号は必要ありません。省略記号(...)は、追加の引数と関連するオプションが許可されることを示します。

たとえば、FORMAT プロジェクションの PICTURE ステートメントは、この形式で複数の引数を含みます。

**PICTURE *name* <(*format-option(s)*)>
<*value-range-set-1* <(*picture-1-option(s)*)>
<*value-range-set-2* <(*picture-2-option(s)*)> ...>>;**

argument-1=value-1 <argument-2=value-2 ...>

引数には値を割り当てる必要があり、複数の引数を指定できます。省略記号(...)は、追加の引数が許可されることを示します。引数間に区切り記号は必要ありません。

たとえば、LABEL ステートメントは、この形式で複数の引数を含みます。

LABEL *variable-1=label-1 <variable-2=label-2 ...>;*

argument-1 <, argument-2, ...>

引数は必ず 1 つ必要であり、カンマまたは別の区切り記号で区切って複数の引数を指定できます。省略記号(...)は、カンマで区切られた引数が続くことを示します。SAS ドキュメントでは両方の形式が使用されます。

次に、この形式で指定された複数の引数の例を示します。

AUTHPROVIDERDOMAIN (*provider-1:domain-1 <, provider-2:domain-2, ...>*)

INTO *:macro-variable-specification-1 <, :macro-variable-specification-2, ...>*

注: 通常、SAS ドキュメントのサンプルコードは、小文字の固定幅フォントを使用して表記されます。コードの作成には、大文字も、小文字も、大文字と小文字の両方も使用できます。

スタイル規則

SAS 構文の説明に使用されるスタイル規則には、大文字太字、大文字、斜体の規則も含まれます。

大文字太字

関数名やステートメント名などの SAS キーワードを示します。この例では、キーワード ERROR の表記には大文字太字が使用されています。

ERROR *<message>;*

大文字

リテラルの引数を示します。

この CMPMODEL=システムオプションの例では、BOTH、CATALOG、XML がリテラルです。

CMPMODEL=BOTH | CATALOG | XML |

斜体

ユーザー指定の引数または値を示します。斜体表記の項目は、ユーザー指定値であり、次のいずれかを表します。

- 非リテラル引数。この LINK ステートメントの例では、引数 *label* はユーザー指定値のため、斜体で表示されます。

LINK *label;*

- 引数に割り当てられる非リテラル値。

この FORMAT ステートメントの例では、引数 DEFAULT に変数の *default-format* が割り当てられます。

FORMAT *variable(s) <format> <DEFAULT = default-format>;*

特殊文字

SAS 言語要素の構文には、次の特殊文字も使用されます。

=	等号は、一部の言語要素(システムオプションなど)のリテラル値を示します。
	この MAPS システムオプションの例では、等号により MAPS の値が設定されます。
	MAPS = <i>location-of-maps</i>
<>	山かっこはオプションの引数を示します。必須引数は山かっこで囲みません。
	この CAT 関数の例では、少なくとも項目が 1 つ必要です。
	CAT (<i>item-1</i> <, <i>item-2</i> , ...>)
	縦棒は、値グループから 1 つの値を選択できることを示します。縦棒で区切られている値は、相互排他です。
	この CMPMODEL=システムオプションの例では、引数を 1 つのみ選択できます。
	CMPMODEL=BOTH CATALOG XML
...	省略記号は、引数の繰り返しが可能なことを示します。引数と省略記号が山かっこで囲まれている場合、その引数はオプションです。繰り返される引数には、その引数の前や後ろに、区切り記号を入れる必要があります。
	この CAT 関数の例では、複数の <i>item</i> 引数が許可され、カンマで区切る必要があります。
	CAT (<i>item-1</i> <, <i>item-2</i> , ...>)
' <i>value</i> 'または" <i>value</i> "	一重引用符や二重引用符付きの引数は、その値にも一重引用符または二重引用符を付ける必要があることを示します。
	この FOOTNOTE ステートメントの例では、引数 <i>text</i> に引用符が付けられています。
	FOOTNOTE < <i>n</i> > < <i>ods-format-options</i> ' <i>text</i> ' " <i>text</i> ">;
;	セミコロンは、ステートメントまたは CALL ルーチンの終わりを示します。
	この例では、各ステートメントがセミコロンで終了しています。
	<pre>data namegame; length color name \$8; color = 'black'; name = 'jack'; game = trim(color) name; run;</pre>

SAS ライブラリと外部ファイルへの参照

多くの SAS ステートメントなどの言語要素では、SAS ライブラリと外部ファイルを参照します。論理名(ライブラリ参照名またはファイル参照名)から参照を作成するのか、引用符付きの物理ファイル名を使用するかを選択できます。論理名を使用する場合、通常、参照の作成に SAS ステートメント(LIBNAME または FILENAME)を使用するのか、動作環境のコントロール言語を使用するのかを選択します。複数の方法を使用して、SAS ライブラリと外部ファイルを参照できます。動作環境によっては使用できない方法があります。

SAS ドキュメントでは、外部ファイルを使用する例には斜体のフレーズ *file-specification* を使用します。また、SAS ライブラリを使用する例には斜体フレーズ *SAS-library* を引用符で囲んで使用します。

```
infile file-specification obs = 100;  
libname libref 'SAS-library';
```

× 本書について

SAS 9.4 システムオプションの新機能

概要

新機能と拡張機能を使用して、次を実行できます。

- パフォーマンスの最適化
- 初期化されない変数の処理方法を指定
- SAS 環境の保持を有効化
- ローカル時間以外のタイムゾーンを使用して SAS プログラムを処理
- 浮動小数点数の精度を改善
- SSL または TLS 暗号化プロトコルを使用したメールの暗号化
- SVG ファイルと GIF イメージのアニメーション表示
- ユニバーサル印刷出力に奥付を追加
- SYSIN オプションで指定したファイルをログ名に使用
- 出力 SAS データファイルに対して 32 ビット長の最大値を超えてオブザベーション数を増やすオプションを使用
- プログラムエディタ行の文字数を増やし、アウトプットウィンドウの行数を増やす
- OPTSAVE プロシージャで保存可能なシステムオプションをリストする
- DATA ステップで並列処理を有効にするかどうかを指定

SAS 9.4 の メンテナンスリリース 3 では、次の新機能と拡張機能が提供されました。

- IMLPACKAGEPRIVATE=、IMLPACKAGEPUBLIC= と IMLPACKAGESYSTEM= システムオプションは、SAS/IML パッケージコレクションの場所を制御します。
- UBUFNO=、UBUFSIZE= と VBUFSIZE= オプションが PERFORMANCE プロシージャオプショングループに含まれます。FONTSLOC= オプションが ODSPRINT= プロシージャオプショングループに含まれます。

SAS 9.4 の メンテナンスリリース 2 では、次の新機能と拡張機能が提供されました。

- MSGLEVEL=I の場合、Hadoop MapReduce ジョブ情報が SAS ログに表示されます。
- OPTIONS プロシージャでは、SAS ログのパスワードが、実際のパスワード長に関係なく、8 個の X で表示されます。
- UTILLOC= オプションはファイル名を引数として受け入れます。

SAS 9.4 の メンテナンスリリース 1 では、次の新機能と拡張機能が提供されました。

- DSACCEL=システムオプションでは、サポートされている環境で DATA ステップの並列処理を有効にするかどうかを指定できます。
- OPTMODEL プロシージャは、非線形統計モデリングまたは最適化に SAS 言語コンパイラを使用します。

パフォーマンス向上

データがページ境界に合わせて配置されると、SAS による出力データ(特に大量データ)の書き込みがより効率的になります。ALIGNSASIOFILES システムオプションを使用して、ページ境界に合わせて出力データを配置できます。詳細については、“[ALIGNSASIOFILES システムオプション](#)”(53 ページ)を参照してください。

SAS データセットのページサイズを決定する最適化プロセスとユーティリティファイルが拡張されました。この最適化プロセスが SAS セッションに適していない場合は、SAS 9.4 より前に利用されていた最適化プロセスを使用できます。詳細については、“[DATAPAGESIZE=システムオプション](#)”(98 ページ)を参照してください。

SAS ライブラリのページサイズを RAID ストライプと同じサイズに設定すると、SAS と RAID デバイス間の I/O が改善されます。詳細については、“[STRIPESIZE=システムオプション](#)”(255 ページ)を参照してください。

SAS データセットを処理するための一時ユーティリティファイルが使用されます。ユーティリティファイルのページサイズがデータセットのページサイズに対応している場合、I/O パフォーマンスが向上します。詳細については、“[UBUFSIZE=システムオプション](#)”(288 ページ)および“[VBUFSIZE=システムオプション](#)”(288 ページ)を参照してください。

出力オブザベーションを保持するビューバッファのサイズを設定すると、SAS ビュー処理のパフォーマンスが改善されます。詳細については、“[VBUFSIZE=システムオプション](#)”(307 ページ)を参照してください。

初期化されない変数の処理方法を指定

前のリリースでは、変数が初期化されなかった場合、SAS ログに NOTE が書き込まれました。NOTE のかわりに、変数が初期化されない場合に警告メッセージまたはエラーメッセージを SAS ログに発行するかどうかを指定できます。また、NOTE を発行しないように指定することもできます。エラーが発生した場合、DATA ステップの処理が停止されます。詳細については、“[VARINITCHK=システムオプション](#)”(303 ページ)を参照してください。

SAS 環境の保持を有効化

Work ライブラリデータセットおよびカタログ、ならびにグローバルステートメント、マクロ変数、およびシステムオプションの値は、SAS セッション間で保持できます。PRESENV システムオプションを設定すると、SAS 環境の保持に必要なデータの収集が開始されます。SAS を閉じる前に、PRESENV プロシージャを実行して、別の SAS セッションで使用できるようにデータをパッケージ化します。詳細については、“[PRESENV システムオプション](#)”(221 ページ)を参照してください。

異なるタイムゾーンを使用した SAS プログラムの処理

SAS 環境を設定すると、ローカル時間以外のタイムゾーンを使用して SAS プログラムを処理できます。異なるタイムゾーンを設定すると、そのタイムゾーンが、ログとイベントの時間記録に使用されます。異なるタイムゾーンの設定によって、データセットの作成タイムスタンプが生成され、日付、時間、および日時の関数と出力形式の処理に影響が及びます。詳細については、“[TIMEZONE=システムオプション](#)”(284 ページ)を参照してください。

浮動小数点表記

浮動小数点数の処理法は、SAS9.4 より前のリリースと互換性がある場合があります。または、処理法で、IEEE 浮動小数点演算標準 754-2008 が使用される場合もあります。IEEE 標準を使用すると、浮動小数点数の精度が向上します。浮動小数点数の読みやすさも向上しています。詳細については、“[DECIMALCONV=システムオプション](#)”(101 ページ)を参照してください。

メール

SAS および SMTP サーバーを使用するメールを送信する際、SMTP サーバーからの受信確認に対する待機秒数を設定できます。詳細については、“[EMAILACKWAIT=システムオプション](#)”(119 ページ)を参照してください。

EMAILHOST=システムオプションの新しい引数によって、メールセキュリティが強化されます。詳細については、“[EMAILHOST=システムオプション](#)”(122 ページ)を参照してください。

ユニバーサル印刷出力に奥付を追加

プリンターズマーク(奥付)をユニバーサル印刷出力に追加できます。奥付によって、出力の表示や印刷時には表示されない署名、ID、またはコメントをユニバーサルプリント出力ファイルに追加できます。詳細については、“[COLOPHON=システムオプション](#)”(89 ページ)を参照してください。

GIF イメージと SVG ファイルとのアニメーション表示のサポート

SAS システムオプションを使用して GIF イメージと SVG ファイルをアニメーション表示できます。このオプションでは、アニメーション作成の開始と停止を行ったり、フレーム

がビューに保持される時間、アニメーションを順次再生するかどうかやフレームを重ね合わせるかどうか、およびアニメーションループの繰り返し回数を指定したりできます。詳細については、次のオプションを参照してください。

- [ANIMATION=システムオプション \(54 ページ\)](#)
- [ANIMDURATION=システムオプション \(55 ページ\)](#)
- [ANIMLOOP=システムオプション \(56 ページ\)](#)
- [ANIMOVERLAY システムオプション \(57 ページ\)](#)
- [SVGAUTOPLAY システムオプション \(258 ページ\)](#)
- [SVGFADEIN=システムオプション \(259 ページ\)](#)
- [SVGFADEMODE=システムオプション \(260 ページ\)](#)
- [SVGFADEOUT=システムオプション \(261 ページ\)](#)

SVG ドキュメントの拡大

ドキュメントを作成する際に拡大ツールをドキュメントに埋め込むことによって SVG ドキュメントを拡大できます。詳細については、“[SVGMAGNIFYBUTTON システムオプション](#)”(264 ページ)を参照してください。

オブザベーションカウンタ増加の拡張

SAS 9.3 では、EXTENDOBSCOUNTER=データセットオプションまたは LIBNAME=ステートメントオプションを使用すると、32 ビット動作環境で出力 SAS データファイルに対して 32 ビット長の最大値を超えてオブザベーション数を増やせます。

SAS 9.4 では、EXTENDOBSCOUNTER=システムオプションを使用すると、SAS セッションのオブザベーション数を増やせます。デフォルトでは、オブザベーション数が増やされます。詳細については、“[EXTENDOBSCOUNTER=システムオプション](#)”(136 ページ)を参照してください。

SAS Clinical Standards Toolkit ライブラリのサポート

CSTGLOBALLIB=オプションを使用して、SAS Clinical Standards Toolkit グローバル標準ライブラリを指定できます。サンプルライブラリを指定するには、CSTSAMPLELIB=オプションを使用します。詳細については、“[CSTGLOBALLIB=システムオプション](#)”(97 ページ)および“[CSTSAMPLELIB=システムオプション](#)”(97 ページ)を参照してください。

DATA ステップで並列処理を有効にするかどうかを指定

SAS 9.4 の メンテナンスリリース 1 から、DSACCEL=システムオプションでは、サポートされている環境で DATA ステップの並列処理を有効にするかどうかを指定できます。SAS では、SAS LASR Analytic Server および Hadoop 環境において、DATA ステップの実行が制限付きで有効になります。詳細については、“[DSACCEL=システムオプション](#)” (115 ページ) を参照してください。

SAS/IML パッケージ(評価版)のサポート

SAS/IML 14.1 から、3 つのシステムオプションが SAS/IML パッケージコレクションの場所を制御します。[IMLPACKAGEPRIVATE=](#) (158 ページ)、[IMLPACKAGEPUBLIC=](#) (159 ページ)、[IMLPACKAGESYSTEM=](#) (160 ページ) 詳細については、“*Packages*” (*SAS/IML User's Guide*) を参照してください。

SAS システムオプションの拡張

次のシステムオプションが拡張されています。

[CMPLIB=](#) (p. 83)

SAS 9.4 の メンテナンスリリース 1 から、OPTMODEL プロジェクションで、非線形統計モデリングまたは最適化に SAS 言語コンパイラを使用できるようになりました。

[CPUCOUNT](#) (p. 94)

デフォルト値は ACTUAL か、5 つ以上のプロセッサがあるシステムでは 4 です。

[DMSOUTSIZE=](#) (p. 112)

アウトプットウィンドウのデフォルトおよび最大行数は 2147483647 です。

[EMAILHOST=](#) (p. 122)

PORT=オプション、ならびに SSL または TLS 暗号化プロトコルオプションを指定できるようになりました。PORT=オプションでは、SMTP サーバーのポート番号を指定できます。SSL プロトコルか TLS プロトコルのどちらかを指定することによって、セキュア SMTP サーバーで EMAIL アクセス方式を使用できます。TLS と SSL によって、クライアントと送信 SMTP サーバー間のデータが暗号化されます。

PORT=ならびに SSL または TLS 暗号化オプションとあわせて、各サーバーに対して USERID=、PWD=、および AUTH=オプションを指定できるようになりました。

[EMAILAUTHPROTOCOL=](#) (p. 120)

PLAIN 認証プロトコルでは、ユーザー ID とパスワードが、BASE64 で 1 つの文字列としてエンコードされます。

[FONTSLOC=](#) (p. 146)

SAS 9.4 の メンテナンスリリース 3 から、FONTSLOC=オプションが ODSPRINT プロジェクショングループに含まれます。

LOGPARM (p. 175)

SYSIN オプションで指定されたファイルは、%P ディレクティブを使用すると、ログ名に使用できます。ROLLOVER=*n* は、z/OS データセットのログではサポートされていません。

LRECL (p. 181)

LRECL=オプションのデフォルト値は 32767 です。

MSGLEVEL (p. 183)

SAS 9.4 のメンテナンスリリース 2 から、MSGLEVEL=I の場合、Hadoop MapReduce ジョブ情報が SAS ログに表示されます。

MISSING (p. 182)

"00"*x* は有効な欠損文字ではありません。

PAPERSIZE (p. 203)

LOCALE 値によって、LOCALE=システムオプションに基づいて PAPERSIZE=オプションを設定するように指定されます。オプションの値に基づいて、用紙サイズが LETTER か A4 のどちらかに設定されます。PAPERSIZE=LOCALE が現在のデフォルト値です。

UBUFNO (p. 287)

SAS 9.4 のメンテナンスリリース 3 から、UBUFNO=オプションが PERFORMANCE プロシージャオプショングループに含まれます。

UBUFSIZE (p. 288)

SAS 9.4 のメンテナンスリリース 3 から、UBUFSIZE=オプションが PERFORMANCE プロシージャオプショングループに含まれます。

UTILLOC (p. 292)

SAS 9.4 のメンテナンスリリース 2 から、UTILLOC=オプションで、ファイル名が引数として受け入れられます。ファイルには、SAS でユーティリティファイルの場所選択に使用できるディレクトリのリストが含まれます。SAS でユーティリティファイルの場所選択を許可すると、サーバー I/O ワークロードのバランスをとるのに役立ちます。

VBUFSIZE (p. 307)

SAS 9.4 のメンテナンスリリース 3 から、VBUFSIZE=オプションが PERFORMANCE プロシージャグループに含まれます。

YEARCUTOFF (p. 315)

YEARCUTOFF 値のデフォルト値は 1920 から 1926 に変更されました。

MAPS=システムオプションの移動

MAPS=システムオプションは、現在 *SAS/GRAFH: Reference* に記載されています。

OPTIONS プロシージャの拡張

PROC OPTIONS ステートメントで LISTOPTSAVE オプションを指定すると、OPTSAVE プロシージャと DMOPTSAVE コマンドによって保存されたオプションをリストできます。

SAS 9.4 のメンテナンスリリース 2 では、OPTIONS プロシージャは、実際のパスワード長に関係なく、SAS ログのパスワードを 8 個の X で表示します。

詳細については、“[PROC OPTIONS ステートメント](#)”(320 ページ)を参照してください。

ドキュメントの拡張

TOOLSMENU および VIEWMENU システムオプションのドキュメントは現在 *Windows 版 SAS* にあります。

SAS 9.4 の メンテナンスリリース 3 では、次のドキュメントの拡張が行われました。

- [DLCREATEDIR=システムオプション \(106 ページ\)](#)は、LIBNAME=ステートメントに複数のコンポーネントが含まれる場合に作成されるディレクトリを明確にします。
- [PDFSECURITY=システムオプション \(219 ページ\)](#)は、セキュア PDF のドキュメントセキュリティウィンドウと詳細の表示ウィンドウの間で値が異なる場合を説明します。
- SAS 製品に設定可能な環境変数の増加をサポートするために、全般的な [SET=システムオプション \(240 ページ\)](#)がこのドキュメントに含まれました。この SET=オプションを使用すると、動作環境に適した構文にアクセスできます。

1 部

SAS システムオプションについて

1 章	SAS システムオプションで把握するべき事項	3
-----	------------------------	---

1 章

SAS システムオプションで把握するべき事項

システムオプションについて	3
構文	4
OPTIONS ステートメントのシステムオプションの指定	4
コマンドラインまたは構成ファイルへのシステムオプションの指定	4
16 進値の指定	4
SAS システムオプションの使用	4
デフォルト設定	4
SAS システムオプションの保存とロード	5
有効な設定の確認	5
制限されたオプション	6
SAS システムオプション値の設定の確認	10
システムオプションの情報の取得	11
SAS システムオプション設定の変更	11
INSERT システムオプションと APPEND システムオプション を使用したオプション値の変更	12
システムオプションをデフォルト値または開始値にリセット	14
システムオプション設定の有効期間	15
優先順位	16
データセットオプションとの相互作用	17
比較	17

システムオプションについて

システムオプションによる指示は、オプションが指定されてから変更されるまで、SAS プログラムまたは対話型 SAS セッション全体の処理に影響を与えます。SAS システムオプションでコントロールされる項目の例として、SAS 出力の外観、SAS で使用されるファイルの処理、システム変数の使用、SAS データセット内のオブザベーションの処理、SAS 初期化の機能、SAS とホストオペレーティングシステムとの相互作用などがあります。

構文

OPTIONS ステートメントのシステムオプションの指定

OPTIONS ステートメントでは次の構文でシステムオプションを指定します。

`OPTIONS option(s);`

`option(s)`

変更する 1 つ以上の SAS システムオプションを指定します。

次の例は、OPTIONS ステートメントでシステムオプションの NODATE および LINESIZE=を使用する方法を示します。

```
options nodate linesize=72;
```

コマンドラインまたは構成ファイルへのシステムオプションの指定

動作環境の情報

コマンドラインまたは構成ファイルでは、動作環境に固有の構文を使用します。詳細については、動作環境に関する SAS のドキュメントを参照してください。

ヒント 構成ファイルまたはコマンドラインでシステムオプションを指定する際、オプションに空白が含まれている場合は、そのオプション値を引用符で囲みます。

16 進値の指定

システムオプションの 16 進値は、先頭が数値(0 から 9)、末尾が X である必要があります。たとえば、次の OPTIONS ステートメントでは、16 進数を使用して行サイズを 160 に設定します。

```
options linesize=0a0x;
```

16 進数の文字割り当てには引用符が必要です。

```
options formchar='a0'x;
```

SAS システムオプションの使用

デフォルト設定

SAS システムオプションは、SAS 起動時にデフォルト設定で初期化されます。ただし、一部の SAS システムオプションのデフォルト設定は、動作環境とサイトの両方に応じて変化します。オンサイトの SAS サポート担当者が、サイト固有のデフォルト値のグローバルセットを提供するために、構成ファイルをカスタマイズしている可能性があります。

カスタマイズした構成ファイルの作成の詳細については、動作環境向け SAS ソフトウェアの構成ガイドを参照してください。

詳細については、“[システムオプションをデフォルト値または開始値にリセット](#)”(14 ページ)を参照してください。

SAS システムオプションの保存とロード

SAS システムオプションは、OPTSAVE プロシージャを使用するか、SAS ウィンドウ環境で DMOPTSAVE コマンドを使用して、SAS レジストリまたは SAS データセットに保存できます。一部のシステムオプションは保存できません。オプションを保存できるかどうかを確認するには、OPTIONS プロシージャに DEFINE を定義します。ログ出力の、先頭が **Optsave:**の行でオプションを保存できるかどうかが示されます。

```
proc options option=pageno define;
run;
```

```
1 proc options option=pageno define; 2 run; SAS (r) Proprietary Software
Release 9.4 TS1M3 PAGENO=1 Option Definition Information for SAS Option PAGENO
Group= LISTCONTROL Group Description:Procedure output and display settings
Description:Resets the SAS output page number.Type:The option value is of type
LONG Range of Values:The minimum is 1 and the maximum is 2147483647 Valid
Syntax(any casing):MIN|MAX|n|nK|nM|nG|nT|hexadecimal Numeric Format:Usage of
LOGNUMBERFORMAT impacts the value format When Can Set:Startup or anytime during
the SAS Session Restricted:Your Site Administrator can restrict modification of
this option Optsave:PROC Optsave or command Dmoptsave will save this option
```

保存可能なオプションのリストについては、LISTOPTSAVE オプションを使用します。

```
proc options listoptsave;
run;
```

オプションの保存の詳細については、[7 章, “OPTSAVE プロシージャ”\(347 ページ\)](#)を参照してください。

保存したシステムオプションのセットをロードするには、OPTLOAD プロシージャまたは DMOPTLOAD コマンドを使用します。システムオプションのロードの詳細については、[6 章, “OPTLOAD プロシージャ”\(341 ページ\)](#)を参照してください。

DMOPTSAVE コマンドと DMOPTLOAD コマンドの詳細については、SAS ヘルプおよびドキュメントを参照してください。

有効な設定の確認

SAS システムオプションで有効な設定を確認するには、次のいずれかを使用します。

OPLIST システムオプション

SAS 起動コマンドラインで指定されたシステムオプションを SAS ログに書き込みます。(詳細については、動作環境に関する SAS のドキュメントを参照してください)。

VERBOSE システムオプション

構成ファイルおよび SAS 起動コマンドラインで指定されたシステムオプションを SAS ログに書き込みます。

SAS システムオプションウィンドウ

すべてのシステムオプション設定をリストします。

OPTIONS プロシージャ

システムオプション設定を SAS ログに書き込みます。エラー処理など、特定の機能を持つシステムオプションの設定を表示するには、GROUP=オプションを `proc options GROUP=errorhandling; run;` 詳細については、[5 章, “OPTIONS プロシージャ”\(319 ページ\)](#)を参照してください。

GETOPTION 関数

指定されたシステムオプションの値を返します。

VOPTION Dictionary テーブル

VOPTION は Sashelp ライブラリ内に存在し、現在のすべてのシステムオプション設定、各オプションの説明、オプションタイプ、オプションがポータブルかホストオプションか、オプションを設定可能なタイミング、オプションが属するグループのリストが含まれます。VOPTION テーブルは、SAS エクスプローラで表示、PRINT プロシージャを使用して印刷、または SQL プロシージャを使用して情報を抽出できます。

dictionary.options SQL テーブル

SQL プロシージャでアクセスするこのテーブルには、有効なシステムオプションのリストが含まれます。

制限されたオプション

制限されたオプションとは、サイト管理者によって値が決定されたシステムオプションで、無効にできません。サイト管理者は、制限されたオプションのテーブルを作成して、SAS が起動すると制限されるオプション値を指定できます。制限されたオプションのテーブルにあるシステムオプションを変更しようとすると、そのシステムオプションはサイト管理者によって制限されていて更新できないことを示すメッセージが SAS ログに出力されます。

PROC OPTIONS には、制限されたオプションをリストするオプションが 2 つあります。

RESTRICT サイト管理者によって現在制限されているオプションをリストします。

LISTRESTRICT サイト管理者による制限が可能なオプションをリストします。

サイト管理者によって制限されているシステムオプションを確認するには、OPTIONS プロシージャの RESTRICT オプションを使用します。RESTRICT オプションでは、オプションの値、スコープおよび設定が表示されます。次の例では、制限されているのは CMPOPT オプション 1 つのみであると SAS ログに表示されます。

```
proc options restrict;
run;
```

ログ 1.1 制限されたオプションの情報

```
1 proc options restrict; 2      run; SAS (r) Proprietary Software Release 9.4
TS1M3 Option Value Information For SAS Option CMPOPT Value:(NOPRECISE
NOEXTRAMATH NOMISSCHECK NOGUARDCHECK NOGENSYM NAMES NOFUNCDIFFERENCING) Scope:SAS
Session How option value set:Site Administrator Restricted
```

OPTIONS プロシージャにより、制限されているすべてのオプションについてこの情報が表示されます。サイト管理者がオプションを制限していない場合、次のメッセージが SAS ログに表示されます。

```
Your site administrator has not restricted any options.
```

サイト管理者が制限できるオプションを表示するには、OPTIONS プロシージャの LISTRESTRICT オプションを使用します。これらのオプションは制限されていませんが、制限可能です。

```
proc options listrestrict;
run;
```

ログ1.2 制限が可能なオプションのリストの一部

```

13 proc options listrestrict ; 14 run; SAS (r) Proprietary Software Release 9.4 TS1M3 Your Site
Administrator can restrict the ability to modify the following Portable Options:ANIMATION
Specifies whether to start or stop animation.ANIMDURATION      Specifies the number of seconds that
each animation frame displays.ANIMLOOP          Specifies the number of iterations that animated
images repeat.ANIMOVERLAY      Specifies that animation frames are overlaid in order to view all
frames.APPLETLOC      Specifies the location of Java applets, which is typically a
URL.ARMAGENT       Specifies an ARM agent (which is an executable module or keyword, such as
LOG4SAS) that contains a specific implementation of the ARM API.ARMLOC      Specifies the
location of the ARM log.ARMSUBSYS      Specifies the SAS ARM subsystems to enable or
disable.AUTOCORRECT     Automatically corrects misspelled procedure names and keywords, and global
statement names.AUTOSAVELOC      Specifies the location of the Program Editor auto-saved
file.AUTOSIGNON      Enables a SAS/CONNECT client to automatically submit the SIGNON command
remotely with the RSUBMIT command.BINDING      Specifies the binding edge type of duplexed
printed output.BUFNO      Specifies the number of buffers for processing SAS data
sets.BUFSIZE      Specifies the size of a buffer page for output SAS data
sets.BYERR        SAS issues an error message and stops processing if the SORT procedure
attempts to sort a _NULL_ data set.BYLINE      Prints the BY line above each BY
group.BYSORTED      Requires observations in one or more data sets to be sorted in alphabetic or
numeric order.CAPS      Converts certain types of input, and all data lines, into uppercase
characters.

```

詳細については、[5 章，“OPTIONS プロシージャ,” \(319 ページ\)](#)を参照してください。

次の表は、制限ができないシステムオプションの一覧です。

表1.1 制限ができないシステムオプション

オプション	すべての動作環境	UNIX	Windows	z/OS
ALIGNSASIOFILES		X	X	
ALTLOG	X			
ALTPRINT	X			
APPEND	X			
ASYNCIO				X
AUTOEXEC	X			
BOMFILE	X			
BOTTOMMargin	X			
COMDEF		X	X	
CONFIG	X			
CPUCOUNT	X			
DATESTYLE	X			
DBCS		X		
DFLANG	X			
DLMGACTION	X			

8 1章 · SAS システムオプションで把握すべき事項

オプション	すべての動作環境	UNIX	Windows	z/OS
DMR	X			
DMS	X			
DMSEXP	X			
DMSPGMLINESIZE	X			
ENGINE	X			
EXPLORER	X			
FILELOCKWAITMAX		X	X	
INITCMD	X			
INITSTMT	X			
INSERT	X			
JREOPTIONS				X
LAST	X			
LEFTMARGIN	X			
LINESIZE	X			
LOG	X			
LOGAPPLNAME	X			
LOGPARM	X			
MEMCACHE			X	
MEMLIB			X	
METAPASS	X			
METAPROTOCOL	X			
METAREPOSITORY	X			
METASERVER	X			
METAUSER	X			
MSYMTABMAX	X			
MVARSIZE	X			
OBJECTSERVER	X			
ORIENTATION	X			
OVP	X			

オプション	すべての動作環境	UNIX	Windows	z/OS
PAGESIZE	X			
PAPERSIZE	X			
PATH			X	
PDFPASSWORD	X			
PRINT	X			
PRINTERPATH	X			
RESOURCESLOC			X	
RIGHTMARGIN	X			
SASCONTROL			X	
SASFRSCR	X			
SASUSER	X			
SGIO			X	
SOURCE	X			
SPDEPARALLELREAD	X			
SSLPKCS12LOC		X		
SSLPKSC12PASS		X		
SSPI	X			
STARTLIB	X			
SYSIN	X			
SYSPRINTFONT	X			
TERMINAL	X			
TOOLDEF			X	
TOPMARGIN	X			
TRANTAB	X			
UBUFNO	X			
UBUFSIZE	X			
USER	X			

SAS システムオプション値の設定の確認

システムオプション値の設定を確認するには、OPTIONS プロシージャまたは GETOPTION 関数を使用します。

- OPTIONS プロシージャとともに、OPTIONS ステートメントに指定した VALUE オプションを使用します。VALUE オプションにより、指定されたオプションの値とスコープが表示されます。
- GETOPTION 関数を%SYSFUNC マクロ関数への引数として使用します。

```
%put %sysfunc(getoption(option-name, howset));
```

次の例は、OPTIONS プロシージャを使用してシステムオプション CENTER のオプション値の設定を表示します。

```
proc options option=center value;
run;
```

次の部分的な SAS ログは、CENTER のオプション値が出荷時のデフォルトであったことを示します。

ログ1.3 システムオプション CENTER のオプション値情報

```
2 proc options option=center value; 3 run; SAS (r) Proprietary Software
Release 9.4 TS1M3 Option Value Information for SAS Option CENTER Option
Value:CENTER Option Scope:Default How option value set:Shipped Default
```

SAS オプションが構成ファイルから設定されている場合は、オプションの設定元となつた構成ファイルの名前が表示されます。

ログ1.4 構成ファイルによって設定されたオプションを表示するオプション値情報

```
7 proc options option=work value; 8 run; SAS (r) Proprietary Software
Release 9.4 TS1M3 Option Value Information For SAS Option WORK Value:C:
\DOCUME~1\sasuser1\LOCALS~1\Temp\SAS Temporary Files\_TD5428_t20111_Scope:SAS
Session How option value set:Config File Config file name:C:\SASv9\SASv9.cfg
```

SAS オプションが INSERT または APPEND システムオプションを使用して変更された場合、PROC OPTIONS ステートメントに VALUE オプションを使用して、値が挿入または追加されたことを表示できます。

ログ1.5 INSERT およびAPPEND オプションで変更されたオプションのオプション値情報

```
24 options insert=(fmtsearch="c:/myformats"); 25 options
append=(fmtsearch="c:/mysas"); 26 proc options option=fmtsearch value; 27
run; SAS (r) Proprietary Software Release 9.4 TS1M3 Option Value Information
For SAS Option FMTSEARCH Value:('C:/MYFORMATS' WORK LIBRARY 'C:/MYSAS')
Scope:DMS Process How option value set:Options Statement Value Inserted:'C:/
MYFORMATS' How option value set:Shipped Default Value:WORK LIBRARY How option
value set:Options Statement Value Appended:'C:/MYSAS'
```

文字のシステムオプションに値が割り当てられていない場合、SAS はオプションに・(2 個の単一引用符で囲まれた 1 個の空白)を割り当て、Option Value では 1 個の空白が表示されます。

システムオプションの情報の取得

システムオプションに関する基本的な説明情報をすばやく取得するには、PROC OPTIONS ステートメントに DEFINE オプションを指定します。

DEFINE オプションを指定すると、システムオプションに関する次の説明情報が SAS ログに書き込まれます。

- オプションの値
- オプションの説明
- オプションが属する各システムオプショングループの名前と説明
- 型情報(数値か文字か、環境変数値を展開するかどうか、オプションの有効値など)
- SAS セッション内での設定可能なタイミング
- システム管理者が制限できるかどうか
- OPTSAVE プロシージャまたは DMOPTSAVE コマンドでオプションが保存されるかどうか

たとえば、次のステートメントではシステムオプション ERRORCHECK に関する説明情報を含むメッセージを SAS ログに書き込みます。

```
proc options option=errorcheck define;
run;
```

ログ1.6 システムオプション ERRORCHECK に関する説明情報

ERRORCHECK=NORMAL Option Definition Information for SAS Option ERRORCHECK Group= ERRORHANDLING Group
 Description:Error messages and error conditions settings Description:Specifies whether SAS enters syntax-check mode when errors are found in the LIBNAME, FILENAME, %INCLUDE, and LOCK statements.Type:The option value is of type CHARACTER Maximum Number of Characters:10 Casing:The option value is retained uppercased Quotes:If present during "set", start and end quotes are removed Parentheses:The option value does not require enclosure within parentheses.If present, the parentheses are retained.Expansion:Environment variables, within the option value, are not expanded Number of valid values:2 Valid value:NORMAL Valid value:STRICT When Can Set:Startup or anytime during the SAS Session Restricted:Your Site Administrator can restrict modification of this option Optsave:PROC Optsave or command Dmoptsave will save this option

SAS システムオプション設定の変更

SAS では、SAS システムオプションのデフォルト設定が用意されています。制限されていないシステムオプションのデフォルト設定は、システムオプションの機能に応じて複数の方法で無効にできます。

- コマンドラインまたは構成ファイル:
制限されていない SAS システムオプション設定を、SAS コマンドラインから、または構成ファイルで指定します。同じオプション設定を頻繁に使用する場合、通常は、コマンドラインからではなく構成ファイルにオプションを指定した方が便利です。どちらの方法でも、SAS 起動時に SAS システムオプションが設定されます。多くの SAS システムオプション設定は、SAS 起動時にのみ指定できます。詳細は、個々のオプションの説明を参照してください。
- OPTIONS ステートメント:

OPTIONS ステートメントは、データ行と parmcards 行を除き、セッション中であればいつでも指定できます。設定は、別の OPTIONS ステートメントでリセットするか、SAS システムオプションウィンドウで変更するか、OPTLOAD プロジェクタを使用して以前に保存したオプションをデータセットからロードするまで、現在のプログラムまたはプロセス全体を通して有効な状態が続きます。OPTIONS ステートメントは自動実行ファイルに置くこともできます。

OPTIONS ステートメントに INSERT または APPEND オプションを指定することで、AUTOEXEC オプションや FMTSEARCH オプションなど、ライブラリまたはファイルを指定する特定のシステムオプションに値を追加できます。詳細については、「[INSERT システムオプションと APPEND システムオプションを使用したオプション値の変更](#)」(12 ページ)を参照してください。

- OPTLOAD プロジェクタまたは DMOPTLOAD コマンド:
OPTSAVE プロジェクタで指定され、SAS データセットに保存されたオプション設定を読み込むには、OPTLOAD プロジェクタまたは DMOPTLOAD コマンドを使用します。
- SAS システムオプションウィンドウ:

ウィンドウ環境の場合、ツールバーかコマンドラインに `options` と入力して、SAS システムオプションウィンドウを開きます。SAS システムオプションウィンドウに、SAS システムオプショングループ名のリストが表示されます。グループを開いて、オプション名を表示したり、現在の設定を新しい値やデフォルト値に変更したりできます。または、オプションポップアップメニューのオプション検索コマンドを使用してオプションに直接移動できます。変更はただちに有効になり、OPTIONS ステートメントでリセットするか、SAS システムオプションウィンドウで変更しない限り、セッション中は有効な状態が続きます。

SAS システムオプションは、サイト管理者が制限できるため、管理者が設定した後、ユーザーは変更できなくなります。動作環境に応じて、システムオプションはグローバル、グループ単位またはユーザー単位に制限できます。制限されているオプションを確認するには、OPTIONS プロジェクタを使用します。詳細については、[5 章、"OPTIONS プロジェクタ,"](#) (319 ページ) および動作環境向け SAS ドキュメントを参照してください。オプションの制限方法の詳細については、サイト管理者にお問い合わせください。

INSERT システムオプションと APPEND システムオプションを使用したオプション値の変更

次のオプションの値を変更するには、INSERT および APPEND オプションを使用します。

オプション	オプションを設定可能な場所
AUTOEXEC	構成ファイル、SAS 起動時
CMPLIB	構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ
FMTSEARCH	OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ
HELPLOC	構成ファイル、SAS 起動時

オプション	オプションを設定可能な場所
MAPS	構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ
MSG	構成ファイル、SAS 起動時
SASAUTOS	構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ
SASHHELP	構成ファイル、SAS 起動時
SASSCRIPT	構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ
SET	構成ファイル、SAS 起動時

これらのオプションでは、値として 1 つ以上のライブラリ、ファイルまたは環境変数を指定します。現在の値の前に値を挿入するには、INSERT オプションを使用します。現在の値の末尾に値を追加するには、APPEND オプションを使用します。INSERT オプションおよび APPEND オプションと一緒に使用できるオプションのリストを SAS ログに表示するには、PROC OPTIONS ステートメントで LISTINSERTAPPEND オプションを使用します。

```

1 proc options listinsertappend; 2 run; SAS (r) Proprietary Software Release 9.4 TS1M3 Core
options that can utilize INSERT and APPEND AUTOEXEC           Specifies the location of the SAS
AUTOEXEC files.CMPLIB          Specifies one or more SAS data sets that contain compiler
subroutines to include during compilation.FMTSEARCH          Specifies the order in which format
catalogs are searched.MAPS           Specifies the location of SAS/GRAFH map data
sets.SASAUTOS        Specifies the location of one or more autocall libraries.SASHHELP
Specifies the location of the Sashelp library.SASSCRIPT        Specifies one or more locations of
SAS/CONNECT server sign-on script files.Host options that can utilize INSERT and APPEND
HELPLOC            Specifies the location of the text and index files for the facility that is used to
view the online SAS Help and Documentation.MSG           Specifies the path to the library that
contains SAS error messages.SET           Defines a SAS environment variable.

```

動作環境の情報

INSERT オプションと APPEND オプションの構文は、SAS 起動時と SAS 起動後に OPTIONS ステートメントを使用する場合とで異なります。SAS 起動時に使用する正確な構文については、各動作環境向けドキュメントを参照してください。

動作環境の情報

INSERT と APPEND を使用できるホストオプションを示すこのリストは、動作環境によって異なる場合があります。動作環境向けのドキュメントを参照してください。

SAS 起動後に INSERT オプションまたは APPEND オプションを指定する場合、すべての動作環境で同じ構文を使用し、構文にはかっこが必要になります。

```
insert=(system-option-1=argument-1 system-option-n=argument-n)
```

```
append=(system-option-1=argument-1 system-option-n=argument-n)
```

system-option=argument の構文は、指定されたシステムオプションで必要な構文です。

次に、2 つの例を示します。

```
options insert=(fmtsearch="c:/myformats");
options append=(fmtsearch=( "c:/mysasfmt" "u:/mysasfmt2" ));
```

詳細については、“**INSERT=システムオプション**”(163 ページ) および “**APPEND=システムオプション**”(58 ページ)を参照してください。

オプション値に挿入または追加された値を表示するには、PROC OPTIONS ステートメントで VALUE オプションを使用します。

```
26 proc options option=fmtsearch value; 27 run; SAS (r) Proprietary Software  
Release 9.4 TS1M3 Option Value Information For SAS Option FMTSEARCH Value:('C:/  
MYFORMATS' WORK LIBRARY 'C:/MYSAS') Scope:DMS Process How option value  
set:Options Statement Value Inserted:'C:/MYFORMATS' How option value set:Shipped  
Default Value:WORK LIBRARY How option value set:Options Statement Value  
Appended:'C:/MYSASFMT' 'U:/MYSASFMT2'
```

INSERT および APPEND システムオプションに指定されたとおりに、値が挿入または追加されます。SAS では重複する値があるかどうかはチェックされません。

INSERT および APPEND システムオプションでは、システムオプション値への値の追加のみを行います。システムオプションから値を削除するには、このオプションを必要な値に設定します。

システムオプションをデフォルト値または開始値にリセット

SAS システムオプションウィンドウを使用したオプションのデフォルト値へのリセット

SAS システムオプションウィンドウを使用してシステムオプションをデフォルトオプションにリセットするには、次の操作を実行します。

1. SAS メニューバーから、ツール ⇨ オプション ⇨ システムを選択します。
 2. オプションを右クリックし、オプション検索を選択します。
 3. オプション名を入力して OK をクリックします。
 4. オプション名を右クリックし、デフォルトに設定を選択します。

%Put マクロおよび`GETOPTIONS` 関数を使用したオプションのデフォルト値または開始値へのリセット

SAS システムオプションウィンドウか、マクロ処理と GETOPTION 関数と一緒に使用して、システムオプションをデフォルト値または SAS 起動時に指定された値に設定できます。

システムオプションをデフォルト値に設定するには、GETOPTION 関数の DEFAULTVALUE オプションを使用します。システムオプションを開始値に設定するには、GETOPTION 関数の STARTUPVALUE オプションを使用します。

次のコード例では、PAPERSIZE=システムオプションをデフォルト値と開始値に設定します。

```
/* Check the value of papersize before we change it.      */
/* The initial value is A4 as this value was used when      */
/* ... */
```

```
%put %sysfunc(getoption(papersize,keyword)) ;  
  
/* Change the PAPERSIZE value and check the change. */
```

```

options papersize="600x800 Pixels";

%put %sysfunc(getoption(papersize,keyword));

/* Change PAPER SIZE back to the default value and check it.      */
/* RESULT: LETTER                                                 */

%let defsize = %sysfunc(getoption(papersize,keyword,defaultvalue)) ;
options &defsize; run;
%put %sysfunc(getoption(papersize,keyword));

/* Change the value to the startup value and check it.           */
/* RESULT: A4                                                 */

%let defsize = %sysfunc(getoption(papersize,keyword,startupvalue)) ;
options &defsize; run;
%put %sysfunc(getoption(papersize,keyword));

```

SAS ログには次の行が表示されます。

```

22 /* Check the value of papersize before we change it. */ 23 /* The
initial value is A4 as this value was used when          */ 24 /* SAS
started.                                              */ 25 26 %put
%sysfunc(getoption(papersize,keyword)); PAPER SIZE=A4 27 28 /* Change the
PAPER SIZE value and check the change. */ 29 30 options
papersize="600x800 Pixels"; 31 32 %put
%sysfunc(getoption(papersize,keyword)); PAPER SIZE=600X800 PIXELS 33 34 /*
Change PAPER SIZE back to the default value and check it. */ 35 /*
RESULT:LETTER                                         */ 36 37 %let
defsize = %sysfunc(getoption(papersize,keyword,defaultvalue)); 38 options
&defsize; run; 39 %put %sysfunc(getoption(papersize,keyword));
PAPER SIZE=LETTER 40 41 /* Change the value to the startup value and check
it. */ 42 /* RESULT:A4
*/ 43 44 %let defsize =
%sysfunc(getoption(papersize,keyword,startupvalue)); 45 options &defsize;
run; 46 %put %sysfunc(getoption(papersize,keyword)); PAPER SIZE=A4

```

詳細については、[GETOPTION 関数 \(21 ページ\)](#)を参照してください。

システムオプション設定の有効期間

SAS システムオプション設定を指定すると、設定は、次のステップと、SAS セッション存続中のすべての後続ステップに適用されます。または、次のようにシステムオプション設定をリセットするまで適用されます。

```

data one;
  set items;
  run;

  /* option applies to all subsequent steps */
  options obs=5;

  /* printing ends with the fifth observation */
  proc print data=one;
  run;

  /* the SET statement stops reading
     after the fifth observation */
  data two;

```

```
set items;
run;
```

5 個を超えるオブザベーションを読み込むには、OBS=システムオプションをリセットする必要があります。詳細については、“[OBS=システムオプション](#)”(187 ページ)を参照してください。

優先順位

同じシステムオプションが複数の場所にある場合、優先順位(高い順)は次のようになります。

1. 制限されたオプションテーブル(存在する場合)
2. OPTIONS ステートメントおよび SAS システムオプションウィンドウ
3. 自動実行ファイル(OPTIONS ステートメントが含まれる場合)
4. コマンドラインでの指定
5. 構成ファイルでの指定
6. SAS システムのデフォルト設定

動作環境の情報

動作環境によっては、システムオプションを上記以外の場所に指定できる場合があります。動作環境向け SAS ドキュメントを参照してください。

次の表は、SAS が実行モードオプションに使用する優先順位です。これらのオプションは SAS 起動時オプションのサブセットであり、SAS 起動時にコマンドラインで指定されます。

実行モードオプション	優先順位
OBJECTSERVER	1 番目
DMR	2 番目
SYSIN	3 番目
INITCMD	4 番目
DMS	4 番目
DMSEXP	4 番目
EXPLORER	4 番目
なし(デフォルトは、UNIX では対話型行モード、 z/OS では対話型フルスクリーンモード)	5 番目

SAS 実行モードオプションの優先順位は次のルールで決定されます。

- SAS では、優先順位の高い順に実行モードオプションを使用します。
- 優先順位が同じ実行モードオプションを複数指定すると、最後に表示されるオプションのみが使用されます。

詳細については、個々のオプションの説明を参照してください。

データセットオプションとの相互作用

システムオプションおよびデータセットオプションの多くは、同じ名前を共有し、同じ関数を使用します。システムオプションは、設定が変更されるまで、SAS ジョブまたはセッション内のすべての DATA および PROC ステップに対して有効な状態を保ちます。ただし、データセットオプションは、指定されたステップ内の特定のデータセットについてのみシステムオプションより優先されます。

この例では、OPTIONS ステートメント内の OBS=システムオプションで、SAS ジョブ内のデータセットから最初の 100 件のオブザベーションのみを読み取るように指定しています。ただし、SET ステートメント内の OBS=データオプションが、システムオプションよりも優先され、データセット TWO から最初の 5 件のオブザベーションのみが読み取られるように指定します。PROC PRINT ステップでは、システムオプション設定を使用し、データセット THREE から最初の 100 件のオブザベーションを読み取り、印刷します。

```
options obs=100;

data one;
  set two(obs=5);
run;

proc print data=three;
run;
```

比較

システムオプション、データセットオプション、ステートメントオプション間には違いがあります。

システムオプション

設定が変更されない限り、SAS ジョブまたは現在のプロセス内のすべての DATA および PROC ステップに対して有効な状態を保ちます。

データセットオプション

データセットオプションが指定された SAS データセットの処理に適用されます。一部のデータセットオプションには、対応するシステムオプションまたは LIBNAME ステートメントオプションがあります。個々のデータセットについて、データセットオプションを他のオプションより優先することができます。

ステートメントオプション

指定されたステートメントのアクションをコントロールします。LIBNAME ステートメントなど、グローバルステートメント内のオプションは、影響範囲が広くなることがあります。たとえば、LIBNAME=ステートメントオプションは、特定のライブラリに対して実行されるすべての処理に影響します。

2 部

SAS システムオプションを処理する SAS 関数およびステートメント

2 章	SAS システムオプションを処理する SAS 関数	21
3 章	SAS システムオプションを処理する SAS ステートメント	27

2 章

SAS システムオプションを処理する SAS 関数

ディクショナリ	21
GETOPTION 関数	21

ディクショナリ

GETOPTION 関数

SAS システムまたはグラフィックオプションの値を返します。

カテゴリ: 特殊関数

構文

GETOPTION(*option-name* <, *return-value-option*> <*return-value-formatting-options*>)

必須引数

option-name

システムオプションの名前を指定する文字定数、変数または式です。

ヒント 名前の後に等号記号を付けないでください。たとえば、PAGESIZE=は PAGESIZE と記述します。

EMAILPW や METAPASS など、パスワードである SAS オプションは、実際のパスワードではなく値 **xxxxxxxx** を返します。

return-value-option

DEFAULTVALUE

デフォルトオプション値を返します。

制限 DEFAULTVALUE は、SAS システムオプションでのみ有効です。

事項 DEFAULTVALUE オプションが指定され、*option-name* がグラフィックオプションの場合、SAS から警告メッセージが発行されます。

HOWSCOPE

オプションのスコープを示す文字列を返します。

制限 HOWSCOPE は、SAS システムオプションでのみ有効です。HOWSCOPE 事項 オプションが指定され、*option-name* がグラフィックオプションの場合、SAS から警告メッセージが発行されます。

HOWSET

オプション値の設定を示す文字列を返します。

制限 HOWSET は、SAS システムオプションでのみ有効です。HOWSET 事項 オプションが指定され、*option-name* がグラフィックオプションの場合、SAS から警告メッセージが発行されます。

STARTUPVALUE

コマンドラインまたは構成ファイルのいずれかで SAS の起動に使用されたシステムオプション値を返します。

制限 STARTUPVALUE は、SAS システムオプションでのみ有効です。
事項 STARTUPVALUE オプションが指定され、*option-name* がグラフィックオプションの場合、SAS から警告メッセージが発行されます。

return-value-formatting-options**CM**

グラフィック単位をセンチメートルで報告します。

制限 CM は、グラフィックオプションと SAS システムオプションの
事項 BOTTOMMARGIN、TOPMARGIN、RIGHTMARGIN、LEFTMARGIN でのみ有効です。CM オプションが指定され、*option-name* がグラフィックオプションまたは余白値を示すオプションのどちらでもない場合、SAS によりログに NOTE が書き込まれます。

EXPAND

環境変数が含まれるオプションについて、オプション値と環境変数の値を返します。

制限 変数展開は、Windows および UNIX 動作環境でのみ有効です。

事項

EXPAND は、文字のシステムオプション値でのみ有効です。CENTER や NOCENTER など、*option-name* のオプションタイプがブール式か、オプションの値が数値の場合、EXPAND は無視されます。

注 ブール式オプションや数値のオプションに EXPAND が指定されると、SAS から NOTE が発行されます。EXPAND が指定され、オプションがグラフィックオプションの場合、SAS から警告が発行されます。

ヒント デフォルトでは、一部のオプション値は展開された変数値と一緒に表示されます。他のオプション値では、PROC OPTIONS ステートメントに EXPAND オプションが必要です。オプション値がデフォルトで変数を展開するのか、EXPAND オプションが必要なのかを確認するには、PROC OPTIONS ステートメントで DEFINE オプションを使用します。PROC OPTIONS DEFINE からの出力に次の情報が表示された場合、変数値を展開するには EXPAND オプションを使用する必要があります。

Expansion: Environment variables, within the option value,
are not expanded

KEYEXPAND

環境変数が含まれるオプションについて、`option-name=value` の形式で値を返します。

- 制限** KEYEXPAND は、文字のシステムオプション値でのみ有効です。
事項 KEYEXPAND オプションが指定され、`option-name` がグラフィックオプションの場合、SAS からエラーメッセージが発行されます。CENTER や NOCENTER など、`option-name` のオプションタイプがブール式か、オプションの値が数値の場合、KEYEXPAND は無視されます。

KEYWORD

SAS OPTIONS または GOPTIONS グローバルステートメントで直接使用するのに適した `option-name=value` 形式でオプション値を返します。

- 制限** KEYWORD は、HEXVALUE、EXPAND、KEYEXPAND、LOGNUMBERFORMAT オプションとともに使用すると、有効ではありません。GETOPTION 関数に競合するオプションが含まれていると、SAS によりログに NOTE が書き込まれます。

KEYWORD は、文字または数値のシステムオプション値でのみ有効です。KEYWORD は、CENTER や NOCENTER など、オプションタイプがブール式のシステムオプションでは無視されます。KEYWORD オプションが指定され、`option-name` がグラフィックオプションの場合、SAS からエラーメッセージが発行されます。

- 注** null 値を含むシステムオプションの場合、GETOPTION 関数は値''(单一引用符で囲まれた 1 個の空白)を返します。たとえば、EMAILID='のように返されます。

HEXVALUE

オプション値を 16 進値で返します。

- 制限** HEXVALUE は、文字または数値のシステムオプション値でのみ有効です。HEXVALUE が、CENTER や NOCENTER など、オプションタイプがブール式のシステムオプションに指定されたか、`option-name` がグラフィックオプションの場合、SAS によりエラーメッセージが発行されます。

IN

グラフィック単位をインチで報告します。

- 制限** IN は、グラフィックオプションと SAS システムオプションのみ有効です。IN オプションが指定され、`option-name` がグラフィックオプションまたは余白値を示すオプションのどちらでもない場合、SAS によりログに NOTE が書き込まれます。

LOGNUMBERFORMAT

ロケール固有の句読点を使用して SAS システムオプション値に出力形式を適用します。

- 制限** OPTIONS ステートメントを使用したオプション値の設定に戻り値を使用する場合、LOGNUMBERFORMAT を使用しないでください。OPTIONS ステートメントでは、カンマを含む数値を受け入れません。

例

例 1: GETOPTION を使用した YEARCUTOFF オプションの保存と復元

この例では、YEARCUTOFF オプションの値を保存し、YEARCUTOFF オプションの値に基づいて SAS ステートメントを処理して、値が 1926 でない場合は 1926 にリセットします。

```
/* Save the value of the YEARCUTOFF system option */
%let cutoff=%sysfunc(getoption(yearcutoff,keyword));

data ages;
  if getoption('yearcutoff') = '1926' then
    do;
      ...more SAS statements...
    end;
  else do;
    ...more SAS statements...
    /* Reset YEARCUTOFF */
    options &cutoff;
  end;
run;
```

例 2: GETOPTION を使用した別のレポートオプションの取得

この例では、GETOPTION 関数の使用方法を説明するマクロを定義し、さまざまなレポートオプションを使用して、システムおよびグラフィックオプションの値を取得します。

```
%macro showopts;
  %put MAPS= %sysfunc(
    getoptoption(MAPS));
  %put MAPSEXPANDED= %sysfunc(
    getoptoption(MAPS, EXPAND));
  %put PAGESIZE= %sysfunc(
    getoptoption(PAGESIZE));
  %put PAGESIZESETBY= %sysfunc(
    getoptoption(PAGESIZE, HOWSET));
  %put PAGESIZESCOPE= %sysfunc(
    getoptoption(PAGESIZE, HOWSCOPE));
  %put PS= %sysfunc(
    getoptoption(PS));
  %put LS= %sysfunc(
    getoptoption(LS));
  %put PS(keyword form)= %sysfunc(
    getoptoption(PS, keyword));
  %put LS(keyword form)= %sysfunc(
    getoptoption(LS, keyword));
  %put FORMCHAR= %sysfunc(
    getoptoption(FORMCHAR));
  %put HSIZE= %sysfunc(
    getoptoption(HSIZE));
  %put VSIZE= %sysfunc(
    getoptoption(VSIZE));
  %put HSIZE(in/keyword form)= %sysfunc(
    getoptoption(HSIZE,in,keyword));
  %put HSIZE(cm/keyword form)= %sysfunc(
    getoptoption(HSIZE,cm,keyword));
  %put VSIZE(in/keyword form)= %sysfunc(
```

```

        getoptoption(VSIZE,in,keyword));
%put HSIZE(cm/keyword form)= %sysfunc(
        getoptoption(VSIZE,cm,keyword));
%mend;
goptions VSIZE=8.5 in HSIZE=11 in;
options PAGESIZE=67;
%showopts

```

SAS ログは次のようにになります。

```

NOTE:PROCEDURE PRINTTO used (Total process time): real time      0.00
seconds cpu time          0.00 seconds 6    %macro showopts; 7      %put MAPS=
%sysfunc( 8      getoptoption(MAPS)); 9      %put MAPSEXPANDED=
%sysfunc( 10     getoptoption(MAPS, EXPAND)); 11      %put PAGESIZE=
%sysfunc( 12     getoptoption(PAGESIZE)); 13      %put PAGESIZESETBY=
%sysfunc( 14     getoptoption(PAGESIZE, HOWSET)); 15      %put PAGESIZESCOPE=
%sysfunc( 16     getoptoption(PAGESIZE, HOWSCOPE)); 17      %put PS=
%sysfunc( 18     getoptoption(PS)); 19      %put LS= %sysfunc( 20
getoption(LS)); 21      %put PS(keyword form)= %sysfunc( 22
getoption(PS,keyword)); 23      %put LS(keyword form)= %sysfunc( 24
getoption(LS,keyword)); 25      %put FORMCHAR= %sysfunc( 26
getoption(FORMCHAR)); 27      %put HSIZE= %sysfunc( 28      getoptoption(HSIZE));
29      %put VSIZE= %sysfunc( 30      getoptoption(VSIZE)); 31      %put HSIZE(in/
keyword form)= %sysfunc( 32      getoptoption(HSIZE,in,keyword)); 33      %put
HSIZE(cm/keyword form)= %sysfunc( 34      getoptoption(HSIZE,cm,keyword));
35      %put VSIZE(in/keyword form)= %sysfunc( 36
getoption(VSIZE,in,keyword)); 37      %put HSIZE(cm/keyword form)=
%sysfunc( 38      getoptoption(VSIZE,cm,keyword)); 39      %mend; 40      goptions
VSIZE=8.5 in HSIZE=11 in; 41      options PAGESIZE=67; 42      %showopts MAPS= ("!
sasroot\maps-path\en\maps") MAPSEXPANDED= ("C:\maps-path\en\maps") PAGESIZE= 67
PAGESIZESETBY= Options Statement PAGESIZESCOPE= Line Mode Process PS= 67 LS= 78
PS(keyword form)= PS=67 LS(keyword form)= LS=78 FORMCHAR= ,f,...†‡~‰š<€+=|-/\>*
HSIZE= 11.0000 in VSIZE= 8.5000 in HSIZE(in/keyword form)= HSIZE=11.0000 in
HSIZE(cm/keyword form)= HSIZE=27.9400 cm VSIZE(in/keyword form)= VSIZE=8.5000 in
HSIZE(cm/keyword form)= VSIZE=21.5900 cm 43      proc printto; run;

```

例 3: デフォルト値と開始値を返す

この例では、PAPERSIZE システムオプションの値を特定の値、PAPERSIZE オプションのデフォルト値、および SAS 起動時に PAPERSIZE オプションに割り当てられた値に変更します。

```

/* Check the value of papersize before we change it.           */
/* The initial value is A4 as this value was used when       */
/* SAS started.                                              */
/*                                                               */

%put %sysfunc(getoption(papersize,keyword));

/* Change the PAPERSIZE value and check the change.           */
/*                                                               */

options papersize="600x800 Pixels";

%put %sysfunc(getoption(papersize,keyword));

/* Change PAPERSIZE back to the default value and check it.   */
/* RESULT: LETTER                                              */
/*                                                               */

%let defsize = %sysfunc(getoption(papersize,keyword,defaultvalue)) ;
options &defsize; run;
%put %sysfunc(getoption(papersize,keyword));

```

```

/* Change the value to the startup value and check it.          */
/* RESULT: A4                                              */

%let defsize = %sysfunc(getoption(papersize,keyword,startupvalue)) ;
options &defsize; run;
%put %sysfunc(getoption(papersize,keyword));

```

SAS ログには次の行が表示されます。

```

22   /* Check the value of papersize before we change it.      */ 23   /* The
initial value is A4 as this value was used when           */ 24   /* SAS
started.                                                 */ 25 26   %put
%sysfunc(getoption(papersize,keyword)); PAPER=4 27 28   /* Change the
PAPER= value and check the change.                         */ 29 30   options
papersize="600x800 Pixels"; 31 32   %put
%sysfunc(getoption(papersize,keyword)); PAPER=600X800 PIXELS 33 34   /*
Change PAPER back to the default value and check it.     */ 35   /*
RESULT:LETTER                                         */ 36 37   %let
defsize = %sysfunc(getoption(papersize,keyword,defaultvalue)); 38   options
&defsize; run; 39   %put %sysfunc(getoption(papersize,keyword));
PAPER=LETTER 40 41   /* Change the value to the startup value and check
it.             */ 42   /* RESULT:A4
*/ 43 44   %let defsize =
%sysfunc(getoption(papersize,keyword,startupvalue)); 45   options &defsize;
run; 46   %put %sysfunc(getoption(papersize,keyword)); PAPER=A4

```

注: PAGESIZE=および LINESIZE=オプションのデフォルト設定は、SAS の実行に使用するモードに依存します。

3 章

SAS システムオプションを処理する SAS ステートメント

ディクショナリ	27
OPTIONS ステートメント	27

ディクショナリ

OPTIONS ステートメント

1 つまたは複数の SAS システムオプションの値の指定や変更を行います。

該当要素: 任意の場所

カテゴリ: プログラム制御

参照項目: z/OS の OPTIONS ステートメント

構文

OPTIONS *option(s)*;

引数

option

変更する SAS システムオプションを 1 つ以上指定します。

詳細

OPTIONS ステートメントで実行される変更は、ジョブ、セッション、SAS プロセスを終了するまで、または他の OPTIONS ステートメントでオプションを再度変更するまで有効となります。SAS システムオプションは、OPTIONS ステートメントやオプションウィンドウから指定できます。また、SAS の起動時や SAS プロセスの初期化時にも指定できます。

サイト管理者によって制限されているオプションを設定しようとすると、オプションは規制されていて変更はできないというメッセージを出力します。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

注: すべての SAS ジョブまたはセッションで特定のオプショングループを有効にするには、autoexec ファイルに OPTIONS ステートメントを保存するか、構成ファイルまたは custom_option_set にシステムオプションを記述します。

注: システムオプションがヌル値の場合、GETOPTION 関数を実行すると、「(一重引用符で囲まれた 1 つのブランク)の値を返します(例: EMAILID=' ')。この GETOPTION の値は、OPTIONS ステートメントに使用されます。

OPTIONS ステートメントは、データ行の中を除き、SAS プログラム内のどの位置にも配置できます。

動作環境の情報

使用できるシステムオプションは、動作環境によって異なります。OPTIONS ステートメントでシステムオプションの指定に使用する構文は、SAS 起動時に使用する構文とは異なる場合があります。詳細については、各動作環境向けの SAS ドキュメントを参照してください。

比較

OPTIONS ステートメントでは、必要に応じて、システムオプション名を含む完全なステートメントを入力する必要があります。SAS のオプションウィンドウでは、列内にオプション名と設定が表示されます。設定を変更するには、表示される値を上書きしてから、ENTER キーまたは RETURN キーを押します。

例: システムオプションの値の変更

この例では、通常の SAS 出力にある日付を書き出さないように指定し、行サイズを 72 に設定します。

```
options nodate linesize=72;
```

関連項目:

[“システムオプションについて” \(3 ページ\)](#)

3 部

SAS システムオプション

4 章
システムオプションのディクショナリ 31

4 章

システムオプションのディクショナリ

他の SAS ドキュメントで説明されている SAS システムオプション	35
カテゴリ別の SAS システムオプション	36
ディクショナリ	53
ALIGNSASIOFILES システムオプション	53
ANIMATION=システムオプション	54
ANIMDURATION=システムオプション	55
ANIMLOOP=システムオプション	56
ANIMOVERLAY システムオプション	57
APPEND=システムオプション	58
APPLETLOC=システムオプション	60
AUTHPROVIDERDOMAIN システムオプション	60
AUTOCORRECT システムオプション	62
AUTOSAVELOC=システムオプション	64
BINDING=システムオプション	64
BOTTOMMARGIN=システムオプション	65
BUFNO=システムオプション	66
BUFSIZE=システムオプション	68
BYERR システムオプション	70
BYLINE システムオプション	71
BYSORTED システムオプション	72
CAPS システムオプション	73
CARDIMAGE システムオプション	74
CATCACHE=システムオプション	75
CBUFNO=システムオプション	76
CENTER システムオプション	77
CGOPTIMIZE=システムオプション	78
CHARCODE システムオプション	79
CHKPTCLEAN システムオプション	80
CLEANUP システムオプション	81
CMPLIB=システムオプション	83
CMPMODEL=システムオプション	85
CMPOPT=システムオプション	85
COLLATE システムオプション	88
COLOPHON=システムオプション	89
COLORPRINTING システムオプション	91
COMPRESS=システムオプション	92
COPIES=システムオプション	94
CPUCOUNT=システムオプション	94
CPUID システムオプション	96
CSTGLOBALLIB=システムオプション	97

CSTSAMPLELIB=システムオプション	97
DATAPAGESIZE=システムオプション	98
DATASTMCHK=システムオプション	99
DATE システムオプション	99
DATESTYLE=システムオプション	100
DECIMALCONV=システムオプション	101
DEFLATION=システムオプション	102
DETAILS システムオプション	103
DKRICOND=システムオプション	104
DKROCOND=システムオプション	105
DLCREATEDIR システムオプション	106
DLDLMACTION=システムオプション	107
DMR システムオプション	108
DMS システムオプション	109
DMSEXP システムオプション	110
DMSLOGSIZE=システムオプション	111
DMSOUTSIZE=システムオプション	112
DMSPGMLINESIZE=システムオプション	113
DMSSYNCHK システムオプション	114
DSACCEL=システムオプション	115
DSNFERR システムオプション	116
DTRESET システムオプション	117
DUPLEX システムオプション	117
ECHOAUTO システムオプション	118
EMAILACKWAIT=システムオプション	119
EMAILAUTHPROTOCOL=システムオプション	120
EMAILFROM システムオプション	121
EMAILHOST=システムオプション	122
EMAILID=システムオプション	124
EMAILPORT システムオプション	125
EMAILPW=システムオプション	126
EMAILUTCOFFSET=システムオプション	128
ENGINE=システムオプション	129
ERRORABEND システムオプション	129
ERRORBYABEND システムオプション	130
ERRORCHECK=システムオプション	131
ERRORS=システムオプション	132
EVENTDS=システムオプション	133
EXPLORER システムオプション	135
EXTENDOBS COUNTER=システムオプション	136
FILESYNC=システムオプション	137
FIRSTOBS=システムオプション	138
FMTERR システムオプション	140
FMTSEARCH=システムオプション	141
FONTEMBEDDING システムオプション	144
FONTRENDERING=システムオプション	145
FONTSLOC=システムオプション	146
FORMCHAR=システムオプション	147
FORMDLIM=システムオプション	148
FORMS=システムオプション	149
HELPBROWSER=システムオプション	149
HELPENCMOD システムオプション	150
HELPHOST システムオプション	151
HELPPORT=システムオプション	152
HOSTINFOLONG システムオプション	153
HTTPSERVERPORTMAX=システムオプション	154

HTTPSERVERPORTMIN=システムオプション	154
IBUFNO=システムオプション	155
IBUFSIZE=システムオプション	157
IMLPACKAGEPRIVATE=システムオプション(評価版)	158
IMLPACKAGEPUBLIC=システムオプション(評価版)	159
IMLPACKAGESYSTEM=システムオプション(評価版)	160
INITCMD システムオプション	160
INITSTMT=システムオプション	162
INSERT=システムオプション	163
INTERVALDS=システムオプション	164
INVALIDDATA=システムオプション	166
JPEGQUALITY=システムオプション	166
LABEL システムオプション	167
LABELCHKPT システムオプション	168
LABELCHKPTLIB=システムオプション	169
LABELRESTART システムオプション	171
LAST=システムオプション	172
LEFTMARGIN=システムオプション	173
LINESIZE=システムオプション	174
LOGPARM=システムオプション	175
LRECL=システムオプション	181
MERGEONBY システムオプション	182
MISSING=システムオプション	182
MSGLEVEL=システムオプション	183
MULTENVAPPL システムオプション	184
NEWS=システムオプション	185
NOTES システムオプション	186
NUMBER システムオプション	186
OBS=システムオプション	187
ORIENTATION=システムオプション	196
OVP システムオプション	199
PAGEBREAKINITIAL システムオプション	199
PAGENO=システムオプション	200
PAGESIZE=システムオプション	201
PAPERDEST=システムオプション	202
PAPERSIZE=システムオプション	203
PAPERSOURCE=システムオプション	205
PAPERTYPE=システムオプション	206
PARM=システムオプション	206
PARMCARDS=システムオプション	207
PDFACCESS システムオプション	208
PDFASSEMBLY システムオプション	209
PDFCOMMENT システムオプション	210
PDFCONTENT システムオプション	211
PDFCOPY システムオプション	212
PDFFILLIN システムオプション	213
PDFPAGEAYOUT=システムオプション	215
PDFPAGEVIEW=システムオプション	216
PDFPASSWORD=システムオプション	216
PDFPRINT=システムオプション	218
PDFSECURITY=システムオプション	219
PRESENV システムオプション	221
PRIMARYPROVIDERDOMAIN=システムオプション	222
PRINTERPATH=システムオプション	223
PRINTINIT システムオプション	225
PRINTMSGLIST システムオプション	225

QUOTELENMAX システムオプション	226
REPLACE システムオプション	227
REUSE=システムオプション	228
RIGHTMARGIN=システムオプション	229
RLANG システムオプション	230
RSASUSER システムオプション	231
S=システムオプション	232
S2=システムオプション	234
S2V=システムオプション	236
SASHELP=システムオプション	238
SASUSER=システムオプション	239
SEQ=システムオプション	239
SET システムオプション	240
SETINIT システムオプション	241
SKIP=システムオプション	241
SOLUTIONS システムオプション	242
SORTDUP=システムオプション	243
SORTEQUALS システムオプション	244
SORTSIZE=システムオプション	245
SORTVALIDATE システムオプション	246
SOURCE システムオプション	247
SOURCE2 システムオプション	248
SPOOL システムオプション	248
STARTLIB システムオプション	249
STEPCHKPT システムオプション	250
STEPCHKPTLIB=システムオプション	252
STEPRESTART システムオプション	253
STRIPESIZE=システムオプション	255
SUMSIZE=システムオプション	256
SVGAUTOPLAY システムオプション	258
SVGCONTROLBUTTONS システムオプション	258
SVGFADEIN=システムオプション	259
SVGFADEMODE=システムオプション	260
SVGFADEOUT=システムオプション	261
SVGHEIGHT=システムオプション	262
SVGMAGNIFYBUTTON システムオプション	264
SVGPRESERVEASPECTRATIO=システムオプション	264
SVGTITLE=システムオプション	267
SVGVIEWBOX=システムオプション	268
SVGWIDTH=システムオプション	270
SVGX=システムオプション	272
SVGY=システムオプション	274
SYNTAXCHECK システムオプション	275
SYSPRINTFONT=システムオプション	277
TERMINAL システムオプション	279
TERMSTMT=システムオプション	280
TEXTURELOC=システムオプション	281
THREADS システムオプション	282
TIMEZONE=システムオプション	284
TOPMARGIN=システムオプション	285
TRAINLOC=システムオプション	286
UBUFNO=システムオプション	287
UBUFSIZE=システムオプション	288
UPRINTCOMPRESSION システムオプション	289
URLENCODING=システムオプション	290
USER=システムオプション	291

UTILLOC=システムオプション	292
UUIDCOUNT=システムオプション	294
UUIDGENDHOST=システムオプション	295
V6CREATEUPDATE=システムオプション	297
VALIDFMTNAME=システムオプション	297
VALIDMEMNAME=システムオプション	299
VALIDVARNAME=システムオプション	301
VARINITCHK=システムオプション	303
VARLENCHK=システムオプション	304
VBUFSIZE=システムオプション	307
VNFERR システムオプション	309
WORK=システムオプション	312
WORKINIT システムオプション	313
WORKTERM システムオプション	314
YEARCUTOFF=システムオプション	315

他の SAS ドキュメントで説明されている SAS システムオプション

システムオプションの完全なリストについては、[System Options Syntax Listed Alphabetically](#) (support.sas.com の *SAS Language Elements by Name, Product, and Category*)を参照してください。

一部のシステムオプションは、他の SAS ドキュメントの関連する題材で説明されています。

- [Encryption in SAS](#)
- [Grid Computing in SAS](#) (support.sas.com)
- [SAS Interface to Application Response Measurement \(ARM\):Reference](#)
- [SAS Companion for Windows](#)
- [SAS Companion for UNIX Environments](#)
- [SAS Companion for z/OS](#)
- [SAS Data Quality Server:Reference](#)
- [SAS DS2 Language Reference](#)
- [SAS Intelligence Platform:Application Server Administration Guide](#) (support.sas.com)
- [SAS Language Interfaces to Metadata](#)
- [SAS Logging:Configuration and Programming Reference](#)
- [SAS Macro Language:Reference](#)
- [SAS National Language Support \(NLS\):Reference Guide](#)
- [SAS Output Delivery System User's Guide](#)
- [SAS Scalable Performance Data Engine:Reference](#)
- [SAS SQL Procedure User's Guide](#)
- [SAS VSAM Processing for z/OS](#)
- [SAS/ACCESS for Relational Databases:Reference](#)

- SAS/CONNECT User's Guide [xisError - link not found - The element n01tlkspa598kanlwkyskjamlq8z was not found in the link database](#)
- SAS/GRAPH:Reference
- [SAS/SERVE User's Guide](#)

カテゴリ別の SAS システムオプション

カテゴリ別のシステムオプションは、このドキュメントに出てくるシステムオプションを表します。SAS システムオプションのカテゴリは、SAS システムオプショングループおよびサブグループに対応します。

コミュニケーション:メール	SAS を使用したメールの送受信に関連付けられたオプション
コミュニケーション:ネットワークと暗号化	リモートコミュニケーション、共有設定、暗号化に関連するオプション
コミュニケーション:メタデータ	SAS のメタデータの使用を構成するオプション
環境コントロール:表示	SAS ウィンドウと表示のプリファレンスを設定するオプション
環境コントロール:エラー処理	エラー条件とエラーメッセージに関連付けられたオプション
環境コントロール:ファイル	SAS ライブラリとファイルの場所のプリファレンスを設定するオプション
環境コントロール:ヘルプ	SAS ヘルプの構成に使用するオプション
環境コントロール:初期化および操作	SAS 動作環境を確立するオプション
環境コントロール:言語コントロール	言語と翻訳のプリファレンスを設定するオプション
ファイル:外部ファイル	SAS で作成されていないファイルを処理する方法を定義するオプション
ファイル:SAS ファイル	SAS ファイルを処理する方法を定義するオプション
入力コントロール:データ処理	データ入力とデータ処理のプリファレンスのオプション
入力コントロール:データ品質	SAS Data Quality Server を構成するオプション
グラフィック:ドライバ設定	デバイス、グラフィック、およびマップのプリファレンスを定義するオプション
ログおよびプロシージャ出力コントロール:SAS ログ	SAS ログに書き込まれるメッセージの表示を制御するオプション
ログおよびプロシージャ出力コントロール:プロシージャ出力	プロシージャ出力と表示のプリファレンスを定義するオプション
ログおよびプロシージャ出力コントロール:SAS ログおよびプロシージャ出力	SAS ログおよびプロシージャ出力の両方のプリファレンスを制御するオプション

ログおよびプロジェクト出力コントロール:ODS 印刷	ODS 出力先に印刷するプリファレンスを定義するオプション
ログおよびプロジェクト出力コントロール:PDF	PDF ファイルのプリファレンスを定義するオプション
ログおよびプロジェクト出力コントロール:SVG	SVG ファイルのプリファレンスを定義するオプション
ログおよびプロジェクト出力コントロール:アニメーション	SVG ファイルのアニメーション表示のプリファレンスを定義するオプション
マクロ:SAS マクロ	SAS マクロのプリファレンスを定義するオプション
並べ替え:プロジェクト出力	SAS ファイルの並べ替えのプリファレンスを定義するオプション
システム管理:インストール	サイトのインストール設定を定義するオプション
システム管理:メモリ	コンピュータのメモリのプリファレンスを定義するオプション
システム管理:パフォーマンス	パフォーマンスのプリファレンスを定義するオプション
システム管理:コード生成	SAS 言語ステートメントを生成するプリファレンスを定義するオプション
システム管理:セキュリティ	セキュリティ設定を定義するオプション
システム管理:SQL	SQL プロジェクトの設定を定義するオプション
TK	スレッド処理で使用されるオプション

カテゴリ	言語要素	説明
環境コントロール:エラー処理	AUTOCORRECT システムオプション (p. 62)	プロジェクト名のスペルミス、プロジェクトキーワードのスペルミス、グローバルステートメント名のスペルミスの自動修正を SAS で試みるかどうかを指定します。
	BYERR システムオプション (p. 70)	SORT プロジェクトが _NULL_ データセットを処理しようとしたときに、SAS でエラーを生成するかどうかを指定します。
	CHKPTCLEAN システムオプション (p. 80)	SAS がチェックポイントモードまたは再開モードの場合、バックアッププログラムが正常に実行された後に Work ライブリの内容を消去するかどうかを指定します。
	CLEANUP システムオプション (p. 81)	リソース不足の場合、自動クリーンアップを実行するか、ユーザー指定のクリーンアップを実行するかを指定します。
	DKRICOND=システムオプション (p. 104)	DROP=、KEEP=または RENAME=データセットオプションの処理時に入力データセットの変数が欠損しているときに、報告するエラー検出のレベルを指定します。
	DKROCOND=システムオプション (p. 105)	DROP=、KEEP=または RENAME=データセットオプションの処理時に出力データセットの変数が欠損しているときに、報告するエラー検出のレベルを指定します。
	DMSSYNCHK システムオプション (p. 114)	SAS ウィンドウ環境で、DATA ステップおよび PROC ステップ処理の構文チェックモードを有効にするかどうかを指定します。

カテゴリ	言語要素	説明
	DSNFERR システムオプション (p. 116)	SAS データセットが見つからないときに、SAS でエラーメッセージを発行するかどうかを指定します。
	ERRORABEND システムオプション (p. 129)	エラーが発生した場合に、SAS を終了するかどうかを指定します。
	ERRORBYABEND システムオプション (p. 130)	BY グループ処理でエラーが発生したときにプログラムが終了されるかどうかを指定します。
	ERRORCHECK=システムオプション (p. 131)	LIBNAME、FILENAME、%INCLUDE、LOCK ステートメントでエラーが検出されたときに SAS が構文チェックモードになるかどうかを指定します。
	ERRORS=システムオプション (p. 132)	詳細なエラーメッセージが発行されるオプザベーションの最大数を指定します。
	FMTERR システムオプション (p. 140)	変数の出力形式が見つからない場合、SAS でエラーを生成するのか、または処理を続行するのかを指定します。
	LABELCHKPT システムオプション (p. 168)	ラベル付きコードセクションのチェックポイント-再開データをバッチプログラムで記録するかどうかを指定します。
	LABELCHKPTLIB=システムオプション (p. 169)	ラベル付きコードセクションのチェックポイント-再開データを保存するライブラリのライブラリ参照名を指定します。
	LABELRESTART システムオプション (p. 171)	ラベル付きコードセクションで収集したデータのチェックポイント-再開データを使用してバッチプログラムを実行するかどうかを指定します。
	QUOTELENMAX システムオプション (p. 226)	引用符で囲まれた文字列が最大許容長を超えてる場合、SAS で警告メッセージを SAS ログに書き込むかどうかを指定します。
	STEPCHKPT システムオプション (p. 250)	DATA ステップと PROC ステップのチェックポイント-再開データをバッチプログラムで記録するかどうかを指定します。
	STEPCHKPTLIB=システムオプション (p. 252)	DATA ステップと PROC ステップのチェックポイント-再開データを保存するライブラリのライブラリ参照名を指定します。
	STEPRESTART システムオプション (p. 253)	DATA ステップと PROC ステップのチェックポイント-再開データを使用して、バッチプログラムを実行するかどうかを指定します。
	SYNTAXCHECK システムオプション (p. 275)	非対話型またはバッチ SAS セッションで、複数のステップの構文チェックモードを有効にするかどうかを指定します。
	VNFERR システムオプション (p. 309)	BY 変数があるデータセットに存在して別のデータセットに存在せず、その他のデータセットが _NULL_ のときに、エラーまたは警告を発行するかどうかを指定します。このオプションは、SET、MERGE、UPDATE、MODIFY のいずれかのステートメントを処理するときに適用されます。
環境コントロール: 言語コントロール	DATESTYLE=システムオプション (p. 100)	ANYDTDTE、ANYDTDTM または ANYDTTME 入力形式データがあいまいな場合の月、日、年の順序を指定します。

カテゴリ	言語要素	説明
	DSACCEL=システムオプション (p. 115)	サポートされている環境で DATA ステップの並列処理が有効かどうかを指定します。
	EXTENDOBS COUNTER=システムオプション (p. 136)	新しい出力 SAS データファイルで最大オブザベーション数を増やすかどうかを指定します。
	PAPER SIZE=システムオプション (p. 203)	印刷に使用する用紙サイズを指定します。
	TIMEZONE=システムオプション (p. 284)	ユーザーローカルタイムゾーンを指定します。
	URLENCODING=システムオプション (p. 290)	SAS セッションエンコーディングと UTF-8 エンコーディングのどちらを使用して URLENCODE 関数と URLDECODE 関数の引数が解釈されるのかを指定します。
環境コントロール: 初期化および操作	AUTH PROVIDER DOMAIN システムオプション (p. 60)	ドメインサフィックスを認証プロバイダに関連付けます。
	CSTGLOBALLIB=システムオプション (p. 97)	SAS Clinical Standards Toolkit グローバル標準ライブラリの場所を指定します。
	CSTSAMPLELIB=システムオプション (p. 97)	SAS Clinical Standards Toolkit サンプルライブラリの場所を指定します。
	DMR システムオプション (p. 108)	SAS/CONNECT クライアントで使用するサーバーセッションを SAS で起動できるようにするかどうかを指定します。
	DMS システムオプション (p. 109)	SAS ウィンドウ環境を起動し、ログウィンドウ、エディタウィンドウ、アウトプットウィンドウを表示するかどうかを指定します。
	DMSEXP システムオプション (p. 110)	SAS ウィンドウ環境を起動し、エクスプローラーウィンドウ、エディタウィンドウ、ログウィンドウ、アウトプットウィンドウ、結果ウィンドウを表示するかどうかを指定します。
	EXPLORER システムオプション (p. 135)	SAS ウィンドウ環境を起動し、エクスプローラーウィンドウとプログラムエディタウィンドウのみを表示するかどうかを指定します。
	INITCMD システムオプション (p. 160)	SAS 起動時、AUTOEXEC=ファイルおよび INITSTMT オプションの処理後に SAS が実行する、アプリケーション起動コマンドとオプションの SAS ウィンドウ環境、またはテキストエディタコマンドを指定します。
	INITSTMT=システムオプション (p. 162)	SAS ステートメントを、AUTOEXEC=ファイルのすべてのステートメントより後、かつ SYSIN=ファイルのすべてのステートメントより前に実行するように指定します。
	MULTENVAPPL システムオプション (p. 184)	SAS アプリケーションフォントの選択ウィンドウで選択できるフォントとして、すべての動作環境で使用できる SAS フォントのみを表示するかどうかを指定します。
	PRESENV システムオプション (p. 221)	SAS セッションの終了時に、SAS 環境を保持するデータの収集を可能にするかどうかを指定します。

カテゴリ	言語要素	説明
	PRIMARYPROVIDERDOMAIN=N=システムオプション (p. 222)	主認証プロバイダのドメイン名を指定します。
	TERMINAL システムオプション (p. 279)	端末デバイスを SAS セッションと関連付けるかどうかを指定します。
	TERMSTMT=システムオプション (p. 280)	SAS の終了時に SAS ステートメントを実行するように指定します。
環境コントロール: 表示	AUTOSAVELOC=システムオプション (p. 64)	プログラムエディタの自動保存ファイルの場所を指定します。
	CHARCODE システムオプション (p. 79)	キーボードにない特殊文字を特定のキーボードの組み合わせで代用するかどうかを指定します。
	DMSLOGSIZE=システムオプション (p. 111)	SAS ログウィンドウに表示できる最大行数を指定します。
	DMSOUTSIZE=システムオプション (p. 112)	SAS アウトプットウィンドウに表示できる最大行数を指定します。
	DMSPGMLINESIZE=システムオプション (p. 113)	プログラムエディタの 1 行の最大文字数を指定します。
	FONTSLOC=システムオプション (p. 146)	SAS で提供されるフォントの場所を指定し、FONTREG プロジェクタを使用してフォントを登録するためのデフォルトのフォントファイルの場所の名前を指定します。
	FORMS=システムオプション (p. 149)	用紙を印刷に使用する場合、使用するデフォルトの用紙を指定します。
	SOLUTIONS システムオプション (p. 242)	SAS ウィンドウにソリューションメニューを含めるかどうかを指定します。
環境コントロール: ファイル	APPEND=システムオプション (p. 58)	指定されたシステムオプションの既存の値に値を追加します。
	APPLETLOC=システムオプション (p. 60)	Java アプリケットの場所を指定します。
	FMTSEARCH=システムオプション (p. 141)	出力形式カタログを検索する順序を指定します。
	IMLPACKAGEPRIVATE=システムオプション(評価版) (p. 158)	個人用コレクションの SAS/IML パッケージのディレクトリを指定します。
	IMLPACKAGEPUBLIC=システムオプション(評価版) (p. 159)	パブリックコレクションの SAS/IML パッケージのディレクトリを指定します。
	IMLPACKAGESYSTEM=システムオプション(評価版) (p. 160)	SAS/IML の一部としてインストールされるパッケージのディレクトリを指定します。

カテゴリ	言語要素	説明
	INSERT=システムオプション (p. 163)	指定した値を指定したシステムオプションの先頭の値として挿入します。
	NEWS=システムオプション (p. 185)	SAS ログのヘッダーの直後に書き込まれるメッセージを含む外部ファイルを指定します。
	PARM=システムオプション (p. 206)	外部プログラムに渡されるパラメータ文字列を指定します。
	PARMCARDS=システムオプション (p. 207)	プロシージャで PARMCARDS ステートメントを検出したときに開くファイル参照を指定します。
	RSASUSER システムオプション (p. 231)	SASUSER ライブラリを読み取りアクセスと読み取り/書き込みアクセスのどちらで開くかを指定します。
	SASHelp=システムオプション (p. 238)	Sashelp ライブラリの場所を指定します。
	SASUSER=システムオプション (p. 239)	Sasuser ライブラリとして使用する SAS ライブラリを指定します。
	SET システムオプション (p. 240)	SAS 環境変数を定義します。
	TRAINLOC=システムオプション (p. 286)	SAS のオンライントレーニングコースの URL を指定します。
	USER=システムオプション (p. 291)	デフォルトの永久 SAS ライブラリを指定します。
	UUIDCOUNT=システムオプション (p. 294)	UUID ジェネレーターデーモンから取得する UUID の数を指定します。
	UUIDGENDHOST=システムオプション (p. 295)	UUID ジェネレーターデーモンが実行されるホストとポートまたは LDAP URL を示します。
	WORK=システムオプション (p. 312)	Work ライブラリを指定します。
	WORKINIT システムオプション (p. 313)	SAS の起動時に Work ライブラリを初期化するかどうかを指定します。
	WORKTERM システムオプション (p. 314)	SAS が終了するときに Work ファイルを消去するかどうかを指定します。
環境コントロール: ヘルプ	HELPBROWSER=システムオプション (p. 149)	ブラウザを SAS ヘルプと ODS 出力に使用するように指定します。
	HELPENCMD システムオプション (p. 150)	コマンドラインヘルプで英語バージョンと翻訳バージョンのどちらのキーワードリストを使用するかを指定します。
	HELPHOST システムオプション (p. 151)	リモートブラウザによるヘルプと ODS 出力の送信先となるコンピュータの名前を指定します。

カテゴリ	言語要素	説明
	HELPPOINT=システムオプション (p. 152)	リモートブラウザクライアント用のポート番号を指定します。
コミュニケーション: 電子メール	EMAILACKWAIT=システムオプション (p. 119)	SMTP サーバーから受信確認を受信するまでの待機秒数を指定します。
	EMAILAUTHPROTOCOL=システムオプション (p. 120)	SMTP 電子メールの認証プロトコルを指定します。
	EMAILFROM システムオプション (p. 121)	SMTP を使用して電子メールを送信するときに、FILE または FILENAME ステートメントのいずれかで電子メールオプション FROM が必要かどうかを指定します。
	EMAILHOST=システムオプション (p. 122)	電子メールアクセスをサポートする SMTP サーバーを指定します。
	EMAILID=システムオプション (p. 124)	ログオン ID、電子メールプロファイル、電子メールアドレスのいずれかを指定して、電子メールの送信者を識別します。
	EMAILPORT システムオプション (p. 125)	SMTP サーバーが接続されるポートを指定します。
	EMAILPW=システムオプション (p. 126)	電子メールのログオンパスワードを指定します。
	EMAILUTCOFFSET=システムオプション (p. 128)	FILENAME ステートメントの EMAIL (SMTP) アクセス方式を使用して送信される電子メールに、電子メールメッセージの日時ヘッダーフィールドで使用される UTC オフセットを指定します。
コミュニケーション: ネットワークと暗号化	HTTPSERVERPORTMAX=システムオプション (p. 154)	SAS HTTP サーバーでリモートブラウズに使用可能な最大のポート番号を指定します。
	HTTPSERVERPORTMIN=システムオプション (p. 154)	SAS HTTP サーバーでリモートブラウズに使用可能な最小のポート番号を指定します。
システム管理:TK	DATAPAGESIZE=システムオプション (p. 98)	SAS データセットまたはユーティリティファイルの最適バッファサイズを決定する方法を指定します。
	STRIPESIZE=システムオプション (p. 255)	1 つ以上のディレクトリとサイズの引数のペアを指定して、そのディレクトリにある SAS データセットとユーティリティファイルのサイズを I/O デバイスストライプのサイズに設定します。
システム管理:インストール	SETINIT システムオプション (p. 241)	サイトライセンス情報を変更できるかどうかを指定します。
システム管理:コード生成	CGOPTIMIZE=システムオプション (p. 78)	コードコンパイル中に実行する最適化レベルを指定します。
システム管理:セキュリティ	PDFPASSWORD=システムオプション (p. 216)	PDF ドキュメントを開くために使用するパスワードと、PDF ドキュメントの所有者によって使用されるパスワードを指定します。
	PDFSECURITY=システムオプション (p. 219)	PDF ドキュメントの暗号化のレベルを指定します。

カテゴリ	言語要素	説明
	RLANG システムオプション (p. SAS で R 言語ステートメントを実行するかどうかを指定します。 230)	
システム管理:バッファーマンス	BUFNO=システムオプション (p. 66)	SAS データセットの処理用に割り当てるバッファ数を指定します。
	BUFSIZE=システムオプション (p. 68)	出力 SAS データセット用の永久バッファサイズを指定します。
	CGOPTIMIZE=システムオプション (p. 78)	コードコンパイル中に実行する最適化レベルを指定します。
	CMPMODEL=システムオプション (p. 85)	MODEL プロシージャの出力モデルの種類を指定します。
	CMPOPT=システムオプション (p. 85)	SAS 言語コンパイラで使用するコード生成の最適化の種類を指定します。
	COMPRESS=システムオプション (p. 92)	SAS データセットの出力に使用するオブザベーションの圧縮の種類を指定します。
	CPUCOUNT=システムオプション (p. 94)	スレッド対応アプリケーションで並行処理に使用可能とみなされるプロセッサ数を指定します。
	SORTSIZE=システムオプション (p. 245)	SORT プロシージャで使用できるメモリ量を指定します。
	STRIPESIZE=システムオプション (p. 255)	1 つ以上のディレクトリとサイズの引数のペアを指定して、そのディレクトリにある SAS データセットとユーティリティファイルのサイズを I/O デバイスストライプのサイズに設定します。
	THREADS システムオプション (p. 282)	使用可能な場合は SAS でスレッド処理を使用するように指定します。
	UBUFNO=システムオプション (p. 287)	ユーティリティファイルに使用するバッファ数を指定します。
	UBUFSIZE=システムオプション (p. 288)	ユーティリティファイルのバッファサイズを指定します。
	VBUFSIZE=システムオプション (p. 307)	表示バッファのサイズを指定します。
システム管理:メモリ	SORTSIZE=システムオプション (p. 245)	SORT プロシージャで使用できるメモリ量を指定します。
	SUMSIZE=システムオプション (p. 256)	分類変数がアクティブな場合にデータ要約プロシージャで使用可能なメモリ量の制限を指定します。
並べ替え:プロシージャオプション	SORTDUP=システムオプション (p. 243)	SORT プロシージャで、データセット内のすべての変数、あるいは DROP または KEEP データセットオプションの適用後も残っている変数に基づいて、重複した変数を削除するかどうかを指定します。

カテゴリ	言語要素	説明
	SORTEQUALS システムオプション (p. 244)	出力データセット内の同一 BY 変数値を持つオブザベーションが特定の順序で並べられているかどうかを指定します。
	SORTSIZE=システムオプション (p. 245)	SORT プロシージャで使用できるメモリ量を指定します。
	SORTVALIDATE システムオプション (p. 246)	ユーザー指定の並べ替え順序が並べ替えインジケータに指示されている場合、SORT プロシージャで、データセットが BY ステートメント内の変数に従って並べ替えられていることを検証するかどうかを指定します。
入力コントロール: データ処理	BYSORTED システムオプション (p. 72)	1 つ以上のデータセットのオブザベーションがアルファベット順または番号順に並べ替えられているか、別の論理的順序でグループ化されているかを指定します。
	CAPS システムオプション (p. 73)	特定の種類の入力を大文字に変換するかどうかを指定します。
	CARDIMAGE システムオプション (p. 74)	SAS でソース行およびデータ行を 80 バイトのカードとして処理するかどうかを指定します。
	DATESTYLE=システムオプション (p. 100)	ANYDTDTE、ANYDTDTM または ANYDTTME 入力形式データがあいまいな場合の月、日、年の順序を指定します。
	EVENTDS=システムオプション (p. 133)	イベントを定義するデータセットを指定します。
	INTERVALDS=システムオプション (p. 164)	1 つ以上の間隔の名前/値ペアを指定します。この値は、ユーザー一定義の間隔を含む SAS データセットです。間隔は INTNX および INTCK 関数の引数として使用できます。
	INVALIDDATA=システムオプション (p. 166)	無効な数値データが発生したときに SAS で変数に割り当てる値を指定します。
	S=システムオプション (p. 232)	ソースステートメントの各行のステートメント長と DATALINES ステートメント以降の行のデータ長を指定します。
	S2=システムオプション (p. 234)	%INCLUDE ステートメント、AUTOEXEC=ファイルまたは自動呼び出しマクロファイルから入力されるソースステートメントの各行のステートメント長を指定します。
	S2V=システムオプション (p. 236)	%INCLUDE ステートメント、自動実行ファイルまたは自動呼び出しマクロファイルに指定されたファイルを、可変長レコード形式で読み取る場合の読み取り開始位置を指定します。
	SEQ=システムオプション (p. 239)	入力ソース行またはデータ行に含まれるシーケンスフィールドの数値部分の長さを指定します。
	SPOOL システムオプション (p. 248)	SAS ステートメントを Work ライブラリ内のユーティリティデータセットに書き込むかどうかを指定します。
	VBUFSIZE=システムオプション (p. 307)	表示バッファのサイズを指定します。

カテゴリ	言語要素	説明
	YEARCUTOFF=システムオプション (p. 315)	2 桁の年を読み込むために日付入力形式および関数で使用される 100 年の期間の第 1 年を指定します。
ファイル:SAS ファイル	ALIGNSASIOFILES システムオプション (p. 53)	パフォーマンスを向上させるには、ページ境界に合わせて出力データを配置します。
	BUFNO=システムオプション (p. 66)	SAS データセットの処理用に割り当てるバッファ数を指定します。
	BUFSIZE=システムオプション (p. 68)	出力 SAS データセット用の永久バッファサイズを指定します。
	CATCACHE=システムオプション (p. 75)	キャッシュメモリで開いておける SAS カタログ数を指定します。
	CBUFNO=システムオプション (p. 76)	開かれた各 SAS カタログに割り当てる追加ページバッファ数を指定します。
	CMPLIB=システムオプション (p. 83)	プログラムのコンパイル時に挿入するコンパイラサブルーチンを含む、1 つ以上の SAS データセットを指定します。
	COMPRESS=システムオプション (p. 92)	SAS データセットの出力に使用するオブザベーションの圧縮の種類を指定します。
	DATAPAGESIZE=システムオプション (p. 98)	SAS データセットまたはユーティリティファイルの最適バッファサイズを決定する方法を指定します。
	DATASTMTCHK=システムオプション (p. 99)	入力データセットの上書きを防ぐため、1 レベルの DATA ステップ名としての指定を禁止する SAS ステートメントのキーワードを指定します。
	DKRICOND=システムオプション (p. 104)	DROP=、KEEP=または RENAME=データセットオプションの処理時に入力データセットの変数が欠損しているときに、報告するエラー検出のレベルを指定します。
	DKROCOND=システムオプション (p. 105)	DROP=、KEEP=または RENAME=データセットオプションの処理時に出力データセットの変数が欠損しているときに、報告するエラー検出のレベルを指定します。
	DLCREATEDIR システムオプション (p. 106)	LIBNAME ステートメントで指定する SAS ライブラリのディレクトリが存在しない場合に、ディレクトリを作成するように指定します。
	DLDMGACTION=システムオプション (p. 107)	SAS データセットまたは SAS カタログの破損が検出されたときに実行するアクションの種類を指定します。
	ENGINE=システムオプション (p. 129)	SAS ライブラリのデフォルトアクセスメソッドを指定します。
	EXTENDOBSCOUNTER=システムオプション (p. 136)	新しい出力 SAS データファイルで最大オブザベーション数を増やすかどうかを指定します。
	FILESYNC=システムオプション (p. 137)	永続的 SAS ファイルの内容が含まれるオペレーティングシステムバッファをいつディスクに書き込むかを指定します。

カテゴリ	言語要素	説明
	FIRSTOBS=システムオプション (p. 138)	SAS で最初に処理するオブザベーション番号または外部ファイルレコードを指定します。
	IBUFNO=システムオプション (p. 155)	インデックスファイルのナビゲーション用に割り当てる追加バッファ数を指定します(省略可能)。
	IBUFSIZE=システムオプション (p. 157)	インデックスファイルのバッファサイズを指定します。
	LAST=システムオプション (p. 172)	最後に作成されたデータセットを指定します。
	MERGENOBY システムオプション (p. 182)	関連付けられた BY ステートメントを使用せずに MERGE 処理が行われるときに発行されるメッセージの種類を指定します。
	OBS=システムオプション (p. 187)	最後に処理するオブザベーションを判断するために使用するオブザベーションを指定するか、最後に処理するレコードを指定します。
	REPLACE システムオプション (p. 227)	永続的に保存された SAS データセットを置き換えるかどうかを指定します。
	REUSE=システムオプション (p. 228)	オブザベーションが圧縮 SAS データセットに追加されたとき、SAS で空き領域を再利用するかどうかを指定します。
	STRIPESIZE=システムオプション (p. 255)	1 つ以上のディレクトリとサイズの引数のペアを指定して、そのディレクトリにある SAS データセットとユーティリティファイルのサイズを I/O デバイスストライプのサイズに設定します。
	UBUFNO=システムオプション (p. 287)	ユーティリティファイルに使用するバッファ数を指定します。
	UBUFSIZE=システムオプション (p. 288)	ユーティリティファイルのバッファサイズを指定します。
	UTILLOC=システムオプション (p. 292)	有効にされたスレッド化アプリケーションがユーティリティファイルを保存できるファイルシステムの場所を指定します。
	V6CREATEUPDATE=システムオプション (p. 297)	バージョン 6 のデータセットを作成または更新するときに SAS ログに書き込まれるメッセージの種類を指定します。
	VALIDFMTNAME=システムオプション (p. 297)	これを超えるとエラーまたは警告が発行される、ユーザー作成の出力形式名および入力形式名の最大サイズ(32 文字または 8 文字)を指定します。
	VALIDMEMNAME=システムオプション (p. 299)	SAS データセット、SAS データビューおよびアイテムストアの命名規則を指定します。
	VALIDVARNAME=システムオプション (p. 301)	SAS セッション中に作成および処理可能な有効な SAS 変数名の規則を指定します。
	VARINITCHK=システムオプション (p. 303)	変数が初期化されていない場合に DATA ステップの実行を停止するか継続するか、および SAS ログに書き込むメッセージの種類を指定します。

カテゴリ	言語要素	説明
	VARLENCHK=システムオプション (p. 304)	SET、MERGE、UPDATE、MODIFY のいずれかのステートメントを使用して入力データセットが読み込まれるときに SAS ログに書き込まれるメッセージの種類を指定します。
ファイル:外部ファイル	LRECL=システムオプション (p. 181)	外部ファイルの読み込みと書き込みに使用するデフォルトの論理レコード長を指定します。
	STARTLIB システムオプション (p. 249)	SAS の起動時にユーザー定義の永久ライブラリ参照名を割り当てるかどうかを指定します。
ログおよびプロシージャ出力コントロール:ODS 印刷	BINDING=システムオプション (p. 64)	両面印刷出力する場合のドキュメントのとじ辺を指定します。
	BOTTOMMARGIN=システムオプション (p. 65)	印刷ページの下の余白のサイズを指定します。
	COLLATE システムオプション (p. 88)	印刷される出力の複数のコピーを部単位で印刷するかどうかを指定します。
	COLOPHON=システムオプション (p. 89)	ユニバーサルプリンタで作成されるグラフィックファイルまたは PDF に埋め込まれるテキスト文字列を指定します。このテキスト文字列は、レンダリングされたグラフィックや PDF には表示されません。
	COLORPRINTING システムオプション (p. 91)	カラー印刷がサポートされている場合にカラーで印刷するかどうかを指定します。
	COPIES=システムオプション (p. 94)	印刷する部数を指定します。
	DEFLATION=システムオプション (p. 102)	Deflate 圧縮アルゴリズムをサポートするデバイスドライバの圧縮レベルを指定します。
	DUPLEX システムオプション (p. 117)	両面印刷が有効かどうかを指定します。
	FONTEMBEDDING システムオプション (p. 144)	ユニバーサルプリンタと SAS/GRAF 印刷でフォント埋め込みを有効にするかどうかを指定します。
	FONTRENDERING=システムオプション (p. 145)	SASGDGIF、SASGDTIF および SASGDMG モジュールをベースにした SAS/GRAF デバイスで、フォントのレンダリングにオペレーティングシステムと FreeType エンジンのどちらを使用するかを指定します。
	FONTSLOC=システムオプション (p. 146)	SAS で提供されるフォントの場所を指定し、FONTREG プロジェクタを使用してフォントを登録するためのデフォルトのフォントファイルの場所の名前を指定します。
	JPEGQUALITY=システムオプション (p. 166)	SAS/GRAF JPEG デバイスドライバによって生成される JPEG ファイルの圧縮レベルに対する、イメージ品質の比率を決定する JPEG 品質係数を指定します。
	LEFTMARGIN=システムオプション (p. 173)	ページの左側の印刷余白を指定します。

カテゴリ	言語要素	説明
	ORIENTATION=システムオプション (p. 196)	プリントで印刷するときに使用する用紙の向きを指定します。
	PAPERDEST=システムオプション (p. 202)	印刷出力を受け取る排紙トレイの名前を指定します。
	PAPERSIZE=システムオプション (p. 203)	印刷に使用する用紙サイズを指定します。
	PAPERSOURCE=システムオプション (p. 205)	印刷に使用する用紙トレイの名前を指定します。
	PAPERTYPE=システムオプション (p. 206)	印刷に使用する用紙の種類を指定します。
	PRINTERPATH=システムオプション (p. 223)	ユニバーサル印刷に使用する登録済みプリンタの名前を指定します。
	RIGHTMARGIN=システムオプション (p. 229)	ページの右側の印刷余白を指定します。
	TEXTURELOC=システムオプション (p. 281)	ODS スタイルで使用されるテクスチャとイメージの場所を指定します。
	TOPMARGIN=システムオプション (p. 285)	ページの上の印刷余白を指定します。
	UPRINTCOMPRESSION システムオプション (p. 289)	一部のユニバーサルプリンタおよび SAS/GRAF デバイスで作成されたファイルの圧縮を有効にするかどうかを指定します。
ログおよびプロシージャ出力コントロール:PDF	PDFACCESS システムオプション (p. 208)	PDF ドキュメントのテキストとグラフィックを視覚障害者のためのスクリーンリーダーで読み上げできるようにするかどうかを指定します。
	PDFASSEMBLY システムオプション (p. 209)	PDF ドキュメントのアセンブリを許可するかどうかを指定します。
	PDFCOMMENT システムオプション (p. 210)	PDF ドキュメントのコメントを変更できるかどうかを指定します。
	PDFCONTENT システムオプション (p. 211)	PDF ドキュメントの内容を変更できるかどうかを指定します。
	PDFCOPY システムオプション (p. 212)	PDF ドキュメントのテキストとグラフィックをコピーできるかどうかを指定します。
	PDFFILLIN システムオプション (p. 213)	PDF フォームに入力できるかどうかを指定します。
	PDFPAGELAYOUT=システムオプション (p. 215)	PDF ドキュメントのページレイアウトを指定します。
	PDFPAGEVIEW=システムオプション (p. 216)	PDF ドキュメントのページ表示モードを指定します。

カテゴリ	言語要素	説明
	PDFPASSWORD=システムオプション (p. 216)	PDF ドキュメントを開くために使用するパスワードと、PDF ドキュメントの所有者によって使用されるパスワードを指定します。
	PDFPRINT=システムオプション (p. 218)	PDF ドキュメントの印刷の解像度を指定します。
	PDFSECURITY=システムオプション (p. 219)	PDF ドキュメントの暗号化のレベルを指定します。
ログおよびプロシージャ出力コントロール:SAS ログ	CPUID システムオプション (p. 96)	CPU ID 番号を SAS ログに書き込むかどうかを指定します。
	DATE システムオプション (p. 99)	SAS プログラムが開始された日時を表示するかどうかを指定します。
	DECIMALCONV=システムオプション (p. 101)	2 進数から 10 進数への変換とフォーマットの方法を指定します。
	DETAILS システムオプション (p. 103)	SAS ライブラリにファイルのリストが表示されるときに追加情報を含めるかどうかを指定します。
	DMSLOGSIZE=システムオプション (p. 111)	SAS ログウィンドウに表示できる最大行数を指定します。
	DTRESET システムオプション (p. 117)	SAS ログとプロシージャ出力ファイルの日時を更新するかどうかを指定します。
	ECHOAUTO システムオプション (p. 118)	AUTOEXEC=ファイル内のステートメントが実行されるとき、ステートメントを SAS ログに書き込むかどうかを指定します。
	ERRORS=システムオプション (p. 132)	詳細なエラーメッセージが発行されるオブザベーションの最大数を指定します。
	HOSTINFOLONG システムオプション (p. 153)	SAS 開始時に動作環境の追加情報を SAS ログに出力する指定です。
	LINESIZE=システムオプション (p. 174)	SAS ログと SAS プロシージャ出力の行サイズを指定します。
	LOGPARM=システムオプション (p. 175)	SAS ログファイルを開くタイミング、閉じるタイミング、および LOG=システムオプションと連動して命名する方法を指定します。
	MISSING=システムオプション (p. 182)	欠損数値のかわりに印刷する文字を指定します。
	MSGLEVEL=システムオプション (p. 183)	SAS ログに書き込まれるメッセージの詳細のレベルを指定します。
	NEWS=システムオプション (p. 185)	SAS ログのヘッダーの直後に書き込まれるメッセージを含む外部ファイルを指定します。
	NOTES システムオプション (p. 186)	NOTE が SAS ログに書き込まれるかどうかを指定します。

カテゴリ	言語要素	説明
	NUMBER システムオプション (p. 186)	SAS 出力の各ページのタイトル行にページ番号を印刷するかどうかを指定します。
	OVP システムオプション (p. 199)	エラーメッセージを太字で表示するために重ね打ちを有効にするかどうかを指定します。
	PAGEBREAKINITIAL システムオプション (p. 199)	LISING 出力先の SAS ログおよびプロシージャ出力ファイルを新しいページで始めるかどうかを指定します。
	PAGESIZE=システムオプション (p. 201)	SAS ログおよび SAS 出力のページを構成する行数を指定します。
	PRINTMSGLIST システムオプション (p. 225)	すべてのメッセージを SAS ログに出力するか、トップレベルのメッセージのみを SAS ログに出力するかを指定します。
	SOURCE システムオプション (p. 247)	SAS により、ソースステートメントを SAS ログに書き込むかどうかを指定します。
	SOURCE2 システムオプション (p. 248)	SAS により、インクルードされたファイルから 2 次ソースステートメントを SAS ログに書き込むかどうかを指定します。
ログおよびプロシージャ出力コントロール:SAS ログおよびプロシージャ出力	DATE システムオプション (p. 99)	SAS プログラムが開始された日時を表示するかどうかを指定します。
	DECIMALCONV=システムオプション (p. 101)	2 進数から 10 進数への変換とフォーマットの方法を指定します。
	DETAILS システムオプション (p. 103)	SAS ライブラリにファイルのリストが表示されるときに追加情報を含めるかどうかを指定します。
	DTRESET システムオプション (p. 117)	SAS ログとプロシージャ出力ファイルの日時を更新するかどうかを指定します。
	LINESIZE=システムオプション (p. 174)	SAS ログと SAS プロシージャ出力の行サイズを指定します。
	MISSING=システムオプション (p. 182)	欠損数値のかわりに印刷する文字を指定します。
	NUMBER システムオプション (p. 186)	SAS 出力の各ページのタイトル行にページ番号を印刷するかどうかを指定します。
	PAGEBREAKINITIAL システムオプション (p. 199)	LISING 出力先の SAS ログおよびプロシージャ出力ファイルを新しいページで始めるかどうかを指定します。
	PAGESIZE=システムオプション (p. 201)	SAS ログおよび SAS 出力のページを構成する行数を指定します。
ログおよびプロシージャ出力コントロール:SVG	ANIMATION=システムオプション (p. 54)	アニメーションフレームの作成を開始するのか停止するのかを指定します。
	ANIMDURATION=システムオプション (p. 55)	アニメーションの各フレームがビューに保持される時間を指定します。

カテゴリ	言語要素	説明
	ANIMLOOP=システムオプション (p. 56)	アニメーションループを連続再生するのかそれとも 1 回のみ再生するのかを指定するか、または特定のアニメーションループ繰り返し回数を指定します。
	ANIMOVERLAY システムオプション (p. 57)	アニメーションフレームを重ね合わせるかどうか、また順次再生するかどうかを指定します。
	SVGAUTOPLAY システムオプション (p. 258)	Web ブラウザで自動的にアニメーションを始めるための指定です。
	SVGCONTROLBUTTONS システムオプション (p. 258)	複数ページの SVG ドキュメントにページ制御ボタンとインデックスを表示するかどうかを指定します。
	SVGFADEIN=システムオプション (p. 259)	SVG フレームがフェードインする間の秒数を指定します。
	SVGFADEMODE=システムオプション (p. 260)	フレームがフェードイン/フェードアウトするとき、SVG フレームが前のフレームとオーバーラップするか、各フレームが順番に表示されるかを指定します。
	SVGFADEOUT=システムオプション (p. 261)	SVG フレームがフェードアウトする間の秒数を指定します。
	SVGHEIGHT=システムオプション (p. 262)	SVG 出力が別の SVG 出力に埋め込まれていない場合のビューポートの高さを指定します。SVG ファイルの最も外側の<svg>要素の height 属性で値を指定します。
	SVGMAGNIFYBUTTON システムオプション (p. 264)	SVG ドキュメントで SVG 拡大ツールが使用可能かどうかを指定します。
	SVGPRESERVEASPECTRATIO=システムオプション (p. 264)	SVG 出力の均一スケールを強制するかどうかを指定します。最も外側の<svg>要素で preserveAspectRatio 属性を指定します。
	SVGTITLE=システムオプション (p. 267)	SVG 出力のタイトルバーのタイトルを指定します。SVG ファイルの<title>要素の値を指定します。
	SVGVIEWBOX=システムオプション (p. 268)	最も外側の<svg>要素の viewBox 属性を設定するために使用する座標、幅および高さを指定します。これにより、ビューポートに合わせて SVG 出力のサイズを調整できます。
	SVGWIDTH=システムオプション (p. 270)	SVG 出力が別の SVG 出力に埋め込まれていない場合のビューポートの幅を指定します。SVG ファイルの最も外側の<svg>要素の width 属性で値を指定します。
	SVGX=システムオプション (p. 272)	埋め込まれた<svg>要素が含まれる四角形の 1 つの角の x 軸座標を指定します。SVG ファイルの最も外側の<svg>要素で x 属性を指定します。
	SVGY=システムオプション (p. 274)	埋め込まれた<svg>要素が含まれる四角形の 1 つの角の y 軸座標を指定します。SVG ファイルの最も外側の<svg>要素で y 属性を指定します。
ログおよびプロシージャ出力コントロ	ANIMATION=システムオプション (p. 54)	アニメーションフレームの作成を開始するのか停止するのかを指定します。

カテゴリ	言語要素	説明
ール:アニメーショ ン	ANIMDURATION=システムオ プション (p. 55)	アニメーションの各フレームがビューに保持される時間を指定し ます。
	ANIMLOOP=システムオプシ ョン (p. 56)	アニメーションループを連続再生するのかそれとも1回のみ再 生するのかを指定するか、または特定のアニメーションループ繰 り返し回数を指定します。
	ANIMOVERLAY システムオ プション (p. 57)	アニメーションフレームを重ね合わせるかどうか、また順次再生 するかどうかを指定します。
	SVGAUTOPLAY システムオプ ション (p. 258)	Web ブラウザで自動的にアニメーションを始めるための指定で す。
	SVGFADEIN=システムオプシ ョン (p. 259)	SVG フレームがフェードインする間の秒数を指定します。
	SVGFADEMODE=システムオ プション (p. 260)	フレームがフェードイン/フェードアウトするとき、SVG フレームが 前のフレームとオーバーラップするか、各フレームが順番に表示 されるかを指定します。
ログおよびプロシ ジャ出力コントロ ール:プロシジャ出 力	SVGFADEOUT=システムオプ ション (p. 261)	SVG フレームがフェードアウトする間の秒数を指定します。
	BYLINE システムオプション (p. 71)	各 BY グループの上に BY 行を表示するかどうかを指定しま す。
	CENTER システムオプション (p. 77)	SAS プロシジャ出力を中央揃えにするか左揃えにするかを指定 します。
	DATE システムオプション (p. 99)	SAS プログラムが開始された日時を表示するかどうかを指定し ます。
	DECIMALCONV=システムオ プション (p. 101)	2進数から10進数への変換とフォーマットの方法を指定しま す。
	DETAILS システムオプション (p. 103)	SAS ライブラリにファイルのリストが表示されるときに追加情報 を含めるかどうかを指定します。
	DMSOUTSIZE=システムオ プション (p. 112)	SAS アウトプットウィンドウに表示できる最大行数を指定します。
	DTRESET システムオプション (p. 117)	SAS ログとプロシジャ出力ファイルの日時を更新するかどうかを 指定します。
	FORMCHAR=システムオプシ ョン (p. 147)	デフォルトの出力フォーマッティング文字を指定します。
	FORMDLIM=システムオプシ ョン (p. 148)	LISTING 出力先の SAS 出力で改ページを区切る文字を指定し ます。
	FORMS=システムオプション (p. 149)	用紙を印刷に使用する場合、使用するデフォルトの用紙を指定 します。

カテゴリ	言語要素	説明
	LABEL システムオプション (p. 167)	SAS プロシージャで変数ラベルを使用できるかどうかを指定します。
	LINESIZE=システムオプション (p. 174)	SAS ログと SAS プロシージャ出力の行サイズを指定します。
	MISSING=システムオプション (p. 182)	欠損数値のかわりに印刷する文字を指定します。
	NUMBER システムオプション (p. 186)	SAS 出力の各ページのタイトル行にページ番号を印刷するかどうかを指定します。
	PAGEBREAKINITIAL システムオプション (p. 199)	LISING 出力先の SAS ログおよびプロシージャ出力ファイルを新しいページで始めるかどうかを指定します。
	PAGENO=システムオプション (p. 200)	SAS 出力ページ番号をリセットします。
	PAGESIZE=システムオプション (p. 201)	SAS ログおよび SAS 出力のページを構成する行数を指定します。
	PRINTINIT システムオプション (p. 225)	SAS プロシージャ出力ファイルを LISTING 出力先用に初期化するかどうかを指定します。
	SKIP=システムオプション (p. 241)	LISTING 出力先への SAS 出力の各ページ先頭でスキップする行数を指定します。
	SYSPRINTFONT=システムオプション (p. 277)	印刷に使用するデフォルトフォントを指定します。フォントと ODS スタイルの明示的な指定はこのデフォルトよりも優先されます。

ディクショナリ

ALIGNSASIOFILES システムオプション

パフォーマンスを向上させるには、ページ境界に合わせて出力データを配置します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: ファイル:SAS ファイル

PROC OPTIONS GROUP= SASFILES

デフォルト: UNIX および Windows 動作環境の場合、出荷時のデフォルト値は ALIGNSASIOFILES。

z/OS では、出荷時のデフォルト値は NOSASALIGNIOFILES。

注: このオプションは、z/OS では制限できます。UNIX および Windows では制限できません。

構文

ALIGNSASIOFILES | NOALIGNSASIOFILES

構文の説明

ALIGNSASIOFILES

ページ境界に合わせて出力データを配置するように指定します。

NOALIGNSASIOFILES

標準 SAS プラクティスを使用して出力データを書き込むように指定します。

詳細

SAS データセットは、1 ページ以上のデータが後に続くヘッダーで構成されます。通常、ヘッダーは、Windows では 1K、UNIX では 8K です。ALIGNSASIOFILES システムオプションでは、データページを境界に合わせて配置してより効率的な I/O を可能にさせられるように、ヘッダーを強制的にデータページと同じサイズにします。

ページ境界に合わせてデータを配置することによって、ファイルのサイズは増加しますが、ページアクセスが減少するためパフォーマンスは向上します。

BUFSIZE=システムオプションまたは BUFSIZE=データセットオプションを使用して、ページサイズを設定できます。

関連項目:

- “Setting System Options to Improve I/O Performance” (*SAS Language Reference: Concepts*)

データセットオプション:

- “BUFSIZE= Data Set Option” (*SAS Data Set Options: Reference*)

システムオプション:

- “BUFSIZE=システムオプション” (68 ページ)

ANIMATION=システムオプション

アニメーションフレームの作成を開始するのか停止するのかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、**SAS システムオプション** ウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシージャ出力コントロール:SVG

ログおよびプロシージャ出力コントロール:アニメーション

PROC OPTIONS

GROUP= SVG

アニメーション

別名: ANIMATE

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は STOP です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

GIF および SVG アニメーションに有効なオプションです。

構文

ANIMATION=START | STOP

構文の説明

START

アニメーションフレームの作成開始を指定します。

STOP

アニメーションフレームの作成停止を指定します。

- ピン
ト アニメーションファイルのフレームを作成した後で、ANIMATION=STOP を指定します。ANIMATION=START を指定したままの場合は、以降のプロシージャステートメントに対してアニメーションファイルが誤って作成される場合があります。

関連項目:

- “About Animated GIF Images and SVG Documents” (*SAS Language Reference: Concepts*)

システムオプション:

- “ANIMDURATION=システムオプション” (55 ページ)
- “ANIMLOOP=システムオプション” (56 ページ)
- “ANIMOVERLAY システムオプション” (57 ページ)
- “SVGAUTOPLAY システムオプション” (258 ページ)
- “SVGFADEIN=システムオプション” (259 ページ)
- “SVGFADEMODE=システムオプション” (260 ページ)
- “SVGFADEOUT=システムオプション” (261 ページ)

ANIMDURATION=システムオプション

アニメーションの各フレームがビューに保持される時間を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシージャ出力コントロール:SVG

ログおよびプロシージャ出力コントロール:アニメーション

PROC OPTIONS

GROUP=

SVG

アニメーション

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は MIN です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#) (6 ページ)を参照してください。

GIF および SVG アニメーションに有効なオプションです。

構文

ANIMDURATION=duration | MIN

構文の説明

duration

ビューにアニメーションフレームを保持する秒数を指定します。この数字は任意の数値表現で指定できます(例: .01、5、6.5)。

デフォルト GIF フレームの場合は 0

SVG フレームの場合は 0.1

MIN

ビューにフレームが保持される時間にデバイスのデフォルト値を使用することを指定します。

関連項目:

- “About Animated GIF Images and SVG Documents” (*SAS Language Reference: Concepts*)

システムオプション:

- “ANIMATION=システムオプション” (54 ページ)
- “ANIMLOOP=システムオプション” (56 ページ)
- “ANIMOVERLAY システムオプション” (57 ページ)
- “SVGAUTOPLAY システムオプション” (258 ページ)
- “SVGFADEIN=システムオプション” (259 ページ)
- “SVGFADEMODE=システムオプション” (260 ページ)
- “SVGFADEOUT=システムオプション” (261 ページ)

ANIMLOOP=システムオプション

アニメーションループを連続再生するのかそれとも 1 回のみ再生するのかを指定するか、または特定のアニメーションループ繰り返し回数を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、**SAS システムオプション** ウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシージャ出力コントロール:SVG

ログおよびプロシージャ出力コントロール:アニメーション

PROC OPTIONS

GROUP=

SVG

アニメーション

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は YES です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#) (6 ページ)を参照してください。

GIF および SVG アニメーションに有効なオプションです。

構文

ANIMLOOP=YES | NO | n

構文の説明

YES

アニメーションループが連続して繰り返されることを指定します。

NO

アニメーションループが 1 回のループで完了することを指定します。

n

アニメーションループが連続して繰り返される回数を指定します。この数は整数にする必要があります。

範囲 0-2147483647

操作 SVG ドキュメントの場合のみ、値 0 では、アニメーションの連続ループが有効化されます。*n* が 0 以外のいずれかの値の場合、SVG アニメーションのページは *n* 回ループします。ANIMLOOP=*n* を使用するかわりに、ANIMLOOP=YES と ANIMLOOP=NO を使用することもできます。

詳細

連続ループするアニメーションに対して、NOANIMOVERLAY オプションを使用すると、各ページが次のフレームで置換されます。

関連項目:

- “About Animated GIF Images and SVG Documents” (*SAS Language Reference: Concepts*)

システムオプション:

- “ANIMATION=システムオプション” (54 ページ)
- “ANIMDURATION=システムオプション” (55 ページ)
- “ANIMOVERLAY システムオプション” (57 ページ)
- “SVGAUTOPLAY システムオプション” (258 ページ)
- “SVGFADEIN=システムオプション” (259 ページ)
- “SVGFADEMODE=システムオプション” (260 ページ)
- “SVGFADEOUT=システムオプション” (261 ページ)

ANIMOVERLAY システムオプション

アニメーションフレームを重ね合わせるかどうか、また順次再生するかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、**SAS システムオプション** ウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシージャ出力コントロール:アニメーション

ログおよびプロシージャ出力コントロール:SVG

PROC OPTIONS
GROUP= ANIMATION
SVG

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は ANIMOVERLAY です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#) (6 ページ)を参照してください。

GIF および SVG アニメーションに有効なオプションです。

構文

ANIMOVERLAY | NOANIMOVERLAY

構文の説明

ANIMOVERLAY

アニメーションの各フレームを前のフレームに重ね合わせるように指定します。アニメーションの表示中はすべてのフレームがビューに残ります。

NOANIMOVERLAY

各フレームが順次再生されるように指定します。フレームは、再生されると、前のフレームと置換されます。

関連項目:

- “About Animated GIF Images and SVG Documents” (*SAS Language Reference: Concepts*)

システムオプション:

- “ANIMATION=システムオプション” (54 ページ)
- “ANIMDURATION=システムオプション” (55 ページ)
- “ANIMLOOP=システムオプション” (56 ページ)
- “SVGAUTOPLAY システムオプション” (258 ページ)
- “SVGFADEIN=システムオプション” (259 ページ)
- “SVGFADEMODE=システムオプション” (260 ページ)
- “SVGFADEOUT=システムオプション” (261 ページ)

APPEND=システムオプション

指定されたシステムオプションの既存の値に値を追加します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: 環境コントロール:ファイル

PROC OPTIONS ENVFILES
GROUP=

注: サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ) を参照してください。

参照項目: SAS 起動時に動作環境で使用する構文については、動作環境向けドキュメントを参照してください。

“APPEND System Option: UNIX” (*SAS Companion for UNIX Environments*)

“APPEND System Option: Windows” (*SAS Companion for Windows*)

“APPEND= System Option: z/OS” (*SAS Companion for z/OS*)

構文

APPEND=(*system-option-1=argument-1 <system-option-2=argument-2 ...>*)

構文の説明

system-option

AUTOEXEC、CMPLIB、FMTSEARCH、HELPLOC、MAPS、MSG、SASAUTOS、SASHELP、SASSCRIPT、SET のいずれかを指定できます。

注 これらのオプションの一部は、SAS 起動時にのみ使用できます。これらのオプションを APPEND=オプションに指定できるのは、APPEND=オプションが構成ファイルまたは SAS コマンドに指定される場合のみです。

argument

system-option の現在の値に追加する新しい値を指定します。

argument は、*system-option* が OPTIONS ステートメントを使用して設定されている場合、*system-option* に指定可能な値になります。

詳細

AUTOEXEC、CMPLIB、FMTSEARCH、SASHELP、MAPS、MSG、SASAUTOS、SASSCRIPT、SET システムオプションで新しい値を指定すると、新しい値でオプションの値が置き換えられます。APPEND=システムオプションを使用すると、値を置き換えるかわりに、新しい値をオプションの現在の値に追加することができます。

SAS 起動時に使用可能なシステムオプションを含む、APPEND=システムオプションと INSERT=システムオプションでサポートされるシステムオプションのリストについては、次の OPTIONS プロシージャをサブミットします。

```
proc options listinsertappend;
run;
```

比較

APPEND=システムオプションでは、AUTOEXEC、CMPLIB、FMTSEARCH、HELPLOC、MAPS、MSG、SASAUTOS、SASSCRIPT、SET システムオプションの現在の値の末尾に新しい値が追加されます。INSERT=システムオプションでは、これらのシステムオプションの最初の値として新しい値が追加されます。

例

次の表に、FMTSEARCH=オプション値の末尾に値を追加した結果を示します。

現在の FMTSEARCH=値	APPEND=システムオプション の値	新しい FMTSEARCH=値
(WORK LIBRARY)	(fmtsearch=(abc def))	(WORK LIBRARY ABC DEF)

関連項目:

- “INSERT システムオプションと APPEND システムオプションを使用したオプション値の変更”(12 ページ)

システムオプション:

- “**INSERT=システムオプション**” (163 ページ)
- “**INSERT System Option: UNIX**” (*SAS Companion for UNIX Environments*)
- “**INSERT System Option: Windows**” (*SAS Companion for Windows*)
- “**INSERT= System Option: z/OS**” (*SAS Companion for z/OS*)

APPLETLOC=システムオプション

Java アプレットの場所を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: 環境コントロール:ファイル

**PROC OPTIONS
GROUP=** ENVFILES

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

APPLETLOC="*base-URL***"**

構文の説明**"***base-URL***"**

SAS Java アプレットが存在する場所のアドレスを指定します。アドレスは 256 文字以内で指定します。

詳細

APPLETLOC=システムオプションでは、Java アプレットの基本場所(通常は URL)を指定します。これらのアプレットには通常、インターネットサーバーまたはローカル CD-ROM からアクセスします。

例

base-URL の例を次に示します。

- “*file:///e:/java*”
- “*http://server.abc.com/SAS/applets*”

AUTHPROVIDERDOMAIN システムオプション

ドメインサフィックスを認証プロバイダに関連付けます。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: 環境コントロール:初期化および操作

PROC OPTIONS EXECMODES

GROUP=

別名: AUTHPD

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

Windows および z/OS 動作環境:

AUTHPROVIDERDOMAIN *provider :domain*

AUTHPROVIDERDOMAIN (*provider-1 :domain-1 <, provider-2 :domain-2, ...>*)

UNIX 動作環境:

AUTHPROVIDERDOMAIN \(*(provider-1 :domain-1 <, provider-2 :domain-2, ...>)*\)

構文の説明

provider

ドメインに関連付けられる認証プロバイダを指定します。*provider* の有効値は次のとおりです。

ADIR

認証用にユーザー名とパスワードを含むバインドを受け入れる Microsoft Active Directory サーバーを認証プロバイダとして指定します。

HOSTUSER

ホストオペレーティングシステムが提供する認証処理を使用してユーザー名とパスワードを認証するように指定します。

Windows 固有	Windows 動作環境では、HOSTUSER ドメインを使用した認証プロバイダの割り当てと、AUTHSERVER システムオプションを使用した認証プロバイダの割り当ては同じです。複数の認証プロバイダを指定する場合、AUTHPROVIDERDOMAIN システムオプションの使用が必要になる場合があります。
-------------------	---

LDAP

認証プロバイダがディレクトリサーバーを使用して認証用のバインド識別名(BINDDN)とパスワードを指定するように指定します。

domain

サイト固有のドメイン名を指定します。ドメイン名に空白が含まれる場合は、引用符が必要です。

詳細

SAS では、多くの認証プロバイダを使用してユーザーを認証することができます。AUTHPROVIDERDOMAIN=システムオプションでは、ドメインサフィックスを認証プロバイダに関連付けます。この関連付けにより、SAS Server は指定されたドメイン名で認証プロバイダを選択できます。

ドメインサフィックスが指定されていないか不明な場合、認証はユーザー ID とパスワードに基づいてホストオペレーティングシステムにより実行されます。

provider : domain ペアを複数セット指定する場合は、かっこが必要です。

AUTHPROVIDERDOMAIN オプション値の最大長は 1,024 文字です。

Microsoft Active Directory または LDAP 認証プロバイダを使用するには、次の環境変数をサーバーまたはスポーナーの起動スクリプトに設定する必要があります。

- Microsoft Active Directory サーバー:
 - AD_PORT=*Microsoft Active Directory port number*
 - AD_HOST=*Microsoft Active Directory host name*
- LDAP サーバー:
 - LDAP_PORT=*LDAP port number*
 - LDAP_BASE=*base distinguished name*
 - LDAP_HOST=*LDAP host name*
- 識別名(DN)ではなくユーザー ID で接続するLDAP サーバー:
 - LDAP_PRIV_DN=*privileged DN (ユーザー検索が許可されているもの)*
 - LDAP_PRIV_PW=*LDAP_PRIV_DN password*

注: LDAP サーバーで匿名バインドが許可されている場合、LDAP_PRIV_DN および LDAP_PRIV_PW は必要ありません。

これらの環境変数の設定に加え、ユーザー ID が保存されるユーザーエントリ LDAP 属性にデフォルト値 `uid` が含まれていなければ、`LDAP_IDATTR` 環境変数にこの属性の名前を設定できます。

例

次の例は、AUTHPROVIDERDOMAIN オプションの指定方法を示します。

- `-authpd ldap:sas` と指定すると、`anything@sas` としてログオンするユーザーの資格情報が、認証のために SAS Server から LDAP に送信されます。
- `-authpd adir:sas` と指定すると、`anything@sas` としてログインするユーザーの資格情報が、認証のために SAS Server から Active Directory に送信されます。
- `-authproviderdomain (hostuser:'my domain', ldap:sas)` と指定すると、次のようにログオンするユーザーの資格情報が SAS Server から送信されます。
 - ユーザーが `anything@'my domain'` としてログオンすると、認証はオペレーティングシステムの認証システムによって行われる
 - ユーザーが `anything@sas` としてログオンすると、認証は LDAP によって行われる

関連項目:

システムオプション:

- “[PRIMARYPROVIDERDOMAIN=システムオプション](#)” (222 ページ)

AUTOCORRECT システムオプション

プロシージャ名のスペルミス、プロシージャキーワードのスペルミス、グローバルステートメント名のスペルミスの自動修正を SAS で試みるかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ:	環境コントロール:エラー処理
PROC OPTIONS	ERRORHANDLING
GROUP=	
デフォルト:	出荷時のデフォルト値は AUTOCORRECT です。
注:	サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“ 制限されたオプション ”(6 ページ)を参照してください。

構文

AUTOCORRECT | NOAUTOCORRECT

構文の説明

AUTOCORRECT

プロシージャ名のスペルミス、プロシージャキーワードのスペルミス、グローバルステートメント名のスペルミスの自動修正を SAS で試みるように指定します。

NOAUTOCORRECT

プロシージャ名のスペルミス、プロシージャキーワードのスペルミス、グローバルステートメント名のスペルミスの自動修正を SAS で試みないように指定します。

詳細

以前のリリースの SAS では、常にスペルミスの修正が試みられていました。 AUTOCORRECT オプションにより自動修正をオフにできます。

AUTOCORRECT が設定され、SAS プログラムのプロシージャ名、プロシージャキーワードまたはグローバルステートメント名にスペルミスがある場合、SAS はプログラムのコンパイル時にスペルミスの解釈を試みます。解釈が成功すると、SAS はエラーを修正し、警告メッセージをログに出力して処理を続行します。エラーを修正できない場合、SAS はエラーメッセージをログに書き込みます。

NOAUTOCORRECT が設定されている場合、SAS はスペルミス通知を SAS ログに書き出し、プログラムを終了します。

例

次の例は、グローバルステートメント名のスペルミス、プロシージャオプション名のスペルミスおよびプロシージャ名のスペルミスを示します。

```
/* AUTOCORRECT is the default value */
options autocorrect;
data numbers;
  input x y z;
  datalines;
  14.2    25.2    96.8
  10.8    51.6    96.8
  33.5    27.4    66.5
run;

optionsss obs=1;

proc print ddata=numbers;
run;
```

```

options noautocorrect;

proc prints ddata=numbers;
run;

6   options autocorrect; 7      data numbers; 8          input x y z; 9
datalines; NOTE:The data set WORK.NUMBERS has 3 observations and 3
variables.NOTE:DATA statement used (Total process time): real time
2.75 seconds cpu time           0.64 seconds 13    run; 14 15  optionss obs=1;
----- 14 WARNING 14-169:Assuming the symbol OPTIONS was misspelled as
optionss.16 17  proc print ddata=numbers; ----- 1 WARNING 1-322:Assuming the
symbol DATA was misspelled as ddata.18    run; NOTE:There were 1 observations
read from the data set WORK.NUMBERS.NOTE:PROCEDURE PRINT used (Total process
time): real time           3.84 seconds cpu time           1.07 seconds 19 20
options noautocorrect; 21 22  proc prints ddata=numbers; ----- 181 ERROR
181-322:Procedure name misspelled.23    run; NOTE:The SAS System stopped
processing this step because of errors.

```

AUTOSAVELOC=システムオプション

プログラムエディタの自動保存ファイルの場所を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: 環境コントロール:表示

PROC OPTIONS ENVDISPLAY

GROUP=

制限事項: AUTOSAVELOC=システムオプションで指定された場所は、プログラムエディタでのみ有効です。このオプションは、拡張エディタには適用されません。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#) (6 ページ)を参照してください。

参照項目: “AUTOSAVELOC System Option: UNIX” (*SAS Companion for UNIX Environments*)

構文

AUTOSAVELOC="*location***"**

構文の説明

location

自動保存ファイルのパス名を指定します。*location* が空白を含むか、OPTIONS ステートメント内に指定されている場合、*location* を引用符で囲みます。

関連項目:

- SAS ヘルプおよびドキュメントの“プログラムエディタウィンドウ”
- “Saving Program Editor Files Using Autosave” (*SAS Companion for Windows*)

BINDING=システムオプション

両面印刷出力する場合のドキュメントのとじ辺を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロジェクト出力コントロール:ODS 印刷

PROC OPTIONS GROUP= ODSPRINT

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は DEFAULT です。

制限事項: プリンタが両面印刷をサポートしていない場合、このオプションは無視されます。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

BINDING=[DEFAULTEDGE](#) | LONGEDGE | SHORTEdge

構文の説明

DEFAULT | DEFAULTEDGE

デフォルトのドキュメントのとじ辺を使用して両面印刷を行うように指定します。

LONG | LONGEDGE

両面印刷出力のドキュメントのとじ辺として長辺を使用するように指定します。

SHORT | SHORTEdge

両面印刷出力のドキュメントのとじ辺として短辺を使用するように指定します。

詳細

ドキュメントのとじ辺設定により、出力が裏面に印刷される前に用紙の向きが決まります。

関連項目:

- “Printing with SAS” (*SAS Language Reference: Concepts*)

ステートメント:

- “ODS PRINTER Statement” (*SAS Output Delivery System: User's Guide*)

システムオプション:

- “[DUPLEX システムオプション](#)” (117 ページ)

BOTTOMMARGIN=システムオプション

印刷ページの下の余白のサイズを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロジェクト出力コントロール:ODS 印刷

PROC OPTIONS GROUP= ODSPRINT

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は 0.000 in です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

BOTTOMMARGIN=*margin-size*<*margin-unit*>

構文の説明

margin-size

余白のサイズを指定します。

制限事項 下の余白は、上下の余白の合計が用紙の高さよりも小さくなるようなサイズで指定する必要があります。

操作 このオプションの値を変更すると、PAGESIZE=システムオプションの値が変更される可能性があります。

<*margin-unit*>

余白サイズの単位を指定します。margin-unit には、*in*(インチ)または*cm*(センチメートル)を使用できます。<*margin-unit*>は、BOTTOMMARGIN システムオプションの値の一部として保存されます。

デフォルト インチ

詳細

すべての余白には、プリントと用紙サイズに応じた最小値があります。

例

```
options bottommargin=10cm;
```

関連項目:

- “[Printing with SAS](#)” (*SAS Language Reference: Concepts*)
- “[Understanding ODS Destinations](#)” (*SAS Output Delivery System: User's Guide*)

システムオプション:

- “[LEFTMARGIN=システムオプション](#)” (173 ページ)
- “[RIGHTMARGIN=システムオプション](#)” (229 ページ)
- “[TOPMARGIN=システムオプション](#)” (285 ページ)

BUFNO=システムオプション

SAS データセットの処理用に割り当てるバッファ数を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、**SAS システムオプション**ウインドウ

カテゴリ: ファイル:SAS ファイル

システム管理:パフォーマンス

PROC OPTIONS	SASFILES
GROUP=	PERFORMANCE
デフォルト:	出荷時のデフォルト値は 1 です。
注:	サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“ 制限されたオプション ”(6 ページ)を参照してください。
参照項目:	“BUFNO System Option: UNIX” (<i>SAS Companion for UNIX Environments</i>) “BUFNO System Option: Windows” (<i>SAS Companion for Windows</i>)

構文

BUFNO=*n* | *nK* | *nM* | *nG* | *hexX* | MIN | MAX

構文の説明

n | *nK* | *nM* | *nG*

割り当てるバッファ数を 1、1,024 (キロ)、1,048,576 (メガ)、1,073,741,824 (ギガ) の倍数で指定します。たとえば、値 8 では 8 個のバッファ、値 3m では 3,145,728 個のバッファが指定されます。

ヒント システムのメモリサイズに最適な表記を使用します。

hexX

バッファ数を 16 進値で指定します。先頭が数値(0 から 9)、末尾が X の値を指定する必要があります。たとえば、値 2dx では 45 個のバッファが指定されます。

MIN

最小バッファ数を 0 に設定します。これにより SAS では動作環境に最適な最小値が使用されます。

MAX

バッファ数を動作環境で可能な最大数に設定します。4 バイト符号付き整数の最大値である $2^{31}-1$ (約 20 億)以下の値になります。

詳細

バッファ数は、データセットの永続的属性ではなく、現在の SAS セッションまたはジョブでのみ有効です。

BUFNO=は、入力、出力または更新用に開かれている SAS データセットに適用されます。

BUFNO=を使用すると、特定の SAS データセットに必要な入力/出力(I/O)操作の数を制限して、実行時間を改善できます。ただし、実行時間が改善するかわりにメモリ消費が増えます。

バッファのシステムオプションの最適値は、使用する動作環境に依存します。さまざまなバッファサイズで実際に検証を行い、これらのシステムオプションの最適値を決定します。

システムのデータセットページサイズとメモリ量から必要なバッファ数を見積もることができます。データセットページサイズは BUFSIZE=システムオプションまたは BUFSIZE=データセットオプションで指定できます。デフォルトが使用されている場合、SAS では動作環境に最適な最小ページサイズが使用されます。データセットのページサイズは、CONTENTS プロジェクタの出力で確認できます。データセットページサイズと使用可能なメモリ量がわかると、必要なバッファ数を見積もることができます。バッファ数が多すぎると、メモリが不足して DATA または PROC ステップを処理できなくなる

可能性があります。データセットのページサイズを変更するには、BUFSIZE=データセットオプションを使用してデータセットを再作成します。

動作環境の情報

Windows 動作環境では、SGIO システムオプションが設定されている場合、1 回の I/O 操作で処理できる最大バイト数は 64MB です。そのため、*number-of-buffers x page-size <= 64MB* となります。

比較

- BUFNO=システムオプションより BUFNO=データセットオプションを優先することができます。
- SAS でデータセットページとインデックスファイルページの数に基づいてバッファ数が割り当てられるように要求するには、SASFILE ステートメントを使用します。

関連項目:

データセットオプション:

- “BUFNO= Data Set Option” (*SAS Data Set Options: Reference*)

プロシージャ:

- “CONTENTS” (*Base SAS Procedures Guide*)

ステートメント:

- “SASFILE Statement” (*SAS Statements: Reference*)

システムオプション:

- “BUFSIZE=システムオプション” (68 ページ)
- “UBUFNO=システムオプション” (287 ページ)
- “DATAPAGESIZE=システムオプション” (98 ページ)

BUFSIZE=システムオプション

出力 SAS データセット用の永久バッファサイズを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: ファイル:SAS ファイル

システム管理:パフォーマンス

PROC OPTIONS SASFILES

GROUP= PERFORMANCE

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は 0 です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

参照項目: “BUFSIZE System Option: UNIX” (*SAS Companion for UNIX Environments*)

“BUFSIZE System Option: Windows” (*SAS Companion for Windows*)

構文

BUFSIZE=n | nK | nM | nG | nT | hexX | MAX

構文の説明

n | nK | nM | nG | nT

バッファサイズを 1 (バイト)、1,024 (キロバイト)、1,048,576 (メガバイト)、1,073,741,824 (ギガバイト)、1,099,511,627,776 (テラバイト) のいずれかの倍数で指定します。たとえば、値 8 では 8 バイト、値 3m では 3,145,728 バイトが指定されます。

注: システムオプションとデータセットオプションのどちらも指定されていない場合、デフォルトは 0 です。これにより、動作環境に最適な最小バッファサイズが使用されます。次のいずれかの場合は BUFSIZE=システムオプションが使用されます。

- BUFSIZE=データセットオプションが設定されていない
- BUFSIZE=データセットオプションがゼロに設定されている

ヒント バッファサイズを動作環境のデフォルト値にリセットするには、BUFSIZE=0 を使用します。

hexX

バッファサイズを 16 進値で指定します。先頭が数値(0 から 9)、末尾が X の値を指定する必要があります。たとえば、値 2dx ではページサイズが 45 バイトに設定されます。

MAX

バッファサイズを動作環境で可能な最大値に設定します。4 バイト符号付き整数の最大値である $2^{31}-1$ (約 20 億バイト)以下の値になります。

詳細

バッファサイズとは、1 回の入力/出力(I/O)操作で 1 個のバッファに転送できるデータ量です。バッファサイズは、データセットの永続的属性であり、データセットが処理されるときに使用されます。

バッファサイズが大きいほど、ストレージメディアに対する必要な読み取りまたは書き込み回数を減らして、実行時間を改善できます。ただし、実行時間が改善するかわりにメモリ消費が増えます。

バッファのシステムオプションの最適値は、使用する動作環境に依存します。さまざまなバッファサイズで実際に検証を行い、これらのシステムオプションの最適値を決定します。

バッファサイズを変更するには、DATA ステップを使用してデータセットをコピーし、新しいページを指定するか、SAS デフォルトを使用します。

注: COPY プロシージャを使用してデータセットを別のエンジンで割り当てられた別のライブラリにコピーする場合、指定されたデータのバッファサイズは保持されません。

動作環境の情報

BUFSIZE=のデフォルト値は、動作環境に応じて決まり、順次アクセスを最適化するように設定されます。直接(ランダム)アクセスの処理速度を向上させるには、BUFSIZE=の値を変更する必要があります。直接アクセスのデフォルト設定と使用可能な設定については、動作環境向け SAS ドキュメントの BUFSIZE=システムオプションを参照してください。

SAS でデータ処理のために作成されるユーティリティファイルのバッファサイズは、
UBUFSIZE=システムオプションを使用すると設定できます。

比較

BUFSIZE=システムオプションは、BUFSIZE=データセットオプションでオーバーライドできます。

DATAPAGESIZE=システムオプションでは、SAS データセットの最適バッファサイズを決定する方法が指定されます。

関連項目:

データセットオプション:

- “BUFSIZE= Data Set Option” (*SAS Data Set Options: Reference*)

システムオプション:

- “ALIGNSASIOFILES システムオプション” (53 ページ)
- “BUFNO=システムオプション” (66 ページ)
- “DATAPAGESIZE=システムオプション” (98 ページ)

BYERR システムオプション

SORT プロシージャが _NULL_ データセットを処理しようとしたときに、SAS でエラーを生成するかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: 環境コントロール:エラー処理

PROC OPTIONS **ERRORHANDLING**
GROUP=

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は BYERR です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“制限されたオプション” (6 ページ) を参照してください。

構文

BYERR | NOBYERR

構文の説明

BYERR

SORT プロシージャが _NULL_ データセットを並べ替えようとしたときに、SAS がエラーメッセージを発行して処理を停止するように指定します。

NOBYERR

SORT プロシージャが _NULL_ データを並べ替えようとしたときに、SAS がエラーメッセージを無視して処理を続行するように指定します。

詳細

VNFERR システムオプションでは、_NULL_ データセットが使用されると、欠損変数に 対してエラーフラグを設定します。DSNFERR システムオプションでは、SAS データセットが見つからないときの SAS の対応方法を指定します。

関連項目:

- “BY-Group Processing in the DATA Step” (*SAS Language Reference: Concepts*)

システムオプション:

- “DSNFERR システムオプション” (116 ページ)
- “VNFERR システムオプション” (309 ページ)

BYLINE システムオプション

各 BY グループの上に BY 行を表示するかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシージャ出力コントロール:プロシージャ出力

PROC OPTIONS GROUP= LISTCONTROL

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は BYLINE です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

BYLINE | NOBYLINE

構文の説明

BYLINE

各 BY グループの上に BY 行を表示するように指定します。

NOBYLINE

BY 行を自動的に表示しないようにします。

詳細

プロシージャ出力で BY 行を自動的に表示しないようにするには、NOBYLINE を使用します。その後#BYVAL、#BYVAR または#BYLINE を使用して、TITLE ステートメントに BYLINE 情報を表示できます。

次の SAS プロシージャは、同じページに複数の BY グループの出力を表示して独自の BY 行処理を実行します。

- MEANS
- PRINT
- STANDARD
- SUMMARY

- TTEST (SAS/STAT ソフトウェア)

これらのプロシージャでは、NOBYLINE によって BY グループごとに改ページされます。PROC PRINT の場合、BY グループごとの改ページは、PAGEBY ステートメントで右端の BY 変数を指定する場合と同じ結果になります。

関連項目:

- “BY-Group Processing in the DATA Step” (*SAS Language Reference: Concepts*)

ステートメント:

- #BYVAL、#BYVAR、および#BYLINE 引数、“TITLE Statement” (*SAS Statements: Reference*)

BYSORTED システムオプション

1つ以上のデータセットのオブザベーションがアルファベット順または番号順に並べ替えられているか、別の論理的順序でグループ化されているかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: 入力コントロール:データ処理

PROC OPTIONS GROUP= INPUTCONTROL

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は BYSORTED です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

BYSORTED | NOBYSORTED

構文の説明

BYSORTED

データセットのオブザベーションがアルファベット順または番号順で並べ替えられていることを指定します。

要件 BYSORTED オプションを使用する場合、オブザベーションが BY 変数の値によって並べ替えられているか、インデックスが付けられている必要があります。

操作 BYSORTED システムオプションと BY ステートメントの NOTSORTED ステートメントオプションの両方が指定されている場合、BY ステートメントの NOTSORTED オプションが BYSORTED システムオプションよりも優先されます。

ヒント BYSORTED が指定されている場合、SAS はデータセットが BY 変数によって並べ替えられていると見なします。データセットが BY 変数によって並べ替えられている場合、処理速度を向上させるために BYSORTED を使用してください。

NOBYSORTED

同じ BY 値のオブザベーションがグループ化されていて、アルファベット順または番号順に並べ替えられているとは限らないことを指定します。

注 プロシージャで BY ステートメントの NOTSORTED オプションが無視される場合、NOBYSORTED システムオプションも無視されます。

ヒント NOBYSORTED オプションが指定されている場合、データセットにアクセスするためにはすべての BY ステートメントで NOTSORTED を指定する必要はありません。

NOBYSORTED は、日付順や言語順などの他の論理的グループに属するデータがある場合に役立ちます。NOBYSORTED では、データセットが実際にアルファベット順または番号順に並べ替えられていない場合に BY 処理をエラーなしで実行できます。

詳細

BY 変数の値によるオブザベーションの並べ替えまたはインデックス付けの要件は、NOBYSORTED オプションを使用した場合の BY グループ処理では適用されません。デフォルトでは、BY グループ処理ではデータがアルファベット順または番号順で並べ替えられている必要があります。データがアルファベット順または番号順以外の方法でグループ化されている場合、BY-処理の実行でエラーが発生しないように NOBYSORTED オプションを使用する必要があります。BY グループ処理の詳細については、次を参照してください。“BY-Group Processing in the DATA Step” (*SAS Language Reference: Concepts*)

関連項目:**ステートメント:**

- NOTSORTED オプション、“NOTSORTED” (*SAS Statements: Reference*)

CAPS システムオプション

特定の種類の入力を大文字に変換するかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: 入力コントロール:データ処理

PROC OPTIONS GROUP= INPUTCONTROL

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は NOCAPS です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” ([6 ページ](#))を参照してください。

構文

CAPS | NOCAPS

構文の説明

CAPS

SAS で次の種類の入力を小文字から大文字に変換するように指定します。

- CARDS、CARDS4、DATALINES、DATALINES4、PARMCARDS ステートメントの後のデータ
- 一重引用符または二重引用符で囲まれたテキスト
- FORMAT プロシージャの VALUE および INVALUE ステートメントの値
- タイトル、フットノート、変数ラベル、データセットラベル
- マクロ定義の定数テキスト
- マクロ変数の値
- マクロに渡されるパラメータ値

注 外部ファイルおよび SAS データセットから読み込まれるデータは、大文字には変換されません。

NOCAPS

上のリストに示されている入力の種類で、小文字を大文字に変換しないように指定します。

比較

CAPS システムオプションと CAPS コマンドの両方とも、入力を大文字に変換するかどうかを指定します。テキストの編集ウィンドウで使用可能な CAPS コマンドは、トグルとして機能します。CAPS コマンドでは、キーボードから入力されたすべてのテキストを大文字に変換します。CAPS システムオプションまたは CAPS コマンドのいずれかが有効になっている場合、該当するすべての入力が大文字に変換されます。

関連項目:

コマンド:

- SAS ヘルプおよびドキュメントの“CAPS コマンド”

CARDIMAGE システムオプション

SAS でソース行およびデータ行を 80 バイトのカードとして処理するかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ
カテゴリ: 入力コントロール:データ処理

PROC OPTIONS GROUP= INPUTCONTROL

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は NOCARDIMAGE です。

動作環境: 通常、CARDIMAGE は z/OS 動作環境で使用されます。NOCARDIMAGE はその他の動作環境で使用されます。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#) (6 ページ)を参照してください。

参照項目: CARDIMAGE システムオプション (z/OS)

構文

CARDIMAGE | NOCARDIMAGE

構文の説明

CARDIMAGE

SAS ソース行およびデータ行をパンチカードイメージとして処理するため、すべてが 80 バイトの長さになるように空白で埋め込むことを指定します。つまり、各行の列 1 は、前の行の列 80 のすぐ後に続いているように扱われます。そのため、トークンを複数行に分割できます。(トークンとは、SAS で個別のワードとして扱われる文字または文字列です)。

ある行で始まり別の行で終わる、引用符で囲まれた文字列(リテラルトークン)は、最初の行の列 80 まで空白が含まれているとして扱われます。80 バイトより長いデータ行は、2 つ以上の 80 バイトの行に分割されます。その長さに関わらず、データ行は切り捨てられません。

NOCARDIMAGE

SAS ソース行およびデータ行を 80 バイトのカードイメージとして処理しないように指定します。NOCARDIMAGE が有効になっている場合、引用符で囲まれた文字列以外では、常に最後のトークンの末尾が行の末尾になります。引用符で囲まれた文字列は複数行に分割できます。その他の種類のトークンは、いかなる状況でも複数行に分割することはできません。引用符で囲まれ複数行に分割された文字列は、空白で埋め込まれません。

例

次の DATA ステップについて考えてみます。

```
data;
  x='A
  B';
run;
```

CARDIMAGE が有効になっている場合、変数 X は 78 文字で構成される値を受け取ります。NOCARDIMAGE が有効になっている場合、変数 X は間に空白を含まない AB の 2 文字で構成される値を受け取ります。

CATCACHE=システムオプション

キヤッショメモリで開いておける SAS カタログ数を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: ファイル:SAS ファイル

**PROC OPTIONS
GROUP=** SASFILES

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は 0 です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

参照項目: “CATCACHE System Option: UNIX” (SAS Companion for UNIX Environments)
“CATCACHE System Option: Windows” (SAS Companion for Windows)

“CATCACHE= System Option: z/OS” (SAS Companion for z/OS)

構文

CATCACHE=*n* | *hexX* | MIN | MAX

構文の説明

n

0 以上の整数をバイトで指定します。*n* が 0 より大きい場合、カタログを閉じるかわりに、開いておける数までのファイルディスクリプタがキャッシュメモリ内に SAS によって置かれます。

hexX

キャッシュメモリに開いておけるファイルディスクリプタ数を 16 進数で指定します。先頭が数値(0 から 9)、末尾が X の値を指定する必要があります。たとえば、値 2dx では開いておけるカタログ数が 45 に設定されます。

MIN

キャッシュメモリに開いておけるファイルディスクリプタ数を 0 に設定します。

MAX

キャッシュメモリに開いておけるファイルディスクリプタ数を動作環境で最大の符号付き 4 バイト整数表現に設定します。

ヒント 推奨されるこのオプションの最大設定は 10 です。

詳細

CATCACHE=システムオプションを使用して、同じ SAS カタログを繰り返し開いたり閉じたりするオーバーヘッドを避けることで、アプリケーションを調整します。

注意:

CBUFNO=オプションと CATCACHE=オプションの両方を使用していて、いずれかのオプションの値が 0 よりも高い場合、もう一方のオプションを 0 に設定する必要があります。

CBUFNO=システムオプション

開かれた各 SAS カタログに割り当てる追加ページバッファ数を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: ファイル:SAS ファイル

PROC OPTIONS SASFILES

GROUP=

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は 0 です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“制限されたオプション”(6 ページ)を参照してください。

構文

CBUFNO=*n* | *nK* | *nM* | *nG* | *nT* | *hexX* | MIN | MAX

構文の説明

n | nK | nM | nG | nT

追加ページバッファ数を 1 (バイト)、1,024 (キロバイト)、1,048,576 (メガバイト)、1,073,741,824 (ギガバイト)、1,099,511,627,776 (テラバイト) のいずれかの倍数で指定します。たとえば、値 8 では 8 バイト、値 3m では 3,145,728 バイトが指定されます。

MIN

追加ページバッファ数を 0 に設定します。

MAX

追加ページバッファ数を 20 に設定します。

hexX

追加ページバッファ数を 16 進数で指定します。先頭が数値(0 から 9)、末尾が X の値を指定する必要があります。たとえば、値 2dx では追加ページバッファ数が 10 バッファに設定されます。

詳細

CBUFNO=オプションは、SAS データセット処理に使用される BUFNO=オプションに似ています。

バッファのシステムオプションの最適値は、使用する動作環境に依存します。さまざまなバッファサイズで実際に検証を行い、これらのシステムオプションの最適値を決定します。

CBUFNO=オプションの値を増やすと、アプリケーションがカタログから非常に大きなオブジェクトを読み込む場合の I/O 操作が少なくなる可能性があります。また、この値を増やすことで、処理速度とメモリ使用量が相殺されます。システムでのメモリ制約が重要な場合、CBUFNO=オプションの値は増やさないでください。CATCACHE=オプションの値を増やしている場合、CBUFNO=オプションの値は増やさないでください。

注意:

CBUFNO=オプションと CATCACHE=オプションの両方を使用していて、いずれかのオプションの値が 0 よりも高い場合、もう一方のオプションを 0 に設定する必要があります。

CENTER システムオプション

SAS プロシージャ出力を中央揃えにするか左揃えにするかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシージャ出力コントロール:プロシージャ出力

PROC OPTIONS GROUP=

別名: CENTRE

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は CENTER です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#) (6 ページ)を参照してください。

構文

CENTER | NOCENTER

構文の説明

CENTER

SAS プロシージャ出力を中央揃えにします。

NOCENTER

SAS プロシージャ出力を左揃えにします。

CGOPTIMIZE=システムオプション

コードコンパイル中に実行する最適化レベルを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: システム管理:パフォーマンス

システム管理:コード生成

PROC OPTIONS PERFORMANCE

GROUP= CODEGEN

別名: CGOPT

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は 3 です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

CGOPTIMIZE=0 | 1 | 2 | 3

構文の説明

0

最適化を実行しないように指定します。

1

ステージ 1 最適化を実行するように指定します。ステージ 1 最適化は、配列予約設定の冗長な指示、欠損値の確認、反復計算を削除し、指示のパターンを検出してより効率的なシーケンスと置き換えます。

2

ステージ 2 最適化を実行するように指定します。ステージ 2 は、SAS 登録に関連する最適化を実行します。

操作 大きい DATA ステッププログラムに対するステージ 2 最適化は、コンパイル時間が大幅に長くなり、全体の実行時間も長くなる可能性があります。

3

ステージ 1 とステージ 2 を組み合わせた完全な最適化を実行するように指定します。

関連項目:

“Reducing CPU Time By Modifying Program Compilation Optimization” (*SAS Language Reference: Concepts*)

CHARCODE システムオプション

キーボードにない特殊文字を特定のキーボードの組み合わせで代用するかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: 環境コントロール:表示

**PROC OPTIONS
GROUP=** ENVDISPLAY

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は NOCHARCODE です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

CHARCODE | NOCHARCODE

構文の説明

CHARCODE

キーボードにない可能性のある特殊文字を特定の文字の組み合わせで代用できるようにします。

NOCHARCODE

特定のキーボード文字で代用しません。

詳細

キーボードに次の記号がない場合、CHARCODE がアクティブであれば次の文字の組み合わせを使用して必要な記号を作成できます。

記号	文字
逆引用符(‘)	?;
バックスラッシュ(\)	?,
左中かっこ({)	?{
右中かっこ(})	?}
論理否定記号(¬または^)	?=
左角かっこ([)	?<
右角かっこ(])	?>
アンダースコア(_)	?-
縦棒()	?/

例

次のステートメントでは[TEST TITLE]が出力されます。

```
title '?<TEST TITLE?>';
```

CHKPTCLEAN システムオプション

SAS がチェックポイントモードまたは再開モードの場合、バッチプログラムが正常に実行された後に Work ライブライアリの内容を消去するかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: 環境コントロール:エラー処理

PROC OPTIONS **ERRORHANDLING**
GROUP=

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は NOCHKPTCLEAN です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

CHKPTCLEAN | NOCHKPTCLEAN

構文の説明

CHKPTCLEAN

チェックポイントモードまたは再開モードでバッチプログラムが正常に実行された後に Work ライブライアリ内のファイルを消去するように指定します。

NOCHKPTCLEAN

チェックポイントモードまたは再開モードでバッチプログラムが正常に実行された後に Work ライブライアリ内のファイルを消去しないように指定します。

詳細

通常、チェックポイントモードまたは再開モードは、NOWORKTERM および NOWORKINIT システムオプションのセットで開始されます。これらのオプションが設定されている場合、SAS セッション間で Work ライブライアリが保持されます。チェックポイントモードまたは再開モードでバッチプログラムが正常に実行された後にファイルが不要な場合、CHKPTCLEAN システムオプションを使用して Work ライブライアリからすべてのファイルを消去できます。

このオプションは、次の条件を満たす場合にのみ有効です。

- SAS がチェックポイントモードまたは再開モードである。STEPCHKPT オプションまたは LABELCHKPT オプションが設定されているときに SAS がチェックポイントモードになる。STEPRESTART オプションまたは LABELRESTART オプションが設定されているときに SAS が再開モードになる。
- チェックポイントライブライアリが Work である。
- プログラムがバッチモードで正常に実行される。

プログラムが正常に実行されない場合、CHKPTCLEAN オプションが設定されているかどうかに関わらず、Work ライブライアリ内のファイルは消去されません。

比較

CHKPTCLEAN オプションは、チェックポイントモードまたは再開モードのみでバッチプログラムが正常に完了した後に Work ライブラリの内容を消去します。

WORKTERM オプションは、SAS セッションの終了時に Work ライブラリの内容を消去します。

関連項目:

システムオプション:

- “LABELCHKPT システムオプション”(168 ページ)
- “LABELRESTART システムオプション”(171 ページ)
- “STEPCHKPT システムオプション”(250 ページ)
- “STEPRESTART システムオプション”(253 ページ)
- “WORKTERM システムオプション”(314 ページ)

CLEANUP システムオプション

リソース不足の場合、自動クリーンアップを実行するか、ユーザー指定のクリーンアップを実行するかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: 環境コントロール:エラー処理

PROC OPTIONS ERRORHANDLING

GROUP=

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は CLEANUP です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)(6 ページ)を参照してください。

参照項目: UNIX、Windows での CLEANUP システムオプション

構文

CLEANUP | NOCLEANUP

構文の説明

CLEANUP

セッション全体で、実行には重要でないリソースの継続的な自動クリーンアップの実行を SAS で試行するように指定します。重要なリソースには、ユーザーには表示されないリソース(キャッシュメモリなど)およびユーザーに表示されるリソース(KEYS ウィンドウなど)が含まれます。

CLEANUP が有効になっていてリソース不足が発生した場合(ディスクがいっぱいの場合は除く)、ダイアログボックスは表示されず、ユーザーによる操作は不要です。CLEANUP が有効になっていてディスクがいっぱいになった場合、続行する方法の決定がユーザーに求められます。

NOCLEANUP

SAS でユーザーがリソース不足の処理方法を選択できるように指定します。NOCLEANUP が有効になっていてリソース不足のために SAS が実行できない場合、SAS はユーザーに表示されないリソース(キャッシュメモリなど)の自動クリーンアップを試行します。ただし、ユーザーに表示されるリソース(ウィンドウなど)は自動的にクリーンアップされません。かわりに、ユーザーが続行方法を選択できるダイアログボックスが表示されます。

詳細

次の表に、ダイアログボックスの選択肢を示します。

ダイアログボックスの選択肢	アクション
Free windows	実行に重要でないすべてのウィンドウを消去します。
Clear paste buffers	貼り付けバッファの内容を削除します。
Deassign inactive librefs	ユーザーにライブラリ参照名の削除を促します。
Delete definitions of all SAS macros and macro variables	すべてのマクロ定義および変数を削除します。
Delete SAS files	ユーザーが削除するファイルを選択できます。
Clear Log window	ログウィンドウの内容を消去します。
Clear Output window	アウトプットウィンドウの内容を消去します。
Clear Program Editor window	プログラムエディタウィンドウの内容を消去します。
Clear source spooling/DMS recall buffers	リコールバッファを消去します。
More items to clean up	クリーンアップできるその他のリソースのリストを表示します。
Clean up everything	ダイアログに表示された他のすべてのオプションをクリーンアップします。この選択は、SAS セッション全体ではなく現在のクリーンアップ要求にのみ適用されます。
Continuous clean up	継続的な自動クリーンアップを実行します。 Continuous clean up が選択されている場合、SAS は実行を続行するために可能な限り多くのリソースをクリーンアップし、要求ウィンドウを非表示にします。 Continuous clean up を選択した場合の動作は、CLEANUP を指定した場合と同じです。この選択は、現在のクリーンアップ要求および残りの SAS セッションに適用されます。

動作環境によっては、ダイアログボックスに次の選択肢が含まれる場合があります。

ダイアログボックスの選択肢	アクション
Execute X command	ユーザーがファイルの消去およびその他のクリーンアップ操作を実行できます。
Do nothing	クリーンアップ要求を停止して SAS セッションに戻ります。この選択は、SAS セッション全体ではなく現在のクリーンアップ要求にのみ適用されます。

リソース不足が解消できない場合、ダイアログボックスが継続して表示されます。その場合の SAS セッションの終了方法については、動作環境に関する SAS のドキュメントを参照してください。ウインドウ環境以外のモードで実行する場合、CLEANUP の操作は動作環境によって異なります。詳細については、動作環境に関する SAS のドキュメントを参照してください。

CMPLIB=システムオプション

プログラムのコンパイル時に挿入するコンパイラサブルーチンを含む、1つ以上の SAS データセットを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、システムオプションウィンドウ

カテゴリ: ファイル:SAS ファイル

**PROC OPTIONS
GROUP=** SASFILES

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション \(6 ページ\)](#)”を参照してください。

ヒント: APPEND または INSERT システムオプションを使用して SAS データセットを追加できます。

構文

```
CMPLIB=libref.data-set | (libref.data-set(s) <_DISPLAYLOC_>
| (libref.data-set-m-libref.data-set-n <_DISPLAYLOC_>
CMPLIB=_DISPLAYLOC_
CMPLIB=_NO_DISPLAYLOC_
```

構文の説明

libref.data-set

プログラムのコンパイル時に挿入するコンパイラサブルーチンのライブラリ参照名およびデータセットを指定します。*libref* および *data-set* は有効な SAS 名である必要があります。

libref.data-set-m - libref.data-set-n

プログラムのコンパイル時に挿入するコンパイラサブルーチンの範囲を指定します。ライブラリ参照名およびデータセットの名前は、数値の接尾辞を含む有効な SAS 名である必要があります。

DISPLAYLOC

PROC FCMP の使用時に指定すると、関数ロード元のデータセットが SAS ログに表示されます。

要件 CMPLIB=_DISPLAYLOC_を使用する場合は、PROC FCMP INLIB=オプションを使用してデータセットを指定する必要があります。

_NO_DISPLAYLOC_

PROC FCMP の使用時に指定すると、関数ロード元のデータセットは SAS ログに表示されず、CMPLIB=オプション値としてのライブラリ指定はすべて削除されます。

ヒント _DISPLAYLOC_ オプションなしで CMPLIB=library-specification を指定すると、SAS ログにデータセット名は表示されません。

詳細

非線形統計モデリングまたは最適化を実行する SAS プロシージャ、DATA ステップおよびマクロプログラムは、SAS プログラムをコンパイルして実行する SAS 言語コンパイラサブシステムを使用します。このコンパイラサブシステムは、SAS が実行されているコンピュータのマシン言語コードを生成します。SAS 言語コンパイラを使用する SAS プロシージャは、CALIS、FCMP、GA、GENMOD、GLIMMIX、MCMC、MODEL、NLIN、NLMIXED、NLP、OPTMODEL、PHREG、PROC REPORT COMPUTE ブロック、QUANTREG、SAS Risk Dimensions プロシージャ、SEVERITY、SIMILARITY、SQL、SURVEYPHREG、VARMAX です。

注: SAS 9.4 のメンテナンスリリース 1 から、OPTMODEL プロシージャが SASA 言語コンパイラを使用するようになりました。

注: これらのプロシージャでは、コンパイラサブシステムに対してコンパイラサブルーチンのチェックが行われます。*libref.data-set* にサブルーチンが含まれていない場合、SAS ログに NOTE が書き込まれます。

挿入するサブルーチンはコンパイル済みである必要があります。*libref.data-set* 内のすべてのサブルーチンが挿入されます。

1 つの *libref.data-set*、*libref.data-set* の名前のリスト、または数値の接尾辞を含む *libref.data-set* の名前の範囲を指定できます。複数の *libref.data-set* の名前を指定する場合、名前を空白で区切って全体をかっこで囲みます。

例

ライブラリ数	OPTIONS ステートメント
1 つのライブラリ	options cmplib=sasuser.cmpl;
複数のライブラリ	options cmplib=(sasuser.cmpl sasuser.cmplA sasuser.cmpl3 _displayloc_);
ライブラリの範囲	options cmplib=(sasuser.cmpl1 - sasuser.cmpl6 _displayloc_);

関連項目:

システムオプション:

- “APPEND=システムオプション” (58 ページ)
- “INSERT=システムオプション” (163 ページ)

プロシージャ:

- “FCMP Procedure” (*Base SAS Procedures Guide*)

CMPMODEL=システムオプション

MODEL プロシージャの出力モデルの種類を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、システムオプションウィンドウ

カテゴリ: システム管理:パフォーマンス

**PROC OPTIONS
GROUP=** PERFORMANCE

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は BOTH です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

CMPMODEL=BOTH | CATALOG | XML

構文の説明

BOTH

MODEL プロシージャでモデルの 2 つの出力の種類(SAS カタログエントリと XML ファイル)を作成するように指定します。

CATALOG

出力モデルの種類を SAS カタログのエントリとして指定します。

XML

出力モデルの種類を XML ファイルとして指定します。

関連項目:

プロシージャ:

- *MODEL プロシージャ - SAS/ETS User's Guide*

CMPOPT=システムオプション

SAS 言語コンパイラで使用するコード生成の最適化の種類を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、システムオプションウィンドウ

カテゴリ: システム管理:パフォーマンス

**PROC OPTIONS
GROUP=** PERFORMANCE

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は ALL です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

CMPOPT=*optimization-value* | (*optimization-value(s)*) | " "*optimization-value(s)"* | ALL | NONE

NOCMPOPT

構文の説明

optimization-value

SAS コンパイラで使用する最適化の種類を指定します。有効値は次のとおりです。

EXTRAMATH | NOEXTRAMATH

ステートメントの結果に影響しない算術演算を保持または削除するように指定します。EXTRAMATH を指定した場合、コンパイラで追加算術演算が保持されます。NOEXTRAMATH を指定した場合、追加算術演算は削除されます。

FUNCDIFFERENCING | NOFUNCDIFFERENCING

ユーザー定義関数で分析導関数が計算されるかどうかを指定します。

NOFUNCDIFFERENCING を指定した場合、ユーザー定義関数で分析導関数が計算されます。FUNCDIFFERENCING を指定した場合、ユーザー定義関数の導関数の計算には数値の差分が使用されます。デフォルトは NOFUNCDIFFERENCING です。

GUARDCHECK | NOGUARDCHECK

配列の境界の問題を確認するかどうかを指定します。GUARDCHECK を指定した場合、コンパイラは配列の境界の問題を確認します。NOGUARDCHECK を指定した場合、コンパイラは配列の境界の問題を確認しません。

操作 CMPOPT が ALL または NONE に設定されている場合、
NOGUARDCHECK が設定されます。

MISSCHECK | NOMISSCHECK

データ内の欠損値を確認するかどうかを指定します。データに大量の欠損値が含まれる場合、MISSCHECK を指定することでコンパイルを最適化できます。データに欠損値が含まれることはほとんどない場合、NOMISSCHECK を指定することでコンパイルを最適化できます。

PRECISE | NOPRECISE

操作の境界またはステートメントの境界で例外を処理するように指定します。PRECISE を指定した場合、例外は操作の境界で処理されます。NOPRECISE を指定した場合、例外はステートメントの境界で処理されます。

ヒント EXTRAMATH、MISSCHECK、PRECISE、GUARDCHECK、
FUNCDIFFERENCING の 1 つ以上の値を指定する場合は、どのような組み合わせでも指定できます。

ALL

(NOEXTRAMATH NOMISSCHECK NOPRECISE NOGUARDCHECK
NOFUNCDIFFERENCING)の最適化値を使用して、コンパイラがマシン言語コードを最適化するように指定します。

制限事項 ALL を他の値と組み合わせて指定することはできません。

NONE

(EXTRAMATH MISSCHECK PRECISE NOGUARDCHECK FUNCDIFFERENCING)の最適化値を使用して、コンパイラがマシン言語コードを最適化しないように指定します。

制限事項 NONE を他の値と組み合わせて指定することはできません。

NOCMPOPT

CMPOPT の値を ALL に設定するように指定します。(NOEXTRAMATH NOMISSCHECK NOPRECISE NOGUARDCHECK NOFUNCDIFFERENCING) の最適化値を使用して、コンパイラがマシン言語コードを最適化します。

制限事項 NOCMPOPT を CMPOPT オプションの値と組み合わせて指定することはできません。

注 NOGENSYM NAMES は SAS でのみ使用される値で、このオプションでは設定できません。

詳細

非線形統計モデリングまたは最適化を実行する SAS プロシージャは、SAS プログラムをコンパイルして実行する SAS 言語コンパイラサブシステムを使用します。このコンパイラサブシステムは、SAS が実行されているコンピュータのマシン言語コードを生成します。CMPOPT オプションで値を指定することで、マシン言語コードが効率的に実行されるように最適化できます。SAS 言語コンパイラを使用する SAS プロシージャは、CALIS、FCMP、GA、GENMOD、GLIMMIX、MCMC、MODEL、NLIN、NLMIXED、NLP、PHREG、PROC REPORT COMPUTE ブロック、QUANTREG、SAS Risk Dimensions プロシージャ、SEVERITY、SIMILARITY、SQL、SURVEYPHREG、VARMAX です。

複数の最適化値を指定するには、かっこ、一重引用符、二重引用符のいずれかで値全体を囲む必要があります。

特定の値が複数回入力されている場合、最後の設定が使用されます。たとえば、CMPOPT=(PRECISE NOEXTRAMATH NOPRECISE)と指定した場合、設定される値は NOEXTRAMATH と NOPRECISE です。先頭の空白、末尾の空白、埋め込まれた空白はすべて削除されます。

EXTRAMATH または NOEXTRAMATH を指定した場合、一部の算術演算はマシン言語コードに含められたり、除外されたりします。

$x * 1$	$x * -1$
$x \div 1$	$x \div -1$
$x + 0$	x
$x - x$	$x \div x$
$-x$	any operation on two literal constants

例

OPTIONS ステートメント	結果
<code>options cmopt=(extramath);</code>	(NOPRECISE EXTRAMATH NOMISSCHECK NOGUARDCHECK NOGENSYM NAMES NOFUNCDIFFERENCING)

OPTIONS ステートメント	結果
<code>options cmpopt=(extramath misscheck precise);</code>	(PRECISE EXTRAMATH MISSCHECK NOGUARDCHECK NOGENSYM NAMES NOFUNCDIFFERENCING)
<code>options nocmpopt;</code>	(NOEXTRAMATH NOMISSCHECK NOPRECISE NOGUARDCHECK NOGENSYM NAMES NOFUNCDIFFERENCING)

COLLATE システムオプション

印刷される出力の複数のコピーを部単位で印刷するかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロジェクト出力コントロール:ODS 印刷

PROC OPTIONS
GROUP= ODSPRINT

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は NOCOLLATE です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

COLLATE | NOCOLLATE

構文の説明

COLLATE

印刷される出力の複数のコピーを部単位で印刷するように指定します。

NOCOLLATE

印刷される出力の複数のコピーを部単位で印刷しないように指定します。

詳細

印刷ジョブをプリンタに送信するときに複数ページの複数のコピーが必要な場合、COLLATE オプションでページの印刷順序を制御します。

- COLLATE では、連続して 123、123、123... の順序でページを印刷します。
- NOCOLLATE では、同一ページをまとめて 111、222、333... の順序で印刷します。

注: 部単位の印刷は、DMPAGESETUP コマンドで呼び出される SAS ウィンドウ環境のページ設定ウィンドウでも制御できます。

ほとんどの SAS システムオプションは、SAS が呼び出されるときにデフォルト設定で初期化されます。ただし、一部の SAS システムオプションのデフォルト設定とオプションの値は、動作環境とサイト両方に応じて変化します。詳細については、動作環境に関する SAS のドキュメントを参照してください。

関連項目:

- “Printing with SAS” (*SAS Language Reference: Concepts*)
- “Understanding ODS Destinations” (*SAS Output Delivery System: User's Guide*)

システムオプション:

- “COPIES=システムオプション” (94 ページ)

COLOPHON=システムオプション

ユニバーサルプリンタで作成されるグラフィックファイルまたは PDF に埋め込まれるテキスト文字列を指定します。このテキスト文字列は、レンダリングされたグラフィックや PDF には表示されません。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、**SAS システムオプション** ウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシージャ出力コントロール:ODS 印刷

PROC OPTIONS ODSPRINT
GROUP=

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ) を参照してください。

構文

COLOPHON="*text-string*"

構文の説明

text-string

グラフィックファイルに埋め込まれるテキストを指定します。

長さ 最大 4,000 文字まで。

要件 テキスト文字列は引用符で囲む必要があります。

操作 LRECL=オプションの値よりも長いテキスト文字列は切り捨てられます。
LRECL=オプションのデフォルト値は 32767 です。それよりも長いテキスト文字列については一時的に LRECL=オプションの値を増やします。

詳細

奥付はプリンターズマークです。COLOPHON=オプションを使用すると、署名、ID、またはコメントをユニバーサルプリンタ出力ファイルに追加できます。出力ファイルの表示または印刷時には、グラフィックや PDF にこのテキスト文字列は表示されません。テキストエディタやサードパーティアプリケーションを使用すると、奥付テキスト文字列を表示できます。

例

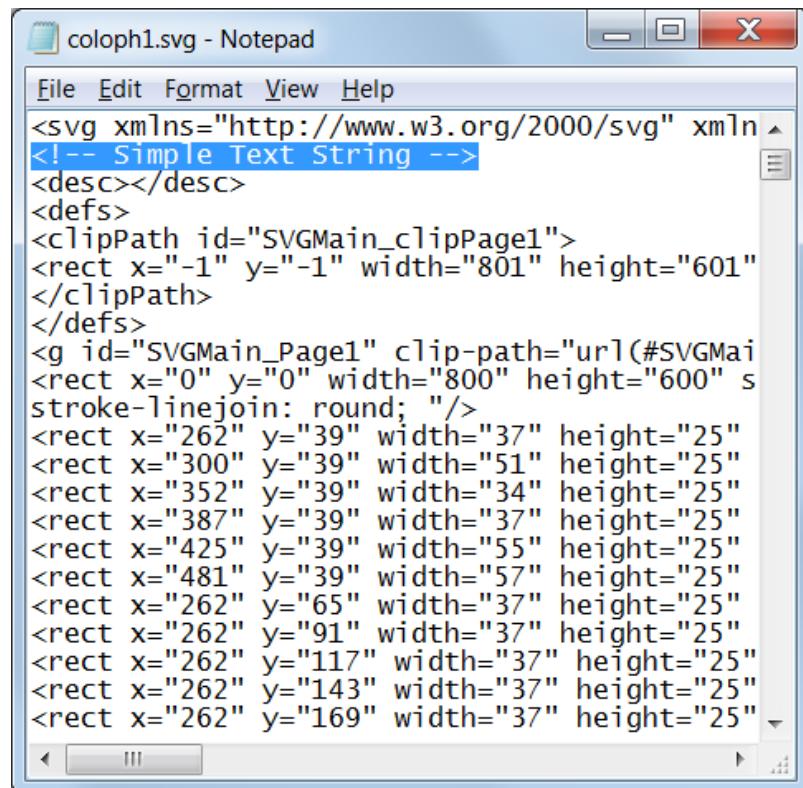
この例では、さまざまなユニバーサルプリンタによって作成される出力ファイルに、テキスト"Simple Text String"を追加します。

```
ods html close;
```

```
ods listing close;
%macro ctext(printer,file,ext);
  %filename(sasprt, &file, &ext);
  options printerpath=("&printer" sasprt)
    colophon="Simple Text String";
  ods printer;
  title "&printer";
  proc print data=sashelp.class;
  run;
  ods printer close;
%mend;

%ctext(PCL5c, coloph1,pcl);
%ctext(GIF, coloph1,gif);
%ctext(Postscript, coloph1,psl);
%ctext(PDF, coloph1,pdf);
%ctext.PNG, coloph1,png);
%ctext(SVG, coloph1,svg);
%ctext(EMF, coloph1,emf);
%ctext(TIFF, coloph1.tif);
ods listing;
```

ノートパッドを使用すると、SVG 出力ファイルのテキスト文字列“Simple Text String”を参照できます。



テキスト文字列は出力ファイルに表示されません。

SVG

Obs	Name	Sex	Age	Height	Weight
1	Alfred	M	14	69.0	112.5
2	Alice	F	13	56.5	84.0
3	Barbara	F	13	65.3	98.0
4	Carol	F	14	62.8	102.5
5	Henry	M	14	63.5	102.5

COLORPRINTING システムオプション

カラー印刷がサポートされている場合にカラーで印刷するかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシージャ出力コントロール:ODS 印刷

**PROC OPTIONS
GROUP=** ODSPRINT

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は COLORPRINTING です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

COLORPRINTING | NOCOLORPRINTING

構文の説明

COLORPRINTING

カラーでの印刷を試行するように指定します。

NOCOLORPRINTING

カラーで印刷しないように指定します。

詳細

ほとんどの SAS システムオプションは、SAS が呼び出されるときにデフォルト設定で初期化されます。ただし、一部の SAS システムオプションのデフォルト設定とオプションの値は、動作環境とサイト両方に応じて変化します。詳細については、動作環境に関する SAS のドキュメントを参照してください。

関連項目:

- SAS での印刷

ステートメント:

- “ODS PRINTER Statement” (*SAS Output Delivery System: User's Guide*)

COMPRESS=システムオプション

SAS データセットの出力に使用するオブザベーションの圧縮の種類を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: ファイル:SAS ファイル

システム管理:パフォーマンス

PROC OPTIONS SASFILES

GROUP= PERFORMANCE

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は NO です。

制限事項: TAPE エンジンでは COMPRESS=システムオプションはサポートされません。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#) (6 ページ)を参照してください。

構文

COMPRESS=NO | YES | CHAR | BINARY

構文の説明**NO**

新しく作成された SAS データセット内でオブザベーションは圧縮されないこと(固定長レコードの保持)を指定します。

YES | CHAR

新しく作成された SAS データセット内でオブザベーションは SAS により RLE (Run Length Encoding)を使用して圧縮されること(可変長レコードの作成)を指定します。RLE では、連続する同じ文字(空白を含む)を 2 バイトまたは 3 バイトの表現に削減することでオブザベーションが圧縮されます。

別名 ON

注 COMPRESS=CHAR はバージョン 7 以降のバージョンで使用できます。

ヒント 文字データにはこの圧縮アルゴリズムを使用します。

BINARY

新しく作成された SAS データセット内でオブザベーションは RDC (Ross Data Compression)を使用して圧縮されること(可変長レコードの作成)を指定します。RDC では、Run Length Encoding とスライディングウィンドウ圧縮を組み合わせて反復バイトパターンをより効果的に表現することでファイルが圧縮されます。

ヒント この方式は、中サイズから大サイズ(数百バイトまたはそれ以上)のバイナリデータ(文字変数と数値変数)のブロックを圧縮する場合に有効です。この圧縮関数は一度に 1 つのレコードに対してのみ動作するため、効果的に圧縮するには数百バイト以上のレコード長が必要です。

詳細

ファイルの圧縮は、各オブザベーションの表現に必要なバイト数を減らすプロセスです。ファイル圧縮の利点として、ファイルのストレージ要件の削減、処理中のデータ読み取り/書き込みに必要な I/O 操作数の削減などがあります。ただし、圧縮ファイルの読み取りには(各オブザベーションの圧縮を解除するオーバーヘッドのために)より多くの CPU リソースが必要になります。状況によっては、圧縮後のファイルサイズが減らずに増えることがあります。

SAS セッション中に作成されたすべての出力データセットを圧縮する場合に COMPRESS=システムオプションを使用します。このオプションは、SAS データファイル(メンバの種類が DATA)を作成する場合にのみ使用します。SAS ビューは、データが含まれていないため圧縮できません。

ファイルが圧縮された後、設定はファイルの永続的属性になります。つまり、設定を変更するには、ファイルを再作成する必要があります。そのため、ファイルを圧縮解除するには、圧縮ファイルをコピーする DATA ステップに COMPRESS=NO を指定します。

注: COPY プロシージャの場合、デフォルト値 CLONE では入力データセットの圧縮属性を出力データセットに使用します。入力データセットのエンジンが圧縮属性をサポートしていない場合、PROC COPY は COMPRESS=システムオプションの現在の値を使用します。CLONE と NOCLONE の詳細については、COPY ステートメントオプション、“DATASETS” (*Base SAS Procedures Guide*)を参照してください。この操作は、SAS/SERVE または SAS/CONNECT 使用時には適用されません。

通常、COMPRESS=CHAR はシングルバイトが繰り返す場合に適した圧縮を提供します。COMPRESS=BINARY はバイト文字列が繰り返す場合に適した圧縮を適用します。しかし、繰り返すシングルバイトの検索よりも、繰り返すバイト文字列の検索のほうがコストがかかります。たとえば、xisError - link not found - The element n1fvy3hi72zxbwn1hr10jd673k5l was not found in the link database および xisError - link not found - The element n042mdlqdbhqidn18a4tooma8vq0 was not found in the link database を参照してください。

比較

COMPRESS=システムオプションよりも LIBNAME ステートメントの COMPRESS=オプションおよび COMPRESS=データセットオプションが優先されます。

データセットオプション POINTOBS=YES(デフォルト)により、圧縮データセットを順次アクセスではなく、ランダムアクセス(オブザベーション番号を指定)で処理できるように定義されます。ランダムアクセスでは、オブザベーション番号を FSEDIT プロシージャや、SET および MODIFY ステートメントの POINT=オプションに指定できます。

圧縮ファイルを作成するとき、空き領域の追跡と再利用のために(データセットオプションまたはシステムオプションとして)REUSE=YES を指定することもできます。REUSE=YES を指定すると、新しいオブザベーションは、他のオブザベーションの更新または削除によって空いた領域に挿入されます。デフォルトの REUSE=NO が有効な場合、新しいオブザベーションは既存のファイルに追加されます。

POINTOBS=YES と REUSE=YES は相互排他的です。つまり、一緒に使用することはできません。REUSE=YES は、POINTOBS=YES よりも優先されます。そのため、REUSE=YES を設定すると、POINTOBS=NO が自動的に設定されます。

TAPE エンジンでは COMPRESS=システムオプションはサポートされませんが、COMPRESS=データセットオプションはサポートされます。

XPORT エンジンでは圧縮はサポートされません。

関連項目:

- “Definition of Compression” (*SAS Language Reference: Concepts*)

データセットオプション:

- “COMPRESS= Data Set Option” (*SAS Data Set Options: Reference*)
- “POINTOBS= Data Set Option” (*SAS Data Set Options: Reference*)
- “REUSE= Data Set Option” (*SAS Data Set Options: Reference*)

ステートメント:

- “LIBNAME Statement” (*SAS Statements: Reference*)

システムオプション:

- [“REUSE=システムオプション” \(228 ページ\)](#)

COPIES=システムオプション

印刷する部数を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシージャ出力コントロール:ODS 印刷

**PROC OPTIONS
GROUP=** ODSPRINT

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は 1 です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

COPIES=*n*

構文の説明

n 部数を指定します。

関連項目:

- “Printing with SAS” (*SAS Language Reference: Concepts*)
- “Understanding ODS Destinations” (*SAS Output Delivery System: User's Guide*)

システムオプション:

- [“COLLATE システムオプション” \(88 ページ\)](#)

CPUCOUNT=システムオプション

スレッド対応アプリケーションで並行処理に使用可能とみなされるプロセッサ数を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ:	システム管理:パフォーマンス
PROC OPTIONS GROUP=	PERFORMANCE
デフォルト:	UNIX および Windows では、プロセッサが 4 つ以上ある場合、デフォルト値は 4。プロセッサが 4 つ未満の場合、デフォルトは ACTUAL。 z/OS では、デフォルトは ACTUAL。
操作:	THREADS システムオプションが NOTHREADS に設定されている場合、CPUCOUNT= オプションは適用されません。
注:	サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、“ 制限されたオプション ”(6 ページ)を参照してください。

構文

CPUCOUNT= [1 - 1024 | ACTUAL](#)

構文の説明

1-1024

SAS によってスレッド対応アプリケーションで使用可能とみなされる CPU 数です。

ヒント 通常、この値は構成によって現在のプロセスで使用可能な実際の CPU 数に設定されます。

CPUCOUNT=に実際に使用可能な CPU 数よりも大きい値を設定した場合、SAS 全体の処理速度が低下する可能性があります。

ACTUAL

SAS が実行されているオペレーティングシステムに関連付けられた物理プロセッサ数を返します。オペレーティングシステムがパーティション内で実行されている場合、CPUCOUNT オプションの値はそのパーティションのオペレーティングシステムに関連付けられた物理プロセッサ数です。

ヒント SAS プロセスがシステム管理ツールによって制限されている場合、この数は物理 CPU 数よりも少なくなる可能性があります。

CPUCOUNT=を ACTUAL に設定するたびに、このオプションはその時点でのオペレーティングシステムに関連付けられている物理プロセッサ数にリセットされます。オペレーティングシステムがパーティション内で実行されている場合、CPUCOUNT オプションの値はそのパーティションのオペレーティングシステムに関連付けられた物理プロセッサ数です。

システムが同時マルチスレッディング(SMT)、ハイパースレッディングまたはチップマルチスレッディング(CMT)をサポートしている場合、CPUCOUNT=オプションの値はシステム上のそのスレッドの数を表します。

詳細

特定のプロシージャは、プロシージャ処理をスレッド化することで複数の CPU を活用するように変更されています。Base SAS エンジンもスレッドを使用してインデックスを作成します。CPUCOUNT=オプションは、スレッドの配分に関する決定に必要な情報を提供します。

CPUCOUNT=の値を変更すると、各スレッド対応プロセスが実行する並行処理の度合いに影響します。CPUCOUNT=に実際に使用可能な CPU 数よりも大きい値を設定した場合、SAS 全体の処理速度が低下する可能性があります。

比較

関連するシステムオプション THREADS が有効になっている場合、使用可能な場合はスレッドがアクティブになります。CPUCOUNT=オプションの値はスレッド対応 SAS プロシージャで使用できるシステム CPU の数を提供し、THREADS の処理速度に影響を及ぼします。

関連項目:

- 並列処理のサポート

システムオプション:

- [“THREADS システムオプション” \(282 ページ\)](#)
- [“UTILLOC=システムオプション” \(292 ページ\)](#)

CPUID システムオプション

CPU ID 番号を SAS ログに書き込むかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: ログおよびプロシージャ出力コントロール:SAS ログ

PROC OPTIONS GROUP= LOGCONTROL

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は CPUID です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#) (6 ページ) を参照してください。

構文

[CPUID | NOCPUID](#)

構文の説明

CPUID

CPU ID 番号を SAS ログの上部のライセンス情報の後に表示するように指定します。

NOCPUID

CPU ID 番号を SAS ログに書き込まないように指定します。

関連項目:

[“The SAS Log” \(SAS Language Reference: Concepts\)](#)

CSTGLOBALLIB=システムオプション

SAS Clinical Standards Toolkit グローバル標準ライブラリの場所を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、**SAS システムオプション**ウインドウ

カテゴリ: 環境コントロール:初期化および操作

**PROC OPTIONS
GROUP=** EXECMODES

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

CSTGLOBALLIB='location'

構文の説明

'location'

SAS Clinical Standards Toolkit グローバル標準ライブラリが存在するディレクトリを指定します。ディレクトリに空白が含まれる場合は、ディレクトリを引用符で囲みます。

関連項目:

システムオプション:

- “[CSTSAMPLELIB=システムオプション](#)”(97 ページ)

CSTSAMPLELIB=システムオプション

SAS Clinical Standards Toolkit サンプルライブラリの場所を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、**SAS システムオプション**ウインドウ

カテゴリ: 環境コントロール:初期化および操作

**PROC OPTIONS
GROUP=** EXECMODES

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

CSTSAMPLELIB='location'

構文の説明

'location'

SAS Clinical Standards Toolkit サンプルライブラリが存在するディレクトリを指定します。ディレクトリに空白が含まれる場合は、ディレクトリを引用符で囲みます。

関連項目:

システムオプション:

- “[CSTGLOBALLIB=システムオプション](#)” (97 ページ)

DATAPAGESIZE=システムオプション

SAS データセットまたはユーティリティファイルの最適バッファサイズを決定する方法を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: ファイル:SAS ファイル
システム管理:TK

PROC OPTIONS SASFILES
GROUP= TK

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は CURRENT です。

適用対象: Windows および UNIX ファイルシステム

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ) を参照してください。

構文

DATAPAGESIZE=COMPAT93 | CURRENT

構文の説明

COMPAT93

SAS データセットまたはユーティリティファイルのバッファサイズ決定に SAS 9.3 最適化プロセスが使用されるように指定します。

CURRENT

SAS データセットまたはユーティリティファイルのバッファサイズ決定に現在の SAS リリースの最適化プロセスが使用されるように指定します。

詳細

BUFSIZE=または UBUFSIZE=システムオプションが 0 に設定されると、動作環境の最適バッファサイズが使用されます。SAS 9.4 より、I/O パフォーマンス向上のために最適バッファサイズが増やされます。バッファサイズが増えると、データセットまたはユーティリティファイルのサイズが増える場合があります。現在の最適化プロセスが SAS セッションに適していない場合は、SAS 9.4 より前に使用されていた最適化プロセスの DATAPAGESIZE=COMPAT93 を使用します。

関連項目:

システムオプション:

- “[BUFSIZE=システムオプション](#)” (68 ページ)
- “[UBUFSIZE=システムオプション](#)” (288 ページ)

DATASTMTCHK=システムオプション

入力データセットの上書きを防ぐため、1 レベルの DATA ステップ名としての指定を禁止する SAS ステートメントのキーワードを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: ファイル:SAS ファイル

PROC OPTIONS SASFILES
GROUP=

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は COREKEYWORDS です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

DATASTMTCHK=COREKEYWORDS | ALLKEYWORDS | NONE

構文の説明

COREKEYWORDS

特定の単語を DATA ステートメントの 1 レベルの SAS データセット名として使用することを禁止します。これらの単語は 2 レベルの名前として使用できます。1 レベルの SAS データセット名として使用できないキーワードを次に示します。

- MERGE
- RETAIN
- SET
- UPDATE

たとえば、DATA ステートメントに SET は使用できませんが、SAVE.SET や WORK.SET は使用できます。

ALLKEYWORDS

DATA ステップでステートメントを開始できるすべてのキーワード(ABORT、ARRAY、INFILE など)を DATA ステートメントの 1 レベルのデータセット名として使用することを禁止します。

NONE

SAS データセットの上書きが許可されます。

詳細

DATA ステートメントでセミコロンを省略した場合、次のステートメントが SET、MERGE または UPDATE の場合は入力データセットを上書きできます。次のステートメントが RETAIN の場合は、別の重大な問題が発生します。DATASTMTCHK=では、入力データセットの上書きを防ぐことができます。

DATE システムオプション

SAS プログラムが開始された日時を表示するかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシージャ出力コントロール:SAS ログおよびプロシージャ出力

ログおよびプロシージャ出力コントロール:SAS ログ

ログおよびプロシージャ出力コントロール:プロシージャ出力

PROC OPTIONS LOG_LISTCONTROL

GROUP= LISTCONTROL

LOGCONTROL

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は DATE です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

DATE | NODATE

構文の説明

DATE

SAS ログの各ページおよび SAS によって作成されたすべての出力の上部に、SAS プログラムが開始された日時を表示するように指定します。

注 対話型 SAS セッションでは、日時はアウトプットウィンドウのみに表示されます。

NODATE

日時を表示しないように指定します。

関連項目:

“The SAS Log” (*SAS Language Reference: Concepts*)

DATESTYLE=システムオプション

ANYDTDTE、ANYDTDTM または ANYDTTME 入力形式データがあいまいな場合の月、日、年の順序を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: 環境コントロール:言語コントロール

入力コントロール:データ処理

PROC OPTIONS INPUTCONTROL

GROUP= LANGUAGECONTROL

デフォルト: デフォルト値は、LOCALE=システムオプションの値によって決定されます。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

DATESTYLE=MDY | YMD | DMY | LOCALE

構文の説明

MDY

SAS に設定される順序を月、日、年に指定します。

YMD

SAS に設定される順序を年、月、日に指定します。

DMY

SAS に設定される順序を日、月、年に指定します。

LOCALE

LOCALE=システムオプション値に対応する値に基づいて、SAS に設定する順序を MDY、YMD、DMY のいずれかに指定します。

詳細

システムオプション DATESTYLE=は、月、日、年の順序を識別します。デフォルト値は LOCALE です。デフォルトの LOCALE システムオプションの値は英語です。したがって、デフォルトの DATESTYLE の順序は MDY になります。

各ロケールオプション値のデフォルト設定については、ロケール値を参照してください。

関連項目:

入力形式:

- “ANYDTDTEw. Informat” (*SAS Formats and Informats: Reference*)
- “ANYDTDTMw. Informat” (*SAS Formats and Informats: Reference*)
- “ANYDTTMEw. Informat” (*SAS Formats and Informats: Reference*)

システムオプション:

- “LOCALE System Option” (*SAS National Language Support (NLS): Reference Guide*)

DECIMALCONV=システムオプション

2 進数から 10 進数への変換とフォーマットの方法を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、**SAS システムオプション** ウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシージャ出力コントロール:SAS ログおよびプロシージャ出力

ログおよびプロシージャ出力コントロール:SAS ログ

ログおよびプロシージャ出力コントロール:プロシージャ出力

PROC OPTIONS

GROUP= LOG_LISTCONTROL

LISTCONTROL

LOGCONTROL

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は COMPATIBLE です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#) (6 ページ)を参照してください。

構文

DECIMALCONV=COMPATIBLE | STDIEEE

構文の説明

COMPATIBLE

SAS 9.4 より前のリリースと互換性のある変換法を使用して 10 進値の変換とフォーマットを行うように指定します。SAS 出力が、フォーマットの詳細に影響を受けやすい既存アプリケーションによって処理される可能性がある場合、このオプションを使用します。

別名 COMPAT

z/OS 固有	z/OS では IEEE 形式ではなく IBM の 16 進浮動小数点数表現が使用されるため、DECIMALCONV=COMPATIBLE は常に有効です。
---------	--

STDIEEE

IEEE 浮動小数点演算標準 754-2008 を使用して 10 進値の変換とフォーマットを行うように指定します。STDIEEE 引数を使用すると、浮動小数点数の精度と読みやすさが向上します。場合によっては、より上位の桁を同じフィールド幅で表示することもできます。

詳細

DECIMALCONV=STDIEEE の場合に 10 進数の変換とフォーマットで特に改善された点をいくつか次に示します。

- BESTw.出力形式では、有効桁数が 3 未満の場合、固定小数点表記ではなく指数表記が使用される場合があります。たとえば、前のリリースで 0.00027 と表示されていた幅 7 のフィールドが、2.68E-4 と表示される場合があります。
- 非常に短い幅の場合、BESTw.出力形式では、上位の桁を 1 つまたは 2 つ増やすために、指数表記出力の小数点が省略されることがあります(たとえば、1.4E9 のかわりに 137E7 を表示)。このフォーマットは、DECIMALCONV=がどちらの値に設定されていても行えますが、DECIMALCONV=STDIEEE の場合の方がより頻繁に使用されます。
- w.d、Ew.d および Dw.d を含むその他の出力形式も DECIMALCONV=設定の影響を受ける場合がありますが、変更が最も目立つのは BESTw.出力形式の使用時です。

関連項目:

出力形式:

- “BESTw. Format” (*SAS Formats and Informats: Reference*)

DEFLATION=システムオプション

Deflate 圧縮アルゴリズムをサポートするデバイスドライバの圧縮レベルを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシージャ出力コントロール: ODS 印刷

PROC OPTIONS	ODSPRINT
GROUP=	
別名:	DEFLATE
デフォルト:	出荷時のデフォルト値は 6 です。
要件	ファイルを圧縮するためには、UPRINTCOMPRESSION システムオプションを設定する必要があります。
注:	サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“ 制限されたオプション ”(6 ページ)を参照してください。

構文

DEFLATION=*n* | MIN | MAX

構文の説明

n

圧縮レベルを指定します。値を大きくすると、圧縮率が高くなります。たとえば、*n*=0 は最小圧縮レベル(まったく圧縮しない)で、*n*=9 は最大圧縮レベルです。

範囲 0–9

MIN

最小圧縮レベルの 0 を指定します。

MAX

最大圧縮レベルの 9 を指定します。

詳細

DEFLATION システムオプションは、PDF や SVG などの、Deflate をサポートするデバイスドライバの圧縮レベルを制御します。

ODS PRINTER ステートメントオプション COMPRESS= は、DEFLATION システムオプションよりも優先されます。

関連項目:

ステートメント:

- “ODS PRINTER Statement” (*SAS Output Delivery System: User's Guide*)

システムオプション:

- “PRINTERPATH=システムオプション” (223 ページ)
- “UPRINTCOMPRESSION システムオプション” (289 ページ)

DETAILS システムオプション

SAS ライブラリにファイルのリストが表示されるときに追加情報を含めるかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシージャ出力コントロール:SAS ログおよびプロシージャ出力

ログおよびプロシージャ出力コントロール:SAS ログ
ログおよびプロシージャ出力コントロール:プロシージャ出力

PROC OPTIONS LOG_LISTCONTROL
GROUP= LISTCONTROL
LOGCONTROL

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は NODETAILS です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

[DETAILS | NODETAILS](#)

構文の説明

DETAILS

一部の SAS プロシージャとウィンドウに SAS ライブラリのファイルのリストが表示されるときに、追加情報を含めます。

NODETAILS

追加情報を含めません。

詳細

DETAILS の指定によって、SAS の次のコンポーネントのデフォルト表示を設定します。

- CONTENTS プロシージャ
- DATASETS プロシージャ

表示される追加情報の種類と量は、使用するプロシージャまたはウィンドウによって異なります。

関連項目:

“The SAS Log” (*SAS Language Reference: Concepts*)

DKRICOND=システムオプション

DROP=、KEEP=または RENAME=データセットオプションの処理時に入力データセットの変数が欠損しているときに、報告するエラー検出のレベルを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: ファイル:SAS ファイル
環境コントロール:エラー処理

PROC OPTIONS ERRORHANDLING
GROUP= SASFILES

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は ERROR です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

DKRICOND=[ERROR | WARN | WARNING | NOWARN | NOWARNING](#)

構文の説明

ERROR

DROP=、KEEP=または RENAME=データセットオプションの処理時に入力データセットの変数が欠損している場合、エラーフラグを設定し、SAS ログにエラーメッセージを書き込みます。

WARN | WARNING

DROP=、KEEP=または RENAME=データセットオプションの処理時に入力データセットの変数が欠損している場合、SAS ログに警告メッセージを書き込みます。

NOWARN | NOWARNING

DROP=、KEEP=または RENAME=データセットオプションの処理時に入力データセットの変数が欠損している場合、SAS ログに警告メッセージを書き込みません。

例

次のステートメントでは、データセット B で変数 X が欠損していて、
DKRICOND=ERROR の場合、エラーフラグが 1 に設定され、エラーメッセージが表示されます。

```
data a;
  set b(drop=x);
run;
```

関連項目:

システムオプション:

- “[DKROCOND=システムオプション](#)” (105 ページ)

DKROCOND=システムオプション

DROP=、KEEP=または RENAME=データセットオプションの処理時に出力データセットの変数が欠損しているときに、報告するエラー検出のレベルを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: ファイル:SAS ファイル

環境コントロール:エラー処理

PROC OPTIONS **ERRORHANDLING**

GROUP= **SASFILIES**

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は **WARN** です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

DKROCOND=[ERROR | WARN | WARNING | NOWARN | NOWARNING](#)

構文の説明

ERROR

DROP=、KEEP=または RENAME=データセットオプションの処理時に出力データセットの変数が欠損している場合、エラーフラグを設定し、SAS ログにエラーメッセージを書き込みます。

WARN | WARNING

DROP=、KEEP=または RENAME=データセットオプションの処理時に出力データセットの変数が欠損している場合、SAS ログに警告メッセージを書き込みます。

NOWARN | NOWARNING

DROP=、KEEP=または RENAME=データセットオプションの処理時に出力データセットの変数が欠損している場合、SAS ログに警告メッセージを書き込みません。

例

次のステートメントでは、データセット A で変数 X が欠損していて、DKRICOND=ERROR の場合、エラーフラグが 1 に設定され、エラーメッセージが表示されます。

```
data a;
  drop x;
run;
```

関連項目:

システムオプション:

- “DKRICOND=システムオプション” (104 ページ)

DLCREATEDIR システムオプション

LIBNAME ステートメントで指定する SAS ライブラリのディレクトリが存在しない場合に、ディレクトリを作成するように指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、**SAS システムオプション** ウィンドウ

カテゴリ: ファイル:SAS ファイル

PROC OPTIONS SASFILES

GROUP=

デフォルト: UNIX および Windows では、出荷時のデフォルト値は NODLCREATEDIR。

z/OS では、出荷時のデフォルト値は DLCREATEDIR。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#) (6 ページ) を参照してください。

参照項目: “DLCREATEDIR System Option: z/OS” (*SAS Companion for z/OS*)

構文

DLCREATEDIR | NODLCREATEDIR

構文の説明

DLCREATEDIR

LIBNAME ステートメントで指定する SAS ライブラリのディレクトリが存在しない場合に、ディレクトリを作成するように指定します。

制限事項 LIBNAME ステートメントに指定されたパスに複数のコンポーネントが含まれている場合、パスの最終コンポーネントのみ作成されます。パスの中間コンポーネントが存在しない場合、指定パスは割り当てられません。たとえば、コード `libname mytestdir 'c:\mysasprograms\test'` の実行時に `c:\mysasprograms` が存在する場合、test ディレクトリが作成されます。`c:\mysasprograms` が存在しない場合、test ディレクトリは作成されません。

NODLCREATEDIR

LIBNAME ステートメントで指定する SAS ライブラリのディレクトリを作成しないように指定します。

詳細

SAS ライブラリのディレクトリが作成されると、ログに NOTE が発行されます。

関連項目:

ステートメント:

- “LIBNAME Statement” (*SAS Statements: Reference*)

DLDMGACTION=システムオプション

SAS データセットまたは SAS カタログの破損が検出されたときに実行するアクションの種類を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ
カテゴリ: ファイル:SAS ファイル

PROC OPTIONS GROUP= SASFILES

デフォルト: Windows および UNIX では、出荷時のデフォルト値は、対話型モードでは REPAIR、バッチモードでは FAIL。
z/OS では、出荷時のデフォルト値は、対話型モードでは PROMPT、バッチモードでは REPAIR です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ) を参照してください。

構文

DLDMGACTION=FAIL | ABORT | REPAIR | NOINDEX | PROMPT

構文の説明

FAIL

ただちにステップを停止し、エラーメッセージをログに発行します。

ABORT

ステップを終了し、エラーメッセージをログに発行し、SAS セッションを終了します。

REPAIR

データファイルの場合は、データファイルが切り捨てられていなければ、インデックスと一貫性制約を自動的に修復して再構築します。切り捨てられたデータファイルをリストアするには、REPAIR ステートメントを使用します。警告メッセージがログに発行されます。カタログの場合は、REPAIR は修復プロセス中にエラーが発生したカタログエントリを自動的に削除します。

NOINDEX

データファイルの場合は、インデックスと一貫性制約なしでデータファイルを自動的に修復し、インデックスファイルを削除し、無効にしたインデックスと一貫性制約を反映してデータファイルを更新して、データファイルを INPUT モードでのみ開くように制限します。無効になったインデックスと一貫性制約を修正または削除するには PROC DATASETS REBUILD ステートメントを実行するように指示する警告が SAS ログに書き込まれます。

制限事項 NOINDEX は破損したカタログやライブラリには適用されず、データファイルにのみ適用されます。

参照項目 REBUILD ステートメント、“DATASETS” (*Base SAS Procedures Guide*)

“Recovering Disabled Indexes and Integrity Constraints” (*SAS Language Reference: Concepts*)

PROMPT

データセットの場合は、FAIL、ABORT、REPAIR、NOINDEX のいずれかを選択できるダイアログボックスを表示します。破損したカタログまたはライブラリの場合は、FAIL、ABORT、REPAIR のいずれかを選択できるダイアログボックスを表示します。

DMR システムオプション

SAS/CONNECT クライアントで使用するサーバーセッションを SAS で起動できるようにするかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: 環境コントロール:初期化および操作

PROC OPTIONS EXECMODES

GROUP=

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は NODMR です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ) を参照してください。

構文

DMR | NODMR

構文の説明

DMR

SAS/CONNECT クライアントに接続するためにリモート SAS セッションを起動できるようにします。

NODMR

リモート SAS セッションを起動できないようにします。

詳細

通常は、TYPE ステートメントを含むスクリプト内の SAS コマンドで DMR を含めることにより、ローカルセッションからリモート SAS セッションを起動します(スクリプトはローカル SAS セッションとリモート SAS セッション間の SAS/CONNECT リンクを確立または終了するステートメントを含むテキストファイルです)。

SAS 実行モード起動オプションの OBJECTSERVER は、DMR オプションよりも優先されます。DMR は、その他すべての SAS 実行モード起動オプションよりも優先されます。起動オプションの優先順位の詳細については、“[優先順位](#)”(16 ページ)を参照してください。

関連項目:

次のドキュメントの DMR に関する情報: *SAS/CONNECT User's Guide*

DMS システムオプション

SAS ウィンドウ環境を起動し、ログウィンドウ、エディタウィンドウ、アウトプットウィンドウを表示するかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: 環境コントロール:初期化および操作

PROC OPTIONS
GROUP= EXECMODES

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は DMS です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

[DMS | NODMS](#)

構文の説明

DMS

SAS ウィンドウ環境を起動し、ログウィンドウ、エディタウィンドウ、アウトプットウィンドウを表示します。

NODMS

対話型ラインモードで SAS セッションを起動します。

Windows 固有 NODMS は、Windows 動作環境では無効です。

詳細

SAS を起動し、構成ファイルまたはコマンドラインを使用してシステムオプション設定を制御している場合に、一部のシステムオプション設定が他のシステムオプション設定と競合する状況が発生する可能性があります。次の起動システムオプションは、上から順に、DMS 起動システムオプションより優先順位が高くなっています。

1. OBJECTSERVER.
2. DMR
3. SYSIN

SAS を起動するために、優先順位が同等の別の起動オプションを使用しているときに DMR を指定すると、最後に指定したオプションが使用されます。起動オプションの優先順位の詳細については[“優先順位”\(16 ページ\)](#)を参照してください。

関連項目:

システムオプション:

- “DMR システムオプション”(108 ページ)
- “DMSEXP システムオプション”(110 ページ)
- “EXPLORER システムオプション”(135 ページ)

DMSEXP システムオプション

SAS ウィンドウ環境を起動し、エクスプローラーウィンドウ、エディタウィンドウ、ログウィンドウ、アウトプットウィンドウ、結果ウィンドウを表示するかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: 環境コントロール: 初期化および操作

PROC OPTIONS EXECMODES
GROUP=

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は DMSEXP です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、[“制限されたオプション”\(6 ページ\)](#)を参照してください。

構文

DMSEXP | NODMSEXP

構文の説明

DMSEXP

エクスプローラーウィンドウ、エディタウィンドウ、ログウィンドウ、アウトプットウィンドウ、結果ウィンドウがアクティブな状態で SAS を起動します。

NODMSEXP

エディタウィンドウ、ログウィンドウ、アウトプットウィンドウがアクティブな状態で SAS を起動します。

詳細

DMSEXP または NODMSEXP を設定するには、DMS オプションを設定する必要があります。次の SAS 実行モード起動オプションは、上から順に、このオプションより優先順位が高くなっています。

1. OBJECTSERVER.
2. DMR
3. SYSIN

優先順位が同等の別の実行モード起動オプションと一緒に DMSEXP を指定すると、最後に表示されるオプションのみが使用されます。起動オプションの優先順位の詳細については“優先順位”(16 ページ)を参照してください。

関連項目:

システムオプション:

- “DMS システムオプション”(109 ページ)
- “DMR システムオプション”(108 ページ)
- “EXPLORER システムオプション”(135 ページ)

DMSLOGSIZE=システムオプション

SAS ログウィンドウに表示できる最大行数を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: 環境コントロール:表示
ログおよびプロシージャ出力コントロール:SAS ログ

PROC OPTIONS ENVDISPLAY
GROUP= LOGCONTROL

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は 99999 です。

制限事項: このオプションは、SAS ウィンドウ環境でのみ有効です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“制限されたオプション”(6 ページ)を参照してください。

構文

DMSLOGSIZE=*n* | *nK* | *hexX* | MIN | MAX

構文の説明

n | *nK*

SAS ウィンドウ環境のログウィンドウに表示できる最大行数を、1 (*n*) または 1024 (*nK*) の倍数で指定します。たとえば、値 800 では 800 行、値 3K では 3,072 行が指定されます。有効な値の範囲は 500 から 999999 までです。

hexX

SAS ウィンドウ環境のログウィンドウに表示できる最大行数を 16 進値で指定します。先頭が数値(0 から 9)、末尾が X の値を指定する必要があります。たとえば、値 **2ffX** では 767 行、**0A00X** では 2,560 行が指定されます。

MIN

SAS ウィンドウ環境のログウィンドウに表示できる最大行数を 500 に設定するように指定します。

MAX

SAS ウィンドウ環境のログウィンドウに表示できる最大行数を 999999 に設定するように指定します。

詳細

ログウィンドウに最大行数が表示されると、ログウィンドウのファイル、印刷、保存、消去のいずれかを行うように求められます。

関連項目:

- “The SAS Log” (*SAS Language Reference: Concepts*)

システムオプション:

- “DMSOUTSIZE=システムオプション” (112 ページ)

DMSOUTSIZE=システムオプション

SAS アウトプットウィンドウに表示できる最大行数を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: 環境コントロール:表示
ログおよびプロシージャ出力コントロール:プロシージャ出力

PROC OPTIONS ENVDISPLAY
GROUP= LISTCONTROL

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は 2147483647 です。

制限事項: このオプションは、SAS ウィンドウ環境でのみ有効です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

DMSOUTSIZE=*n* | *nK* | **hexX** | **MIN** | **MAX**

構文の説明

n | *nK*

SAS ウィンドウ環境のアウトプットウィンドウに表示できる最大行数を、1 (*n*) または 1024 (*nK*) の倍数で指定します。たとえば、値 800 では 800 行、値 3K では 3,072 行が指定されます。

範囲 500–2147483647

hexX

SAS ウィンドウ環境のアウトプットウィンドウに表示できる最大行数を 16 進値で指定します。先頭が数値(0 から 9)、末尾が X の値を指定する必要があります。たとえば、値 `2ffX` では 767 行、`0A00x` では 2,560 行が指定されます。

MIN

SAS ウィンドウ環境のアウトプットウィンドウに表示できる最大行数を 500 に設定するように指定します。

MAX

SAS ウィンドウ環境のアウトプットウィンドウに表示できる最大行数を 2147483647 に設定するように指定します。

詳細

アウトプットウィンドウに最大行数が表示されると、アウトプットウィンドウのファイル、印刷、保存、消去のいずれかを行うように求められます。

関連項目:**システムオプション:**

- “DMSLOGSIZE=システムオプション” (111 ページ)

DMSPGMLINESIZE=システムオプション

プログラムエディタの 1 行の最大文字数を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: 環境コントロール:表示

PROC OPTIONS **ENVDISPLAY**
GROUP=

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は 136 です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ) を参照してください。

構文

DMSPGMLINESIZE=*n*

構文の説明

n

プログラムエディタの 1 行の最大文字数を指定します。

範囲 136-960

DMSSYNCHK システムオプション

SAS ウィンドウ環境で、DATA ステップおよび PROC ステップ処理の構文チェックモードを有効にするかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、**SAS システムオプションウィンドウ**

カテゴリ: 環境コントロール:エラー処理

PROC OPTIONS GROUP= ERRORHANDLING

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は NODMSSYNCHK です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

DMSSYNCHK | NODMSSYNCHK

構文の説明

DMSSYNCHK

SAS ウィンドウ環境内から送信されるステートメントに対し構文チェックモードを有効にします。

NODMSSYNCHK

SAS ウィンドウ環境内から送信されるステートメントに対し構文チェックモードを有効にしません。

詳細

DMSSYNCHK オプションが設定された後に DATA ステップで構文エラーまたはセマンティックエラーが発生すると、SAS は構文チェックモードになります。構文チェックモードは、SAS でエラーが発生した時点から、サブミットされたコードが終了するまで有効です。SAS が構文チェックモードになった後は、それ以降のすべての DATA ステップステートメントおよび PROC ステップステートメントが検証されます。

構文チェックモード中は、限られた処理のみが実行されます。構文チェックモードの詳細については、“*Syntax Check Mode*”(SAS Language Reference: Concepts)を参照してください。

注意:

対象とするステップの前に、**DMSSYNCHK** を有効にする **OPTIONS** ステートメントを挿入します。ステップ内に **OPTIONS** ステートメントを挿入すると、**DMSSYNCHK** は次のステップの開始まで有効になりません。

NODMSSYNCHK が有効であれば、前のステップでエラーが発生した場合でも、残りのステップが処理されます。

比較

SAS ウィンドウ環境を使用して対話型セッションで構文を検証するには、**DMSSYNCHK** システムオプションを使用します。非対話型セッションまたはバッチ SAS セッションで構文を検証するには、**SYNTAXCHECK** システムオプションを使用します。SAS/Sshare で **LIBNAME** ステートメント、**FILENAME** ステートメント、

%INCLUDE ステートメント、LOCK ステートメントに構文チェックモードを指定するには、
ERRORCHECK=オプションを使用できます。

関連項目:

- “Error Processing and Debugging” (*SAS Language Reference: Concepts*)

システムオプション:

- “ERRORCHECK=システムオプション” (131 ページ)
- “SYNTAXCHECK システムオプション” (275 ページ)

DSACCEL=システムオプション

サポートされている環境で DATA ステップの並列処理が有効かどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、**SAS システムオプション** ウィンドウ

カテゴリ: 環境コントロール:言語コントロール

PROC OPTIONS
GROUP= LANGUAGECONTROL

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は NONE です。

注: このシステムオプションは、SAS 9.4 のメンテナンスリリース 1 から提供されました。

サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ) を参照してください。

構文

DSACCEL=ANY | NONE

構文の説明

ANY

サポートされている並列環境で DATA ステップの実行を有効にします。

NONE

サポートされている並列環境で DATA ステップの実行を無効にします。

詳細

SAS では、次の環境において、DATA ステップの実行が制限付きで有効になります。

- SAS LASR Analytic Server
 - SAS/ACCESS および SAS Embedded Process を使用した Hadoop 内
- MSGLEVEL=システムオプションを使用すると、Hadoop MapReduce ジョブの SAS ログに表示されるメッセージ詳細をコントロールできます。
- MSGLEVEL=N を指定すると、NOTE、警告およびエラーメッセージのみを参照できます。
 - MSGLEVEL=I を指定すると、追加の Hadoop MapReduce メッセージを表示できます。

関連項目:

- *SAS LASR Analytic Server:Reference Guide*
- *SAS In-Database Products:User's Guide*

システムオプション:

- “MSGLEVEL=システムオプション”(183 ページ)

DSNFERR システムオプション

SAS データセットが見つからないときに、SAS でエラーメッセージを発行するかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: 環境コントロール:エラー処理

PROC OPTIONS GROUP= ERRORHANDLING

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は DSNFERR です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

DSNFERR | NODSNFERR

構文の説明

DSNFERR

存在しない SAS データセットが参照された場合、エラーメッセージを発行して処理を停止するように指定します。

NODSNFERR

存在しない SAS データセットが参照された場合、エラーメッセージを無視して処理を続行するように指定します。データセットの参照は、_NULL_ が設定されている場合と同様に処理されます。

詳細

- DSNFERR は、BYERR システムオプションに似ています。BYERR システムオプションでは、SORT プロシジャーが _NULL_ データセットを並べ替えようとした場合に、エラーメッセージを発行して処理が停止されます。
- DSNFERR は、VNFERR システムオプションに似ています。VNFERR システムオプションでは、_NULL_ データセットが使用されると欠損変数にエラーフラグが設定されます。

関連項目:

システムオプション:

- “[BYERR システムオプション](#)”(70 ページ)
- “[VNFERR システムオプション](#)”(309 ページ)

DTRESET システムオプション

SAS ログとプロシージャ出力ファイルの日時を更新するかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシージャ出力コントロール:SAS ログおよびプロシージャ出力
ログおよびプロシージャ出力コントロール:SAS ログ
ログおよびプロシージャ出力コントロール:プロシージャ出力

PROC OPTIONS LOG_LISTCONTROL

GROUP= LISTCONTROL
LOGCONTROL

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は NODTRESET です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

DTRESET | NODTRESET

構文の説明

DTRESET

SAS ログとプロシージャ出力ファイルのタイトルの日時が更新されるように指定します。

NODTRESET

SAS ログとプロシージャ出力ファイルのタイトルの日時が更新されないように指定します。

詳細

DTRESET システムオプションでは、SAS ログとプロシージャ出力ファイルのタイトルの日時が更新されます。この更新は、ページが書き込まれているときに行われます。反映される最小の時間増分は分です。

DTRESET オプションは、長い SAS ジョブを実行するときに、より正確な日時スタンプを取得する場合に特に役立ちます。

NODTRESET を使用すると、ジョブが最初に開始された日時が表示されます。

関連項目:

“The SAS Log” (*SAS Language Reference: Concepts*)

DUPLEX システムオプション

両面印刷が有効かどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシージャ出力コントロール:ODS 印刷

PROC OPTIONS ODSPRINT

GROUP=

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は NODUPLEX です。

制限事項: プリンタが両面印刷をサポートしていない場合、このオプションは無視されます。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

DUPLEX | NODUPLEX

構文の説明

DUPLEX

両面印刷が有効であることを指定します。

操作 DUPLEX が選択されると、出力が裏面に印刷される前に、BINDING=オプションの設定によって用紙の向きが決まります。

NODUPLEX

両面印刷が有効でないことを指定します。

詳細

両面印刷は、両面出力がサポートされているプリンタでのみ使用できます。

関連項目:

- “Universal Printing” (*SAS Language Reference: Concepts*)

ステートメント:

- “ODS PRINTER Statement” (*SAS Output Delivery System: User's Guide*)

システムオプション:

- “BINDING=システムオプション” (64 ページ)

ECHOAUTO システムオプション

AUTOEXEC=ファイル内のステートメントが実行されるとき、ステートメントを SAS ログに書き込むかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: ログおよびプロシジャー出力コントロール:SAS ログ

PROC OPTIONS LOGCONTROL

GROUP=

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は NOECHOAUTO です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

ECHOAUTO | NOECHOAUTO

構文の説明

ECHOAUTO

AUTOEXEC=ファイル内の SAS ステートメントが実行されるとき、ステートメントを SAS ログに書き込むように指定します。

要件 SAS ログの autoexec ファイルのステートメントを印刷するには、SOURCE システムオプションを設定する必要があります。

NOECHOAUTO

AUTOEXEC=ファイル内の SAS ステートメントが実行されても、ステートメントを SAS ログに書き込まないように指定します。

詳細

このオプションの設定に関係なく、AUTOEXEC=ファイル中のエラーによって生成されたメッセージは SAS ログに印刷されます。

関連項目:

- “The SAS Log” (*SAS Language Reference: Concepts*)

システムオプション:

- “[SOURCE システムオプション](#)” (247 ページ)

EMAILACKWAIT=システムオプション

SMTP サーバーから受信確認を受信するまでの待機秒数を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、**SAS システムオプション** ウィンドウ

カテゴリ: コミュニケーション:電子メール

PROC OPTIONS
GROUP= EMAIL

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は 30 です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

EMAILACKWAIT=*number-of-seconds*

構文の説明

number-of-seconds

SMTP サーバーから受信確認を受信するまでの待機秒数を指定します。

範囲 0-3600

詳細

SMTP を使用して電子メールを送信すると、SMTP サーバーは、電子メールがサーバーによって受信されたという受信確認を SAS に返します。サーバーからの応答のために待機するデフォルト時間は 30 秒です。ネットワーク状態、あるいは電子メールのサイズなどが原因で、電子メール送信に 30 秒よりも長くかかる場合があります。電子メール送信が失敗したというメッセージを受信する場合は、EMAILACKWAIT=オプションを使用すると、SMTP サーバーからの受信確認に対する待機秒数を増やせます。

関連項目:

- “The SMTP E-Mail Interface” (*SAS Language Reference: Concepts*)

ステートメント:

- “FILENAME Statement, EMAIL (SMTP) Access Method” (*SAS Statements: Reference*)

システムオプション:

- “EMAILHOST=システムオプション” (122 ページ)

EMAILAUTHPROTOCOL=システムオプション

SMTP 電子メールの認証プロトコルを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、**SAS システムオプション** ウィンドウ

カテゴリ: コミュニケーション:電子メール

PROC OPTIONS
GROUP= EMAIL

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は NONE です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

EMAILAUTHPROTOCOL=[NONE | LOGIN | PLAIN](#)

構文の説明

NONE

認証プロトコルが使用されないように指定します。

LOGIN

LOGIN 認証プロトコルが使用されるように指定します。

注 LOGIN を指定するときには、EMAILID と EMAILPW も指定する必要がある場合もあります。EMAILID を省略すると、ユーザー ID が検索されて使用されます。EMAILPW を省略すると、パスワードは使用されません。

参照 認証の順序の詳細については、“[Sending E-Mail through SMTP](#)” (*SAS Language Reference: Concepts*)を参照してください。
項目

PLAIN

PLAIN 認証プロトコルが使用されるように指定します。PLAIN 認証プロトコルでは、ユーザー ID とパスワードが、BASE64 で 1 つの文字列としてエンコードされます。

注 PLAIN を指定するときには、EMAILID と EMAILPW も指定する必要がある場合もあります。EMAILID を省略すると、ユーザー ID が検索されて使用されます。EMAILPW を省略すると、パスワードは使用されません。

参照項目 認証の順序の詳細については、“*Sending E-Mail through SMTP*” (SAS Language Reference: Concepts)を参照してください。

詳細

SMTP アクセス方式の場合、このオプションは、EMAILID=、EMAILPW=、EMAILPORT、EMAILHOST システムオプションと使用します。EMAILID=はユーザー名を指定します。EMAILPW=はパスワードを指定します。EMAILPORT は SMTP サーバーが接続されるポートを指定します。EMAILHOST はサイトの電子メールアクセスをサポートする SMTP サーバーを指定します。EMAILAUTHPROTOCOL=はプロトコルを指定します。

関連項目:**システムオプション:**

- “[EMAILHOST=システムオプション](#)” (122 ページ)
- “[EMAILID=システムオプション](#)” (124 ページ)
- “[EMAILPORT システムオプション](#)” (125 ページ)
- “[EMAILPW=システムオプション](#)” (126 ページ)

EMAILFROM システムオプション

SMTP を使用して電子メールを送信するときに、FILE または FILENAME ステートメントのいずれかで電子メールオプション FROM が必要かどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: コミュニケーション:電子メール

PROC OPTIONS GROUP= EMAIL

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は NOEMAILFROM です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

EMAILFROM | NOEMAILFROM

構文の説明

EMAILFROM

FILE または FILENAME ステートメントのいずれかを使用して電子メールを送信するときに、FROM 電子メールオプションが必要であることを指定します。

NOEMAILFROM

FILE または FILENAME ステートメントのいずれかを使用して電子メールを送信するときに、FROM 電子メールオプションが必要ではないことを指定します。

関連項目:

ステートメント:

- “FILE Statement” (*SAS Statements: Reference*)
- “FILENAME Statement, EMAIL (SMTP) Access Method” (*SAS Statements: Reference*)

EMAILHOST=システムオプション

電子メールアクセスをサポートする SMTP サーバーを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: コミュニケーション:電子メール

**PROC OPTIONS
GROUP=** EMAIL

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は LOCALHOST です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#) (6 ページ)を参照してください。

構文

EMAILHOST=*server* | (*server*) | "server"

EMAILHOST=('*server-1*'<*options*><'*server-2*'><*options*> ...)

構文の説明

server

サイトで使用する Simple Mail Transfer Protocol (SMTP) サーバーのドメイン名を指定します。

範囲 SMTP サーバーに指定できる最大文字数は 1,024 です。

要件 複数のサーバー名を指定するときには、リストをかっこで囲み、各サーバー名を一重または二重引用符で囲む必要があります。

注 この情報はサイトのシステム管理者が提供します。

options

セキュア SMTP サーバーの使用時に使用可能なオプションを指定します。*options* の有効値は次のとおりです。

AUTH=authentication

認証プロトコルを指定します。*auth* の有効値は次のとおりです。

LOGIN

LOGIN 認証プロトコルが使用されるように指定します。

注 LOGIN を指定するときには、USERID と PWD の指定も必要な場合があります。EMAILID を省略すると、ユーザー ID が検索されて使用されます。USERID を省略すると、パスワードは使用されません。

PLAIN

PLAIN 認証プロトコルが使用されるように指定します。PLAIN 認証プロトコルでは、ユーザー ID とパスワードが、BASE64 で 1 つの文字列としてエンコードされます。

別名 AUTHPROTOCOL=

操作 AUTH=オプションの値が EMAILAUTHPROTOCOL=システムオプションの値よりも優先されます。

PWD=password

電子メールのログオンパスワードを指定します。

別名 PW=および PASSWORD=

操作 PWD=オプションの値が EMAILPW=システムオプションの値よりも優先されます。

PORT=port-number

SMTP サーバーのポート番号を指定します。

操作 PORT=オプションの値が EMAILPORT=システムオプションの値よりも優先されます。

SSL | STARTTLS

SSL (Secure Sockets Layer)または TLS (Transport Layer Security)プロトコルのどちらかを指定します。

要件 UNIX および z/OS オペレーティングシステムの場合、SSLCALISTLOC システムオプションも指定する必要があります。このシステムオプションでは、信頼された証明機関(CA)のデジタル証明書の場所が提供されます。Windows の場合、デジタル証明書へのアクセスに特別なコマンドラインオプションは必要ありません。

注 TLS とその先行 SSL では、ネットワーク通信中の盗聴や改ざんを防止することによって、インターネットの通信セキュリティが提供されます。STARTTLS はプレーンテキスト通信プロトコルの拡張機能で、暗号化通信のために個別ポートを使用するかわりにプレーンテキスト接続を暗号化(TLS または SSL)接続にアップグレードする方法を提供します。

参照項目 SSLCALISTLOC システムオプション

USERID=username

サーバーにログオンするために使用されるユーザー名を指定します。

別名 ID=

操作 USERID=オプションの値が EMAILID=システムオプションの値よりも優先されます。

詳細

複数の SMTP サーバーが指定されている場合は、指定されている順に電子メールサーバーへの接続が試行されます。電子メールは SAS が接続している最初のサーバーに配信されます。指定されたサーバーのいずれにも接続できない場合は、電子メールの配信が失敗し、エラーが返されます。

SSL プロトコルか TLS プロトコルのどちらかを指定することによって、セキュア SMTP サーバーで EMAIL アクセス方式を使用できます。SSL と TLS によって、クライアントと送信 SMTP サーバー間のデータが暗号化されます。この場合、メッセージのクライアント(送信者)と受信者間の暗号化接続は保証されません。メッセージレベルの暗号化とデジタル署名は現在サポートされていません。

動作環境の情報

SAS が提供する SMTP インターフェイスを有効にするには、EMAILSYS=SMTP システムオプションも指定する必要があります。EMAILSYS の詳細については、現在の動作環境向けのドキュメントを参照してください。

比較

SMTP アクセス方式の場合、このオプションは、EMAILID=、EMAILPW=、EMAILPORT、EMAILAUTHPROTOCOL=システムオプションと使用します。EMAILID=はユーザー名を指定します。EMAILPW=はパスワードを指定します。EMAILPORT は SMTP サーバーが接続されるポートを指定します。EMAILHOST はサイトの電子メールアクセスをサポートする SMTP サーバーを指定します。EMAILAUTHPROTOCOL=はプロトコルを指定します。

関連項目:

システムオプション:

- “EMAILAUTHPROTOCOL=システムオプション” (120 ページ)
- “EMAILID=システムオプション” (124 ページ)
- “EMAILPORT システムオプション” (125 ページ)
- “EMAILPW=システムオプション” (126 ページ)
- “SSLCALISTLOC= System Option” (*Encryption in SAS*)

EMAILID=システムオプション

ログオン ID、電子メールプロファイル、電子メールアドレスのいずれかを指定して、電子メールの送信者を識別します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: コミュニケーション:電子メール

PROC OPTIONS EMAIL
GROUP=

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

EMAILID = *logonid* | *profile* | *email-address*

構文の説明

logonid

SAS を実行しているユーザーのログオン ID を指定します。

注 最大文字数は 32,000 です。

profile

プロファイル名を判断するには、電子メールシステムのドキュメントを参照してください。

email-address

SAS を実行しているユーザーの完全修飾電子メールアドレスを指定します。

要件 電子メールアドレスは、SMTP が有効になっている場合にのみ有効です。

email-address の値に空白が含まれる場合、値を二重引用符で囲む必要があります。

詳細

EMAILID=システムオプションは、電子メールシステムで使用するログオン ID、プロファイルまたは電子メールアドレスを指定します。

比較

SMTP アクセス方式の場合、このオプションは、EMAILAUTHPROTOCOL=、EMAILPW=、EMAILPORT、EMAILHOST システムオプションと一緒に使用します。EMAILID=はユーザー名を指定します。EMAILPW=はパスワードを指定します。EMAILPORT は SMTP サーバーが接続されるポートを指定します。EMAILHOST はサイトの電子メールアクセスをサポートする SMTP サーバーを指定します。EMAILAUTHPROTOCOL=はプロトコルを指定します。

関連項目:

システムオプション:

- “[EMAILAUTHPROTOCOL=システムオプション](#)”(120 ページ)
- “[EMAILHOST=システムオプション](#)”(122 ページ)
- “[EMAILPORT システムオプション](#)”(125 ページ)
- “[EMAILPW=システムオプション](#)”(126 ページ)

EMAILPORT システムオプション

SMTP サーバーが接続されるポートを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: コミュニケーション:電子メール

**PROC OPTIONS
GROUP=** EMAIL

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は 25 です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

EMAILPORT=*port-number*

構文の説明

port-number

EMAILHOST オプションで指定した SMTP サーバーで使用されるポート番号を指定します。

注 この情報はサイトのシステム管理者が提供します。

詳細

動作環境の情報

SAS が提供する SMTP プロトコルを使用するには、EMAILSYS SMTP システムオプションも指定する必要があります。EMAILSYS の詳細については、現在の動作環境向けのドキュメントを参照してください。

比較

SMTP アクセス方式の場合、このオプションは、EMAILID=、EMAILAUTHPROTOCOL=、EMAILPW=、EMAILHOST システムオプションと同時に使用します。EMAILID=はユーザー名を指定します。EMAILPW=はパスワードを指定します。EMAILPORT は SMTP サーバーが接続されるポートを指定します。EMAILHOST はサイトの電子メールアクセスをサポートする SMTP サーバーを指定します。EMAILAUTHPROTOCOL=はプロトコルを指定します。

関連項目:

システムオプション:

- “[EMAILAUTHPROTOCOL=システムオプション](#)”(120 ページ)
- “[EMAILHOST=システムオプション](#)”(122 ページ)
- “[EMAILID=システムオプション](#)”(124 ページ)
- “[EMAILPW=システムオプション](#)”(126 ページ)

EMAILPW=システムオプション

電子メールのログオンパスワードを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ:	コミュニケーション:電子メール
PROC OPTIONS GROUP=	EMAIL
注:	<p>サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“制限されたオプション”(6 ページ)を参照してください。</p> <p>OPTIONS プロシージャでは、SAS ログのパスワードが、実際のパスワード長に関係なく、8 個の X で表示されます。</p>

構文

EMAILPW= "*password*"

構文の説明

password

ログオン名のログオンパスワードを指定します。

制限事項 “*password*”に空白が含まれる場合、値を二重引用符で囲む必要があります。

詳細

エンコードされた電子メールパスワードを使用できます。パスワードが PROC PWENCODE でエンコードされていると、出力文字列にはその文字列がエンコードされたものとして識別するタグが含まれます。たとえば、{sas001}のようなタグが使用されます。このタグは、エンコーディング方法を示します。パスワードをエンコードすると、プレーンテキストのパスワードを使用した電子メールアクセス認証を回避できます。“{sas”で始まるパスワードが起因となってデコードの実行が開始されます。デコードに成功すると、デコードされたパスワードが使用されます。デコードに失敗すると、パスワードは現状のまま使用されます。詳細については、“PWENCODE”(Base SAS Procedures Guide)を参照してください。

Windows 固有

EMAILSYS システムオプションが MAPI または VIM に設定されていると、起動時に EMAILID および EMAILPW システムオプションを指定しない場合や電子メールシステムにログインしていない場合に電子メール ID とパスワードの入力が求められます。EMAILSYS システムオプションが SMTP に設定されていると、電子メール ID とパスワードの入力は求められません。

比較

SMTP アクセス方式の場合、このオプションは、EMAILID=、EMAILAUTHPROTOCOL=、EMAILPORT、EMAILHOST システムオプションと一緒に使用します。EMAILID=はユーザー名を指定します。EMAILPW=はパスワードを指定します。EMAILPORT は SMTP サーバーが接続されるポートを指定します。EMAILHOST はサイトの電子メールアクセスをサポートする SMTP サーバーを指定します。EMAILAUTHPROTOCOL=はプロトコルを指定します。

関連項目:

システムオプション:

- “[EMAILAUTHPROTOCOL=システムオプション](#)”(120 ページ)
- “[EMAILHOST=システムオプション](#)”(122 ページ)

- “EMAILID=システムオプション”(124 ページ)
- “EMAILPORT システムオプション”(125 ページ)

EMAILUTCOFFSET=システムオプション

FILENAME ステートメントの EMAIL (SMTP) アクセス方式を使用して送信される電子メールに、電子メールメッセージの日時ヘッダーフィールドで使用される UTC オフセットを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、**SAS システムオプション** ウィンドウ
カテゴリ: コミュニケーション:電子メール

PROC OPTIONS GROUP= EMAIL

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#) (6 ページ) を参照してください。

構文

EMAILUTCOFFSET="+hhmm" | "-hhmm"

構文の説明

"+hhmm" | "-hhmm"

電子メールの日時ヘッダーフィールドの UTC オフセットとして使用される時間数と分数を指定します。UTC オフセットを使用してローカル時間を確立します。

要件 EMAILUTCOFFSET=システムオプションの値は、二重または一重引用符で囲む必要があります。

詳細

コンピュータの時刻設定がローカル時間の場合、またはコンピュータの時刻設定に夏時間が適用されない場合、EMAILUTCOFFSET=システムオプションを使用して、SMTP 電子メールの日時ヘッダーフィールドに UTC オフセットを設定できます。日時ヘッダーフィールドに UTC オフセットが含まれていない場合は、EMAILUTCOFFSET=システムオプションで指定した値でこの UTC オフセットが置き換えられます。

例

この例では、2011 年 1 月 1 日の午前 1 時 1 分 1 秒を使用します。

OPTIONS ステートメント	日時:ヘッダー
options emailutcoffset="+0930";	日時:Sat, 01 Jan2011 01:01:01 +0930
options emailutcoffset="-0600";	日時: Sat, 01 Jan2011 01:01:01 -0600

関連項目:

- “The SMTP E-Mail Interface” (*SAS Language Reference: Concepts*)

ステートメント:

- “FILENAME Statement, EMAIL (SMTP) Access Method” (*SAS Statements: Reference*)

ENGINE=システムオプション

SAS ライブラリのデフォルトアクセスメソッドを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: ファイル:SAS ファイル

**PROC OPTIONS
GROUP=** SASFILES

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は V9 です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ) を参照してください。

参照項目: “ENGINE= System Option: UNIX” (*SAS Companion for UNIX Environments*)、
“ENGINE System Option: Windows” (*SAS Companion for Windows*)、
“ENGINE= System Option: z/OS” (*SAS Companion for z/OS*)

構文

ENGINE=*engine-name*

構文の説明

engine-name

エンジン名を指定します。

詳細

ENGINE=システムオプションは、SAS ライブラリに関連付けられるデフォルトのエンジン名を指定します。デフォルトのエンジンは、SAS ライブラリが空のディレクトリまたは新しいファイルを示すときに使用されます。デフォルトのエンジンは、ディレクトリ内に複数の SAS ファイルの種類を保存できる、ディレクトリベースのシステムでも使用されます。たとえば、一部の動作環境では、同じディレクトリに複数のバージョンの SAS ファイルを保存できます。

動作環境の情報

有効なエンジン名は動作環境によって異なります。詳細については、動作環境に関する SAS のドキュメントを参照してください。

関連項目:

“SAS Engines” (*SAS Language Reference: Concepts*)

ERRORABEND システムオプション

エラーが発生した場合に、SAS を終了するかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ:	環境コントロール:エラー処理
PROC OPTIONS GROUP=	ERRORHANDLING
別名:	ERRABEND NOERRABEND
デフォルト:	出荷時のデフォルト値は NOERRORABEND です。
注:	サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“ 制限されたオプション ”(6 ページ)を参照してください。

構文

ERRORABEND | NOERRORABEND

構文の説明

ERRORABEND

通常エラーメッセージが発行される、ほとんどのエラー(構文エラーやファイルが見つからないエラーなど)に対して、SAS を終了し、OBS=0 を設定して構文チェックモード(構文チェックが有効になっている場合)になるように指定します。LIBNAME および FILENAME ステートメント以外のグローバルステートメントでエラーが発生した場合でも、SAS が終了します。

ヒント: エラーが発生しないことが前提の SAS プロダクションプログラムで
ERRORABEND システムオプションを使用します。エラーが発生し、
ERRORABEND が有効な場合は、SAS が終了することで、ただちにエラー
の発生を知らせます。ERRORABEND は、無効なデータメッセージなどの
NOTE の処理には影響しません。

NOERRORABEND

エラーが通常どおりに処理されるように指定します。つまり、エラーメッセージを発行し、OBS=0 を設定し、構文チェックモード(構文チェックが有効になっている場合)になります。

関連項目:

- “Global Statements” (*SAS Statements: Reference*)

システムオプション:

- “[ERRORBYABEND システムオプション](#)” (130 ページ)
- “[ERRORCHECK=システムオプション](#)” (131 ページ)

ERRORBYABEND システムオプション

BY グループ処理でエラーが発生したときにプログラムが終了されるかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: 環境コントロール:エラー処理

PROC OPTIONS GROUP=	ERRORHANDLING
----------------------------	---------------

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は NOERRORBYABEND です。

- 注:** サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。
-

構文

ERRORBYABEND | NOERRORBYABEND

構文の説明

ERRORBYABEND

通常エラーメッセージが発行される原因となる BY グループエラー状態に対して、プログラムが終了されるように指定します。

NOERRORBYABEND

BY グループエラーが通常どおりに処理されるように指定します。つまり、エラーメッセージを発行して処理を続行します。

詳細

ERRORBYABEND が有効なときに BY グループエラーが発生すると、プログラムを終了することにより、エラーの発生をただちに知らせます。ERRORBYABEND は、SAS ログに書き込まれる NOTE の処理には影響しません。

注: エラーが発生しないことが前提の SAS プロダクションプログラムで ERRORBYABEND システムオプションを使用します。

関連項目:

システムオプション:

- “[ERRORABEND システムオプション](#)”(129 ページ)

ERRORCHECK=システムオプション

LIBNAME、FILENAME、%INCLUDE、LOCK ステートメントでエラーが検出されたときに SAS が構文チェックモードになるかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: 環境コントロール:エラー処理

PROC OPTIONS GROUP= ERRORHANDLING

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は NORMAL です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

ERRORCHECK=NORMAL | STRICT

構文の説明

NORMAL

LIBNAME または FILENAME ステートメント、あるいは SAS/SERVE ワークスベースの LOCK ステートメントでエラーが発生したときに、SAS プログラムが構文チェックモードにならないように指定します。さらに、ファイルが存在しないために%INCLUDE ステートメントが失敗しても、プログラムまたはセッションは終了しません。

STRICT

LIBNAME または FILENAME ステートメント、あるいは SAS/SERVE ワークスベースの LOCK ステートメントでエラーが発生したときに、SAS プログラムが構文チェックモードになるように指定します。ERRORABEND システムオプションが設定されていて、LIBNAME または FILENAME ステートメントのいずれかでエラーが発生した場合は、SAS が終了します。さらに、ファイルが存在しないために%INCLUDE ステートメントが失敗すると、SAS が終了します。

関連項目:

システムオプション:

- “[ERRORABEND システムオプション](#)” (129 ページ)

ERRORS=システムオプション

詳細なエラーメッセージが発行されるオブザベーションの最大数を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、[SAS システムオプション](#) ウィンドウ

カテゴリ: 環境コントロール:エラー処理
ログおよびプロシージャ出力コントロール:SAS ログ

PROC OPTIONS GROUP= ERRORHANDLING
LOGCONTROL

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は 20 です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

ERRORS=n | nK | nM | nG | nT | MIN | MAX | hexX

構文の説明

n | nK | nM | nG | nT

エラーメッセージが発行されるオブザベーションの数を、1 (n)、1,024 (nK)、1,048,576 (nM)、1,073,741,824 (nG)、1,073,741,824 (nG)、1,099,511,627,776 (nT) のいずれかで指定します。たとえば、値 8 では 8 個、値 3M では 3,145,728 個のオブザベーションが指定されます。

MIN

エラーメッセージが発行されるオブザベーションの数を 0 に設定します。

MAX

エラーメッセージが発行されるオブザベーションの最大数を動作環境で表現できる4バイト符号付き整数の最大値に設定します。

hexX

エラーメッセージが発行されるオブザベーションの最大数を16進数で指定します。先頭が数値(0から9)、末尾がXの値を指定する必要があります。たとえば、値2dxでは、エラーメッセージが発行されるオブザベーションの最大数が45に設定されます。

詳細

データエラーがn個を超えるオブザベーションで検出されると、処理は続行されますが、追加のエラーに対するメッセージは発行されません。

注: ERRORS=0を設定してエラーが発生した場合やエラーの最大数に達した場合、ERRORSオプションで設定された制限に達したという警告メッセージがログに表示されます。

関連項目:

“The SAS Log” (SAS Language Reference: Concepts)

EVENTDS=システムオプション

イベントを定義するデータセットを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS起動時、OPTIONSステートメント、SASシステムオプションウィンドウ

カテゴリ: 入力コントロール:データ処理

PROC OPTIONS INPUTCONTROL

GROUP=

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は(DEFAULTS)。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#) (6ページ)を参照してください。

構文

EVENTDS=([DEFAULTS | NODEFAULTS](#) *event-data-set(s)*)

構文の説明**DEFAULTS**

SASの事前定義された祝日イベントを使用するように指定します。

NODEFAULTS

デフォルトのイベント定義を使用しないように指定します。*event-data-set*リストで指定されるイベントのみが使用されます。

event-data-set

イベント定義を含むデータセット名を指定します。データセットは、1レベルの名前の*dataset*、または2レベルの名前の*libref.dataset*として指定できます。

詳細

SAS イベントは、時系列を生成するプロセスの通常のフローを中断するできごとをモデル化するために使用されます。一般に使用されるイベントの例として、自然災害、小売店プロモーション、ストライキ、宣伝キャンペーン、ポリシー変更、データ記録エラーがあります。独自のイベントのセットを作成するか、SAS の事前定義されたイベントを使用できます。

event-data-set リストで定義されるイベントは、SAS Forecast Studio のイベントリポジトリに表示されます。SAS High-Performance Forecasting では、HPFDIAGNOSE および HPFENGINE プロシージャの INEVENT=オプションの値としてイベントデータセットを使用できます。SAS/ETS では、イベントデータセットは X12 プロシージャの INEVENT=オプションで使用されます。

EVENTDS=オプションを設定すると、以前の EVENTDS=オプションで指定された値はすべて置き換えられます。オプションの新しい指定は、既存の値には追加されません。このオプションは、デフォルトのイベントを無効にするか、イベントデータセットを追加または削除するために使用できます。

イベントデータセットの作成については、*SAS High-Performance Forecasting User's Guide* の HPFEVENTS プロシージャに関する説明を参照してください。

イベントデータセットのイベント名が重複しているが、そのイベントに関連付けられた日付が異なる場合は、PROC SORT を使用してデータセットをイベント名順に並べ替えます。SAS プログラムでイベントデータセットを使用する前に、重複するイベント名をグループ化しておく必要があります。データセットが並べ替えられていない場合、イベントは重複イベントと見なされ、前のイベント定義が置換されて、SAS ログに警告が書き込まれます。

例

例 1

デフォルトでは、EVENTDS=オプションで NODEFAULTS が指定されていない限り、SAS の事前定義された祝日イベントが有効なイベントです。次の EVENTDS=オプションを使用して設定される有効なイベントは、SAS の事前定義された祝日イベントと、events.WorldCup データセットで指定されるイベントです。

```
options eventds=(events.WorldCup);
```

例 2

NODEFAULTS が指定されていないため、EVENTDS=オプションが設定された後は、SAS の事前定義された祝日イベントは有効なイベントではなくなります。*dubai_holidays* データセットで定義されるイベントのみが有効なイベントになります。

```
options eventsds=(nodefaults dubai_holidays);
```

例 3

有効なイベントを、SAS 祝日イベントの事前定義リストにリセットします。

```
options eventds=(defaults);
```

関連項目:

- *SAS/ETS User's Guide*
- *SAS Forecast Studio User's Guide*
- *SAS High-Performance Forecasting:User's Guide*

システムオプション:

- “INTERVALDS=システムオプション”(164 ページ)

EXPLORER システムオプション

SAS ウィンドウ環境を起動し、エクスプローラーウィンドウとプログラムエディタウィンドウのみを表示するかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: 環境コントロール:初期化および操作

**PROC OPTIONS
GROUP=** EXECMODES

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は NOEXPLORER です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

EXPLORER | NOEXPLORER

構文の説明**EXPLORER**

エクスプローラーウィンドウとプログラムエディタウィンドウのみで SAS セッションを起動するように指定します。

NOEXPLORER

エクスプローラーウィンドウなしで SAS セッションを起動するように指定します。

詳細

次の SAS 実行モード起動オプションは、上から順に、このオプションより優先順位が高くなっています。

1. OBJECTSERVER.
2. DMR
3. SYSIN

優先順位が同等の別の実行モード起動オプションと一緒に EXPLORER を指定すると、最後に表示されるオプションのみが使用されます。起動オプションの優先順位の詳細については、“[優先順位](#)”(16 ページ)を参照してください。

関連項目:**システムオプション:**

- “DMS システムオプション”(109 ページ)
- “DMSEXP システムオプション”(110 ページ)

EXTENDOBS COUNTER=システムオプション

新しい出力 SAS データファイルで最大オブザベーション数を増やすかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、**SAS システムオプション**ウインドウ

カテゴリ: 環境コントロール:言語コントロール
ファイル:SAS ファイル

PROC OPTIONS GROUP= LANGUAGECONTROL
SASFILES

別名: EOC=

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は YES です。

制限事項: 出力データファイルにのみ使用します。
Base エンジンにのみ使用します。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

EXTENDOBS COUNTER=YES | NO

構文の説明

YES

32 ビットの制限を超えたオブザベーション数を入れる、新規作成 SAS データファイルの拡張ファイル形式を要求します。この SAS データファイルは 32 ビット整数でオブザベーション数を保存する動作環境に対して作成されますが、データファイルはカウンタに関して 64 ビットファイルと同様に動作します。

制限事項 EXTENDOBS COUNTER=YES で作成される SAS データファイルには、SAS 9.3 より前のリリースとの互換性がありません。SAS データファイルが SAS 9.3 以降で作成され、その SAS データファイルが作成されたときに EXTENDOBS COUNTER が YES に設定されていた場合、システムオプション EXTENDOBS COUNTER=NO を指定して SAS データファイルを再作成する必要があります。出荷時のデフォルト値は YES です。

EXTENDOBS COUNTER=YES は、内部データ表現でオブザベーション数が 32 ビット整数として保存される出力 SAS データファイルに対してのみ有効です。内部データ表現でオブザベーション数が 32 ビット整数として保存される動作環境には、次のプラットフォームが含まれます。

- 32 ビット Intel アーキテクチャ用 Linux。
- 32 ビットプラットフォームの Microsoft Windows。
- Microsoft Windows 64 ビット版。この 64 ビット動作環境では、32 ビットアドレスとオブザベーションとの互換性を維持するために、長整数データ型で 32 ビットモデルが使用されます。
- 32 ビットプラットフォームの z/OS。

EXTENDOBS COUNTER=YES は、64 ビットオブザベーションカウンタを使用する SAS データセットでは無視されます。

NO

新規作成された SAS データファイルの最大オブザベーション数が、動作環境の長整数サイズによって決定されるように指定します。32 ビット整数を使用する動作環境では、最大数は $2^{31}-1$ 、つまり約 20 億オブザベーション(2,147,483,647)です。64 ビット整数を使用する動作環境では、最大数は $2^{63}-1$ 、つまり約 920 京オブザベーションです。

詳細

従来、Base エンジンでは、数えられるのは 2G-1 オブザベーションのみという制限があり、32 ビット整数を有する動作環については完全にサポートされていました。SAS 9.3 では、データセットと SAS ライブラリにサポートが追加されて、64 ビット整数を使用する動作環境の制限に合わせて、制限を引き上げることが可能になりました。EOC=システムオプションでは、SAS セッションに対してグローバルにオブザベーション数を増やせます。EOC=オプションを適用する優先順位を次に示します。

1. データセットオプション
2. LIBNAME ステートメントオプション
3. システムオプション

関連項目:

- “Extending the Observation Count for a 32-Bit SAS Data File” (*SAS Language Reference: Concepts*)

データセットオプション:

- “EXTENDOBS COUNTER= Data Set Option” (*SAS Data Set Options: Reference*)

ステートメント:

- “LIBNAME Statement” (*SAS Statements: Reference*)

FILESYNC=システムオプション

永続的 SAS ファイルの内容が含まれるオペレーティングシステムバッファをいつディスクに書き込むかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: ファイル:SAS ファイル

PROC OPTIONS GROUP= SASFILES

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は HOST です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#) (6 ページ)を参照してください。

参照項目: “FILESYNC= System Option: z/OS” (*SAS Companion for z/OS*)

構文

FILESYNC= [SAS](#) | CLOSE | HOST | SAVE

構文の説明

SAS

SAS ファイルの一貫性にとって最適なときにバッファデータをディスクに強制的に書き込むことを、SAS がオペレーティングシステムに要求するように指定します。

CLOSE

SAS ファイルを閉じるときにバッファデータをディスクに強制的に書き込むことを、SAS がオペレーティングシステムに要求するように指定します。

HOST

SAS ファイルのバッファデータをいつディスクに強制的に書き込むかを、オペレーティングシステムがスケジュールするように指定します。

SAVE

SAS ファイルが保存されるときにバッファをディスクに書き込むように指定します。

詳細

FILESYNC=システムオプションを使用すると、オペレーティングシステムバッファに一時的に保存されているデータをいつ強制的にディスクに書き込むかを、SAS からオペレーティングシステムに指示できます。影響を受けるのは永続的 SAS ライブラリ内の SAS ファイルのみで、一時ライブラリ内のファイルは影響されません。

デフォルト値の HOST または CLOSE 以外の値を指定すると、次のような変化があります。

- SAS ジョブの実行所要時間が長くなる
- システム障害時にデータが失われる可能性がさらに小さくなる

FILESYNC=システムオプション値をデフォルト値以外の値に変更する前に、システム管理者にお問い合わせください。

z/OS 固有

z/OS では、FILESYNC=システムオプションは UNIX ファイルシステム(UFS)ライブラリ内の SAS ファイルにのみ影響を与えます。詳細については、“FILESYNC= System Option: z/OS” (*SAS Companion for z/OS*) を参照してください。

FIRSTOBS=システムオプション

SAS で最初に処理するオブザベーション番号または外部ファイルレコードを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、**SAS システムオプション** ウィンドウ

カテゴリ: ファイル:SAS ファイル

PROC OPTIONS
GROUP=

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は 1 です。

操作: FIRSTOBS=オプションを指定し、EXTENDOBS COUNTER=YES がデータセットオプションまたは LIBNAME オプションのいずれかとして設定されている場合、2G-1 個以上のオブザベーションを含むデータセットでは、32 ビット環境の方がよいパフォーマンスになる場合があります。詳細については、“Extending the Observation Count for a 32-Bit SAS Data File” (*SAS Language Reference: Concepts*) を参照してください。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ) を参照してください。

構文

FIRSTOBS=*n | nK | nM | nG | nT | hexX | MIN | MAX*

構文の説明

n | nK | nM | nG | nT

最初に処理するオブザベーションまたは外部ファイルレコードの番号を整数 *n* で指定します。いずれかの文字表記を使用すると、整数が特定の値で乗算されます。具体的には、指定表記が K (キロ) の場合は 1,024、M (メガ) の場合は 1,048,576、G (ギガ) の場合は 1,073,741,824、T (テラ) の場合は 1,099,511,627,776 の整数倍になります。たとえば、値 8 では 8 番目のオブザベーションまたはレコード、値 3m では 3,145,728 番目のオブザベーションまたはレコードを示します。

hexX

最初に処理するオブザベーションまたは外部ファイルレコードの番号を 16 進値で指定します。先頭が数値(0 から 9)、末尾が X の値を指定する必要があります。たとえば、値 2dx では 45 番目のオブザベーションが指定されます。

MIN

最初に処理するオブザベーションまたは外部ファイルレコードの番号を 1 に設定します。これがデフォルト設定です。

MAX

最初に処理するオブザベーションの番号を、データセットの最大オブザベーション数または外部ファイルの最大レコード数に設定します。8 バイト符号付き整数の最大値である $2^{63}-1$ (約 920 京オブザベーション)以下の値になります。

詳細

FIRSTOBS=システムオプションは、現在の SAS セッション存続中のすべてのステップで、設定を変更するまで有効です。1 つの SAS データセットでのみ有効にするには、FIRSTOBS=データセットオプションを使用します。

WHERE 処理には FIRSTOBS=処理を適用できます。詳細については、“Processing a Segment of Data That Is Conditionally Selected” (*SAS Language Reference: Concepts*) を参照してください。

比較

- FIRSTOBS=システムオプションは、FIRSTOBS=データセットオプションか、INFILE ステートメントの一部として FIRSTOBS=オプションを優先させて無効にすることができます。
- FIRSTOBS=システムオプションでは処理の開始点を指定するのに対し、OBS=システムオプションでは終了点を指定します。この 2 つのオプションは、多くの場合、処理するオブザベーションまたはレコードの範囲を定義するために一緒に使用されます。

例

FIRSTOBS=50 と指定すると、データセットの 50 番目のオブザベーションが最初に処理されます。

このオプションは、プログラムまたは SAS プロセスで使用されるすべての入力データセットに適用されます。この例では、SAS はデータセット OLD、A および B の 11 番目のオブザベーションから読み込みを開始します。

```
options firstobs=11;
```

```

data a;
  set old; /* 100 observations */
run;
data b;
  set a;
run;
data c;
  set b;
run;

```

データセット OLD には 100 個、データセット A には 90 個、B には 80 個、C には 70 個のオブザベーションがあります。後続のデータセットでオブザベーション数が減るのを避けるには、SET ステートメントに FIRSTOBS=データセットオプションを使用します。DATA ステップと PROC ステップの間で FIRSTOBS=1 にリセットすることもできます。

関連項目:

データセットオプション:

- “FIRSTOBS= Data Set Option” (*SAS Data Set Options: Reference*)

ステートメント:

- “INFILE Statement” (*SAS Statements: Reference*)

システムオプション:

- “OBS=システムオプション” (187 ページ)

FMTERR システムオプション

変数の出力形式が見つからない場合、SAS でエラーを生成するのか、または処理を続行するのかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: 環境コントロール:エラー処理

PROC OPTIONS GROUP= ERRORHANDLING

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は FMTERR です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#) (6 ページ)を参照してください。

構文

FMTERR | NOFMTER

構文の説明

FMTERR

指定された変数の出力形式が見つからない場合、SAS でエラーメッセージを生成し、デフォルトの出力形式に置き換えません。

NOFMTERR

見つからない出力形式をデフォルトの出力形式 *w* または \$*w* で置き換え、NOTE を発行し、処理を続行します。

関連項目:**システムオプション:**

- “FMTSEARCH=システムオプション” (141 ページ)

FMTSEARCH=システムオプション

出力形式カタログを検索する順序を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: 環境コントロール:ファイル

PROC OPTIONS ENVFILES

GROUP=

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は(Work Library)。

要件 カタログ指定は空白で区切る必要があります。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

ヒント: APPEND または INSERT システムオプションを使用すると、さらに *catalog-specification* を追加できます。

構文

FMTSEARCH=(*catalog-specification(s)*)

構文の説明***catalog-specifications***

目的のメンバが見つかるまで、リストの順序で出力形式カタログを検索します。

catalog-specification の値には、次のいずれかを指定できます。

***libref*</LOCALE>**

libref で指定された場所にある FORMATS カタログを検索するように指定します。カタログなしで *libref* が指定されると、FORMATS がデフォルトのカタログ名として使用されます。

/LOCALE を指定すると、現在の SAS ロケールに関連付けられたカタログが検索されてから、FORMATS カタログが検索されます。ロケールカタログ名は、現在のロケールの POSIX ロケール名に基づいています。POSIX ロケール名ごとに、language に 1 つ、language_country に 1 つ、合わせて 2 つのカタログが存在する必要があります。現在の SAS ロケールが English_India の場合、POSIX ロケール名は en_IN になります。2 つのロケールカタログ名として考えられるのは、*libref.FORMATS_en* と *libref.FORMATS_en_IN* です。SAS では、*libref* 内で次のカタログを順序に従って検索します。

1. *libref.FORMATS_language_country*
2. *libref.FORMATS_language*

3. libref.FORMATS

ヒント POSIX ロケール値は、GETPXLOCALE 関数を使用して取得できます。現在の SAS ロケールは、GETLOCENV 関数を使用して取得できます。詳細については、*SAS 各国語サポート(NLS): リファレンスガイド*を参照してください。

参照 POSIX ロケール値と対応する SAS ロケール名のリストについては、
項目 “*LOCALE= Values and Default Settings for ENCODING, PAPERSIZE, DFLANG, and DATESTYLE Options*” (*SAS National Language Support (NLS): Reference Guide*)を参照してください。

libref.catalog</LOCALE>

特定のライブラリとカタログを検索するように指定します。

/LOCALE を指定すると、*libref.catalog* 内で現在の SAS ロケールに関連付けられたカタログが検索されます。ロケールカタログ名は、現在のロケールの POSIX ロケール名に基づいています。POSIX ロケール名ごとに、language に 1 つ、language_country に 1 つ、合わせて 2 つのカタログが存在する必要があります。現在の SAS ロケールが English_India の場合、POSIX ロケール名は en_IN になります。2 つのロケールカタログとして考えられるのは、*libref.catalog_en* と *libref.catalog_en_IN* です。

SAS では、*libref* 内で次のカタログを順序に従って検索します。/LOCALE を指定した場合、次の順序になります。

1. *libref.catalog_language_country*
2. *libref.catalog_language*
3. *libref.catalog*

ヒント POSIX ロケール値は、GETPXLOCALE 関数を使用して取得できます。現在の SAS ロケールは、GETLOCENV 関数を使用して取得できます。詳細については、*SAS 各国語サポート(NLS): リファレンスガイド*を参照してください。

参照 POSIX ロケール値と対応する SAS ロケール名のリストについては、
項目 “*LOCALE= Values and Default Settings for ENCODING, PAPERSIZE, DFLANG, and DATESTYLE Options*” (*SAS National Language Support (NLS): Reference Guide*)を参照してください。

詳細

FMTSEARCH のデフォルト値は(WORK LIBRARY)です。カタログ Work.Formats および Library.Formats は、FMTSEARCH オプションに記述されるかどうかに関係なく、常に検索されます。Work.Formats カタログは、FMTSEARCH オプションに記述されなければ、常に最初に検索されます。Library.Formats カタログは、FMTSEARCH オプションに記述されなければ、2 番目に検索されます。

たとえば、FMTSEARCH=(MYLIB LIBRARY)と指定すると、これらのカタログは、Work.Formats、Mylib.Formats、Library.Formats の順に検索されます。

カタログが FMTSEARCH=リスト内に存在する場合、リストに現れる順序でカタログが検索されます。リスト内のカタログが存在しない場合、その特定のカタログは無視されて、エラーメッセージも警告メッセージも出力されずに検索が続行されます。

例

例 1: デフォルトのライブラリを最初に検索する場合の出力形式カタログの検索順序

FMTSEARCH=(ABC DEF.XYZ GHI)と指定すると、要求された出力形式または入力形式が次の順序で検索されます。

1. Work.Formats
2. LibraryFormats
3. AbcFormats
4. Def.Xyz
5. GhiFormats

例 2: デフォルトのライブラリを最後に検索する場合の出力形式カタログの検索順序

FMTSEARCH=(ABC WORK LIBRARY)と指定すると、次の順序で検索されます。

1. AbcFormats
2. WorkFormats
3. LibraryFormats

WORK は FMTSEARCH リストに存在するため、WorkFormats が自動的に最初に検索されることはありません。

例 3: POSIX ロケール値が指定された場合の出力形式カタログの検索順序

FMTSEARCH=(ABC/LOCALE)と指定し、現在のロケールが German_Germany の場合、次の順序で検索されます。

1. WorkFormats
2. LibraryFormats
3. AbcFormats_de_DE
4. AbcFormats_de
5. AbcFormats

関連項目:

プロジェクト:

- “FORMAT” (*Base SAS Procedures Guide*)

システムオプション:

- “APPEND=システムオプション” (58 ページ)
- “INSERT=システムオプション” (163 ページ)
- “FMTERI システムオプション” (140 ページ)

FONTEMBEDDING システムオプション

ユニバーサルプリンタと SAS/GRAF 印刷でフォント埋め込みを有効にするかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、**SAS システムオプション**ウインドウ

カテゴリ: ログおよびプロシージャ出力コントロール:ODS 印刷

**PROC OPTIONS
GROUP=** ODSPRINT

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は FONTEMBEDDING です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

FONTEMBEDDING | NOFONTEMBEDDING

構文の説明

FONTEMBEDDING

フォント埋め込みを有効にするように指定します。

NOFONTEMBEDDING

フォント埋め込みを無効にするように指定します。

詳細

フォント埋め込みは主にユニバーサル印刷で使用されます。フォント埋め込みをサポートしていないプリンタもあります。使用するプリンタがフォント埋め込みをサポートしているかどうかを確認するには、QDEVICE プロシージャを使用します。SAS ログに **Font Embedding** と表示された場合、そのプリンタはフォント埋め込みをサポートしています。QDEVICE プロシージャの部分的なログ出力を次に示します。

```
369 proc qdevice report=general;
370   printer pdf;
371   run;
```

```
Name: PDF
Description: Portable Document Format Version 1.4
Type: Universal Printer
Registry: SASHELP
Prototype: PDF Version 1.4
Default Typeface: Cumberland AMT
  Font Style: Regular
  Font Weight: Normal
  Font Height: 8 points
Maximum Colors: 16777216
  Visual Color: Direct Color
Color Support: RGBA
  Destination: sasprt.pdf
  I/O Type: DISK
  Data Format: PDF
```

...more registry settings...

Compression Method: FLATE
Font Embedding: Option

FONTEMBEDDING が設定されていると、ユニバーサルプリンタまたは SAS/GRAF で作成された出力ファイルにフォントの埋め込みまたは組み込みができます。フォントが埋め込まれた出力ファイルは、出力ファイルの表示または印刷に使用されるコンピュータにインストールされたフォントに依存しません。PDF や PostScript などのプリンタのベクトル出力では、ファイルサイズが大きくなります。

NOFONTMBEDDING が設定されていると、出力ファイルは、フォントの表示または印刷に使用されるコンピュータにインストールされたフォントに依存します。フォントがコンピュータで見つからない場合、プリンタまたは出力を表示するアプリケーションでフォント置換が行われる可能性があります。イメージ出力は、NOFONTMBEDDING が設定されても影響を受けません。

特定のプリンタで置換されるフォントを確認するには、**印刷設定** ウィンドウまたは QDEVICE プロシージャを使用して印刷設定プロパティを表示します。フォントの下に表示される個々のフォントはプリンタで認識されます。ドキュメント内のそれ以外のすべてのフォントは、SAS レジストリのリンク経由で使用できるフォントも含め、ドキュメントが作成されるときに置換されます。

関連項目:

- *SAS/GRAF: Reference*
- “Universal Printing” (*SAS Language Reference: Concepts*)

FONTRENDERING=システムオプション

SASGDGIF、SASGDTIF および SASGDIMG モジュールをベースにした SAS/GRAF デバイスで、フォントのレンダリングにオペレーティングシステムと FreeType エンジンのどちらを使用するかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシージャ出力コントロール:ODS 印刷

PROC OPTIONS GROUP= ODSPRINT

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は FREETYPE_POINTS です。

制限事項: このオプションは、"Z" で始まるデバイスに対して HOST_PIXELS に設定されます。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ) を参照してください。

構文

FONTRENDERING=HOST_PIXELS | FREETYPE_POINTS

構文の説明

HOST_PIXELS

オペレーティングシステムでフォントをレンダリングし、フォントサイズはピクセル単位で要求されることを指定します。

z/OS 固有 z/OS では、HOST_PIXELS はサポートされていません。If HOST_PIXELS が指定された場合、このオプションの値として FREETYPE_POINTS が使用されます。

FREETYPE_POINTS

FreeType エンジンでフォントをレンダリングし、フォントサイズはポイント単位で要求されることを指定します。

詳細

FONTRENDERING=システムオプションは、SASGDGIF、SASGDTIF および SASGDIMG モジュールをベースにした SAS/GRAPH デバイスでのフォントレンダリング方法を指定するために使用します。オペレーティングシステムでフォントをレンダリングする場合、フォントサイズはピクセル単位で要求されます。FreeType エンジンでフォントをレンダリングする場合、フォントサイズはポイント単位で要求されます。

SAS/GRAPH デバイスで使用されるモジュールを確認するには GDEVICE プロシージャを使用します。

```
proc gdevice c=sashelp.devices browse nofs;
  list devicename;
quit;
```

次に例を示します。

```
proc gdevice c=sashelp.devices browse nofs;
  list gif;
quit;
```

GDEVICE プロシージャの部分的な出力を次に示します。

GDEVICE procedure Listing	
from SASHELP.DEVICES - Entry GIF Orig Driver:GIF	Module:
SASGDGIF Model: 6031 Description:GIF File	
Format	Type:EXPORT *** Institute-supplied *** Lrows:
43 Xmax: 8.333 IN Hsize: 0.000 IN Xpixels: 800 Lcols:88	
Ymax: 6.250 IN Vsize: 0.000 IN Ypixels: 600 Prows:	
0 Horigin:0.000 IN Pcols: 0	Vorigin:
0.000 IN Aspect: 0.000 Rotate:Driver query:Y	
Queued messages:N Paperfeed: 0.000 IN	

Module エントリに表示されているのがデバイスで使用されるモジュールです。

関連項目:

“Specifying Fonts in SAS/GRAPH Programs” (*SAS/GRAPH: Reference*)

FONTSLOC=システムオプション

SAS で提供されるフォントの場所を指定し、FONTREG プロシージャを使用してフォントを登録するためのデフォルトのフォントファイルの場所の名前を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: 環境コントロール:表示

ログおよびプロシージャ出力コントロール:ODS 印刷

PROC OPTIONS GROUP= ENVDISPLAY

ODSPRINT

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

参照項目: “FONTSLOC System Option: UNIX” (*SAS Companion for UNIX Environments*)
 “FONTSLOC System Option: Windows” (*SAS Companion for Windows*)
 “FONTSLOC= System Option: z/OS” (*SAS Companion for z/OS*)

構文

FONTSLOC=<">*location*<">

構文の説明***location***

ファイル参照名、または SAS セッション中に使用される SAS フォントの場所を指定します。

要件 *location* は、引用符で囲む必要があります。ファイル参照名を引用符で囲まないでください。

FORMCHAR=システムオプション

デフォルトの出力フォーマッティング文字を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシージャ出力コントロール:プロシージャ出力

PROC OPTIONS LISTCONTROL
GROUP=

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

参照項目: “FORMCHAR System Option: Windows” (*SAS Companion for Windows*)

構文

FORMCHAR= '*formatting-characters*'

構文の説明**'*formatting-characters*'**

最大 64 バイト長の文字列または文字列のリストを指定します。64 バイト未満が指定された場合、文字列の右側に空白が埋め込まれます。

ヒント ドキュメントを別のコンピュータに移動しても一貫した結果を得るには、LISTING 出力先以外の ODS 出力先を使用する前に、次の OPTIONS ステートメントを発行します。

```
options formchar="|----|+|---+=|-/\<>*";
```

詳細

フォーマッティング文字は、FREQ、REPORT、TABULATE プロシージャなど、さまざまなプロシージャでテーブル形式の出力の外枠線と分割線を作成するのに使用されます。プロシージャでフォーマッティング文字をオプションとして指定しないと、FORMCHAR=システムオプションで指定されたデフォルトの仕様が使用されます。フォーマッティング文字として 16 進表現の文字定数も指定できます。このオプションで 16 進表現の定数を使用する場合、16 進表現の定数値がオペレーティングシステムに応じて適切に解釈されます。

注: 標準形式文字を使用したときに行と列の分割線と外枠線の付いたテーブル形式のレポートが明瞭に印刷されるようにするには、次のリソースを使用する必要があります。

- SAS Monospace または SAS Monospace Bold フォントのいずれか
- TrueType フォントをサポートするプリンタ

関連項目:

- Base SAS プロシージャでのフォーマッティング文字の使用に関する詳細については、*Base SAS プロシージャガイド*を参照してください。フォーマッティング文字を使用する他の製品のプロシージャについては、その製品のドキュメントを参照してください。
- “The SAS Registry” (*SAS Language Reference: Concepts*)

FORMDLIM=システムオプション

LISTING 出力先の SAS 出力で改ページを区切る文字を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシージャ出力コントロール:プロシージャ出力

PROC OPTIONS
GROUP= LISTCONTROL

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

FORMDLIM='*delimiting-character*'

構文の説明

'*delimiting-character*'

ページを区切るために書き込まれる文字を引用符で囲んで指定します。通常、区切り文字は次のステートメントのように null です。

```
options formdlim='';
```

詳細

区切り文字が null の場合、改ページが行われると常に新しい物理ページが開始します。ただし、同じページに複数のページ出力を表示できるようにして用紙を節約するこ

ともできます。たとえば、次のステートメントは、通常は改ページが行われる場所にハイフンの行(--)を書き込みます。

```
options formdlim='--';
```

新しいページを開始するとき、SAS では 1 行をスキップし、ページ幅いっぱいに繰り返すハイフンで構成される行を書き込み、さらに 1 行スキップします。新しい物理ページの先頭ではスキップは行われません。FORMDLIM=を null にリセットすると、物理ページが再び通常どおりに書き込まれます。

FORMS=システムオプション

用紙を印刷に使用する場合、使用するデフォルトの用紙を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: 環境コントロール:表示

ログおよびプロシージャ出力コントロール:プロシージャ出力

PROC OPTIONS

GROUP= ENVDISPLAY

LISTCONTROL

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は DEFAULT です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

FORMS=*form-name*

構文の説明

form-name

用紙の名前を指定します。

ヒント カスタマイズした用紙を作成するには、ウィンドウ環境で FSFORM コマンドを使用します。

詳細

デフォルトの用紙には、プリンタの選択、テキスト本文、余白など、対話型ウィンドウ出力のさまざまな要素をコントロールする設定が含まれます。FORMS=システムオプションではまた、PRINT コマンドの出力(FORM=の省略時)または対話型ウィンドウプロシージャの出力もカスタマイズされます。

HELPBROWSER=システムオプション

ブラウザを SAS ヘルプと ODS 出力に使用するように指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: 環境コントロール:ヘルプ

PROC OPTIONS

GROUP= HELP

- デフォルト:** Windows 32 ビット動作環境の場合、出荷時のデフォルト値は SAS。 UNIX, z/OS および Windows 64 ビット動作環境の場合、出荷時のデフォルト値は REMOTE。
- 注:** サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。
-

構文

HELPBROWSER=REMOTE | SAS

構文の説明

REMOTE

リモートブラウザをヘルプに使用するように指定します。リモートブラウザの場所は、HELPHOST および HELPPORT システムオプションによって決定されます。

SAS

SAS ブラウザをヘルプに使用するように指定します。

関連項目:

- “Viewing Output and Help in the SAS Remote Browser” (*SAS Companion for UNIX Environments*)
- “Viewing Output and Help in the SAS Remote Browser” (*SAS Companion for Windows*)

システムオプション:

- “[HELPHOST システムオプション](#)”(151 ページ)
- “[HELPPORT=システムオプション](#)”(152 ページ)

HELPENCMD システムオプション

コマンドラインヘルプで英語バージョンと翻訳バージョンのどちらのキーワードリストを使用するかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: 環境コントロール:ヘルプ

**PROC OPTIONS
GROUP=** HELP

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は HELPENCMD です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

HELPENCMD | NOHELPENCMD

構文の説明

HELPENCMD

インデックスには翻訳されたキーワードが引き続き表示されますが、コマンドラインヘルプで英語バージョンのキーワードリストを使用するように指定します。

NOHELPENCMD

コマンドラインヘルプでキーワードリストの翻訳バージョンがあれば使用するように指定します。

詳細

コマンドラインヘルプでローカライズされた用語を使用してキーワードを検索する場合は、NOHELPENCMD を設定します。デフォルトでは、コマンドラインのすべての用語は英語として読み取られます。

関連項目:

システムオプション:

- “HELPINDEX System Option: Windows” (*SAS Companion for Windows*)
- “HELPINDEX System Option: UNIX” (*SAS Companion for UNIX Environments*)
- “HELPLOC System Option: Windows” (*SAS Companion for Windows*)
- “HELPLOC System Option: UNIX” (*SAS Companion for UNIX Environments*)
- “HELPLOC= System Option: z/OS” (*SAS Companion for z/OS*)
- “HELPTOC System Option: Windows” (*SAS Companion for Windows*)
- “HELPTOC System Option: UNIX” (*SAS Companion for UNIX Environments*)

HELPHOST システムオプション

リモートブラウザによるヘルプと ODS 出力の送信先となるコンピュータの名前を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ
カテゴリ: 環境コントロール:ヘルプ

PROC OPTIONS GROUP= HELP

参照項目: “HELPHOST System Option: UNIX” (*SAS Companion for UNIX Environments*)
“HELPHOST System Option: Windows” (*SAS Companion for Windows*)
“HELPHOST System Option: z/OS” (*SAS Companion for z/OS*)

構文

HELPHOST="host"

構文の説明

"host"

リモートヘルプが表示されるコンピュータの名前を指定します。引用符またはかっこが必要です。最大文字数は 2,048 です。

詳細

動作環境の情報

HELPHOST オプションを指定しない場合、ヘルプが表示される場所は動作環境に依存します。動作環境向けドキュメントの HELPHOST システムオプションを参照してください。

関連項目:

- [xisError - link not found - The element p02qv3y2k4myim17y0zwkg261to was not found in the link database](#)
- “Viewing Output and Help in the SAS Remote Browser” (*SAS Companion for UNIX Environments*)
- “Viewing Output and Help in the SAS Remote Browser ” (*SAS Companion for Windows*)

システムオプション:

- “HELPBROWSER=システムオプション” (149 ページ)
- “HELPPORT=システムオプション” (152 ページ)

HELPPORT=システムオプション

リモートブラウザクライアント用のポート番号を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: 環境コントロール:ヘルプ

**PROC OPTIONS
GROUP=** HELP

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は 0 です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

HELPPORT=*port-number*

構文の説明

port-number

SAS リモートブラウザサーバー用のポート番号を指定します。

範囲 0-65535

詳細

HELPPORT が 0 に設定されていると、リモートブラウザサーバー用のデフォルトポート番号が使用されます。

関連項目:

- [xisError - link not found - The element p02qv3y2k4myirn17y0zwkg261to was not found in the link database](#)
- “Viewing Output and Help in the SAS Remote Browser” (*SAS Companion for UNIX Environments*)
- “Viewing Output and Help in the SAS Remote Browser ” (*SAS Companion for Windows*)

システムオプション:

- “[HELPBROWSER=システムオプション](#)” (149 ページ)
- “[HELPHOST システムオプション](#)” (151 ページ)

HOSTINFO LONG システムオプション

SAS 開始時に動作環境の追加情報を SAS ログに出力する指定です。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: ログおよびプロシージャ出力コントロール:SAS ログ

**PROC OPTIONS
GROUP=** LOGCONTROL

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は HOSTINFO LONG です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

[HOSTINFO LONG | NOHOSTINFO LONG](#)

構文の説明

HOSTINFO LONG

SAS 開始時に動作環境の追加情報を SAS ログに出力する指定です。

NOHOSTINFO LONG

SAS 開始時に動作環境の追加情報を SAS ログに出力しない指定です。

詳細

HOSTINFO LONG が指定されている場合、SAS は動作環境に関する追加情報を SAS ログに書き込みます。例を次に示します。

```
NOTE:Copyright (c) 2002-2012 by SAS Institute Inc., Cary, NC, USA.NOTE:SAS (r)
Proprietary Software 9.4 (TS04.01B0P09062012) Licensed to SAS Institute Inc.,
Site 1.NOTE:This session is executing on the HP-UX B.11.31 (HP IPF)
platform.NOTE:Running on HP Model ia64 Serial Number 0861848586.NOTE:Updated
analytical products:SAS/OR 12.1 NOTE:Additional host information:HP HP-UX HP IPF
B.11.31 U ia64
```

関連項目:

- “Customizing the Log” (*SAS Language Reference: Concepts*)

システムオプション:

- “CPUID システムオプション” (96 ページ)

HTTPSERVERPORTMAX=システムオプション

SAS HTTP サーバーでリモートブラウズに使用可能な最大のポート番号を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: コミュニケーション:ネットワークと暗号化

PROC OPTIONS GROUP= COMMUNICATIONS

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は 0 です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ) を参照してください。

構文

HTTPSERVERPORTMAX=*max-port-number*

構文の説明

max-port-number

SAS HTTP サーバーでリモートブラウズに使用可能な最大のポート番号を指定します。

範囲 0-65535

詳細

HTTPSERVERPORTMAX=および HTTPSERVERPORTMIN=システムオプションは、SAS と HTTP サーバーの間にファイアウォールが構成されている場合に、リモートブラウズの HTTP サーバーで動的なポート番号割り当てに使用できるポート値の範囲を指定するために使用します。

関連項目:**システムオプション:**

- “[HTTPSERVERPORTMIN=システムオプション](#)” (154 ページ)

HTTPSERVERPORTMIN=システムオプション

SAS HTTP サーバーでリモートブラウズに使用可能な最小のポート番号を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ:	コミュニケーション:ネットワークと暗号化
PROC OPTIONS GROUP=	COMMUNICATIONS
デフォルト:	出荷時のデフォルト値は 0 です。
注:	サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“制限されたオプション”(6 ページ)を参照してください。

構文

HTTPSERVERPORTMIN=*min-port-number*

構文の説明

min-port-number

SAS HTTP サーバーでリモートブラウズに使用可能な最小のポート番号を指定します。

範囲 0-65535

詳細

HTTPSERVERPORTMIN および HTTPSERVERPORTMAX システムオプションは、SAS と HTTP サーバーの間にファイアウォールが構成されている場合に、リモートブラウザの HTTP サーバーで動的なポート番号割り当てに使用できるポート値の範囲を指定するために使用します。

関連項目:

システムオプション:

- “HTTPSERVERPORTMAX=システムオプション”(154 ページ)

IBUFNO=システムオプション

インデックスファイルのナビゲーション用に割り当てる追加バッファ数を指定します(省略可能)。

該当要素:	構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ
カテゴリ:	ファイル:SAS ファイル
PROC OPTIONS GROUP=	SASFILES
デフォルト:	出荷時のデフォルト値は 0 です。
注:	サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“制限されたオプション”(6 ページ)を参照してください。

構文

IBUFNO=*n | nK | nM | nG | nT | hexX | MIN | MAX*

構文の説明

n | nK | nM | nG | nT

割り当てる追加インデックスバッファ数を 1(バイト)、1,024(キロバイト)、1,048,576(メガバイト)、1,073,741,824(ギガバイト)、1,099,511,627,776(テラバイト)のいずれかの倍数で指定します。たとえば、値 8 では 8 個のバッファ、値 3k では 3,072 個のバッファが指定されます。

制限事項 最大値は、10,000 です。

hexX

追加インデックスバッファ数を 16 進値で指定します。先頭が数値(0 から 9)、末尾が X の値を指定する必要があります。たとえば、値 2dx では 45 個のバッファが指定されます。

MIN

追加インデックスバッファ数を 0 に設定します。

MAX

追加インデックスバッファの最大数を 10,000 に設定します。

詳細

インデックスは、特定のオブザベーションに直接アクセスできるように、SAS データファイルに対して作成可能な SAS ファイルです(省略可能)。インデックスファイルは、ツリーモデルなど、階層レベルに編成されるエントリで構成され、ポインタによって接続されます。WHERE 挿入などの要求の処理にインデックスが使用されると、SAS によりインデックスファイルでバイナリ検索が実行され、適合した値が含まれる最初のエントリにインデックスが位置付けられます。SAS は、値の識別子を使用して、値が含まれるオブザベーションに直接アクセスします。SAS では、インデックスが実際に使用されるときにバッファ用のメモリが必要になります。バッファは、SAS でインデックスが使用されない限り必要ありませんが、インデックスの使用に備えて割り当てておく必要があります。

SAS では、インデックスファイルをナビゲートするために、最小数のバッファを自動的に割り当てます。通常、追加バッファを指定する必要はありません。ただし、IBUFNO=を使用すると、特定のインデックスファイルに必要な入力/出力(I/O)操作の数を制限して、実行時間を改善できます。ただし、実行時間が改善するかわりにメモリ消費が増えます。

バッファのシステムオプションの最適値は、使用する動作環境に依存します。さまざまなバッファサイズで実際に検証を行い、これらのシステムオプションの最適値を決定します。

注: インデックスファイルに割り当てられたバッファが少なすぎると処理速度が低下する一方で、割り当てたインデックスバッファ数が多くても処理速度の問題が発生します。最適なインデックスバッファ数を判別するには、実際に試してみることが最も効果的です。たとえば、ibufno=3、次に ibufno=4 というように、満足のいく処理速度結果が出る最小バッファ数が見つかるまで試します。

関連項目:

- “Understanding SAS Indexes” (*SAS Language Reference: Concepts*)

システムオプション:

- “IBUFSIZE=システムオプション” (157 ページ)

IBUFSIZE=システムオプション

インデックスファイルのバッファサイズを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: ファイル:SAS ファイル

**PROC OPTIONS
GROUP=** SASFILES

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は 0 です。

制限事項: インデックスファイルの作成前にページサイズを指定します。インデックスファイルの作成後はページサイズを変更できません。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#) (6 ページ)を参照してください。

構文

IBUFSIZE=*n* | *nK* | *nM* | *nG* | *nT* | *hexX* | MAX

構文の説明

n | *nK* | *nM* | *nG* | *nT*

処理するバッファサイズを 1 (バイト)、1,024 (キロバイト)、1,048,576 (メガバイト)、1,073,741,824 (ギガバイト)、1,099,511,627,776 (テラバイト) のいずれかの倍数で指定します。たとえば、値 8 では 8 バイト、値 3k では 3,072 バイトが指定されます。値を 0 にすると、SAS が動作環境に最適なバッファサイズの最小値を使用します。

hexX

バッファサイズを 16 進値で指定します。先頭が数値(0 から 9)、末尾が X の値を指定する必要があります。たとえば、値 2dx ではページサイズが 45 バイトに設定されます。

MAX

インデックスファイルのバッファサイズを最大可能な値に設定します。IBUFSIZE= では、この値は 32,767 バイトです。

詳細

インデックスは、特定のオブザベーションに直接アクセスできるように、SAS データファイルに対して作成可能な SAS ファイルです(省略可能)。インデックスファイルは、ツリーフォルダなど、階層レベルに編成されるエントリで構成され、ポインタによって接続されます。WHERE 处理などの要求の処理にインデックスが使用されると、SAS は要求されたレコードを迅速に見つけるためインデックスファイルを検索します。

通常、インデックスバッファサイズを指定する必要はありません。ただし、次の状況では異なるバッファサイズが必要な場合があります。

- バッファサイズはインデックスのレベル数に影響します。バッファ数が多いほど、インデックスのレベル数も多くなります。レベル数が多くなると、インデックスの検索にかかる時間が長くなります。バッファサイズを大きくすると、各バッファにはより多くのインデックス値を保存できるようになります。バッファ数(およびレベル数)を減らせます。そのインデックスに必要なバッファの数は、バッファサイズ、インデックス値の長さおよび値自体によって異なります。インデックスのレベル数を減らした場合

に節約できる主なリソースは I/O です。アプリケーションでインデックスファイルに I/O が多数発生する場合、バッファサイズを増やすことが役に立つ可能性があります。ただし、バッファサイズを増やした後はインデックスを再作成する必要があります。

- インデックスファイル構造では、ページに少なくとも 3 つのインデックス値を保存する必要があります。インデックス値の長さが非常に大きい場合、3 つのインデックス値を保持するにはバッファサイズが小さすぎるためインデックスを作成できないことを示すエラーメッセージが表示される場合があります。このエラーは、バッファサイズを増やすことで解消されます。

バッファのシステムオプションの最適値は、使用する動作環境に依存します。さまざまなバッファサイズで実際に検証を行い、これらのシステムオプションの最適値を決定します。

関連項目:

- “Understanding SAS Indexes” (*SAS Language Reference: Concepts*)

システムオプション:

- “IBUFNO=システムオプション” (155 ページ)

IML PACKAGE PRIVATE=システムオプション(評価版)

個人用コレクションの SAS/IML パッケージのディレクトリを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: 環境コントロール:ファイル

**PROC OPTIONS
GROUP=** ENVFILES

デフォルト: 出荷時のデフォルト: なし。これらの値は構成ファイルに設定されています。

Windows: "?FOLDERID_Documents\My SAS Files\IML\Packages"

UNIX: ~/sas/iml/packages

z/OS: ~/sas/iml/packages

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#) (6 ページ) を参照してください。

構文

IML PACKAGE PRIVATE=*directory-path*

構文の説明

directory-path

個人用コレクションの SAS/IML パッケージの保存ディレクトリを指定します。個人用コレクションのパッケージは、現在のユーザーのみ使用できます。このオプションで指定されるディレクトリはユーザーごとに異なる必要があります。

長さ 最大文字数は 1,024 文字です

ヒント 引用符で *directory-path* を囲むことをお勧めします。

例 -imlpackageprivate="?FOLDERID_Documents\My SAS Files\IML\Packages"

関連項目:

- “*Packages*” - *SAS/IML User's Guide*

システムオプション:

- “IML PACKAGE PUBLIC=システムオプション(評価版)” (159 ページ)
- “IML PACKAGE SYSTEM=システムオプション(評価版)” (160 ページ)

IML PACKAGE PUBLIC=システムオプション(評価版)

パブリックコレクションの SAS/IML パッケージのディレクトリを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: 環境コントロール:ファイル

PROC OPTIONS GROUP= ENVFILES

デフォルト: 出荷時のデフォルト: なし。次のデフォルトが構成ファイルに設定されています。

Windows: "?FOLDERID_ProgramData\SAS\IML\Packages"

UNIX:/opt/sas/iml/packages

z/OS:/opt/sas/iml/packages

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

IML PACKAGE PUBLIC=*directory-path*

構文説明

directory-path

パブリックコレクションの SAS/IML パッケージの保存ディレクトリを指定します。パブリックコレクションのパッケージは、システムのすべてのユーザーが利用できます。*directory-path* は、すべてのユーザーがアクセスできる必要があります。

長さ 最大文字数は 1,024 文字です

ヒント 引用符で *directory-path* を囲むことをお勧めします。

例 -imlpackagepublic="c:\IMLPublicPackages"

関連項目:

- “*Packages*” - *SAS/IML User's Guide*

システムオプション:

- “IML PACKAGEPRIVATE=システムオプション(評価版)” (158 ページ)
- “IML PACKAGESYSTEM=システムオプション(評価版)” (160 ページ)

IML PACKAGESYSTEM=システムオプション(評価版)

SAS/IML の一部としてインストールされるパッケージのディレクトリを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: 環境コントロール:ファイル

PROC OPTIONS ENVFILES
GROUP=

デフォルト: 出荷時のデフォルト: なし。次のデフォルトが構成ファイルに設定されています。
Windows:"!SASROOT\iml\sasmisc\packages"
UNIX:!SASROOT/misc/iml/packages
z/OS:!SASROOT/misc/iml/packages

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ) を参照してください。

構文

IML PACKAGESYSTEM=*directory-path*

構文の説明

directory-path

システムコレクションの SAS/IML パッケージの保存ディレクトリを指定します。システムコレクションのパッケージは SAS/IML の一部としてインストールされ、システムのすべてのユーザーが利用できます。

長さ 最大文字数は 1,024 文字です

ヒント 引用符で *directory-path* を囲むことをお勧めします。

例 -imlpackagesystem="!SASROOT\iml\sasmisc\packages"

関連項目:

- “*Packages*” - *SAS/IML User's Guide*

システムオプション:

- “IML PACKAGEPRIVATE=システムオプション(評価版)” (158 ページ)
- “IML PACKAGEPUBLIC=システムオプション(評価版)” (159 ページ)

INITCMD システムオプション

SAS 起動時、AUTOEXEC=ファイルおよび INITSTMT オプションの処理後に SAS が実行する、アプリケーション起動コマンドとオプションの SAS ウィンドウ環境、またはテキストエディタコマンドを指定します。

該当要素:	構成ファイル、SAS 起動時
カテゴリ:	環境コントロール:初期化および操作
PROC OPTIONS GROUP=	EXECMODES
注:	サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、“ 制限されたオプション ”(6 ページ)を参照してください。

構文

INITCMD "*command-1* <*windowing-command-n*>"

構文の説明

command-1

アプリケーションウィンドウを起動する SAS コマンドを指定します。有効値として次のようなものがあります。

AF	LAB
ANALYST	MINER
ASSIST	PHCLINICAL
DESIGN	PHKINETICS
EIS	PROJMAN
FORECAST	QUERY
GRAPH	RUNEIS
HELP	SQC
IMAGE	XADX.

制限事項 *command-1* に FORECAST を指定する場合は、*windowing-command-n* を使用できません。

windowing-command-n

有効なウィンドウコマンドまたはテキストエディタコマンドを指定します。複数のコマンドはセミコロンで区切れます。これらのコマンドは順序どおりに処理されます。BYE コマンドなど、フローに影響を与えるウィンドウ環境を使用する場合、処理が遅延または禁止される場合があります。

制限 アプリケーションの初期化中、つまり自動実行ファイルの初期化中に、SAS 事項 ステートメントまたはコマンドをサブミットするアプリケーションのコマンドを 入力する場合は、*windowing-command-n* 引数を使用しないでください。

詳細

INITCMD システムオプションによって、ログウィンドウ、アウトプットウィンドウ、プログラムエディタウィンドウ、エクスプローラーウィンドウが表示されなくなるため、最初に表示される画面はアプリケーションウィンドウです。表示されないウィンドウも有効化できます。ログ出力を表示用に転送するには、ALTLOG オプションを使用します。ウィンドウが自動実行ファイルまたは INITSTMT オプションで開始される場合、INITCMD オプションで表示されるウィンドウは最後に表示されます。INITCMD オプションで起動されたアプリケーションを終了すると、SAS セッションが終了します。

INITCMD オプションはウィンドウ環境でのみ使用できます。それ以外の場合、オプションは無視され、警告メッセージが発行されます。*command-l* が有効なコマンドではない場合、オプションは無視され、警告メッセージが発行されます。

次の SAS 実行モード起動オプションは、上から順に、このオプションより優先順位が高くなっています。

1. OBJECTSERVER.
2. DMR
3. SYSIN

優先順位が同等の別の実行モード起動オプションと一緒に INITCMD を指定すると、最後に表示されるオプションのみが使用されます。起動オプションの優先順位の詳細については、“[優先順位](#)”(16 ページ)を参照してください。

例

```
INITCMD "AFA c=mylib.myapp.primary.frame dsname=a.b"
INITCMD "ASSIST; FSVIEW SASUSER.CLASS"
```

INITSTMT=システムオプション

SAS ステートメントを、AUTOEXEC=ファイルのすべてのステートメントより後、かつ SYSIN=ファイルのすべてのステートメントより前に実行するように指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: 環境コントロール:初期化および操作

PROC OPTIONS EXECMODES

GROUP=

別名: IS=

注: サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

参照項目: INITSTMT=システムオプション(Windows の場合)

構文

INITSTMT='statement'

構文の説明

'statement'

SAS ステートメントを指定します。

要件 *statement* は、ステップ境界で実行できる必要があります。

比較

INITSTMT=では、SAS ステートメントを SAS 初期化時に実行するように指定し、TERMSTMT=システムオプションでは、SAS ステートメントを SAS 終了時に実行するように指定します。

例

UNIX でのこのオプションの使用例を次に示します。

```
sas -initstmt '%put you have used the initstmt; data x; x=1;
run;'
```

関連項目:

システムオプション:

- “TERMSTMT=システムオプション”(280 ページ)

INSERT=システムオプション

指定した値を指定したシステムオプションの先頭の値として挿入します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: 環境コントロール:ファイル

**PROC OPTIONS
GROUP=** ENVFILES

注: サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

参照項目: SAS 起動時に使用する構文については、動作環境向けドキュメントを参照してください。

“INSERT System Option: UNIX”(SAS Companion for UNIX Environments)

“INSERT System Option: Windows”(SAS Companion for Windows)

“INSERT= System Option: z/OS”(SAS Companion for z/OS)

構文

INSERT=(*system-option-1=argument-1 <system-option-2=argument-2 ...>*)

構文の説明

system-option

AUTOEXEC、CMPLIB、FMTSEARCH、HELPLOC、MAPS、MSG、
SASAUTOS、SASHELP、SASSCRIPT、SET のいずれかを指定できます。

注 これらのオプションの一部は、SAS 起動時にのみ使用できます。これらのオプションを INSERT=オプションで指定できるのは、INSERT=オプションが構成ファイルまたは SAS コマンドに指定されている場合のみです。

argument

system-option の先頭の値として挿入する新しい値を指定します。

argument は、*system-option* が OPTIONS ステートメントを使用して設定されている場合、*system-option* に指定可能な値になります。

詳細

AUTOEXEC、CMPLIB、FMTSEARCH、HELPLOC、MAPS、MSG、SASAUTOS、
SASHELP、SASSCRIPT、SET システムオプションで新しい値を指定すると、新しい値

でオプションの値が置き換えられます。INSERT=システムオプションを使用すると、値を置き換える代わりに、オプションの先頭の値として値をオプションに追加できます。

SAS 起動時に使用可能なシステムオプションを含む、INSERT=システムオプションと APPEND=システムオプションでサポートされるシステムオプションのリストについては、次の OPTIONS プロシージャをサブミットします。

```
proc options listinsertappend;
run;
```

比較

INSERT=システムオプションでは、AUTOEXEC、CMPLIB、FMTSEARCH、HELPLOC、MAPS、MSG、SASAUTOS、SASHELP、SASSCRIPT、SET システムオプションの現在の値の先頭に新しい値を追加されます。APPEND=システムオプションでは、これらのシステムオプションの末尾に新しい値が追加されます。

例

次の表に、FMTSEARCH=オプション値の先頭に値を追加した結果を示します。

現在の FMTSEARCH=値	INSERT=システムオプション の値	新しい FMTSEARCH=値
(WORK LIBRARY)	(fmtsearch=(abc def))	(ABC DEF WORK LIBRARY)

関連項目:

- “[INSERT システムオプションと APPEND システムオプションを使用したオプション値の変更](#)” (12 ページ)

システムオプション:

- “[APPEND=システムオプション](#)” (58 ページ)
- “APPEND System Option: UNIX” (*SAS Companion for UNIX Environments*)
- “APPEND System Option: Windows” (*SAS Companion for Windows*)
- “APPEND= System Option: z/OS” (*SAS Companion for z/OS*)

INTERVALDS=システムオプション

1 つ以上の間隔の名前/値ペアを指定します。この値は、ユーザー定義の間隔を含む SAS データセットです。間隔は INTNX および INTCK 関数の引数として使用できます。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: 入力コントロール:データ処理

PROC OPTIONS INPUTCONTROL
GROUP=

要件 間隔/値ペアのセットはかっこで囲む必要があります。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

**INTERVALDS=(*interval-1=libref.dataset-name-1*
<interval-2=libref.dataset-name-2 ...>)**

構文の説明

interval

間隔名を指定します。*interval* の値は、*libref.dataset-name* で指定される間隔のセットを表すために使用されます。

制限事項 *interval* には、予約 SAS 名は使用できません。

要件	複数の間隔を指定する場合、間隔名を別の間隔と同じ名前にはできません。
-----------	------------------------------------

libref.dataset-name

ユーザー定義の間隔を含むファイルのライブラリ参照名とデータセット名を指定します。

詳細

INTCK 関数と INTNX 関数では、*interval* を関数の引数リストにある間隔名として指定して、ユーザー定義の間隔名が付いたデータセットを参照します。

同じ *libref.dataset-name* を異なる間隔に割り当てるすることができます。INTERVALDS システムオプションに同じ名前の複数の *interval* が定義されている場合、エラーが発生します。

例

この例では、SAS コマンドラインまたは構成ファイルで間隔に 1 つのデータセットを割り当てます。

```
-intervalds (mycompany=mycompany.storeHours)
```

次の例では、OPTIONS ステートメントを使用して複数の間隔を割り当てます。間隔 subsid1 と subsid2 は、同じライブラリ参照名とデータセット名に割り当てられています。

```
options intervalds=(mycompany=mycompany.storeHours  

    subsid1=subsid.storeHours subsid2=subsid.storeHours);
```

関連項目:

- “Custom Time Intervals” (*SAS/ETS User’s Guide*)
- “About Date and Time Intervals” (*SAS Language Reference: Concepts*)

関数:

- “INTCK Function” (*SAS Functions and CALL Routines: Reference*)
- “INTNX Function” (*SAS Functions and CALL Routines: Reference*)

INVALIDDATA=システムオプション

無効な数値データが発生したときに SAS で変数に割り当てる値を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: 入力コントロール:データ処理

**PROC OPTIONS
GROUP=** INPUTCONTROL

デフォルト: 出荷時のデフォルト値はピリオド(.)です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

INVALIDDATA='*character*'

構文の説明

'*character*'

割り当てる値を指定します。英字(A から Z、a から z)、ピリオド(.)、アンダースコア(_)を使用できます。

詳細

INVALIDDATA=システムオプションでは、無効な数値データが INPUT ステートメントまたは INPUT 関数で読み込まれたときに、SAS で変数に割り当てる値を指定します。

JPEGQUALITY=システムオプション

SAS/GRAF JPEG デバイスドライバによって生成される JPEG ファイルの圧縮レベルに対する、イメージ品質の比率を決定する JPEG 品質係数を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシージャ出力コントロール:ODS 印刷

**PROC OPTIONS
GROUP=** ODSPRINT

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は 75 です。

注: DEVICE グラフィックオプションが JPEG に設定されていない場合、このオプションは無視されます。

サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

JPEGQUALITY=*n* | MIN | MAX

構文の説明

n

JPEG 品質係数を示す整数を指定します。イメージの品質は、数値を大きくすると向上し、小さくすると低下します。JPEG ファイルは、高品質のイメージでは圧縮率が低くなります。そのため、高品質のイメージでは JPEG ファイルサイズは大きくなります。たとえば、 $n=100$ では圧縮は行われず、イメージ品質が最も高くなります。 $n=0$ の場合、最大圧縮レベルで最も低い品質のイメージが生成されます。

範囲 0–100

MIN

JPEG 品質係数を 0 に設定するように指定します。これは最も低いイメージ品質で、最大レベルのファイル圧縮です。

MAX

JPEG 品質係数を 100 に設定するように指定します。これは最も高いイメージ品質で、ファイルは圧縮されません。

詳細

最適な品質値はイメージによって異なります。デフォルト値の 75 は、圧縮ファイル内のイメージ品質の最適化に使用する開始値として適しています。望ましいイメージ品質になるまで値を増やしたり減らしたりできます。50 から 95 の値で最適な品質のイメージが生成されます。

値が 24 以下の場合、一部のビューアではその JPEG ファイルを表示できない可能性があります。このようなファイルを作成した場合、SAS によって次の注意が SAS ログに書き込まれます。

Caution: quantization tables are too coarse for baseline JPEG.

関連項目:

“Using Graphics Devices” (*SAS/GPGRAPH: Reference*)

LABEL システムオプション

SAS プロシージャで変数ラベルを使用できるかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシージャ出力コントロール:プロシージャ出力

PROC OPTIONS GROUP= LISTCONTROL

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は LABEL です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

LABEL | NOLABEL

構文の説明

LABEL

SAS プロシージャで変数ラベルを使用できるように指定します。プロシージャの LABEL オプションを使用するには、LABEL システムオプションが有効になっている必要があります。

NOLABEL

SAS プロシージャで変数ラベルを使用できないように指定します。NOLABEL が指定されている場合、プロシージャの LABEL オプションは無視されます。

詳細

label は、変数の名前のかわりに特定のプロシージャで書き込みできる 256 文字までの文字列です。

関連項目:

データセットオプション:

- “LABEL= Data Set Option” (*SAS Data Set Options: Reference*)

ステートメント:

- “ODS PROCLABEL Statement” (*SAS Output Delivery System: User's Guide*)

LABELCHKPT システムオプション

ラベル付きコードセクションのチェックポイント-再開データをバッチプログラムで記録するかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: 環境コントロール:エラー処理

PROC OPTIONS GROUP= ERRORHANDLING

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は NOLABELCHKPT です。

制限事項: LABELCHKPT システムオプションは、SAS 開始時に STEPCHKPT システムオプションが指定されていない場合にのみ指定できます。

チェックポイントモードは、SAS にコマンドをサブミットする DM ステートメントを含むバッチプログラムでは無効です。チェックポイントモードが有効になっていて SAS で DM ステートメントが検出された場合、チェックポイントモードが無効にされ、チェックポイントカタログエントリが削除されて警告が SAS ログに書き込まれます。

要件 このオプションは、バッチモードでのみ使用できます。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

[LABELCHKPT | NOLABELCHKPT](#)

構文の説明

LABELCHKPT

ラベル付きコードセクションのチェックポイントモードを有効にします。これにより、チェックポイント-再開データが記録されます。

NOLABELCHKPT

ラベル付きコードセクションのチェックポイントモードを無効にします。チェックポイント-再開データは記録されません。

詳細

LABELCHKPT システムオプションを使用することで、バッチで実行する SAS プログラムで SAS がチェックポイントモードになります。ラベルが検出されるたびに、SAS はチェックポイント-再開ライブラリにデータを記録します。プログラムが完了せずに終了した場合、プログラムが終了されたときに実行していたラベル付きコードセクションで開始するようにプログラムを再サブミットできます。

チェックポイント-再開データを確実に正確にするには、ERRORCHECK STRICT オプションを指定して ERRORABEND オプションを設定します。これらのオプションを設定することで、ほとんどのエラーが発生した場合に SAS が終了されます。

SAS はラベル付きコードセクションまたは DATA ステップと PROC ステップのいずれかのチェックポイント-再開モードで実行できますが、両方で実行することはできません。

比較

LABELCHKPT システムオプションは、完了前に終了したバッチプログラムでラベル付きコードセクションのチェックポイントモードを有効にします。エラーが発生したときに実行されていたラベル付きコードセクションで実行が再開されます。

STEPCHKPT システムオプションは、完了前に終了したバッチプログラムで DATA ステップと PROC ステップのチェックポイントモードを有効にします。エラーが発生したときに実行されていた DATA ステップまたは PROC ステップで実行が再開されます。

関連項目:

- “Checkpoint Mode and Restart Mode” (*SAS Language Reference: Concepts*)

ステートメント:

- “CHECKPOINT EXECUTE_ALWAYS Statement” (*SAS Statements: Reference*)

システムオプション:

- “CHKPTCLEAN システムオプション” (80 ページ)
- “LABELCHKPTLIB=システムオプション” (169 ページ)
- “LABELRESTART システムオプション” (171 ページ)
- “STEPCHKPT システムオプション” (250 ページ)

LABELCHKPTLIB=システムオプション

ラベル付きコードセクションのチェックポイント-再開データを保存するライブラリのライブラリ参照名を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ:	環境コントロール:エラー処理
PROC OPTIONS GROUP=	ERRORHANDLING
デフォルト:	出荷時のデフォルト値は Work です。
制限事項:	LABELCHKPTLIB=システムオプションは、SAS 開始時に STEPCHKPT システムオプションが指定されていない場合にのみ指定できます。
要件	このオプションは、バッチモードでのみ使用できます。
注:	サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“ 制限されたオプション ”(6 ページ)を参照してください。

構文

LABELCHKPTLIB=*libref*

構文の説明

libref

チェックポイント-再開データを保存するライブラリを識別するライブラリ参照名を指定します。

要件 チェックポイント-再開ライブラリを識別する LIBNAME ステートメントは、BASE エンジンを使用し、バッチプログラムの最初のステートメントである必要があります。

詳細

LABELCHKPT システムオプションが指定されている場合、バッチプログラムのラベル付きコードセクションのチェックポイント-再開データは、LABELCHKPTLIB=システムオプションで指定されたライブラリ参照名に保存されます。ライブラリ参照名が指定されていない場合、SAS は Work ライブラリを使用してチェックポイントデータを保存します。ライブラリ参照名を定義する LIBNAME ステートメントは、バッチプログラムの最初のステートメントである必要があります。

チェックポイントデータの保存に Work ライブラリを使用する場合、NOWORKTERM および NOWORKINIT システムオプションを指定する必要があります。これらのオプションを設定した場合、バッチプログラムが再サブミットされたときにチェックポイント-再開データを使用できます。これら 2 つのオプションによって、Work ライブラリが確実に SAS の終了時に保存され、SAS の起動時に復元されます。NOWORKTERM オプションが指定されていない場合、Work ライブラリは SAS セッションの最後に削除され、チェックポイント-再開データは失われます。NOWORKINIT オプションが指定されていない場合、新しい Work ライブラリが SAS の起動時に作成され、この場合もチェックポイント-再開データは失われます。

LABELCHKPTLIB=オプションは、ラベルポイントで収集されて Work ライブラリには保存されないチェックポイント-再開データにアクセスする、すべての SAS セッションで指定する必要があります。

動作環境の情報

Work ライブラリが UNIX または z/OS 動作環境の UNIX ディレクトリ内に存在していて CLEANWORK ユーティリティを実行する場合、Work ライブラリディレクトリとその内容は、SAS セッションの終了後にユーティリティが実行されたときに削除されます。z/OS 動作環境で SAS をバッチモードで実行する場合、通常、Work ライブラリは SAS ジョブの最後に削除される一時データセットに割り当てられます。この

のような場合にチェックポイント-再開データを保持するには、STEPCHKPTLIB オプションの値に永久ライブラリを指定します。

比較

LABELCKPT システムオプションが設定されている場合、LABELCHKPTLIB システムオプションによって指定されたライブラリで、ラベル付きコードセクションのチェックポイント-再開データを保存するライブラリ名が指定されます。LABELRESTART システムオプションが設定されている場合、LABELCHKPTLIB システムオプションによって指定されたライブラリで、ラベル付きコードセクションの実行の再開に使用されるチェックポイント-再開データのライブラリ名が指定されます。

STEPCHKPT システムオプションが設定されている場合、STEPCHKPTLIB システムオプションによって指定されたライブラリで、DATA ステップと PROC ステップのチェックポイント-再開データを保存するライブラリ名が指定されます。STEPRESTART システムオプションが設定されている場合、STEPCHKPTLIB システムオプションによって指定されたライブラリで、DATA ステップと PROC ステップの実行の再開に使用されるチェックポイント-再開データのライブラリ名が指定されます。

関連項目:

- “Checkpoint Mode and Restart Mode” (*SAS Language Reference: Concepts*)

ステートメント:

- “CHECKPOINT EXECUTE_ALWAYS Statement” (*SAS Statements: Reference*)

システムオプション:

- “LABELCHKPT システムオプション” (168 ページ)
- “LABELRESTART システムオプション” (171 ページ)
- “STEPCHKPT システムオプション” (250 ページ)
- “WORKINIT システムオプション” (313 ページ)
- “WORKTERM システムオプション” (314 ページ)

LABELRESTART システムオプション

ラベル付きコードセクションで収集したデータのチェックポイント-再開データを使用してバッチプログラムを実行するかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: 環境コントロール:エラー処理

PROC OPTIONS **GROUP=** ERRORHANDLING

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は NOLABELRESTART です。

制限事項: LABELRESTART システムオプションは、SAS 開始時に STEPCHKPT システムオプションが指定されていない場合にのみ指定できます。

要件: このオプションは、バッチモードでのみ使用できます。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#) (6 ページ)を参照してください。

構文

LABELRESTART | NOLABELRESTART

構文の説明

LABELRESTART

再開モードを有効にし、チェックポイント-再開データを使用してバッチプログラムが実行されるように指定します。

NOLABELRESTART

再開モードを無効にし、チェックポイント-再開データを使用してバッチプログラムが実行されないように指定します。

詳細

ラベル付きコードセクションのチェックポイントモードで実行して完了前に終了したバッチプログラムを再サブミットするときに、LABELRESTART オプションを指定します。バッチプログラムを再サブミットすると、チェックポイントデータから、プログラムが終了されたときに実行中だったラベルが判断されます。バッチプログラムをそのラベルから実行してプログラムが再開されます。

比較

LABELRESTART オプションを指定すると、ラベル付きコードセクションのチェックポイント-再開データを使用してバッチプログラムの実行が再開されます。

STEPRESTART オプションを指定すると、DATA ステップと PROC ステップのチェックポイント-再開データを使用してバッチプログラムの実行が再開されます。

関連項目:

- “Checkpoint Mode and Restart Mode” (*SAS Language Reference: Concepts*)

ステートメント:

- “CHECKPOINT EXECUTE_ALWAYS Statement” (*SAS Statements: Reference*)

システムオプション:

- “CHKPTCLEAN システムオプション” (80 ページ)
- “LABELCHKPT システムオプション” (168 ページ)
- “LABELCHKPTLIB=システムオプション” (169 ページ)
- “STEPCHKPT システムオプション” (250 ページ)
- “STEPRESTART システムオプション” (253 ページ)

LAST=システムオプション

最後に作成されたデータセットを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: ファイル:SAS ファイル

PROC OPTIONS SASFILES

GROUP=

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は`_NULL_`です。

制限事項: `_LAST_=`は、データセットオプションでは指定できません。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

`_LAST_=SAS-data-set`

構文の説明

SAS-data-set

SAS データセット名を指定します。

**制限
事項** データセットオプションは使用できません。

ヒント 引用符で囲まれた文字列ではなく、*libref.membername* または *membername* 構文を使用して SAS データセット名を指定します。引用または名前リテラル(n リテラル)の指定が必要な構文でのメンバ名をサポートする SAS/ACCESS エンジンにライブラリ参照名またはメンバ名が関連付けられている場合、*libref.membername* または *membername* 構文で引用符を使用できます。詳細については、*SAS/ACCESS for Relational Databases: Reference* を参照してください。

詳細

デフォルトでは、SAS は最後に作成された SAS データセットを自動的に追跡します。`_LAST_=`システムオプションを優先させてデフォルト値を無効にできます。

LEFTMARGIN=システムオプション

ページの左側の印刷余白を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシージャ出力コントロール:ODS 印刷

PROC OPTIONS ODSPRINT

GROUP=

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は 0.000 in です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

LEFTMARGIN=*margin-size**<margin-unit>*

構文の説明

margin-size

左の印刷余白のサイズを指定します。

制限事項 左の余白は、左右の余白の合計が用紙の幅よりも小さくなるようなサイズで指定する必要があります。

操作 このオプションの値を変更すると、LINESIZE=システムオプションの値が変更される可能性があります。

<margin-unit>

余白サイズの単位を指定します。margin-unit には、*in*(インチ)または*cm*(センチメートル)を使用できます。<margin-unit>は、指定されているかどうかに関わらず、LEFTMARGIN システムオプションの値の一部として保存されます。

デフォルト インチ

詳細

すべての余白には、プリンタと用紙サイズに応じた最小値があります。

関連項目:

- “Printing with SAS” (*SAS Language Reference: Concepts*)
- “Understanding ODS Destinations” (*SAS Output Delivery System: User's Guide*)

システムオプション:

- “BOTTOMMARGIN=システムオプション” (65 ページ)
- “LINESIZE=システムオプション” (174 ページ)
- “RIGHTMARGIN=システムオプション” (229 ページ)
- “TOPMARGIN=システムオプション” (285 ページ)

LINESIZE=システムオプション

SAS ログと SAS プロシージャ出力の行サイズを指定します。

- 該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ
 カテゴリ: ログおよびプロシージャ出力コントロール:SAS ログおよびプロシージャ出力
 ログおよびプロシージャ出力コントロール:SAS ログ
 ログおよびプロシージャ出力コントロール:プロシージャ出力

PROC OPTIONS **LOG_LISTCONTROL**
GROUP= **LISTCONTROL**
 LOGCONTROL

別名: LS=

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は 78 です。SAS の起動時に、値は実行モードに基づいて設定されます。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ) を参照してください。

参照項目: “LINESIZE System Option: UNIX” (*SAS Companion for UNIX Environments*)、
“LINESIZE System Option: Windows” (*SAS Companion for Windows*)、
“LINESIZE= System Option: z/OS” (*SAS Companion for z/OS*)

構文

LINESIZE=*n* | MIN | MAX | *hexX*

構文の説明

n

1 行の文字数を指定します。

MIN

1 行の文字数を 64 に設定します。

MAX

1 行の文字数を 256 に設定します。

hexX

1 行の文字数を 16 進数で指定します。先頭が数値(0 から 9)、末尾が X の値を指定する必要があります。たとえば、値 0FAx では SAS プロシージャ出力の行サイズが 250 に設定されます。

詳細

LINESIZE=システムオプションは、DATA ステップおよびプロシージャで使用される SAS ログおよび SAS 出力の行サイズ(プリンタの行幅)を文字数で指定します。LINESIZE=システムオプションは、次の出力に影響します。

- ODS LISTING 出力先のアウトプットウィンドウ
- FILE ステートメント出力先が PRINT になっている DATA ステップによって ODS マークアップ出力先に生成される出力(FILE PRINT ODS ステートメントは LINESIZE=システムオプションの影響を受けません)
- PLOT プロシージャ、CALENDAR プロシージャ、TIMEPLOT プロシージャ、FORMS プロシージャ、CHART プロシージャなど、調整できない文字のみを生成するプロシージャ

関連項目:

“The SAS Log” (*SAS Language Reference: Concepts*)

LOGPARM=システムオプション

SAS ログファイルを開くタイミング、閉じるタイミング、および LOG=システムオプションと連動して命名する方法を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: ログおよびプロシージャ出力コントロール:SAS ログ

PROC OPTIONS
GROUP= LOGCONTROL

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は WRITE=BUFFERED ROLLOVER=NONE OPEN=REPLACE です。

制限事項: LOGPARM=はラインモードおよびバッチモードでのみ有効ですが、1つ例外があります。ウィンドウ環境では、LOGPARM=WRITE=IMMEDIATE を指定して、ALTLOG=システムオプションで指定したファイルにコンテンツを書き込みます。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

参照項目: “LOGPARM= System Option: z/OS” (*SAS Companion for z/OS*)

構文

```
LOGPARM=<OPEN= APPEND | REPLACE | REPLACEOLD>
<ROLLOVER= AUTO | NONE | SESSION | n | nK | nM | nG>
< WRITE= BUFFERED | IMMEDIATE> "
```

構文の説明

OPEN=APPEND | REPLACE | REPLACEOLD

ログファイルがすでに存在する場合、既存のファイル内容の処理方法を指定します。

APPEND

既存のファイルを開くときにログを追加します。ファイルが存在しない場合は、新しいファイルが作成されます。

REPLACE

既存のファイルを開くときに現在の内容を上書きします。ファイルが存在しない場合は、新しいファイルが作成されます。

REPLACEOLD

2 日以上経過したファイルを置き換えます。ファイルが存在しない場合は、新しいファイルが作成されます。

デフォルト REPLACE

z/OS 固有 OPEN=REPLACEOLD の使用の制限については、動作環境向け SAS ドキュメントを参照してください。

ROLLOVER=AUTO|NONE|SESSION | n | nK | nM | nG

SAS ログを“ロールオーバー”するタイミングまたはロールオーバーするかどうかを指定します。つまり、現在のログが閉じられ新しいログが開かれるタイミングです。

AUTO

LOG=オプションの値のディレクティブが変更されたときに、自動的にログの“ロールオーバー”が発生します。つまり、現在のログが閉じられて新しいログファイルが開かれます。

制限事項 ロールオーバーは 1 分間に 1 回のみ発生します。

操作 ロールオーバーは LOG=オプションの値の変更によってトリガされます。

新しいログファイルの名前は、LOG=システムオプションの値によって決定されます。ただし、LOG=にディレクティブが含まれていない場合は名前が変更されることはないため、ROLLOVER=AUTO が設定されている場合でもログのロールオーバーは発生しません。

NONE

LOG=オプションで指定された名前が変更された場合でも、ロールオーバーが発生しないように指定します。

操作 LOG=値にディレクティブが含まれている場合、ディレクティブは解決されません。たとえば、Log="#b.log"が指定されている場合、ディレクティブ "#"は解決されず、ログファイルの名前は"#b.log"のままになります。

SESSION

各 SAS セッションの開始時にログファイルを開き、LOG=システムオプションで指定されたディレクティブを解決し、その解決された値を使用して新しいログファイルを命名します。セッションの進行中にロールオーバーは実行されません。

n | nK | nM | nG

ログが 1 (バイト)、1,024 (キロバイト)、1,048,576 (メガバイト)、1,073,741,824 (ギガバイト) のいずれかの倍数で指定されたサイズに達したときに、ログのロールオーバーが発生します。ログは指定されたサイズに達したときに閉じられ、ログファイル名、および存在する場合はサーバーログのロックファイル名に“old”が追加されます。たとえば、mylog.log のファイル名は mylogold.log に変更されます。新しいログファイルは、LOG=オプションで指定された名前を使用して開かれます。

制限事項 最小ログファイルサイズは、10K です。

操作 サイズによってロールオーバーが発生し、LOG=値にディレクティブが含まれている場合、ディレクティブは解決されません。たとえば、Log="#b.log"が指定されている場合、ディレクティブ "#" は解決されず、ログファイルの名前は "#b.log" のままになります。

z/OS 固有 ROLLOVER=n は、z/OS データセットのログではサポートされていません。ROLLOVER=n は、UNIX File Systems (UFS) のログではサポートされていません。

注 ROLLOVER=n を使用してファイルがロールオーバーされた場合、OPEN=パラメータは無視され、OPEN=APPEND を使用して最初のログファイルが開かれます。

参照項目 “Rolling Over the SAS Log” (*SAS Language Reference: Concepts*)

注意 古いログファイルは上書きされる可能性があります。SAS は開かれたログファイルと同じ名前の 1 つの古いログファイルのみを保持します。複数回ロールオーバーが発生した場合、古いログファイルは上書きされます。

デフォルト

NONE

参照項目 “LOG System Option: UNIX” (*SAS Companion for UNIX Environments*)

“LOG System Option: Windows” (*SAS Companion for Windows*)

“LOG= System Option: z/OS” (*SAS Companion for z/OS*)

WRITE=BUFFERED | IMMEDIATE

内容が SAS ログに書き込まれるタイミングを指定します。

BUFFERED

効率性を高めるため、バッファがいっぱいになったときにのみ SAS ログに内容を書き込みます。

IMMEDIATE

SAS ログの内容を生成するステートメントがサブミットされるたびに、SAS ログに書き込まれます。SAS はログメッセージをバッファしません。

操作 この引数は、SAS が ALTLOG=システムオプションを使用して開始された場合のウインドウ環境で有効です。コンテンツは ALTLOG=システムオプションで指定されたファイルと SAS ログには書き込まれます。

デフォルト BUFFERED

Windows 固有 SAS で指定された間隔を使用して、バッファされたログの内容が定期的に書き込まれます。

詳細

LOGPARM=システムオプションは、SAS がバッチモードまたはラインモードで実行されているときに SAS ログファイルを開いたり閉じたりすることを制御します。また、このオプションは LOG=システムオプションと連動して LOG=の値のディレクティブを使用し、新しいログファイルの命名も制御します。

LOG=システムオプションの値のディレクティブを使用することで、時間、月および曜日などの実際の時間イベントに基づいて、ログを開いたり閉じたりするタイミングとその命名方法を制御できます。

動作環境の情報

Windows および UNIX 動作環境の場合、ディレクティブは%記号または#記号のいずれかで開始し、同じディレクティブに両方の記号を使用できます。たとえば、このログ指定では%と#記号の両方を-log=mylog%b#C.log のように使用します。z/OS の場合は、ディレクティブの開始は#記号のみです。たとえば、このログ指定では#記号のみを-log=mylog%b#C.log のように使用します。

次の表に、LOG=値で有効なディレクティブのリストを示します。

表 4.1 SAS ログファイルの名前を制御するディレクティブ

ディレクティブ	説明	範囲
%a または#a	ロケールの短縮された曜日	Sun–Sat
%A または#a	ロケールの完全な曜日	Sunday–Saturday
%b または#b	ロケールの短縮された月	Jan–Dec
%B または#B	ロケールの完全な月	January–December
%C または#C	年の上 2 桁	00–99
%d または#d	月の日	01–31
%H または#H	時	00–23

ディレクティブ	説明	範囲
%j または#j	ユリウス日	001-366
%l または#l *	ユーザー名	SAS を起動したユーザーの名前を表す英数字の文字列
%M または#M	分	00-59
%m または#m	月の番号	01-12
%n または#n	現在のシステムノード名 (ドメイン名なし)	なし
%p または#p *	プロセス ID	SAS セッションプロセス ID を表す英数字の文字列
%P または#P	Sysin ファイル名(.sas 拡張子なし)	なし
%s または#s	秒	00-59
%u または#u	曜日	1=Monday-7=Sunday
%v または#v *	一意の識別子	現在存在しないログファイル名を作成する英数字の文字列
%w または#w	曜日	0=Sunday-6=Saturday
%W または#W	週数(月曜日を週の始まりとし、新年の最初の月曜日より前の日はすべて週 00)	00-53
%y または#y	年の下 2 衡	00-99
%Y または#Y	完全な年	1970-9999
%%	パーセントエスケープはログファイル名に 1 つのパーセント記号を書き出します。	%
##	シャープエスケープはログファイル名に 1 つのシャープ記号を書き出します。	#

* %v、%l および%p は時間ベースの出力形式ではないため、ログファイル名が生成後に変更されることはありません。そのため、ログはロールオーバーされません。このような場合、ROLLOVER=AUTO の指定は ROLLOVER=SESSION の指定と同等です。

動作環境の情報

z/OS でのログファイル名の長さの制限については、z/OS 版 SAS を参照してください。

注: LOG=システムオプションで指定するディレクティブは、ログ機能のログの出力形式を指定する変換文字とは異なります。ディレクティブはログ名の出力形式を指定します。変換文字はログメッセージの出力形式を指定します。同じ文字を使用するディレクティブと変換文字の機能は異なる可能性があります。

注: SAS をバッチモードまたはサーバーモードで起動し、LOGCONFIGLOC=オプションが指定されている場合、SAS ログ機能によってログが記録されます。従来の SAS ログオプション LOGPARM=は無視されます。従来の SAS ログオプション LOG=は、%S{App.Log} 変換文字がログ構成ファイルで指定されている場合にのみ適用されます。詳細については、“The SAS Logging Facility” (*SAS Logging: Configuration and Programming Reference*)を参照してください。

例

動作環境の情報

LOGPARM=システムオプションは、SAS が呼び出されたときに実行されます。サイトで SAS を呼び出した場合、構文の形式はサイトの動作環境に固有です。詳細については、動作環境向け SAS ドキュメントを参照してください。

特定の時間にログをロールオーバーし、ディレクティブを使用して時間に応じたログ名を付ける

このコマンドが 9:43 AM にサブミットされた場合、この例では test0943.log という名前のログファイルが作成され、ログファイル名が変更されるたびにログのロールオーバーが発生します。この例では、9:44 AM に test0943.log ファイルが閉じられ、test0944.log ファイルが開かれます。

```
sas -log "test%H%M.log" -logparm "rollover=auto"
```

ログのロールオーバーを防ぎ、ディレクティブを使用してログ名を付ける

9:34 AM に開始する SAS セッションの場合、この例では test0934.log という名前のログファイルが作成され、ログファイルのロールオーバーは実行されません。

```
sas -log "test%H%M.log" -logparm "rollover=session"
```

ログのロールオーバーを防ぎ、ディレクティブの解決を防ぐ

この例では、test%H%M.log という名前のログファイルを作成してディレクティブを無視し、セッション中にログファイルがロールオーバーされないようにします。

```
sas -log "test%H%M.log" -logparm "rollover=none"
```

一意の識別子でログファイルを作成する

この例では、一意の識別子を使用して一意の名前のログファイルを作成します。

```
sas -log "test%v.log" -logparm "rollover=session"
```

SAS はディレクティブ%v を process_IDvn で置き換えます。process_ID はオペレーティングシステムによって決定される数値のプロセス ID で、n は 1 で開始する整数です。process_ID と n の間にある文字 v は常に小文字です。

この例では、process_ID は 3755 です。ファイルが存在しない場合、SAS は test3755v1.log の名前でログファイルを作成します。test3755v1.log が存在する場合、SAS は n を 1 ずつ増分してログファイルの作成を試行し、ログファイルが作成されるまでこの処理を続行します。たとえば、ファイル test3755v1.log が存在する場合、SAS はファイル test3755v2.log の作成を試行します。

SAS を起動したユーザー名を使用してログファイル名を付ける

この例では、SAS セッションを開始したユーザー名を含むログファイル名を作成します。

```
sas -log "%l.log" -logparm "rollover=session";
```

関連項目:

“The SAS Log” (*SAS Language Reference: Concepts*)

LRECL=システムオプション

外部ファイルの読み込みと書き込みに使用するデフォルトの論理レコード長を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、**SAS システムオプション** ウィンドウ

カテゴリ: ファイル:外部ファイル

PROC OPTIONS EXTFILES

GROUP=

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は 32767 です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” ([6 ページ](#))を参照してください。

構文

LRECL=*n* | *nK* | *hexX* | MIN | MAX

構文の説明

n

論理レコード長を 1 (バイト)または 1,024 (キロバイト)の倍数で指定します。たとえば、値 32 では 32 バイト、値 16k では 16,384 バイトが指定されます。

デフォルト 固定長レコード(RECFM=F)を使用している場合、LRECL のデフォルト値は 256 です。

範囲 1–32767

hexX

論理レコード長を 16 進値で指定します。先頭が数値(0 から 9)、末尾が X の値を指定する必要があります。たとえば、値 2dx では論理レコード長が 45 文字に設定されます。

MIN

論理レコード長を 1 に指定します。

MAX

論理レコード長を 32,767 に指定します。

詳細

外部ファイルの読み込みまたは書き込みの論理レコード長は、最初に個々のファイルの読み込みと書き込みに使用されるアクセスメソッドステートメント、関数、コマンドの LRECL=オプション、または z/OS 動作環境の DDName 値によって判断されます。論理レコード長がこれらのどの手段でも指定されない場合は、LRECL=システムオプションで指定する値が使用されます。

LRECL=システムオプションには、任意の大きな値を指定しないようにします。このオプションの値を大きくすると、メモリが過剰に使用され、処理速度が低下する可能性があります。

z/OS 固有

LRECL=システムオプションは、ネイティブ z/OS ファイルの読み書きには適用されません。

MERGENOBY システムオプション

関連付けられた BY ステートメントを使用せずに MERGE 処理が行われるときに発行されるメッセージの種類を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: ファイル:SAS ファイル

**PROC OPTIONS
GROUP=** SASFILES

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は NOWARN です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

MERGENOBY= [NOWARN](#) | [WARN](#) | [ERROR](#)

構文の説明

NOWARN

警告メッセージが発行されないように指定します。

WARN

警告メッセージが発行されるように指定します。

ERROR

エラーメッセージが発行されるように指定します。

MISSING=システムオプション

欠損数値のかわりに印刷する文字を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシージャ出力コントロール:SAS ログおよびプロシージャ出力

ログおよびプロシージャ出力コントロール:SAS ログ

ログおよびプロシージャ出力コントロール:プロシージャ出力

**PROC OPTIONS
GROUP=** LOG_LISTCONTROL
LISTCONTROL
LOGCONTROL

デフォルト: 出荷時のデフォルト値はピリオド(.)です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

MISSING=<'>*character*<'>

構文の説明

character

印刷する値を指定します。値にはどの文字でも指定できます。一重または二重引用符は省略可能です。

制限事項 '00'x は *character* に有効な値ではありません。

詳細

MISSING=システムオプションは、.A や.Z などの特殊欠損値には適用されません。

関連項目:

“The SAS Log” (*SAS Language Reference: Concepts*)

MSGLEVEL=システムオプション

SAS ログに書き込まれるメッセージの詳細のレベルを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、**SAS システムオプション** ウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシージャ出力コントロール:SAS ログ

PROC OPTIONS
GROUP= LOGCONTROL

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は N です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

MSGLEVEL=N | I

構文の説明

N

NOTE、警告、CEDA メッセージ、エラーメッセージのみが印刷されるように指定します。

I

標準の NOTE、警告、CEDA メッセージ、エラーメッセージに加え、インデックスの使用、マージ処理、並べ替えユーティリティ、Hadoop MapReduce ジョブに関する追加 NOTE が印刷されるように指定します。

注 SAS 9.4 のメンテナンスリリース 2 から、I 引数は Hadoop MapReduce ジョブの追加情報を印刷します。

詳細

MSGLEVEL=システムオプションが適用される状況には、次のようなものがあります。

- MSGLEVEL=I の場合、インデックス処理についての通知メッセージが SAS ログに書き込まれます。一般には、インデックスが使用されているデータセットに対して WHERE 式が実行されると、次の情報が SAS ログに表示されます。
- インデックスが使用されている場合は、インデックスの名前を示すメッセージが表示されます。
- インデックスが使用されていないが、WHERE 式の少なくとも 1 つの条件を最適化できるインデックスが存在する場合は、そのインデックスを使用すると SAS にどのような影響があるかを説明する提案がメッセージに含まれます。たとえば、データセットをインデックス順に並べ替えたり、バッファをさらに指定することを提案される場合があります。
- 設定がインデックス処理に影響する可能性がある場合は、メッセージには IDXWHERE=または IDXNAME=データセットオプション値が表示されます。
- MSGLEVEL=I の場合、MERGE ステートメントによって変数が上書きされる場合には、警告メッセージが SAS ログに書き込まれます。
- MSGLEVEL=I の場合、使用された並べ替え製品を示すメッセージが書き込まれます。
- MSGLEVEL=I の場合、SAS では、Hadoop MapReduce ジョブ情報が書き込まれます。
- アプリケーションによる SAS/SERVE サーバーへのクエリに関する通知メッセージについては、SAS/SERVE サーバーが実行されている SAS セッションに MSGLEVEL=I を設定する必要があります。メッセージは、SAS/SERVE サーバーが実行されている SAS セッションの SAS ログに書き込まれます。

関連項目:

“The SAS Log” (*SAS Language Reference: Concepts*)

MULTENVAPPL システムオプション

SAS アプリケーションフォントの選択ウィンドウで選択できるフォントとして、すべての動作環境で使用できる SAS フォントのみを表示するかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント

カテゴリ: 環境コントロール:初期化および操作

**PROC OPTIONS
GROUP=** EXECMODES

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は NOMULTENVAPPL です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

MULTENVAPPL | NOMULTENVAPPL

構文の説明

MULTENVAPPL

アプリケーションフォントの選択ウィンドウに SAS フォントのみが表示されるように指定します。

NOMULTENVAPPL

アプリケーションフォントの選択ウィンドウに動作環境フォントのみが表示されるよう指定します。

詳細

MULTENVAPPL システムオプションを使用すると、SAS/AF、SAS/FSP、SAS/EIS、SAS/GIS などのフォントの選択ウィンドウをサポートするアプリケーションで、すべての動作環境でサポートされる SAS フォントを選択できるようになります。SAS フォントを選択すると、すべての動作環境でアプリケーションの移植性を確保できます。

NOMULTENVAPPL が有効なとき、アプリケーションフォントの選択ウィンドウには、動作環境に固有のフォントのみが表示されます。SAS では動作環境フォントのサイズ変更が必要な場合があり、テキストが読みにくくなる可能性があります。アプリケーションが別の環境に移植され、そのフォントが使用できない場合は、動作環境によってフォントが選択されます。

NEWS=システムオプション

SAS ログのヘッダーの直後に書き込まれるメッセージを含む外部ファイルを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: 環境コントロール:ファイル
ログおよびプロシージャ出力コントロール:SAS ログ

PROC OPTIONS ENVFILES

GROUP= LOGCONTROL

動作環境: 一般に、構文は動作環境のコマンドライン構文と一貫性が保たれます。追加または代替の句読点が含まれることがあります。詳細については、動作環境に関する SAS のドキュメントを参照してください。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション \(6 ページ\)](#)”を参照してください。

参照項目: “NEWS System Option: UNIX” (*SAS Companion for UNIX Environments*)、
“NEWS System Option: Windows” (*SAS Companion for Windows*)

構文

NEWS=*external-file*

構文の説明

external-file

外部ファイルを指定します。

動作環境 有効なファイルの指定と構文は、動作環境に固有です。一般に、構文は動作環境のコマンドライン構文と一貫性が保たれます。追加または代替の句読点が含まれることがあります。詳細については、動作環境に関する SAS のドキュメントを参照してください。

詳細

NEWS ファイルには、SAS に関するニュース項目も含め、使用に関する情報を含めることができます。

NEWS ファイルの内容は、SAS ログの SAS ヘッダーの直後に書き込まれます。

関連項目:

“The SAS Log” (*SAS Language Reference: Concepts*)

NOTES システムオプション

NOTE が SAS ログに書き込まれるかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシージャ出力コントロール:SAS ログ

**PROC OPTIONS
GROUP=** LOGCONTROL

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は NOTES です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ) を参照してください。

構文

NOTES | NONOTES

構文の説明

NOTES

NOTE が SAS ログに書き込まれるように指定します。

NONOTES

NOTE が SAS ログに書き込まれないように指定します。NONOTES によって、エラーおよび警告メッセージが非表示にはなりません。

詳細

問題の特定と解決のために SAS に送信する SAS プログラムに NOTES を指定する必要があります。

関連項目:

“The SAS Log” (*SAS Language Reference: Concepts*)

NUMBER システムオプション

SAS 出力の各ページのタイトル行にページ番号を印刷するかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシージャ出力コントロール:SAS ログおよびプロシージャ出力

ログおよびプロシージャ出力コントロール:SAS ログ

ログおよびプロシージャ出力コントロール:プロシージャ出力

PROC OPTIONS
GROUP= LOG_LISTCONTROL
LISTCONTROL
LOGCONTROL

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は NUMBER です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

NUMBER | NONUMBER

構文の説明

NUMBER

SAS 出力の各ページの最初のタイトル行にページ番号が印刷されるように指定します。

NONUMBER

SAS 出力の各ページの最初のタイトル行にページ番号が印刷されないように指定します。

関連項目:

“The SAS Log” (*SAS Language Reference: Concepts*)

OBS=システムオプション

最後に処理するオブザベーションを判断するために使用するオブザベーションを指定するか、最後に処理するレコードを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: ファイル:SAS ファイル

PROC OPTIONS
GROUP= SASFILES

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は $2^{63}-1$ (およそ 920 京)です。

操作: OBS=オプションを指定し、EXTENDOBS COUNTER=YES がデータセットオプションまたは LIBNAME オプションのいずれかとして設定されている場合、2G-1 個以上のオブザベーションを含むデータセットでは、32 ビット環境の方がよいパフォーマンスになる場合があります。詳細については、“Extending the Observation Count for a 32-Bit SAS Data File” (*SAS Language Reference: Concepts*)を参照してください。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

参照項目: “OBS System Option: UNIX” (*SAS Companion for UNIX Environments*)
“OBS System Option: Windows” (*SAS Companion for Windows*)

構文

OBS=n | nK | nM | nG | nT | hexX | MIN | MAX

構文の説明

n | nK | nM | nG | nT

処理を停止するタイミングを示す数を整数 *n* で指定します。いずれかの文字表記を使用すると、整数が特定の値で乗算されます。具体的には、指定表記が K (キロ) の場合は 1,024、M (メガ) の場合は 1,048,576、G (ギガ) の場合は 1,073,741,824、T (テラ) の場合は 1,099,511,627,776 の整数倍になります。たとえば、20 は 20 個のオブザベーションまたはレコードを示しますが、値 3m は 3,145,728 個のオブザベーションまたはレコードを示します。

hexX

処理を停止するタイミングを示す数を 16 進値で指定します。先頭が数値(0 から 9)、末尾が X の値を指定する必要があります。たとえば、10 進値の 248 に相当する 16 進値 F8 を指定するには、`0F8x` と指定する必要があります。値 `2dx` では、10 進値での 45 が指定されます。

MIN

処理を停止するタイミングを示す数を 0 に設定します。

操作 OBS=0 で NOREPLACE オプションが有効になっている場合、オブザベーションを使用せずに、実際にはプログラムで各 DATA ステップと PROC ステップが実行されるため、SAS は特定の操作を実行できます。たとえば、ライブラリまたは SAS データセットを処理する、CONTENTS および DATASETS などのプロシージャを実行します。また、外部ファイルは開いて閉じられます。したがって、OBS=0 を指定した場合でも、プログラムによって PUT ステートメントを使用して外部ファイルに書き込まれるときに、ファイルの終端記号が書き込まれ、ファイル中の既存のデータは削除されます。

MAX

処理を停止するタイミングを示す数をデータセット内の最大オブザベーションまたはレコード数に設定します。8 バイト符号付き整数の最大値である $2^{63}-1$ (約 920 京)以下の値になります。

詳細

OBS= では、オブザベーションまたはレコードの処理を停止するタイミングを SAS に指示します。処理を停止するタイミングを判断するため、SAS は計算式で OBS= の値を使用します。この計算式には OBS= の値と FIRSTOBS= の値が含まれます。式は次のとおりです。

```
(obs - firstobs) + 1 = results
```

たとえば、OBS=10 で FIRSTOBS=1 (FIRSTOBS= のデフォルト値) の場合、結果は $(10 - 1) + 1 = 10$ で 10 個のオブザベーションまたはレコードになります。OBS=10 で FIRSTOBS=2 の場合、結果は $(10 - 2) + 1 = 9$ で 9 個のオブザベーションまたはレコードになります。

OBS= は、現在の SAS セッション中のすべてのステップに対して、または設定を変更するまで有効です。

また、PROC ステップの SAS データセットの分析を制御するために OBS= を使用することもできます。

SAS で生データファイルが処理されている場合、OBS= は最後に読み込むデータの行を指定します。複数の SAS データセットのオブザベーションの生データが 1 行に入力されている場合でも、SAS では入力データの 1 行が 1 個のオブザベーションとして数えられます。

比較

- データセットオプションまたは INFILE ステートメントオプションのいずれかから指定した OBS= は、OBS= システムオプションよりも優先されます。
- OBS= システムオプションでは処理の終了点を指定するのに対し、FIRSTOBS= システムオプションでは開始点を指定します。この 2 つのオプションは、多くの場合、処理するオブザベーションの範囲を定義するために使用されます。

例

例 1: OBS=を使用したオブザベーションの処理を停止するタイミングを指定する

この例では、OBS=を使用してオブザベーションの処理を停止するタイミングを SAS に指示した結果を示します。この例では、SAS データセットを作成し、FIRSTOBS=2 および OBS=12 を指定した OPTIONS ステートメントを実行し、PIRNT プロシージャを実行します。この結果は $(12 - 2) + 1 = 11$ 個のオブザベーションになります。この場合の出力はオブザベーション 2 で開始してオブザベーション 12 で終了するため、OBS= の結果は SAS が最後に処理するオブザベーション番号であるように見えますが、この結果は単なる偶然です。

```
data Ages;
  input Name $ Age;
  datalines;
Miguel 53
Brad 27
Willie 69
Marc 50
Sylvia 40
Arun 25
Gary 40
Becky 51
Alma 39
Tom 62
Kris 66
Paul 60
Randy 43
Barbara 52
Virginia 72
run;

options firstobs=2 obs=12;
proc print data=Ages;
run;
```

アウトプット4.1 OBS=およびFIRSTOBS=を使用したPROC PRINT の出力

Obs	Name	Age
2	Brad	27
3	Willie	69
4	Marc	50
5	Sylvia	40
6	Arun	25
7	Gary	40
8	Becky	51
9	Alma	39
10	Tom	62
11	Kris	66
12	Paul	60

例2: WHERE 处理でOBS=を使用する

この例では、WHERE 处理とともにOBS=を使用した結果を示します。例1で作成された、15 個のオブザベーションを含むデータセットを使用します。新しいSAS セッションではデフォルトの FIRSTOBS=1 と OBS=MAX が使用される想定します。

最初に、WHERE ステートメントを含む PRINT プロシージャを次に示します。データのサブセットの結果は 12 個のオブザベーションになります。

```
proc print data=Ages;
  where Age LT 65;
run;
```

アウトプット4.2 WHERE ステートメントを使用したPROC PRINT の出力

Obs	Name	Age
1	Miguel	53
2	Brad	27
4	Marc	50
5	Sylvia	40
6	Arun	25
7	Gary	40
8	Becky	51
9	Alma	39
10	Tom	62
12	Paul	60
13	Randy	43
14	Barbara	52

OBS=10 を使用した OPTIONS ステートメントと WHERE ステートメントを使用した PRINT プロシージャを実行すると、結果は $(10 - 1) + 1 = 10$ で 10 個のオブザベーションになります。SAS は最初に WHERE 処理でデータをサブセット化し、そのサブセットに OBS= を適用します。

```
options obs=10;
proc print data=Ages;
  where Age LT 65;
run;
```

アウトプット4.3 WHERE ステートメントおよびOBS=を使用したPROC PRINT の出力

The screenshot shows a Windows application window titled "Results Viewer - SAS Output". Inside, a title bar says "The SAS System". Below it is a table with three columns: "Obs", "Name", and "Age". The data consists of 12 rows, numbered 1 through 12. The table is as follows:

Obs	Name	Age
1	Miguel	53
2	Brad	27
4	Marc	50
5	Sylvia	40
6	Arun	25
7	Gary	40
8	Becky	51
9	Alma	39
10	Tom	62
12	Paul	60

出力が 10 個のオブザベーションで構成されており、オブザベーション番号 12 で終了するため、OBS= の結果が処理するオブザベーション数であるように見えます。ただし、この結果は単なる偶然です。FIRSTOBS=2 および OBS=10 をサブセットに適用した場合、結果は $(10 - 2) + 1 = 9$ で 9 個のオブザベーションになります。この場合の OBS= は最後のオブザベーション番号でも処理するオブザベーション数でもありません。値は処理を停止するタイミングを判別する計算式で使用されます。

```
options firstobs=2 obs=10;
proc print data=Ages;
  where Age LT 65;
run;
```

アウトプット4.4 WHEREステートメント、OBS=およびFIRSTOBS=を使用したPROC PRINT の出力

Obs	Name	Age
2	Brad	27
4	Marc	50
5	Sylvia	40
6	Arun	25
7	Gary	40
8	Becky	51
9	Alma	39
10	Tom	62
12	Paul	60

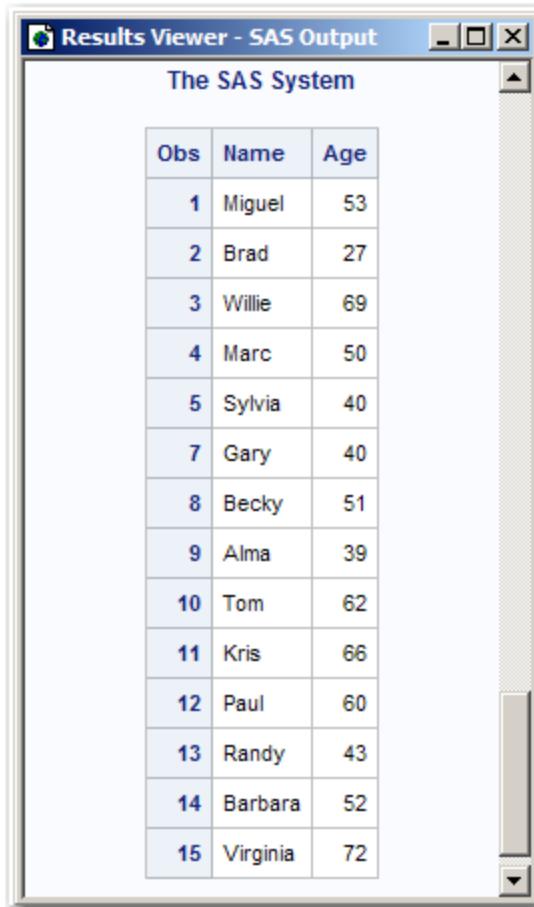
例3: オブザベーションが削除された場合にOBS=を使用する

この例では、削除されたオブザベーションがあるデータセットにOBS=を使用した結果を示します。例1で作成されたデータセットからオブザベーション6が削除されたデータセットを使用します。また、新しいSASセッションではデフォルトのFIRSTOBS=1とOBS=MAXが使用されると想定します。

最初に、変更されたファイルのPROC PRINTの出力を次に示します。

```
options firstobs=1 obs=max nodate pageno=1;  
proc print data=Ages;  
run;
```

アウトプット 4.5 オブザベーション 6 が削除されたことを示す PROC PRINT の出力



Obs	Name	Age
1	Miguel	53
2	Brad	27
3	Willie	69
4	Marc	50
5	Sylvia	40
7	Gary	40
8	Becky	51
9	Alma	39
10	Tom	62
11	Kris	66
12	Paul	60
13	Randy	43
14	Barbara	52
15	Virginia	72

OBS=12 を使用した OPTIONS ステートメントを実行してから PRINT プロシージャを実行すると、結果は $(12 - 1) + 1 = 12$ で 12 個のオブザベーションになります。

```
options obs=12;
proc print data=Ages;
run;
```

アウトプット4.6 OBS=を使用したPROC PRINT の出力

The screenshot shows the SAS Results Viewer window titled "Results Viewer - SAS Output". Inside, a table titled "The SAS System" displays 13 rows of data. The columns are labeled "Obs", "Name", and "Age". The data consists of 13 observations, each with a unique observation number (1 through 13), a name, and an age. The names listed are Miguel, Brad, Willie, Marc, Sylvia, Gary, Becky, Alma, Tom, Kris, Paul, and Randy.

Obs	Name	Age
1	Miguel	53
2	Brad	27
3	Willie	69
4	Marc	50
5	Sylvia	40
7	Gary	40
8	Becky	51
9	Alma	39
10	Tom	62
11	Kris	66
12	Paul	60
13	Randy	43

出力が 12 個のオブザベーションで構成されており、オブザベーション番号 13 で終了するため、OBS=の結果が処理するオブザベーション数であるように見えます。ただし、FIRSTOBS=2 および OBS=12 を適用した場合、結果は $(12 - 2) + 1 = 11$ で 11 個のオブザベーションになります。この場合の OBS= は最後のオブザベーション番号でも処理するオブザベーション数でもありません。値は処理を停止するタイミングを判別する計算式で使用されます。

```
options firstobs=2 obs=12;
proc print data=Ages;
run;
```

アウトプット4.7 *OBS=*および*FIRSTOBS=*を使用したPROC PRINT の出力

Obs	Name	Age
2	Brad	27
3	Willie	69
4	Marc	50
5	Sylvia	40
7	Gary	40
8	Becky	51
9	Alma	39
10	Tom	62
11	Kris	66
12	Paul	60
13	Randy	43

関連項目:**データセットオプション:**

- “FIRSTOBS= Data Set Option” (*SAS Data Set Options: Reference*)
- “OBS= Data Set Option” (*SAS Data Set Options: Reference*)
- “REPLACE= Data Set Option” (*SAS Data Set Options: Reference*)

システムオプション:

- “FIRSTOBS=システムオプション” (138 ページ)

ORIENTATION=システムオプション

プリンタで印刷するときに使用する用紙の向きを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシージャ出力コントロール:ODS 印刷

**PROC OPTIONS
GROUP=** ODSPRINT

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は PORTRAIT です。

要件 ORIENTATION=オプションは SAS レジストリに定義されている用紙サイズにのみ有効です。カスタム用紙サイズではオプションが無視されます。

- 注:** サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。
- ヒント:** PDF の出力先が開かれた後、または PDF の出力先が閉じられる前に、PDF 文書の印刷の向きを変更した場合、余白の設定は ODS PDF FILE= ステートメントの前に所定の OPTIONS ステートメントから取得されます。余白の設定に明示的に OPTIONS ステートメントが使用されていない場合、余白設定は SAS レジストリから取得されます。
-

構文

ORIENTATION=PORTRAIT | LANDSCAPE | REVERSEPORTRAIT | REVERSELANDSCAPE

構文の説明

PORTRAIT

用紙の向きを縦に指定します。

LANDSCAPE

用紙の向きを横に指定します。

REVERSEPORTRAIT

用紙の向きを上下逆の縦に指定します。この値は、入力用紙トレイに挿入された用紙に対してページの上部を制御するために使用します。REVERSEPORTRAIT は事前印刷フォームやパンチフォームに印刷するときに使用できます。

REVERSELANDSCAPE

用紙の向きを左右逆の横に指定します。この値は、入力用紙トレイに挿入された用紙に対してページの上部を制御するために使用します。

REVERSELANDSCAPE は事前印刷フォームやパンチフォームに印刷するときに使用できます。

詳細

このオプションの値を変更すると、移植可能な LINESIZE= および PAGESIZE= システムオプションの値が変更される場合があります。

次の出力タイプで、ドキュメントの各ページの向きを変更できます。

- LISTING 出力先
- RTF 出力先
- ユニバーサル印刷プリンタ

注: ドキュメントの各ページの向きの変更は、ユニバーサル印刷のみでサポートされています。Windows 印刷ではサポートされていません。

ページの向きを変更する出力を作成する各ステップで OPTIONS ステートメントを使用します。

例

この例では、縦方向と横方向の両方で PDF ファイルを作成します。

```
options orientation=landscape obs=5;
ods pdf file="File3.pdf";
proc print data=sashelp.class;
run;
options orientation=portrait;
proc print data=sashelp.retail; run;
```

```
ods pdf close;
```

次のように出力されます。

図 4.1 横方向で印刷された PDF の 1 ページ目

The screenshot shows the SAS Results Viewer window titled "Results Viewer - File3.pdf". The interface includes a toolbar with various icons like print, save, and search, and a status bar at the bottom. The main content area displays a table titled "The SAS System" with the following data:

Obs	Name	Sex	Age	Height	Weight
1	Alfred	M	14	69.0	112.5
2	Alice	F	13	56.5	84.0
3	Barbara	F	13	65.3	98.0
4	Carol	F	14	62.8	102.5
5	Henry	M	14	63.5	102.5

図 4.2 縦方向で印刷された PDF の 2 ページ目

The screenshot shows the SAS Results Viewer window titled "Results Viewer - File3.pdf". The interface includes a toolbar with various icons like print, save, and search, and a status bar at the bottom. The main content area displays a table titled "The SAS System" with the following data, spanning two pages (1 and 2).

Obs	SALES	DATE	YEAR	MONTH	DAY
1	\$220	80Q1	1900	1	1
2	\$257	80Q2	1900	4	1
3	\$258	80Q3	1900	7	1
4	\$295	80Q4	1900	10	1
5	\$247	81Q1	1901	1	1

関連項目:

- “Universal Printing” (*SAS Language Reference: Concepts*)

ステートメント:

- “ODS PRINTER Statement” (*SAS Output Delivery System: User's Guide*)

システムオプション:

- “LINESIZE=システムオプション” (174 ページ)
- “PAGESIZE=システムオプション” (201 ページ)

OVP システムオプション

エラーメッセージを太字で表示するために重ね打ちを有効にするかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシージャ出力コントロール:SAS ログ

PROC OPTIONS GROUP= LOGCONTROL

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は NOOVP です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

OVP | NOOVP

構文の説明

OVP

エラーメッセージの重ね打ちを有効に指定します。

NOOVP

エラーメッセージの重ね打ちを無効に指定します。

詳細

OVP が指定されていると、エラーメッセージが重ね打ち文字でさらに 2 回重ね打ちされ、エラーメッセージが強調表示されます。

出力がモニタに表示されるときには、OVP は無効になり、NOOVP に変更されます。

関連項目:

“The SAS Log” (*SAS Language Reference: Concepts*)

PAGEBREAKINITIAL システムオプション

LISING 出力先の SAS ログおよびプロシージャ出力ファイルを新しいページで始めるかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: ログおよびプロシージャ出力コントロール:SAS ログおよびプロシージャ出力

ログおよびプロシージャ出力コントロール:SAS ログ

ログおよびプロシージャ出力コントロール:プロシージャ出力

PROC OPTIONS GROUP= LOG_LISTCONTROL
LISTCONTROL
LOGCONTROL

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は NOPAGEBREAKINITIAL です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

参照項目: “PAGEBREAKINITIAL System Option: z/OS” (*SAS Companion for z/OS*)

構文

[PAGEBREAKINITIAL | NOPAGEBREAKINITIAL](#)

構文の説明

PAGEBREAKINITIAL

SAS ログおよびプロシージャ出力ファイルを新しいページで始めるように指定します。

NOPAGEBREAKINITIAL

SAS ログおよびプロシージャ出力ファイルを新しいページで始めないように指定します。

詳細

PAGEBREAKINITIAL オプションでは、LISING 出力先の SAS ログおよびプロシージャ出力ファイルを開始するときに改ページが挿入されます。

関連項目:

“The SAS Log” (*SAS Language Reference: Concepts*)

PAGENO=システムオプション

SAS 出力ページ番号をリセットします。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシージャ出力コントロール:プロシージャ出力

PROC OPTIONS GROUP= LISTCONTROL

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は 1 です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

参照項目: PAGENO=システムオプション(Windows の場合)

構文

PAGENO=*n* | *nK* | *hexX* | MIN | MAX

構文の説明

n | *nK*

ページ番号を $1(n)$ 、 $1,024(nK)$ の倍数で指定します。たとえば、値 8 ではページ番号が 8、値 $3k$ ではページ番号が 3,072 に設定されます。

hexX

ページ番号を 16 進数で指定します。先頭が数値(0 から 9)、末尾が X の値を指定する必要があります。たとえば、値 `2dx` ではページ番号が 45 に設定されます。

MIN

ページ番号を最小値 1 に設定します。

MAX

最大ページ番号を動作環境で表現できる 4 バイト符号付き整数の最大値に指定します。

詳細

PAGENO=システムオプションは、SAS で生成される出力の次のページの開始ページ番号を指定します。PAGENO=は SAS セッション中にページ番号をリセットするために使用します。

PAGESIZE=システムオプション

SAS ログおよび SAS 出力のページを構成する行数を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシージャ出力コントロール:SAS ログおよびプロシージャ出力

ログおよびプロシージャ出力コントロール:SAS ログ

ログおよびプロシージャ出力コントロール:プロシージャ出力

PROC OPTIONS LOG_LISTCONTROL

GROUP= LISTCONTROL

LOGCONTROL

別名: PS=

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は 21 です。SAS の起動時に、値は実行モードに基づいて設定されます。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

参照項目: “PAGESIZE System Option: UNIX”(SAS Companion for UNIX Environments)

“PAGESIZE System Option: Windows”(SAS Companion for Windows)

“PAGESIZE= System Option: z/OS”(SAS Companion for z/OS)

構文

PAGESIZE=*n* | *nK* | *hexX* | MIN | MAX

構文の説明***n* | *nK***

ページを構成する行数を 1 行単位(*n*)または 1,024 行単位(*nK*)で指定します。

hexX

ページを構成する行数を 16 進数で指定します。先頭が数値(0 から 9)、末尾が X の値を指定する必要があります。たとえば、値 `2dx` ではページを構成する行数が 45 行に設定されます。

MIN

ページを構成する行数を最小設定値 15 に設定します。

MAX

ページを構成する行数を最大設定値 32,767 に設定します。

詳細

PAGESIZE=システムオプションは、次の出力に影響します。

- ODS LISTING 出力先のアウトプトウィンドウ
- パッチおよび非対話型モードの SAS ログ
- PRINT オプションが DATA ステップの FILE ステートメントで使用されているときの ODS マークアップ出力先(FILE PRINT ODS ステートメントは PAGESIZE=システムオプションの影響を受けません)
- PLOT プロシージャ、CALENDAR プロシージャ、TIMEPLOT プロシージャ、FORMS プロシージャ、CHART プロシージャなど、調整できない文字を生成するプロシージャ

関連項目:

“The SAS Log” (*SAS Language Reference: Concepts*)

PAPERDEST=システムオプション

印刷出力を受け取る排紙トレイの名前を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシージャ出力コントロール:ODS 印刷

PROC OPTIONS
GROUP= ODSPRINT

制限事項: このオプションは、プリンタに複数の排紙トレイがない場合は無視されます。

このオプションは、Windows 動作環境では無効です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

PAPERDEST=*printer-bin-name*

構文の説明

printer-bin-name

印刷出力を受け取るトレイを指定します。

制限事項 最大長は 200 文字です。

関連項目:

- “Universal Printing” (*SAS Language Reference: Concepts*)

ステートメント:

- “ODS PRINTER Statement” (*SAS Output Delivery System: User's Guide*)

システムオプション:

- “PAPERSIZE=システムオプション” (203 ページ)
- “PAPERSOURCE=システムオプション” (205 ページ)
- “PAPERTYPE=システムオプション” (206 ページ)

PAPERSIZE=システムオプション

印刷に使用する用紙サイズを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、**SAS システムオプション** ウィンドウ

カテゴリ: 環境コントロール:言語コントロール

ログおよびプロシージャ出力コントロール:ODS 印刷

PROC OPTIONS LANGUAGECONTROL

GROUP= ODSPRINT

デフォルト: デフォルトはロケールに応じて LETTER または A4 になります。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ) を参照してください。

構文

```
PAPERSIZE=LOCALE | paper_size_name
| (width_value<,>height_value)
| ('width_value'<,>'height_value')
| ("width_value"<,>"height_value")
```

構文の説明

LOCALE

LOCALE=システムオプションの値を使用して、PAPERSIZE=オプションの値を決定する指定です。ロケールに応じて、PAPERSIZE=オプションは LETTER または A4 のいずれかに設定されます。

参照項目 “LOCALE System Option” (*SAS National Language Support (NLS): Reference Guide*)

paper_size_name

定義されている用紙サイズから指定します。

デフォルト ロケールに応じて LETTER または A4 になります。

制限事項 最大長は 200 文字です。

要件 定義済みの用紙サイズの名前に空白が含まれている場合は、名前を一重または二重引用符で囲みます。

値に一重または二重引用符のいずれかを使用しない場合は、幅と高さの値の間に空白が必要です。

ヒント 詳細については、レジストリエディタを使用するか、PROC REGISTRY を使用して、サポートされている用紙サイズのリストを取得します。値は追加できます。

(“*width-value*”, “*height-value*”)

用紙の幅と高さを正の浮動小数点値で指定します。

デフォ インチ
ルト

範囲 *in* または *cm* を *width_value*、*height_value* に指定。

要件 数値と単位の間に空白を空けて *width-value* および *height-value* を指定する場合は、値を引用符で囲む必要があります ("5 in" や "7 in" など)。

操作 カスタム用紙サイズを指定すると、ORIENTATION=システムオプションは無視され、用紙の向きは幅と高さの値で決定されます。用紙の高さが幅より大きい場合は用紙の向きは縦になります。用紙の幅が高さより大きい場合は用紙の向きは横になります。カスタム用紙サイズでは逆向きはサポートされません。

詳細

プリンタでサポートされない定義済みの用紙サイズまたはカスタムサイズを指定すると、プリンタのデフォルトの用紙サイズが使用されます。プリンタのデフォルトの用紙サイズは、ロケールによって異なり、ページ設定ダイアログボックスを使用して変更できます。

用紙サイズの値を指定するフィールドは、空白かカンマで区切ることができます。

注: このオプションの値を変更すると、移植可能な LINESIZE=および PAGESIZE=システムオプションの値が変更される場合があります。

比較

最初の OPTIONS ステートメントで、SAS Registry の用紙サイズ名である用紙サイズ値が設定されます。2 番目の OPTIONS ステートメントで、用紙サイズに特定の幅と高さが設定されます。

```
options papersize="480x640 Pixels";
options papersize=(4.5 7);
```

最初の例では、名前に空白が使用されているため、引用符が必要です。

2 番目の例では引用符は必要ありません。測定単位が指定されていない場合、次の警告が SAS ログに書き込まれます。

```
WARNING: Units were not specified on the PAPER SIZE option. Inches will be used.
WARNING: Units were not specified on the PAPER SIZE option. Inches will be used.
```

値と単位タイプが空白で区切られていない値には、単位タイプ *in* または *cm* を追加すると、警告メッセージを避けることができます。

```
options papersize=(4.5in 7in);
```

関連項目:

- “Universal Printing” (*SAS Language Reference: Concepts*)

ステートメント:

- “ODS PRINTER Statement” (*SAS Output Delivery System: User's Guide*)

システムオプション:

- “ORIENTATION=システムオプション” (196 ページ)
- “PAPERDEST=システムオプション” (202 ページ)
- “PAPERSOURCE=システムオプション” (205 ページ)
- “PAPERTYPE=システムオプション” (206 ページ)

PAPERSOURCE=システムオプション

印刷に使用する用紙トレイの名前を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシージャ出力コントロール:ODS 印刷

**PROC OPTIONS
GROUP=** ODSPRINT

制限事項: このオプションは、プリンタに複数の給紙トレイがない場合は無視されます。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

PAPERSOURCE=*printer-bin-name*

構文の説明

printer-bin-name

プリンタに給紙するトレイを指定します。

関連項目:

- “Universal Printing” (*SAS Language Reference: Concepts*)

ステートメント:

- “ODS PRINTER Statement” (*SAS Output Delivery System: User's Guide*)

システムオプション:

- “PAPERDEST=システムオプション” (202 ページ)
- “PAPERSIZE=システムオプション” (203 ページ)
- “PAPERTYPE=システムオプション” (206 ページ)

PAPERTYPE=システムオプション

印刷に使用する用紙の種類を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシージャ出力コントロール:ODS 印刷

**PROC OPTIONS
GROUP=** ODSPRINT

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は PLAIN です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

PAPERTYPE=*paper-type-string*

構文の説明

paper-type-string

用紙の種類を指定します。最大長は 200 です。

デフォルト 値はサイトと動作環境によって異なります。

範囲 値は、プリンタ、サイトおよび動作環境によって異なります。

動作環境 用紙の種類を指定する方法の詳細については、現在の動作環境向けの SAS ドキュメントを参照してください。このオプションには多数の使用可能な値があります。

関連項目:

- “Printing with SAS” (*SAS Language Reference: Concepts*)

ステートメント:

- “ODS PRINTER Statement” (*SAS Output Delivery System: User's Guide*)

システムオプション:

- “PAPERDEST=システムオプション” (202 ページ)
- “PAPERSIZE=システムオプション” (203 ページ)
- “PAPERSOURCE=システムオプション” (205 ページ)

PARM=システムオプション

外部プログラムに渡されるパラメータ文字列を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ:	環境コントロール:ファイル
PROC OPTIONS	ENVFILES
GROUP=	

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

PARM=<'>*string*<'>

構文の説明

string
パラメータを含む文字列を指定します。

例

このステートメントでは、パラメータ X=2 が外部プログラムに渡されます。

```
options parm='x=2';
```

動作環境の情報

パラメータを外部プログラムに渡すその他のメソッドは、現在の動作環境と、対話型ラインモードとバッチモードのどちらで実行しているのかによって異なります。詳細については、動作環境に関する SAS のドキュメントを参照してください。

PARMCARDS=システムオプション

プロシージャで PARMCARDS ステートメントを検出したときに開くファイル参照を指定します。

該当要素:	構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ
カテゴリ:	環境コントロール:ファイル
PROC OPTIONS	ENVFILES
GROUP=	
デフォルト:	出荷時のデフォルト値は FT15F001 です。
注:	サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“ 制限されたオプション ”(6 ページ)を参照してください。
参照項目:	“PARMCARDS= System Option: z/OS” (SAS Companion for z/OS)

構文

PARMCARDS=*file-ref*

構文の説明

file-ref
開くファイル参照を指定します。

詳細

PARMCARDS=システムオプションは、プロシージャで PARMCARDS(または PARMCARDS4)ステートメントを検出したときに開くファイルのファイル参照を指定します。

1つまたは4つのセミコロンのいずれかを使用する区切り文字の行が検出されるまで、PARMCARDS(または PARMCARDS4)以降のすべてのデータ行がファイルに書き込まれます。区切り文字の行が検出されると、ファイルは閉じられ、プロシージャでの読み込みが可能になります。データ行の解析やマクロ展開は行われません。

PDFACCESS システムオプション

PDF ドキュメントのテキストとグラフィックを視覚障害者のためのスクリーンリーダーで読み上げできるようにするかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、**SAS システムオプション** ウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシージャ出力コントロール:PDF

PROC OPTIONS GROUP= PDF

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は PDFACCESS です。

要件 Adobe Acrobat Reader または Professional 5.0 以降のバージョン

注: セキュアドキュメントのドキュメントセキュリティウィンドウ、**詳細の表示** ウィンドウ、SAS PDF オプション値間でドキュメントプロパティが異なる場合があります。この値は、ドキュメントパスワードに Open パスワードしかない場合や Open パスワードと Owner パスワードが同じ値の場合は異なることがあります。これらのウィンドウは、Open と Owner の両方にパスワードが設定され、これらのパスワードが異なり、ドキュメントが Open パスワードで開かれている場合に正しくプロパティ値を表示します。

サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#) (6 ページ)を参照してください。

構文

PDFACCESS | NOPDFACCESS

構文の説明

PDFACCESS

PDF ドキュメントのテキストとグラフィックを視覚障害者のためのスクリーンリーダーで読み上げできるように指定します。

NOPDFACCESS

PDF ドキュメントのテキストとグラフィックを視覚障害者のためのスクリーンリーダーで読み上げできないように指定します。

詳細

PDFACCESS オプションは、ドキュメントのアクセシビリティを有効にするプロパティに影響する場合があります。

PDF セキュリティのドキュメントのプロパティの値は、PDFSECURITY=NONE を設定したときには変更されません。結果は、オプションを設定しない場合と同じになります。

PDFACCESS オプションを指定し、PDFSECURITY=オプションを HIGH にすると、ドキュメントのアクセシビリティを有効にするプロパティがどのように設定されるかを次の表に示します。

PDFACCESS	NOPDFACCESS
PDFSECURITY=HIGH	PDFSECURITY=HIGH
アクセシビリティを有効にする	許可
	許可

関連項目:

- “Securing ODS-Generated PDF Files” (*SAS Output Delivery System: User's Guide*)

システムオプション:

- “PDFSECURITY=システムオプション” (219 ページ)

PDFASSEMBLY システムオプション

PDF ドキュメントのアセンブリを許可するかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、**SAS システムオプション**ウインドウ

カテゴリ: ログおよびプロシージャ出力コントロール:PDF

PROC OPTIONS
GROUP= PDF

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は NOPDFASSEMBLY です。

要件 Adobe Acrobat Reader または Professional 5.0 以降のバージョン

注: セキュアドキュメントのドキュメントセキュリティウインドウ、**詳細の表示**ウインドウ、SAS PDF オプション値間でドキュメントプロパティが異なる場合があります。この値は、ドキュメントパスワードに Open パスワードしかない場合や Open パスワードと Owner パスワードが同じ値の場合は異なることがあります。これらのウインドウは、Open と Owner の両方にパスワードが設定され、これらのパスワードが異なり、ドキュメントが Open パスワードで開かれている場合に正しくプロパティ値を表示します。

サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“**制限されたオプション**” (6 ページ) を参照してください。

構文

PDFASSEMBLY | NOPDFASSEMBLY

構文の説明

PDFASSEMBLY

PDF ドキュメントのアセンブリを許可するように指定します。

NOPDFASSEMBLY

PDF ドキュメントのアセンブリを許可しないように指定します。

詳細

PDF ドキュメントのアセンブリが行われると、ページの回転、挿入および削除、ブックマークとサムネイル画像の追加ができます。

PDFASSEMBLY オプションは、ドキュメントの文書アセンブリプロパティに影響する場合があります。

PDF セキュリティのドキュメントのプロパティの値は、PDFSECURITY=NONE を設定したときには変更されません。結果は、オプションを設定しない場合と同じになります。

PDFASSEMBLY オプションを指定し、PDFSECURITY=オプションを HIGH にすると、ドキュメントの文書アセンブリプロパティがどのように設定されるかを次の表に示します。

	PDFASSEMBLY PDFSECURITY=HIGH	NOPDFASSEMBLY PDFSECURITY=HIGH
文書アセンブリ	許可	許可

関連項目:

- “Securing ODS-Generated PDF Files” (*SAS Output Delivery System: User's Guide*)

システムオプション:

- “PDFSECURITY=システムオプション” (219 ページ)

PDFCOMMENT システムオプション

PDF ドキュメントのコメントを変更できるかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、**SAS システムオプション**ウインドウ

カテゴリ: ログおよびプロシージャ出力コントロール:PDF

PROC OPTIONS

GROUP=

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は NOPDFCOMMENT です。

要件 Adobe Acrobat Reader または Professional 5.0 以降のバージョン

注: セキュアドキュメントのドキュメントセキュリティウインドウ、**詳細の表示**ウインドウ、SAS PDF オプション値間でドキュメントプロパティが異なる場合があります。この値は、ドキュメントパスワードに Open パスワードしかない場合や Open パスワードと Owner パスワードが同じ値の場合は異なることがあります。これらのウインドウは、Open と Owner の両方にパスワードが設定され、これらのパスワードが異なり、ドキュメントが Open パスワードで開かれている場合に正しくプロパティ値を表示します。

サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“**制限されたオプション**” (6 ページ)を参照してください。

構文

PDFCOMMENT | NOPDFCOMMENT

構文の説明

PDFCOMMENT

PDF ドキュメントのコメントを変更できるように指定します。

NOPDFCOMMENT

PDF ドキュメントのコメントを変更できないように指定します。

詳細

PDFCOMMENT オプションは、ドキュメントのコメントプロパティに影響する場合があります。

PDF セキュリティのドキュメントのプロパティの値は、PDFSECURITY=NONE を設定したときには変更されません。結果は、オプションを設定しない場合と同じになります。

PDFSECURITY=NONE の場合、PDFCOMMENT オプションが有効化され、PDF ドキュメントのコメントを変更できます。

PDFCOMMENT オプションを指定し、PDFSECURITY=オプションを HIGH にすると、ドキュメントのコメントプロパティがどのように設定されるかを次の表に示します。

	PDFCOMMENT PDFSECURITY=HIGH	NOPDFCOMMENT PDFSECURITY=HIGH
コメント	許可	許可しない

関連項目:

- “Securing ODS-Generated PDF Files” (*SAS Output Delivery System: User's Guide*)

システムオプション:

- “PDFFILLIN システムオプション” (213 ページ)
- “PDFSECURITY=システムオプション” (219 ページ)

PDFCONTENT システムオプション

PDF ドキュメントの内容を変更できるかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、**SAS システムオプション**ウインドウ

カテゴリ: ログおよびプロシージャ出力コントロール:PDF

PROC OPTIONS GROUP= PDF

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は NOPDFCONTENT です。

要件 Adobe Acrobat Reader または Professional 3.0 以降のバージョン

注: セキュアドキュメントのドキュメントセキュリティウインドウ、**詳細の表示**ウインドウ、SAS PDF オプション値間でドキュメントプロパティが異なる場合があります。この値は、ドキュメントパスワードに Open パスワードしかない場合や Open パスワードと Owner パスワードが同じ値の場合は異なることがあります。これらのウインドウは、Open と Owner の両方にパスワードが設定され、これらのパスワードが異なり、ドキュメントが Open パスワードで開かれている場合に正しくプロパティ値を表示します。

サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

PDFCONTENT | NOPDFCONTENT

構文の説明

PDFCONTENT

PDF ドキュメントの内容を変更できるように指定します。

NOPDFCONTENT

PDF ドキュメントの内容を変更できないように指定します。

詳細

PDFCONTENT オプションは、ドキュメントの文書の変更プロパティに影響する場合があります。

PDF セキュリティのドキュメントのプロパティの値は、PDFSECURITY=NONE を設定したときには変更されません。結果は、オプションを設定しない場合と同じになります。

PDFCONTENT オプションを指定し、PDFSECURITY=オプションを HIGH にすると、ドキュメントの文書の変更プロパティがどのように設定されるかを次の表に示します。

	PDFCONTENT PDFSECURITY=HIGH	NOPDFCONTENT PDFSECURITY=HIGH
文書の変更	許可	許可しない

関連項目:

- “Securing ODS-Generated PDF Files” (*SAS Output Delivery System: User's Guide*)

システムオプション:

- “[PDFSECURITY=システムオプション](#)”(219 ページ)

PDFCOPY システムオプション

PDF ドキュメントのテキストとグラフィックをコピーできるかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、**SAS システムオプション** ウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシージャ出力コントロール:PDF

PROC OPTIONS GROUP= PDF

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は PDFCOPY です。

要件: Adobe Acrobat Reader または Professional 3.0 以降のバージョン

注: セキュアドキュメントのドキュメントセキュリティウィンドウ、**詳細の表示** ウィンドウ、SAS PDF オプション値間でドキュメントプロパティが異なる場合があります。この値は、ドキュメ

ントパスワードに Open パスワードしかない場合や Open パスワードと Owner パスワードが同じ値の場合は異なることがあります。これらのウィンドウは、Open と Owner の両方にパスワードが設定され、これらのパスワードが異なり、ドキュメントが Open パスワードで開かれている場合に正しくプロパティ値を表示します。

サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

PDFCOPY | NOPDFCOPY

構文の説明

PDFCOPY

PDF ドキュメントのテキストとグラフィックをコピーできるように指定します。

NOPDFCOPY

PDF ドキュメントのテキストとグラフィックをコピーできないように指定します。

詳細

PDFCOPY オプションは、ドキュメントの内容のコピープロパティに影響する場合があります。

PDF セキュリティのドキュメントのプロパティの値は、PDFSECURITY=NONE を設定したときには変更されません。結果は、オプションを設定しない場合と同じになります。

PDFCOPY オプションを指定し、PDFSECURITY=オプションを HIGH にすると、ドキュメントの内容のコピープロパティがどのように設定されるかを次の表に示します。

	PDFCOPY PDFSECURITY=HIGH	NOPDFCOPY PDFSECURITY=HIGH
内容のコピー	許可	許可しない

関連項目:

- “Securing ODS-Generated PDF Files” (*SAS Output Delivery System: User's Guide*)

システムオプション:

- “[PDFSECURITY=システムオプション](#)”(219 ページ)

PDFFILLIN システムオプション

PDF フォームに入力できるかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、**SAS システムオプション**ウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシージャ出力コントロール:PDF

PROC OPTIONS
GROUP=PDF

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は PDFFILLIN です。

- 要件** Adobe Acrobat Reader または Professional 5.0 以降のバージョン
- 注:** セキュアドキュメントのドキュメントセキュリティウインドウ、[詳細の表示ウインドウ](#)、SAS PDF オプション値間でドキュメントプロパティが異なる場合があります。この値は、ドキュメントパスワードに Open パスワードしかない場合や Open パスワードと Owner パスワードが同じ値の場合は異なることがあります。これらのウインドウは、Open と Owner の両方にパスワードが設定され、これらのパスワードが異なり、ドキュメントが Open パスワードで開かれている場合に正しくプロパティ値を表示します。
- サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

PDFFILLIN | NOPDFFILLIN

構文の説明

PDFFILLIN

PDF フォームに入力できるように指定します。

NOPDFFILLIN

PDF フォームに入力できないように指定します。

詳細

PDFFILLIN オプションは、ドキュメントのフォームフィールドの入力プロパティまたは署名プロパティに影響する場合があります。

PDF セキュリティのドキュメントのプロパティの値は、PDFSECURITY=NONE を設定したときには変更されません。結果は、オプションを設定しない場合と同じになります。

PDFFILLIN オプションは、PDFSECURITY=HIGH の場合にのみ、フォームフィールドの入力プロパティまたは署名プロパティによって設定されます。

PDFSECURITY=HIGH の場合は、PDFCOMMENT と PDFFILLIN を別々に設定できます。

PDFFILLIN オプションを指定し、PDFSECURITY=オプションを HIGH に設定すると、ドキュメントのフォームフィールドの入力プロパティまたは署名プロパティがどのように設定されるかを次の表に示します。

	PDFFILLIN PDFSECURITY=HIGH	NOPDFFILLIN PDFSECURITY=HIGH
フォームフィールドの入力または署名	許可	許可しない

関連項目:

- “Securing ODS-Generated PDF Files” (*SAS Output Delivery System: User's Guide*)

システムオプション:

- “[PDFCOMMENT システムオプション](#)” (210 ページ)
- “[PDFSECURITY=システムオプション](#)” (219 ページ)

PDFPAGELAYOUT=システムオプション

PDF ドキュメントのページレイアウトを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、**SAS システムオプション**ウインドウ

カテゴリ: ログおよびプロシージャ出力コントロール:PDF

PROC OPTIONS
GROUP= PDF

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は DEFAULT です。

要件 Adobe Acrobat Reader または Professional 5.0 以降のバージョン

注: セキュアドキュメントのドキュメントセキュリティウインドウ、**詳細の表示**ウインドウ、SAS PDF オプション値間でドキュメントプロパティが異なる場合があります。この値は、ドキュメントパスワードに Open パスワードしかない場合や Open パスワードと Owner パスワードが同じ値の場合は異なることがあります。これらのウインドウは、Open と Owner の両方にパスワードが設定され、これらのパスワードが異なり、ドキュメントが Open パスワードで開かれている場合に正しくプロパティ値を表示します。

サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“**制限されたオプション**”(6 ページ)を参照してください。

構文

PDFPAGELAYOUT= DEFAULT | SINGLEPAGE | CONTINUOUS
| FACING | CONTINUOUSFACING

構文の説明

DEFAULT

Acrobat Reader の現在のページレイアウトを使用するように指定します。

SINGLEPAGE

表示領域内に 1 ページずつ表示されるように指定します。

CONTINUOUS

表示領域内の一列にすべてのページが表示されるように指定します。

FACING

表示領域内に、偶数ページを左側、奇数ページを右側にして 2 ページのみが表示されるように指定します。

要件 Acrobat Reader 5.0 以降のバージョンが必要です。

CONTINUOUSFACING

表示領域内に 2 ページを横に並べてすべてのページが表示されるように指定します。偶数ページは左側、奇数ページは右側に表示されます。

関連項目:

- “Securing ODS-Generated PDF Files” (*SAS Output Delivery System: User's Guide*)

システムオプション:

- “**PDFFPAGEVIEW=システムオプション**”(216 ページ)

PDFPAGEVIEW=システムオプション

PDF ドキュメントのページ表示モードを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシージャ出力コントロール:PDF

**PROC OPTIONS
GROUP=**

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は DEFAULT です。

要件 Adobe Acrobat Reader または Professional 5.0 以降のバージョン

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

PDFPAGEVIEW= [DEFAULT | ACTUAL | FITPAGE | FITWIDTH | FULLSCREEN](#)

構文の説明

DEFAULT

Acrobat Reader の現在のページ表示設定を使用するように指定します。

ACTUAL

ページ表示設定を 100%に設定するように指定します。

FITPAGE

高さと幅の比率を保ちながら、表示ウィンドウの全領域を使用してページが表示されるように指定します。

FITWIDTH

表示ウィンドウの全幅を使用してページが表示されるように指定します。ドキュメントの高さはページに合わせて調整されません。

FULLSCREEN

画面全体を使用してページが表示されるように指定します。このオプションによって、目次、ブックマーク、および指定ページへのアクセスなど、その他すべてのドキュメントアクセス補助機能が無効になります。

関連項目:

- “Securing ODS-Generated PDF Files” (*SAS Output Delivery System: User's Guide*)

システムオプション:

- “[PDFPAGEVIEW=システムオプション](#)”(216 ページ)

PDFPASSWORD=システムオプション

PDF ドキュメントを開くために使用するパスワードと、PDF ドキュメントの所有者によって使用されるパスワードを指定します。

該当要素:	構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント
カテゴリ:	ログおよびプロシージャ出力コントロール:PDF
	システム管理:セキュリティ
PROC OPTIONS GROUP=	PDF SECURITY
別名:	PDFPW
要件	Adobe Acrobat Reader または Professional 5.0 以降のバージョン
注:	サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、“ 制限されたオプション ”(6 ページ)を参照してください。 OPTIONS プロシージャでは、SAS ログのパスワードが、実際のパスワード長に関係なく、8 個の X で表示されます。

構文

```
PDFPASSWORD=(OPEN=password | OPEN="password"
             < OWNER=password | OWNER="password">)

PDFPASSWORD=(OWNER=password | OWNER="password"
             <OPEN=password | OPEN="password">)

PDFPASSWORD=(OPEN=password | OPEN="password")

PDFPASSWORD=(OWNER=password | OWNER="password")
```

構文の説明

OPEN="password"

PDF ドキュメントを開くパスワードを指定します。パスワードを囲む一重または二重引用符は省略可能です。

password

最大 32 文字までの一連の文字を指定します。これは、ユーザーに PDF ドキュメントを開く権限があることを検証するために使用されます。

制限事項 OPEN パスワードには、OWNER パスワードとは異なるパスワードを使用する必要があります。

OWNER="password"

PDF ドキュメントの所有者のパスワードを指定します。パスワードを囲む引用符は省略可能です。

password

最大 32 文字までの一連の文字を指定します。これは、PDF ドキュメントの所有者を検証するために使用されます。

制限事項 OWNER パスワードには、OPEN パスワードとは異なるパスワードを使用する必要があります。

詳細

PDFPASSWORD=オプションはいつでも設定できますが、PDFSECURITY=システムオプションが HIGH に設定されるまでは無視されます。PDFSECURITY=オプションが NONE に設定されている場合、PDF ドキュメントのパスワードは必要ありません。

関連項目:

- “Securing ODS-Generated PDF Files” (*SAS Output Delivery System: User's Guide*)

システムオプション:

- “**PDFPAGEVIEW=システムオプション**” (216 ページ)
- “**PDFSECURITY=システムオプション**” (219 ページ)

PDFPRT=システムオプション

PDF ドキュメントの印刷の解像度を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、**SAS システムオプション** ウィンドウ
カテゴリ: ログおよびプロシージャ出力コントロール:PDF

PROC OPTIONS GROUP= PDF

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は、Acrobat Reader または Professional 5.0 以降のバージョンでは HRES です。

要件 Adobe Acrobat Reader または Professional 3.0 以降のバージョンは PDFPRT 設定に依存

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ) を参照してください。

構文

PDFPRT=HRES | LRES | NONE

構文の説明

HRES

プリンタで使用できる最高の解像度で PDF ドキュメントが印刷されるように指定します。

制限事項 PDFPRT=HRES は、PDFSECURITY オプションが HIGH に設定されている場合にのみ設定できます。

要件 Acrobat Reader または Professional 5.0 以降のバージョン。

LRES

ドラフト品質のドキュメントに使用される最低の解像度で PDF ドキュメントが印刷されるように指定します。

制限事項 PDFPRT=LRES は、PDFSECURITY オプションが HIGH に設定されている場合にのみ設定できます。

要件 Acrobat Reader または Professional 5.0 以降のバージョン。

NONE

PDF ドキュメントに印刷解像度を設定しないように指定します。

制限事項: PDFPRINT=NONE は、PDFSECURITY オプションが HIGH に設定されている場合にのみ設定できます。

要件: Acrobat Reader または Professional の任意のバージョン。

詳細

PDF セキュリティのドキュメントのプロパティの値は、PDFSECURITY=NONE を設定したときには変更されません。結果は、オプションを設定しない場合と同じになります。

PDFSECURITY= が HIGH に設定されている場合、印刷ドキュメントプロパティの値は PDFPRINT= オプションの値によって決まります。

	PDFPRINT=HRES PDFSECURITY=HIGH	PDFPRINT=LRES PDFSECURITY=HIGH	PDFPRINT=NONE PDFSECURITY=HIGH
印刷	高解像度	低解像度(150dpi)	なし

関連項目:

- “Securing ODS-Generated PDF Files” (*SAS Output Delivery System: User's Guide*)

システムオプション:

- “[PDFPAGEVIEW=システムオプション](#)” (216 ページ)

PDFSECURITY=システムオプション

PDF ドキュメントの暗号化のレベルを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、**SAS システムオプション** ウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシージャ出力コントロール:PDF

システム管理:セキュリティ

PROC OPTIONS

PDF

GROUP=

SECURITY

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は NONE です。

制限事項: PDFSECURITY オプションは UNIX、Windows および z/OS オペレーティングシステムで有効ですが、暗号化ソフトウェアの輸入が合法な国に限られます。

要件: 特に記載のない限り、Adobe Acrobat Reader または Professional 3.0 以降のバージョン。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

PDFSECURITY=HIGH | NONE

構文の説明

HIGH

128 ビット暗号化アルゴリズムを使用して PDF ドキュメントが暗号化されるように指定します。

要件 PDFSECURITY=HIGH の場合、Acrobat 5.0 以降のバージョンを使用する必要があります。

操作 PDFSECURITY=HIGH の場合、PDFPASSWORD=システムオプションを使用してパスワードを少なくとも 1 つ設定する必要があります。

NONE

PDF ドキュメントが暗号化されないように指定します。

PDF セキュリティのドキュメントのプロパティの値は、PDFSECURITY=NONE を設定したときには変更されません。結果は、オプションを設定しない場合と同じになります。

詳細

PDFSECURITY=オプションが NONE または HIGH のときにデフォルトで設定されるドキュメントのプロパティを次の表に示します。PDFSECURITY=NONE の場合、PDF ドキュメントへの制限はありません。

	NONE	HIGH
印刷	許可	高解像度
文書の変更	許可	許可しない
コメント	許可	許可しない
フォームフィールドの入力または署名	許可	許可
文書アセンブリ	許可	許可しない
内容のコピー	許可	許可
アクセシビリティを有効にする	許可	許可
ページの抽出	許可	許可しない
暗号化レベル	なし	128 ビット RC4

注: セキュアドキュメントのドキュメントセキュリティウィンドウ、詳細の表示ウィンドウ、SAS PDF オプション値間でドキュメントプロパティが異なる場合があります。この値は、ドキュメントパスワードに Open パスワードしかない場合や Open パスワードと Owner パスワードが同じ値の場合は異なることがあります。これらのウィンドウは、Open と Owner の両方にパスワードが設定され、これらのパスワードが異なり、ドキュメントが Open パスワードで開かれている場合に正しくプロパティ値を表示します。

関連項目:

- “Securing ODS-Generated PDF Files” (*SAS Output Delivery System: User's Guide*)

システムオプション:

- “PDFACCESS システムオプション” (208 ページ)
- “PDFASSEMBLY システムオプション” (209 ページ)
- “PDFCOMMENT システムオプション” (210 ページ)
- “PDFCONTENT システムオプション” (211 ページ)
- “PDFCOPY システムオプション” (212 ページ)
- “PDFFILLIN システムオプション” (213 ページ)
- “PDFPASSWORD=システムオプション” (216 ページ)
- “PDFPRINT=システムオプション” (218 ページ)

PRESENV システムオプション

SAS セッションの終了時に、SAS 環境を保持するデータの収集を可能にするかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、**SAS システムオプション** ウィンドウ

カテゴリ: 環境コントロール: 初期化および操作

PROC OPTIONS GROUP= EXECMODES

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は NOPRESENV です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#) (6 ページ) を参照してください。

構文

PRESENV | NOPRESENV

構文の説明

PRESENV

SAS 環境保持のためのデータ収集を有効にする指定です。

NOPRESENV

SAS 環境保持のためのデータ収集を無効にする指定です。

詳細

SAS セッションの終了時に次のデータを保持するため PROC PRESENV を使用する場合は、PRESENV オプションを設定します。

- Work ライブラリデータセットおよびカタログ
- グローバルステートメント値
- マクロ変数値
- システムオプション値

PRESENV オプションが設定されている場合、SAS は環境の保持に必要なデータの収集を開始します。NOPRESENV オプションが設定されるか、またはその SAS セッションが終了するまでデータは収集されます。SAS セッション中のいつでも、ユーザーがデータ収集を有効/無効にできます。NOPRESENV が設定されると、データ収集は一時停止しますが、破棄はされません。

関連項目:

“PRESENV Procedure” (*Base SAS Procedures Guide*)

PRIMARYPROVIDERDOMAIN=システムオプション

主認証プロバイダのドメイン名を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: 環境コントロール:初期化および操作

PROC OPTIONS GROUP= EXECMODES

別名: PRIMPD=

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” ([6 ページ](#))を参照してください。

構文

PRIMARYPROVIDERDOMAIN=*domain-name*

構文の説明

domain-name

ユーザー名を認証するドメインの名前を指定します。

要件 ドメイン名に 1 つ以上の空白が含まれる場合、ドメイン名を引用符で囲む必要があります。

詳細

デフォルトでは、SAS Metadata Server にログオンするユーザーは、SAS Metadata Server をホストするオペレーティングシステムによって認証されます。代替認証プロバイダを指定するには、AUTHPROVIDERDOMAIN=システムオプションを使用します。代替認証プロバイダによって検証されるユーザー ID は、*user-ID@domain-name* の形式である必要があります(*user1@sas.com* など)。

それぞれ AUTHPROVIDERDOMAIN= および PRIMARYPROVIDERDOMAIN= システムオプションを使用する認証プロバイダとドメイン名を指定することで、ユーザーは、ユーザー ID にドメイン名サフィックスを使用せずに通常のユーザー ID を使用して SAS Metadata Server にログオンできるようになります。たとえば、次のシステムオプションを指定することで、*user-ID* または *user-ID@mycompany.com* としてログオンするユーザーを、AUTHPROVIDERDOMAIN= システムオプションで指定された認証プロバイダによって検証できます。

```
-authproviderdomain ldap:mycompany
-primaryproviderdomain mycompany.com
```

AUTHPROVIDERDOMAIN システムオプションを指定せずに PRIMARYPROVIDERDOMAIN システムオプションを指定すると、認証はホストプロバイダによって実行されます。

比較

Active Directory プロバイダまたはその他の LDAP プロバイダを登録して指定するには、AUTHPROVIDERDOMAIN システムオプションを使用します。主認証プロバイダを指定するには、PRIMARYPROVIDERDOMAIN システムオプションを使用します。

例

次の例は、構成ファイルで主認証プロバイダのドメイン名の定義に使用できるシステムオプションを示します。

Active Directory

```
/* Environment variables that describe your Active Directory server */
-set AD_HOST myhost
/* Define authentication provider */
-authpd ADIR:mycomapny.com
-primpd mycompany.com
```

LDAP

```
/* Environment variables that describe your LDAP server */
-set LDAP_HOST myhost
-set LDAP_BASE "ou=emp, o=us"
/* Define authentication provider */
-authpd LDAP:mycompany.com
-primpd mycompany.com
```

関連項目:

- “Direct LDAP Authentication” (*SAS Intelligence Platform:Security Administration Guide*)

システムオプション:

- “[AUTHPROVIDERDOMAIN システムオプション](#)” (60 ページ)
- “[AUTHSERVER System Option: Windows](#)” (*SAS Companion for Windows*)

PRINTERPATH=システムオプション

ユニバーサル印刷に使用する登録済みプリンタの名前を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、**SAS システムオプション** ウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシジャー出力コントロール:ODS 印刷

PROC OPTIONS GROUP= ODSPRINT

デフォルト: UNIX および z/OS では、デフォルトは PostScript レベル 1 です。
Windows では、デフォルトはありません。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ) を参照してください。

構文

PRINTERPATH=(*'printer-name'* <fileref>)

構文の説明

'*printer-name*'

コア ⇒ 印刷設定 ⇒ プリンタの下のレジストリエディタで定義されたプリンタのいずれかである必要があります。

要件 *printer name* に空白が含まれる場合、引用符で囲む必要があります。

fileref

ファイル参照名です(省略可能)。ファイル参照名を指定する場合、そのファイル参照名は FILENAME ステートメントまたは外部割り当てで定義されている必要があります。ファイル参照名を指定しない場合、ファイル ⇒ プリンタ設定を選択し、プリンタ設定ダイアログボックスでデフォルトの出力先にプリンタを指定できます。かつてが必要なのは、*fileref* が指定された場合のみです。

詳細

PRINTERPATH=オプションが null 文字列ではない場合、ユニバーサル印刷が使用されます。PRINTERPATH=オプションで有効なユニバーサル印刷プリンタが指定されていない場合、デフォルトのユニバーサルプリンタが使用されます。

比較

関連するシステムオプション SYSPRINT では、印刷に使用されるオペレーティングシステムプリンタを指定します。PRINTERPATH=では、印刷に使用されるユニバーサル印刷プリンタを指定します。

PRINTERPATH="" (間に空白のない 2 個の二重引用符で設定された null 文字列) の場合は、SYSPRINT オプションで指定されたオペレーティングシステムプリンタが使用されます。

例

次の例では、デフォルトとは異なる出力先を指定します。

```
options PRINTERPATH=(corelab out);
filename out 'your_file';
```

動作環境の情報

動作環境によっては、PRINTERPATH=オプションを設定しても PMENU 印刷ボタンの設定が変更されず、引き続き動作環境の印刷が使用されることがあります。 詳細については、動作環境に関する SAS のドキュメントを参照してください。

PRINTERPATH オプションは、DEVICE=システムオプションが SASPRTC、SASPRTTG、SASPRTM、SASPRT のいずれかに設定されている場合に、ODS PRINTER にのみ使用されます。DEVICE=WINPRTC、WINPRTG または WINPRTM の場合、デバイスはそれぞれ SASPRTC、SASPRTG または SASPRTM として動作します。

関連項目:

- “Universal Printing” (*SAS Language Reference: Concepts*)

ステートメント:

- “ODS PRINTER Statement” (*SAS Output Delivery System: User's Guide*)

PRINTINIT システムオプション

SAS プロシージャ出力ファイルを LISTING 出力先用に初期化するかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: ログおよびプロシージャ出力コントロール:プロシージャ出力

PROC OPTIONS
GROUP= LISTCONTROL

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は NOPRINTINIT です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” ([6 ページ](#)) を参照してください。

参照項目: “PRINTINIT System Option: z/OS” (*SAS Companion for z/OS*)

構文**PRINTINIT | NOPRINTINIT****構文の説明****PRINTINIT**

SAS プロシージャ出力ファイルを LISTING 出力先用に初期化し、ファイル属性をリセットするように指定します。

ヒント PRINTINIT を指定すると、出力が生成されていなくても SAS プロシージャ出力ファイルが消去されます。

NOPRINTINIT

新しい出力が生成されない場合、既存のプロシージャ出力ファイルを LISTING 出力先用に保持するように指定します。

ヒント NOPRINTINIT を指定すると、新しい出力が生成された場合にのみ、SAS プロシージャ出力ファイルが上書きされます。

詳細**動作環境の情報**

PRINTINIT システムオプションの動作は、動作環境によって異なります。詳細については、動作環境向け SAS ドキュメントを参照してください。

PRINTMSGLIST システムオプション

すべてのメッセージを SAS ログに出力するか、トップレベルのメッセージのみを SAS ログに出力するかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウインドウ

カテゴリ: ログおよびプロシージャ出力コントロール:SAS ログ

PROC OPTIONS LOGCONTROL

GROUP=

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は PRINTMSGLIST です。**注:** サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

PRINTMSGLIST | NOPRINTMSGLIST

構文の説明

PRINTMSGLIST

メッセージのリスト全体を SAS ログに出力するように指定します。

NOPRINTMSGLIST

トップレベルメッセージのみを SAS ログに出力するように指定します。

詳細

バージョン 7 以降では、リターンコードサブシステムでリターンコードのリストが認められます。一般に、リスト内のメッセージはすべて 1 つのエラー状況に関連しますが、それぞれ異なるレベルの情報を提供します。このオプションにより、メッセージのリスト全体またはトップレベルメッセージのみを表示できます。

関連項目:

“The SAS Log” (*SAS Language Reference: Concepts*)

QUOTELENMAX システムオプション

引用符で囲まれた文字列が最大許容長を超えている場合、SAS で警告メッセージを SAS ログに書き込むかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ**カテゴリ:** 環境コントロール:エラー処理**PROC OPTIONS** ERRORHANDLING

GROUP=

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は QUOTELENMAX です。**注:** サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

QUOTELENMAX | NOQUOTELENMAX

構文の説明

QUOTELENMAX

引用符で囲まれた文字列の最大長について、SAS で警告メッセージを SAS ログに書き込むように指定します。

NOQUOTELENMAX

引用符で囲まれた文字列の最大長について、SAS で警告メッセージを SAS ログに書き込まないように指定します。

詳細

引用符で囲まれた文字列が長すぎる場合、SAS では次の警告が SAS ログに書き込まれます。

```
WARNING 32-169: The quoted string currently being processed has become
more than 262 characters long. You may have unbalanced
quotation marks.
```

実行するプログラムで長い文字列を引用符で囲んで使用しており、この警告を表示しないようにする場合は、NOQUOTELENMAX システムオプションを使用して警告を無効にします。

REPLACE システムオプション

永続的に保存された SAS データセットを置き換えるかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: ファイル:SAS ファイル

**PROC OPTIONS
GROUP=** SASFILES

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は REPLACE です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#) (6 ページ)を参照してください。

PROC CONTENTS または PROC DATASETS 内で CONTENTS ステートメントを組み合わせて OUT2=PermanentLibrary._ALL_ オプションを使用する場合、REPLACE システムオプションまたは REPLACE=YES データセットオプションも設定する必要があります。

構文

REPLACE | NOREREPLACE

構文の説明**REPLACE**

永続的に保存された SAS データセットを同じ名前の別の SAS データセットで置き換えられるように指定します。

NOREREPLACE

永続的に保存された SAS データセットを同じ名前の別の SAS データセットで置き換えられないように指定します。既存の SAS データセットが誤って置き換えられることを防止します。

詳細

このオプションは、WORKTERM=システムオプションを使用して WORK ライブラリファイルを永続的に保存している場合も含め、WORK ライブラリのデータセットには影響を与えません。

比較

REPLACE=データセットオプションは、REPLACE システムオプションよりも優先されます。

関連項目:

データセットオプション:

- “PARMCARDS= System Option: z/OS” (*SAS Companion for z/OS*)

システムオプション:

- “WORKTERM システムオプション” (314 ページ)

REUSE=システムオプション

オブザベーションが圧縮 SAS データセットに追加されたとき、SAS で空き領域を再利用するかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、**SAS システムオプション**ウィンドウ

カテゴリ: ファイル:SAS ファイル

PROC OPTIONS SASFILES

GROUP=

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は NO です。

操作: REUSE=データセットオプションは、REUSE=システムオプションよりも優先されます。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#) (6 ページ)を参照してください。

構文

REUSE=YES | NO

構文の説明

YES

空き領域を追跡し、オブザベーションが既存の圧縮データセットに追加されたら常に空き領域を再利用するように指定します。

操作 REUSE=YES は、POINTOBS=YES データセットオプション設定よりも優先されます。

COMPRESS=YES および REUSE=YES システムオプション設定を使用すると、オブザベーションをオブザベーション番号で指定できません。

NO

空き領域を追跡しないように指定します。

詳細

空き領域が再利用されると、SAS データセットに追加されるオブザベーションは、SAS データセットの最後に追加されるのではなく、十分な空き領域がある場所に挿入されます。

SAS データセット内で多くのオブザベーションを削除または更新する場合、
REUSE=NO を指定すると領域の使用効率が下がります。ただし、APPEND プロシージャ、FSEDIT プロシージャ、その他の SAS データセットにオブザベーションを追加するプロシージャでは、引き続き、非圧縮 SAS データセットの場合と同様にオブザベーションがデータセットの最後に追加されます。

圧縮 SAS データセットの作成後に REUSE= 属性を変更することはできません。圧縮 SAS データセットの空き領域は、オブザベーションの追加および削除時ではなく、SAS データセット作成時に指定された REUSE= 値に従って追跡され、再利用されます。
REUSE=YES の場合でも、APPEND プロシージャでは最後にオブザベーションが追加されます。

関連項目:

データセットオプション:

- “COMPRESS= Data Set Option” (*SAS Data Set Options: Reference*)
- “REUSE= Data Set Option” (*SAS Data Set Options: Reference*)

システムオプション:

- “COMPRESS=システムオプション” (92 ページ)

RIGHTMARGIN=システムオプション

ページの右側の印刷余白を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシージャ出力コントロール:ODS 印刷

PROC OPTIONS GROUP= ODSPRINT

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は 0.000 in です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ) を参照してください。

構文

RIGHTMARGIN=*margin-size*<*margin-unit*>

構文の説明

margin-size

余白のサイズを指定します。

制限事項 右の余白は、左右の余白の合計が用紙の幅よりも小さくなるようなサイズで指定する必要があります。

操作 このオプションの値を変更すると、LINESIZE=システムオプションの値が変更される可能性があります。

<margin-unit>

余白サイズの単位を指定します。margin-unitには、*in*(インチ)または*cm*(センチメートル)を使用できます。<margin-unit>は、RIGHTMARGIN システムオプションの値の一部として保存されます。

デフォルト インチ

詳細

すべての余白には、プリントと用紙サイズに応じた最小値があります。

関連項目:

ステートメント:

- “ODS PRINTER Statement” (*SAS Output Delivery System: User's Guide*)

システムオプション:

- “BOTTOMMARGIN=システムオプション” (65 ページ)
- “LEFTMARGIN=システムオプション” (173 ページ)
- “TOPMARGIN=システムオプション” (285 ページ)

RLANG システムオプション

SAS で R 言語ステートメントを実行するかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: システム管理:セキュリティ

PROC OPTIONS SECURITY
GROUP=

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は NORLANG です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

RLANG | NORLANG

構文の説明

RLANG

R 言語をサポートする動作環境で、SAS により R 言語ステートメントを実行できることを指定します。

NORLANG

SAS で R 言語ステートメントを実行しないように指定します。

詳細

RLANG が指定されていて、動作環境で R 言語がサポートされていないと、SAS によりメッセージが SAS ログに書き込まれます。メッセージでは、R 言語がサポートされていないことを示し、SAS テクニカルサポートに問い合わせるように求められます。SAS テクニカルサポートでは、ユーザーが SAS で R 言語ステートメントを実行しようとする動作環境で R 言語がサポートされていないことを追跡します。

関連項目:

SAS/IML User's Guide

RSASUSER システムオプション

SASUSER ライブラリを読み取りアクセスと読み取り/書き込みアクセスのどちらで開くかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: 環境コントロール:ファイル

**PROC OPTIONS
GROUP=** ENVFILES

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は NORSASUSER です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

参照項目: “RSASUSER System Option: UNIX” (*SAS Companion for UNIX Environments*)
“RSASUSER System Option: Windows” (*SAS Companion for Windows*)

構文

[RSASUSER | NORSASUSER](#)

構文の説明

RSASUSER

SASUSER ライブラリを読み取り専用モードで開きます。

NORSASUSER

SASUSER ライブラリを読み取り/書き込みモードで開きます。

詳細

RSASUSER システムオプションは、すべてのユーザーに 1 つの SASUSER ライブラリを使用していて、ユーザーによるライブラリの変更を防止する場合に役立ちます。ただし、ユーザーが SAS/ASSIST ソフトウェアを使用する場合は、SASUSER ライブラリへの書き込みが要求されるため、実用的ではありません。

動作環境の情報

RSASUSER システムオプション使用時のネットワークに関する考慮事項については、動作環境向け SAS ドキュメントを参照してください。

S=システムオプション

ソースステートメントの各行のステートメント長と DATALINES ステートメント以降の行のデータ長を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: 入力コントロール:データ処理

**PROC OPTIONS
GROUP=** INPUTCONTROL

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は 0 です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

S=n | nK | nM | nG | nT | hexX | MIN | MAX

構文の説明

n | nK | nM | nG | nT

ステートメントとデータの長さを 1 (バイト)、1,024 (キロバイト)、1,048,576 (メガバイト)、1,073,741,824 (ギガバイト)、1,099,511,627,776 (テラバイト) のいずれかの単位で指定します。たとえば、値 8 では 8 バイト、値 3m では 3,145,728 バイトが指定されます。

hexX

ステートメントとデータの長さを 16 進数で指定します。先頭が数値(0 から 9)、末尾が X の値を指定する必要があります。たとえば、値 2dx ではステートメントとデータの長さが 45 に設定されます。

MIN

ステートメントとデータの長さを 0 に設定します。

MAX

ステートメントとデータの長さを 2,147,483,647 に設定します。

詳細

入力は固定長レコードからの場合と可変長レコードからの場合があります。固定長レコードと可変長レコードのどちらも、順序付けられている場合とそうでない場合があります。通し番号の場所は、ファイルレコード形式が固定長か可変長かによって決まります。

SAS では、入力の通し番号を探すかどうかと、入力の読み取り方法を決定するために S の値を使用します。

レコードの種類	S の値	SAS で通し番号を検索	SAS での入力読み取り方法
固定長	S>0 または S=MAX	いいえ	S の値はスキャンされるソースまたはデータの長さとして使用され、各行でその長さを超える部分はすべて無視されます。
固定長	S=0 または S=MIN	はい(入力の行の最後)	SAS で、最初のシケンスフィールドの最後の n 列(n は SEQ=システムオプションの値)が調べられます。 これらの列に数値が含まれている場合、その数値は通し番号と見なされ、各行の最後の 8 列は無視されます。 n 列に数値以外の文字が含まれている場合、SAS により最後の 8 列がデータ列として読み込まれます。
Variable-length	S>0 または S=MAX	いいえ	S の値はスキャンされるソースまたはデータの開始列として使用され、各行でその長さより前にある部分はすべて無視されます。
可変長	S=0 または S=MIN	はい(入力の行の先頭)	SAS で、最初のシケンスフィールドの最後の n 列(n は SEQ=システムオプションの値)が調べられます。 これらの列に数値が含まれている場合、その数値は通し番号と見なされ、各行の最初の 8 列は無視されます。 n 列に数値以外の文字が含まれている場合、SAS により最初の 8 列がデータ列として読み込まれます。

比較

S2=システムオプションが%INCLUDE ステートメント、自動実行ファイルまたは自動呼び出しマクロファイルからのみ入力を制御する点を除き、S=システムオプションは S2=システムオプションとまったく同様に動作します。

関連項目:

システムオプション:

- “[S2=システムオプション](#)” (234 ページ)
- “[S2V=システムオプション](#)” (236 ページ)
- “[SEQ=システムオプション](#)” (239 ページ)

S2=システムオプション

%INCLUDE ステートメント、AUTOEXEC=ファイルまたは自動呼び出しマクロファイルから入力されるソースステートメントの各行のステートメント長を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ
カテゴリ: 入力コントロール:データ処理

PROC OPTIONS GROUP= INPUTCONTROL

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は 0 です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

S2=S | n | nK | nM | nG | nT | hexX | MIN | MAX

構文の説明

S

%INCLUDE ステートメント、AUTOEXEC=ファイルまたは自動呼び出しマクロファイルから入力されるテキストのレコード長を計算するには、S=システムオプションの現在の値を使用します。

n | nK | nM | nG | nT

%INCLUDE ステートメント、自動実行ファイルまたは自動呼び出しマクロファイル内に指定されたファイル内のステートメントの長さを、1 (バイト)、1,024 (キロバイト)、1,048,576 (メガバイト)、1,073,741,824 (ギガバイト)、1,099,511,627,776 (テラバイト) のいずれかの単位で指定します。たとえば、値 8 では 8 バイト、値 3m では 3,145,728 バイトが指定されます。

hexX

ステートメントの長さを 16 進数で指定します。先頭が数値(0 から 9)、末尾が X の値を指定する必要があります。たとえば、値 2dx ではステートメントの長さが 45 に設定されます。

MIN

ステートメントとデータの長さを 0 に設定します。

MAX

ステートメントとデータの長さを 2,147,483,647 に設定します。

詳細

入力は固定長レコードからの場合と可変長レコードからの場合があります。固定長レコードと可変長レコードのどちらも、順序付けられている場合とそうでない場合があります。通し番号の場所は、ファイルレコード形式が固定長か可変長かによって決まります。

SAS では、入力の通し番号を探すかどうかと、入力の読み取り方法を決定するために S2 の値を使用します。

レコードの種類	S2 の値	SAS で通し番号を検索	SAS での入力読み取り方法
固定長	S2>0 または S2=MAX	いいえ	S2 の値はスキャンされるソースまたはデータの長さとして使用され、各行でその長さを超える部分はすべて無視されます。
固定長	S2=0 または S2=MIN	はい(入力の行の最後)	SAS で、最初のシケンスフィールドの最後の n 列(n は SEQ=システムオプションの値)が調べられます。 これらの列に数値が含まれている場合、その数値は通し番号と見なされ、各行の最後の 8 列は無視されます。 n 列に数値以外の文字が含まれている場合、SAS により最後の 8 列がデータ列として読み込まれます。
Variable-length	S2>0 または S2=MAX	いいえ	S2 値はスキャンされるソースまたはデータの開始列として使用され、各行でその長さより前にある部分はすべて無視されます。

レコードの種類	S2 の値	SAS で通し番号を検索	SAS での入力読み取り方法
可変長	S2=0 または S2=MIN	はい(入力の行の先頭)	<p>SAS で、最初のシケンスフィールドの最後の n 列(n は SEQ=システムオプションの値)が調べられます。</p> <p>これらの列に数値が含まれている場合、その数値は通し番号と見なされ、各行の最初の 8 列は無視されます。</p> <p>n 列に数値以外の文字が含まれている場合、SAS により最初の 8 列がデータ列として読み込まれます。</p>

比較

S2=システムオプションが %INCLUDE ステートメント、自動実行ファイルまたは自動呼び出しマクロファイルからの入力を制御する点を除き、S2=システムオプションは S=システムオプションとまったく同様に動作します。

S2=システムオプションでは、%INCLUDE ステートメント、自動実行ファイルまたは自動呼び出しマクロファイルで指定されたファイルから、固定長レコード形式と可変長レコード形式の両方を読み込みます。S2V=システムオプションでは、%INCLUDE ステートメント、自動実行ファイルまたは自動呼び出しマクロファイルで指定されたファイルから、可変長レコード形式のみを読み込みます。

関連項目:

システムオプション:

- “S=システムオプション” (232 ページ)
- “S2V=システムオプション” (236 ページ)
- “SEQ=システムオプション” (239 ページ)

S2V=システムオプション

%INCLUDE ステートメント、自動実行ファイルまたは自動呼び出しマクロファイルに指定されたファイルを、可変長レコード形式で読み取る場合の読み取り開始位置を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: 入力コントロール:データ処理

PROC OPTIONS GROUP= INPUTCONTROL

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は 0 です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

S2V=S2 | S | n | nK | nM | nG | nT | MIN | MAX | hexX

構文の説明

S2

S2=システムオプションの現在の値を使用して、%INCLUDE ステートメント、自動実行ファイルまたは自動呼び出しマクロファイルから入力される可変長レコードの読み取り開始位置を計算するように指定します。これがデフォルト設定です。S2=オプションのデフォルト値は 0 です。

S

S=システムオプションの現在の値を使用して、%INCLUDE ステートメント、自動実行ファイルまたは自動呼び出しマクロファイルから入力される可変長レコードの読み取り開始位置を計算するように指定します。

n | nK | nM | nG | nT

%INCLUDE ステートメント、自動実行ファイルまたは自動呼び出しマクロファイルから入力される可変長レコードの読み取り開始位置を、1(バイト)、1,024(キロバイト)、1,048,576(メガバイト)、1,073,741,824(ギガバイト)、1,099,511,627,776(テラバイト)のいずれかの単位で指定します。たとえば、値 8 では 8 バイト、値 3m では 3,145,728 バイトが指定されます。

MIN

%INCLUDE ステートメント、自動実行ファイルまたは自動呼び出しマクロから入力される可変長レコードの読み取り開始位置を 0 に設定します。

MAX

%INCLUDE ステートメント、自動実行ファイルまたは自動呼び出しマクロから入力される可変長レコードの読み取り開始位置を 2,147,483,647 に設定します。

hexX

%INCLUDE ステートメント、自動実行ファイルまたは自動呼び出しマクロファイルから入力される可変長レコードの読み取り開始位置を 16 進数で指定します。先頭が数値(0 から 9)、末尾が X の値を指定する必要があります。

詳細

S2V=システムオプションと S2=システムオプションの両方で、%INCLUDE ステートメント、自動実行ファイルまたは自動呼び出しマクロファイルから入力される可変長レコードの読み取り開始位置が指定されます。両方のオプションの値が指定されると、S2V=システムオプションの値が S2=システムオプションに指定された値よりも優先されます。

比較

S2=システムオプションでは、%INCLUDE ステートメント、自動実行ファイルまたは自動呼び出しマクロファイルから入力される固定長レコード形式と可変長レコード形式の両方の読み取り開始位置を指定します。S2V=システムオプションでは、%INCLUDE ステートメント、自動実行ファイルまたは自動呼び出しマクロファイルから入力される可変長レコード形式のみの読み取り開始位置を指定します。

関連項目:

システムオプション:

- “S=システムオプション” (232 ページ)
- “S2=システムオプション” (234 ページ)
- “SEQ=システムオプション” (239 ページ)

SASHELP=システムオプション

Sashelp ライブラリの場所を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: 環境コントロール:ファイル

**PROC OPTIONS
GROUP=** ENVFILES

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ) を参照してください。

ヒント: APPEND または INSERT システムオプションを使用すると、さらに *library-specifications* を追加できます。

参照項目: “SASHELP System Option: UNIX” (*SAS Companion for UNIX Environments*)
“SASHELP System Option: Windows” (*SAS Companion for Windows*)
“SASHELP= System Option: z/OS” (*SAS Companion for z/OS*)

構文

SASHELP=*library-specification*

構文の説明

library-specification

外部ライブラリを示します。

詳細

SASHELP=システムオプションは、インストールプロセス中に設定し、通常、インストール後は変更しません。

動作環境の情報

有効な外部ライブラリ指定は、動作環境に固有です。コマンドラインまたは構成ファイルでは、動作環境に固有の構文を使用します。詳細については、動作環境に関する SAS のドキュメントを参照してください。

関連項目:

システムオプション:

- “APPEND=システムオプション” (58 ページ)
- “INSERT=システムオプション” (163 ページ)

SASUSER=システムオプション

Sasuser ライブラリとして使用する SAS ライブラリを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: 環境コントロール:ファイル

PROC OPTIONS
GROUP= ENVFILES

注: サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

参照項目: “SASUSER System Option: UNIX” (*SAS Companion for UNIX Environments*),
“SASUSER System Option: Windows” (*SAS Companion for Windows*),
“SASUSER= System Option: z/OS” (*SAS Companion for z/OS*)

構文

SASUSER=*library-specification*

構文の説明

library-specification

ユーザーの Profile カタログを含むライブラリ参照名または物理名を指定します。

詳細

ライブラリとカタログは SAS により自動的に作成されるため、明示的に作成する必要はありません。

SEQ=システムオプション

入力ソース行またはデータ行に含まれるシーケンスフィールドの数値部分の長さを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: 入力コントロール:データ処理

PROC OPTIONS
GROUP= INPUTCONTROL

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は 8 です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

SEQ=*n* | MIN | MAX | *hexX*

構文の説明

n

長さをバイト単位で指定します。

MIN

最小長を 1 に設定します。

MAX

最大長を 8 に設定します。

ヒント SEQ=8 の場合、シーケンスフィールドの 8 文字すべてが数値と見なされます。

hexX

長さを 16 進値で指定します。先頭が数値(0 から 9)、末尾が X の値を指定する必要があります。

詳細

S=または S2=システムオプションで別途指定しない限り、SAS では 8 文字のシーケンスフィールドを想定します。ただし、エディタによっては、なんらかの英字情報(ファイル名など)を最初の数文字に設定することができます。SEQ=値では、8 文字フィールド内で右揃えされる桁数を指定します。たとえば、シーケンスフィールド AAA00010 に SEQ=5 を指定すると、SAS では 8 文字のシーケンスフィールドの最後の 5 文字のみを参照し、文字が数値の場合、8 文字全体をシーケンスフィールドとして処理します。

関連項目:

システムオプション:

- “[S=システムオプション](#)” (232 ページ)
- “[S2=システムオプション](#)” (234 ページ)

SET システムオプション

SAS 環境変数を定義します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、**SAS システムオプション** ウィンドウ

カテゴリ: 環境コントロール:ファイル

PROC OPTIONS ENVFILES

GROUP=

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は None です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

参照項目: “[SET System Option: UNIX](#)” (*SAS Companion for UNIX Environments*)

“[SET System Option: Windows](#)” (*SAS Companion for Windows*)

“[SET= System Option: z/OS](#)” (*SAS Companion for z/OS*)

構文

構文は動作環境によって異なります。

使用している動作環境の SET システムオプションを参照してください。

SETINIT システムオプション

サイトライセンス情報を変更できるかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: システム管理:インストール

**PROC OPTIONS
GROUP=** INSTALL

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は NOSETINIT です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#) (6 ページ)を参照してください。

構文

SETINIT | NOSETINIT

構文の説明

SETINIT

ウィンドウ環境以外で、SETINIT プロシージャを実行してライセンス情報を変更できることを指定します。

NOSETINIT

インストール後、サイトライセンス情報を変更できないことを指定します。

詳細

SETINIT は、インストールプロセスで設定され、通常、インストール後は変更されません。SETINIT オプションは、ウィンドウ SAS セッション以外でのみ有効です。

SKIP=システムオプション

LISTING 出力先への SAS 出力の各ページ先頭でスキップする行数を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシージャ出力コントロール:プロシージャ出力

**PROC OPTIONS
GROUP=** LISTCONTROL

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は 0 です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#) (6 ページ)を参照してください。

構文

SKIP=*n* | MIN | MAX | hexX

構文の説明

n
スキップする行の範囲を 0 から 20 までに設定します。

MIN
スキップする行数を 0 に設定します。行はスキップされません。

MAX
スキップする行数を 20 に設定します。

hex
スキップする行数を 16 進数で指定します。先頭が数値(0 から 9)、末尾が X の値を指定する必要があります。たとえば、値 0ax では 10 行スキップするように指定されます。

詳細

第 1 行目は、プリンタのキャリッジ制御または用紙制御バッファによって決められた位置に対して相対的に配置されます。多くのサイトでは、用紙の上端から 3 行または 4 行下がった位置から新しいページの第 1 行目が開始するように定義しています。この間隔が十分な場合、それ以上の行がスキップされないように SKIP=0 を指定します。

SKIP= 値は、PAGESIZE= システムオプションで制御される各ページの最大印刷行数には影響しません。

SOLUTIONS システムオプション

SAS ウィンドウにソリューションメニューを含めるかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: 環境コントロール:表示

PROC OPTIONS ENVDISPLAY
GROUP=

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は SOLUTIONS です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“制限されたオプション”(6 ページ)を参照してください。

構文

SOLUTIONS | **NOSOLUTIONS**

構文の説明

SOLUTIONS
SAS ウィンドウにソリューションメニューを含めることを指定します。

NOSOLUTIONS
SAS ウィンドウにソリューションメニューを含めないことを指定します。

SORTDUP=システムオプション

SORT プロシージャで、データセット内のすべての変数、あるいは DROP または KEEP データセットオプションの適用後も残っている変数に基づいて、重複した変数を削除するかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: 並べ替え:プロシージャオプション

**PROC OPTIONS
GROUP=** SORT

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は PHYSICAL です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

SORTDUP=[PHYSICAL | LOGICAL](#)

構文の説明

PHYSICAL

データセットに存在するすべての変数に基づいて重複を削除します。

LOGICAL

DROP=および KEEP=データセットオプションが処理された後も残っている変数のみに基づいて重複を削除します。

詳細

SORTDUP=オプションでは、SORT プロシージャの NODUPRECS オプションが指定されているときに、重複したオブザベーションを削除するために並べ替え基準にする変数を指定します。

SORTDUP=が LOGICAL に指定され、SORT プロシージャで NODUPRECS が指定されていると、重複したオブザベーションは、入力データセットに対する DROP または KEEP 操作の後に残った変数に基づいて削除されます。SORTDUP=LOGICAL と設定すると、オブザベーションが比較される前に変数が除外されるため、削除される重複オブザベーション数が増えます。SORTDUP=LOGICAL を設定すると、処理速度が向上する可能性があります。

SORTDUP=が PHYSICAL に指定され、SORT プロシージャで NODUPRECS が指定されていると、重複したオブザベーションは、入力データセット内のすべての変数に基づいて削除されます。

関連項目:

プロシージャ:

- “[SORT Procedure](#)” (*Base SAS Procedures Guide*)

SORTEQUALS システムオプション

出力データセット内の同一 BY 変数値を持つオブザベーションが特定の順序で並べられているかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: 並べ替え:プロシジャオプション

PROC OPTIONS SORT
GROUP=

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は SORTEQUALS です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

[SORTEQUALS | NOSORTEQUALS](#)

構文の説明

SORTEQUALS

同一 BY 変数値を持つオブザベーションが、出力データセット内で入力データセット内と同じ相対位置を保持するかどうかを指定します。

NOSORTEQUALS

出力データセット内の同一 BY 変数値を持つオブザベーションの順序コントロールにリソースを使用しないように指定します。

操作 THREADES=システムオプションの使用時に最適な並べ替え処理速度を実現するには、THREADES=YES と NOSORTEQUALS を指定します。

ヒント リソースを節約するには、同一 BY 変数値を持つオブザベーションを特定の順序に維持する必要がない場合、NOSORTEQUALS を使用します。

比較

SORTEQUALS および NOSORTEQUALS システムオプションは、SAS セッションでの PROC SORT の並べ替え動作を設定します。PROC SORT ステートメントの EQUAL または NOEQUAL オプションは、個々の PROC ステップのシステムオプションの設定より優先され、その PROC ステップのみの並べ替え動作を指定します。

関連項目:

プロシジャステートメントオプション:

- PROC SORT ステートメント EQUALS オプション、“SORT”(*Base SAS Procedures Guide*)

システムオプション:

- “[THREADES システムオプション](#)”(282 ページ)

SORTSIZE=システムオプション

SORT プロシージャで使用できるメモリ量を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、**SAS システムオプション** ウィンドウ

カテゴリ: 並べ替え:プロシージャオプション
システム管理:メモリ
システム管理:パフォーマンス

PROC OPTIONS MEMORY

GROUP= PERFORMANCE

SORT

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は MAX です。

参照項目: “SORTSIZE System Option: UNIX” (*SAS Companion for UNIX Environments*)

“SORTSIZE System Option: Windows” (*SAS Companion for Windows*)

“SORTSIZE= System Option: z/OS” (*SAS Companion for z/OS*)

構文

SORTSIZE=*n* | *nK* | *nM* | *nG* | *nT* | *hexX* | MIN | MAX

構文の説明

n | *nK* | *nM* | *nG* | *nT*

メモリ量を 1 (バイト)、1,024 (キロバイト)、1,048,576 (メガバイト)、1,073,741,824 (ギガバイト)、1,099,511,627,776 (テラバイト) のいずれかの単位で指定します。たとえば、値 4000 では 4,000 バイト、値 2m では 2,097,152 バイトが指定されます。*n*=0 のとき、並べ替えユーティリティではデフォルトが使用されます。SORTSIZE の有効値の範囲は 0 から 9,223,372,036,854,775,807 までです。

hexX

メモリ量を 16 進数で指定します。この数値は、先頭が数値(0 から 9)、末尾が X である必要があります。たとえば、0fffX では、4095 バイトのメモリが指定されます。

MIN

使用可能な最小メモリ量を指定します。

参照項目 MIN の値は、動作環境によって異なります。詳細については、各動作環境向けの SAS ドキュメントを参照してください。

MAX

使用可能な最大メモリ量を指定します。

参照項目 MAX の値は、動作環境によって異なります。詳細については、動作環境に関する SAS のドキュメントを参照してください。

詳細

一般に、SORTSIZE=システムオプションの値は、プロセスで使用可能な物理メモリよりも小さくする必要があります。SORT プロシージャが、指定した値よりも多くのメモリを必要とする場合、システムで一時的なユーティリティファイルが作成されます。

処理速度に関する注意事項: SORTSIZE=を適切に指定すると、動作環境で制御されるメモリのスワップを制限して、並べ替えの処理速度を向上させることができます。

関連項目:

プロシージャ:

- “SORT” (*Base SAS Procedures Guide*)

システムオプション:

- “SUMSIZE=システムオプション” (256 ページ)

SORTVALIDATE システムオプション

ユーザー指定の並べ替え順序が並べ替えインジケータに指示されている場合、SORT プロシージャで、データセットが BY ステートメント内の変数に従って並べ替えられていることを検証するかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: 並べ替え:プロシージャオプション

PROC OPTIONS SORT
 GROUP=

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は NOSORTVALIDATE です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“制限されたオプション” (6 ページ)を参照してください。

構文

SORTVALIDATE | NOSORTVALIDATE

構文の説明

SORTVALIDATE

SORT プロシージャで、データセット内のオブザベーションが BY ステートメントに指定された変数を基準にして並べ替えられているかどうかを検証するように指定します。

NOSORTVALIDATE

SORT プロシージャで、データセット内のオブザベーションが並べ替えられているか検証しないように指定します。

詳細

SORTVALIDATE システムオプションを使用すると、データセットの並べ替えインジケータがユーザー指定の並べ替え順序を示しているときに、SORT プロシージャで、データセットが正しく並べ替えられていることを検証するかどうかを指定できます。ユーザーは、DATA ステートメントで SORTEDBY=データセットオプションを使用するか、DATASETS プロシージャの MODIFY ステートメントで SORTEDBY=オプションを使用して、並べ替え順序を指定できます。並べ替えインジケータをユーザーが設定すると、データセットが BY ステートメントの変数に従って並べ替えられているかどうかは SAS ではわかりません。

SORTVALIDATE システムオプションが設定され、データセット並べ替えインジケータがユーザーによって設定された場合、SORT プロシージャでは各オブザベーションに対してシーケンスチェックを実行し、データセットが BY ステートメントの変数に従って並べ替えられていることを確認します。データセットが正しく並べ替えられていない場合、SAS によりデータセットが並べ替えられます。

シーケンスチェックが正常に行われたか、並べ替えが終了すると、SORT プロシージャによりバリデート済み並べ替え情報がはいに設定されます。並べ替えが実行されると、SORT プロシージャはソート順並べ替え情報を BY ステートメントに指定された変数に設定します。

出力データセットが指定されている場合、出力データセットのバリデート済み並べ替え情報がはいに設定されます。並べ替えが必要ない場合、データセットが出力データセットにコピーされます。

関連項目:

- “Sorted Data Sets” (*SAS Language Reference: Concepts*)

データセットオプション:

- “SORTEDBY= Data Set Option” (*SAS Data Set Options: Reference*)

プロシージャ:

- “DATASETS” (*Base SAS Procedures Guide*)
- “SORT” (*Base SAS Procedures Guide*)

SOURCE システムオプション

SAS により、ソースステートメントを SAS ログに書き込むかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシージャ出力コントロール:SAS ログ

PROC OPTIONS GROUP= LOGCONTROL

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は SOURCE です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

SOURCE | NOSOURCE

構文の説明

SOURCE

SAS ソースステートメントを SAS ログに書き込むように指定します。

NOSOURCE

SAS ソースステートメントを SAS ログに書き込まないように指定します。

詳細

SOURCE システムオプションは、%INCLUDE で読み込まれたファイルから、または自動呼び出しマクロからのステートメントが SAS ログに出力されるかどうかには影響を与えません。

注: SOURCE は、問題の判別と解決のために SAS に送信する SAS プログラムを実行するときに、有効になっている必要があります。

関連項目:

“The SAS Log” (*SAS Language Reference: Concepts*)

SOURCE2 システムオプション

SAS により、インクルードされたファイルから 2 次ソースステートメントを SAS ログに書き込むかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロジェクト出力コントロール:SAS ログ

PROC OPTIONS GROUP= LOGCONTROL

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は NOSOURCE2 です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ) を参照してください。

構文

SOURCE2 | NOSOURCE2

構文の説明

SOURCE2

%INCLUDE ステートメントでインクルードされたファイルから 2 次ソースステートメントを SAS ログに書き込むように指定します。

NOSOURCE2

2 次ソースステートメントを SAS ログに書き込まないように指定します。

詳細

注: SOURCE2 は、問題の判別と解決のために SAS に送信する SAS プログラムを実行するときに、有効になっている必要があります。

関連項目:

“The SAS Log” (*SAS Language Reference: Concepts*)

SPOOL システムオプション

SAS ステートメントを Work ライブラリ内のユーティリティデータセットに書き込むかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ:	入力コントロール:データ処理
PROC OPTIONS	INPUTCONTROL
GROUP=	
デフォルト:	出荷時のデフォルト値は NOSPOOL です。
注:	サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“ 制限されたオプション ”(6 ページ)を参照してください。

構文

SPOOL | NOSPOOL

構文の説明

SPOOL

SAS によりステートメントを Work ライブラリのユーティリティデータセットに書き込み、後で %INCLUDE または %LIST ステートメント、あるいはウィンドウ環境内の RECALL コマンドで使用できるようにします。

NOSPOOL

SAS でステートメントをユーティリティデータセットに書き込まないように指定します。NOSPOOL を指定すると実行時間が速くなりますが、%INCLUDE および %LIST ステートメントを使用して、セッション内で以前に実行された SAS ステートメントを再サブミットすることはできません。

例

SPOOL を指定すると、行番号でコード行を参照して再サブミットできるため、対話型行モードで特に役立ちます。行番号を含むコード例を次に示します。

```
00001 data test;
00002   input w x y z;
00003   datalines;
00004 411.365 101.945 323.782 512.398
00005 ;
```

SPOOL が有効な場合、次のステートメントをサブミットして行番号 1 を再サブミットできます。

```
%inc 1;
```

行番号の間にコロン(:)またはハイフン(-)を入れることで行の範囲を再サブミットすることができます。たとえば、次のステートメントでは上記の例の行 1-3 と 4-5 を再サブミットします。

```
%inc 1:3;
%inc 4-5;
```

STARTLIB システムオプション

SAS の起動時にユーザー定義の永久ライブラリ参照名を割り当てるかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: ファイル:外部ファイル

PROC OPTIONS	EXTFILES
GROUP=	
デフォルト:	デフォルトはウインドウ環境では STARTLIB です。 デフォルトはバッチ、対話型ラインおよび非対話型モードでは NOSTARTLIB です。
注:	サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、“ 制限されたオプション ”(6 ページ)を参照してください。

構文

[STARTLIB | NOSTARTLIB](#)

構文の説明

STARTLIB

SAS の起動時にユーザー定義の永久ライブラリ参照名を割り当てるように指定します。

NOSTARTLIB

SAS の起動時にユーザー定義の永久ライブラリ参照名を割り当てないように指定します。

詳細

ライブラリの新規作成ウィンドウを使用して起動時に有効チェックボックスを選択することで、ウインドウ環境のみで永久ライブラリ参照名が割り当てられます。SAS は永久ライブラリ参照名を SAS レジストリに保存します。ライブラリの新規作成ウィンドウを開くには、エクスプローラーウィンドウでライブラリを右クリックし、新規作成を選択します。または、コマンドボックスに DMLIBASSIGN と入力します。

ウインドウ環境では STARTLIB がデフォルトのため、SAS の起動時に自動的に永久ライブラリ参照名が割り当てられます。

その他すべての実行モード(バッチ、対話型ラインおよび非対話型)では、コマンドラインまたは構成ファイルで STARTLIB オプションを指定して SAS を起動した場合にのみ永久ライブラリ参照名が割り当てられます。

STEPCHKPT システムオプション

DATA ステップと PROC ステップのチェックポイント-再開データをバッチプログラムで記録するかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: 環境コントロール:エラー処理

PROC OPTIONS	ERRORHANDLING
GROUP=	

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は NOSTEPCHKPT です。

制限事項: STEPCHKPT システムオプションは、SAS 開始時に LABELCHKPT システムオプションが指定されていない場合にのみ指定できます。

要件: このオプションは、バッチモードでのみ使用できます。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

STEPCHKPT | NOSTEPCHKPT

構文の説明

STEPCHKPT

チェックポイントモードを有効にし、DATA ステップと PROC ステップのチェックポイント-再開データが記録されるように指定します。

NOSTEPCHKPT

チェックポイントモードを無効にし、チェックポイント-再開データが記録されないように指定します。これがデフォルト設定です。

詳細

STEPCHKPT システムオプションを使用することで、バッチで実行する SAS プログラムで SAS がチェックポイントモードになります。DATA ステップまたは PROC ステップが実行されるたびに、SAS はチェックポイント-再開ライブラリにデータを記録します。プログラムが完了せずに終了した場合、そのプログラムを再サブミットできます。プログラムが終了されたときに実行していたステップで実行が開始されます。

チェックポイント-再開データを確実に正確にするには、STEPCHKPT オプションを指定するときに ERRORCHECK STRICT オプションも指定して ERRORABEND オプションを設定します。これにより、ほとんどのエラーが発生した場合に SAS が終了されます。

チェックポイントモードは、SAS にコマンドをサブミットする DM ステートメントを含むバッチプログラムでは無効です。チェックポイントモードが有効になっていて SAS で DM ステートメントが検出された場合、チェックポイントモードが無効にされ、チェックポイントカタログエントリが削除されます。

比較

STEPCHKPT システムオプションは、完了前に終了したバッチプログラムで DATA ステップと PROC ステップのチェックポイントモードを有効にします。エラーが発生したときに実行されていた DATA ステップまたは PROC ステップで実行が再開されます。

LABELCHKPT システムオプションは、完了前に終了したバッチプログラムでラベル付きコードセクションのチェックポイントモードを有効にします。エラーが発生したときに実行されていたラベル付きコードセクションで実行が再開されます。

関連項目:

- “Checkpoint Mode and Restart Mode” (*SAS Language Reference: Concepts*)

ステートメント:

- “CHECKPOINT EXECUTE_ALWAYS Statement” (*SAS Statements: Reference*)

システムオプション:

- “CHKPTCLEAN システムオプション” (80 ページ)
- “ERRORABEND システムオプション” (129 ページ)
- “ERRORCHECK=システムオプション” (131 ページ)
- “LABELCHKPT システムオプション” (168 ページ)
- “STEPCHKPLIB=システムオプション” (252 ページ)

- “STEPRESTART システムオプション”(253 ページ)

STEPCHKPTLIB=システムオプション

DATA ステップと PROC ステップのチェックポイント-再開データを保存するライブラリのライブラリ参照名を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: 環境コントロール:エラー処理

PROC OPTIONS ERRORHANDLING

GROUP=

制限事項: STEPCHKPTLIB システムオプションは、SAS 開始時に LABELCHKPT システムオプションが指定されていない場合にのみ指定できます。

要件 このオプションは、バッチモードでのみ使用できます。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

STEPCHKPTLIB=*libref*

構文の説明

libref

DATA ステップと PROC ステップのチェックポイント-再開データを保存するライブラリを識別するライブラリ参照名を指定します。

デフォルト Work

要件 チェックポイント-再開ライブラリを識別する LIBNAME ステートメントは、BASE エンジンを使用し、バッチプログラムの最初のステートメントである必要があります。

詳細

STEPCHKPT システムオプションが指定されている場合、バッチプログラムでのチェックポイント-再開データは、STEPCHKPTLIB=システムオプションで指定されたライブラリ参照名に保存されます。ライブラリ参照名が指定されていない場合、SAS は Work ライブラリを使用してチェックポイントデータを保存します。ライブラリ参照名を定義する LIBNAME ステートメントは、バッチプログラムの最初のステートメントである必要があります。

チェックポイントデータの保存に Work ライブラリを使用する場合、NOWORKTERM および NOWORKINIT システムオプションを指定する必要があります。これにより、バッチプログラムが再サブミットされたときにチェックポイント-再開データが使用可能になります。これら 2 つのオプションによって、Work ライブラリが確実に SAS の終了時に保存され、SAS の起動時に復元されます。NOWORKTERM オプションが指定されていない場合、Work ライブラリは SAS セッションの最後に削除され、チェックポイント-再開データは失われます。NOWORKINIT オプションが指定されていない場合、新しい Work ライブラリが SAS の起動時に作成され、この場合もチェックポイント-再開データは失われます。

STEPCHKPTLIB=オプションは、Work ライブラリに保存されないチェックポイント-再開データにアクセスする、すべての SAS セッションで指定する必要があります。

動作環境の情報

Work ライブラリが UNIX または z/OS 動作環境の UNIX ディレクトリ内に存在していて CLEANWORK ユーティリティを実行する場合、Work ライブラリディレクトリとその内容は、SAS セッションの終了後にユーティリティが実行されたときに削除されます。z/OS 動作環境で SAS をバッチモードで実行する場合、通常、Work ライブラリは SAS ジョブの最後に削除される一時データセットに割り当てられます。このような場合にチェックポイント-再開データを保持するには、STEPCHKPTLIB オプションの値に永久ライブラリを指定します。

比較

STEPCHKPT システムオプションが設定されている場合、STEPCHKPTLIB システムオプションによって指定されたライブラリで、DATA ステップと PROC ステップのチェックポイント-再開データを保存するライブラリ名が指定されます。STEPRESTART システムオプションが設定されている場合、STEPCHKPTLIB システムオプションによって指定されたライブラリで、DATA ステップと PROC ステップの実行の再開に使用されるチェックポイント-再開データのライブラリ名が指定されます。

LABELCKPT システムオプションが設定されている場合、LABELCHKPTLIB システムオプションによって指定されたライブラリで、ラベル付きコードセクションのチェックポイント-再開データを保存するライブラリ名が指定されます。LABELRESTART システムオプションが設定されている場合、LABELCHKPTLIB システムオプションによって指定されたライブラリで、ラベル付きコードセクションの実行の再開に使用されるチェックポイント-再開データのライブラリ名が指定されます。

関連項目:

- “Checkpoint Mode and Restart Mode” (*SAS Language Reference: Concepts*)

ステートメント:

- “CHECKPOINT EXECUTE_ALWAYS Statement” (*SAS Statements: Reference*)

システムオプション:

- “LABELCHKPT システムオプション” (168 ページ)
- “LABELCHKPTLIB=システムオプション” (169 ページ)
- “STEPCHKPT システムオプション” (250 ページ)
- “STEPRESTART システムオプション” (253 ページ)
- “WORKINIT システムオプション” (313 ページ)
- “WORKTERM システムオプション” (314 ページ)

STEPRESTART システムオプション

DATA ステップと PROC ステップのチェックポイント-再開データを使用して、バッチプログラムを実行するかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: 環境コントロール:エラー処理

PROC OPTIONS GROUP=	ERRORHANDLING
デフォルト:	出荷時のデフォルト値は NOSTEPRESTART です。
制限事項:	STEPRESTART システムオプションは、SAS 開始時に LABELCHKPT システムオプションが指定されていない場合にのみ指定できます。
要件	このオプションは、バッチモードでのみ使用できます。
注:	サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“ 制限されたオプション ”(6 ページ)を参照してください。

構文

STEPRESTART | NOSTEPRESTART

構文の説明

STEPRESTART

再開モードを有効にし、DATA ステップと PROC ステップのチェックポイント-再開データを使用してバッチプログラムが実行されるように指定します。

NOSTEPRESTART

再開モードを無効にし、チェックポイント-再開データを使用してバッチプログラムが実行されないように指定します。

詳細

チェックポイントモードで実行して完了前に終了したバッチプログラムを再サブミットするときに、STEPRESTART オプションを指定します。バッチプログラムを再サブミットすると、SAS が DATA ステップまたは PROC ステップで実行されていたチェックポイントデータからプログラムの終了時点を判断し、その DATA ステップまたは PROC ステップを使用してバッチプログラムの実行を再開します。

比較

STEPRESTART オプションを指定すると、DATA ステップと PROC ステップのチェックポイント-再開データを使用してバッチプログラムの実行が再開されます。

LABELRESTART オプションを指定すると、ラベル付きコードセクションのチェックポイント-再開データを使用してバッチプログラムの実行が再開されます。

関連項目:

- “Checkpoint Mode and Restart Mode” (*SAS Language Reference: Concepts*)

ステートメント:

- “CHECKPOINT EXECUTE_ALWAYS Statement” (*SAS Statements: Reference*)

システムオプション:

- “[CHKPTCLEAN システムオプション](#)”(80 ページ)
- “[LABELCHKPT システムオプション](#)”(168 ページ)
- “[LABELRESTART システムオプション](#)”(171 ページ)
- “[STEPCHKPT システムオプション](#)”(250 ページ)

- “STEPCHKPTLIB=システムオプション”(252 ページ)

STRIPESIZE=システムオプション

1 つ以上のディレクトリとサイズの引数のペアを指定して、そのディレクトリにある SAS データセットとユーティリティファイルのサイズを I/O デバイストライプのサイズに設定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、**SAS システムオプション** ウィンドウ

カテゴリ: ファイル:SAS ファイル

システム管理:パフォーマンス

システム管理:TK

PROC OPTIONS

GROUP=

SASFILES

PERFORMANCE

TK

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

STRIPESIZE=(*directory-path-1 size-1 <directory-path-2 size-2 ...>***)**

STRIPESIZE=(*directory-path* **RESET****)**

構文の説明

directory-path

既存のディレクトリを指定し、そのディレクトリに作成される SAS データセットとユーティリティファイルの I/O ページサイズは *size* に設定されます。STRIPESIZE=オプションがそのサブディレクトリに設定されていた場合を除き、*directory-path* のサブディレクトリではデータセットまたはユーティリティファイルサイズが継承されます。

要件 *directory-path* に空白が含まれる場合は、ディレクトリを引用符で囲みます。

directory-path は、有効な Windows または UNIX File System (UFS) パスであることが必要です。ネイティブ z/OS データセット名はサポートされません。

UNIX 固有 *directory-path* に使用される大文字小文字は、UNIX 動作環境下のディレクトリの大文字小文字に適合している必要があります。

size

RAID (Redundant Array of Independent Disks)ストライプでのバイト数を、1(バイト)、1,024(キロバイト)、1,048,576(メガバイト)、1,073,741,824(ギガバイト)の倍数で指定します。たとえば、値 1024 では 1,024 バイト、値 3m では 3,145,728 バイトが指定されます。

範囲 1024–2147483648

RESET

STRIPESIZE=オプションの値からそのディレクトリを削除するために指定します。

詳細

STRIPESIZE=オプションを使用して、ディレクトリの SAS I/O バッファサイズを RAID ストライプのサイズにするように設定できます。そのディレクトリに作成される SAS データセットまたはユーティリティファイルは、RAID ストライプサイズに適合するページサイズになります。このオプションを使用することで個々のディスクのパフォーマンスが上がり、SORT プロシージャのパフォーマンスが向上する可能性があります。

STRIPESIZE=オプションの設定は、BUFSIZE=システムオプションだけでなく、データセットオプションやプロシージャオプションで設定されるバッファサイズオプションの指定に優先されます。*size* の値がエラーと判断される場合、ページサイズは次の順序で決定されます。

1. データセットオプションまたはプロシージャオプション
2. BUFSIZE=システムオプション

size の値がエラーと判断される場合、ユーティリティファイルのサイズは UBUFSIZE=システムオプションの値により決定されます。

size の値が処理の効率低下を招く可能性があると判断する場合、SAS は引き続き *size* の値を使用してデータセットとユーティリティファイルを作成し、SAS ログにメッセージを書き込みます。

STRIPESIZE=オプションを設定するたびに、オプションの現在の値にディレクトリとサイズが追加されます。

STRIPESIZE=値リストに現在あるディレクトリのストライプサイズを更新するには、ディレクトリパスと新しいストライプ値を使用して STRIPESIZE=オプションを設定します。

関連項目:

データセットオプション:

- “BUFSIZE= Data Set Option” (*SAS Data Set Options: Reference*)

プロシージャ:

- “SORT” (*Base SAS Procedures Guide*)

システムオプション:

- “BUFSIZE=システムオプション” (68 ページ)

SUMSIZE=システムオプション

分類変数がアクティブな場合にデータ要約プロシージャで使用可能なメモリ量の制限を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: システム管理:メモリ

PROC OPTIONS GROUP= MEMORY

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は 0 です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“制限されたオプション” (6 ページ)を参照してください。

構文

SUMSIZE=*n* | *nK* | *nM* | *nG* | *nT* | *hexX* | MIN | MAX

構文の説明

n | *nK* | *nM* | *nG* | *nT*

メモリ量を 1 (バイト)、1,024 (キロバイト)、1,048,576 (メガバイト)、1,073,741,824 (ギガバイト)、1,099,511,627,776 (テラバイト) のいずれかの単位で指定します。*n*=0 (デフォルト値) の場合、メモリ量は MEMSIZE オプションと REALMEMSIZE オプションの値によって決定されます。SUMSIZE の有効な値の範囲は 0 から $2^{(n-1)}$ です。*n* はオペレーティングシステムのビット(32 または 64)でのデータ幅です。

hexX

メモリ量を 16 進数で指定します。先頭が数値(0 から 9)、末尾が X の値を指定する必要があります。たとえば、値 `0fffX` では 4,095 バイトのメモリが指定されます。

MIN

使用可能な最小メモリ量を指定します。

MAX

使用可能な最大メモリ量を指定します。

詳細

SUMSIZE=システムオプションは、MEANS、OLAP、REPORT、SUMMARY、SURVEYFREQ、SURVEYLOGISTIC、SURVEYMEANS、TABULATE プロシージャに影響します。

SUMSIZE=を適切に指定すると、動作環境によって制御されるメモリのスワップを制限して、プロシージャの処理速度を向上させることができます。

一般に、SUMSIZE=システムオプションの値は、プロセスで使用可能な物理メモリよりも小さくする必要があります。使用しているプロシージャが指定した値よりも多くのメモリを必要とする場合、システムで一時的なユーティリティファイルが作成されます。

SUMSIZE の値が MEMSIZE オプションと REALMEMSIZE オプションの値よりも大きい場合、SAS は MEMSIZE オプションと REALMEMSIZE オプションの値を使用します。

関連項目:

システムオプション:

- “MEMSIZE System Option: UNIX” (*SAS Companion for UNIX Environments*)
- “MEMSIZE System Option: Windows” (*SAS Companion for Windows*)
- “REALMEMSIZE System Option: UNIX” (*SAS Companion for UNIX Environments*)
- “REALMEMSIZE System Option: Windows” (*SAS Companion for Windows*)
- “REALMEMSIZE= System Option: z/OS” (*SAS Companion for z/OS*)
- “SORTSIZE=システムオプション” (245 ページ)

SVGAUTOPLAY システムオプション

Web ブラウザで自動的にアニメーションを始めるための指定です。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、**SAS システムオプションウィンドウ**

カテゴリ: ログおよびプロシージャ出力コントロール:アニメーション

ログおよびプロシージャ出力コントロール:SVG

PROC OPTIONS ANIMATION

GROUP= SVG

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は SVGAUTOPLAY です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

SVG アニメーションにのみ有効なオプションです。

構文

[SVGAUTOPLAY | NOSVGAUTOPLAY](#)

構文の説明

SVGAUTOPLAY

Web ページで自動的にアニメーションを始めるための指定です。

NOSVGAUTOPLAY

Web ページでアニメーションの最初のフレームを表示するために指定します。アニメーションファイルは、 をクリックすると始まります。

関連項目:

- “About Animated GIF Images and SVG Documents” (*SAS Language Reference: Concepts*)

システムオプション:

- “[ANIMATION=システムオプション](#)” (54 ページ)
- “[ANIMDURATION=システムオプション](#)” (55 ページ)
- “[ANIMLOOP=システムオプション](#)” (56 ページ)
- “[ANIMOVERLAY システムオプション](#)” (57 ページ)
- “[SVGFADEIN=システムオプション](#)” (259 ページ)
- “[SVGFADEMODE=システムオプション](#)” (260 ページ)
- “[SVGFADEOUT=システムオプション](#)” (261 ページ)

SVGCONTROLBUTTONS システムオプション

複数ページの SVG ドキュメントにページ制御ボタンとインデックスを表示するかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシージャ出力コントロール:SVG

PROC OPTIONS GROUP= SVG

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は NOSVGCONTROLBUTTONS です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

SVGCONTROLBUTTONS | NOSVGCONTROLBUTTONS

構文の説明

SVGCONTROLBUTTONS

SVG ドキュメントにページ制御ボタンを表示するように指定します。

NOSVGCONTROLBUTTONS

SVG ドキュメントにページ制御ボタンを表示しないように指定します。

詳細

SVGCONTROLBUTTONS が指定されている場合、SVG ドキュメントのページを制御するスクリプトが含まれるため、SVG のサイズが増加します。

SVGView プリントではオプションを SVGCONTROLBUTTONS に設定します。

SVGFADEIN=システムオプション

SVG フレームがフェードインする間の秒数を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、**SAS システムオプション**ウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシージャ出力コントロール:アニメーション
ログおよびプロシージャ出力コントロール:SVG

PROC OPTIONS GROUP= ANIMATION
SVG

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は 0 です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。
SVG アニメーションにのみ有効なオプションです。

構文

SVGFADEIN=*n*

構文の説明

n

SVG フレームがフェードインする間の秒数を指定します。有効な値は、任意の数値表現(たとえば、.01、5 または 6.5)が可能です。

関連項目:

- “About Animated GIF Images and SVG Documents” (*SAS Language Reference: Concepts*)

システムオプション:

- “ANIMATION=システムオプション” (54 ページ)
- “ANIMDURATION=システムオプション” (55 ページ)
- “ANIMLOOP=システムオプション” (56 ページ)
- “ANIMOVERLAY システムオプション” (57 ページ)
- “SVGAUTOPLAY システムオプション” (258 ページ)
- “SVGFADEMODE=システムオプション” (260 ページ)
- “SVGFADEOUT=システムオプション” (261 ページ)

SVGFADEMODE=システムオプション

フレームがフェードイン/フェードアウトするとき、SVG フレームが前のフレームとオーバーラップするか、各フレームが順番に表示されるかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、**SAS システムオプション**ウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシージャ出力コントロール:アニメーション

ログおよびプロシージャ出力コントロール:SVG

PROC OPTIONS

GROUP= ANIMATION

SVG

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は OVERLAP です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“**制限されたオプション**” (6 ページ)を参照してください。

SVG アニメーションにのみ有効なオプションです。

構文

SVGFADEMODE=OVERLAP | SEQUENTIAL

構文の説明

OVERLAP

フェードインとフェードアウトするそれぞれのフレームに対する指定で、同一時間内で複数フレームがオーバーラップしてフェードします。

SEQUENTIAL

フェードインとフェードアウトするそれぞれのフレームに対する指定で、フェードアウトが完了するとフレームはフェードアウトします。次のフレームはフェードインするフレームになります。

関連項目:

- “About Animated GIF Images and SVG Documents” (*SAS Language Reference: Concepts*)

システムオプション:

- “ANIMATION=システムオプション” (54 ページ)
- “ANIMDURATION=システムオプション” (55 ページ)
- “ANIMLOOP=システムオプション” (56 ページ)
- “ANIMOVERLAY システムオプション” (57 ページ)
- “SVGAUTOPLAY システムオプション” (258 ページ)
- “SVGFADEIN=システムオプション” (259 ページ)
- “SVGFADEOUT=システムオプション” (261 ページ)

SVGFADEOUT=システムオプション

SVG フレームがフェードアウトする間の秒数を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、**SAS システムオプション**ウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシージャ出力コントロール:アニメーション

ログおよびプロシージャ出力コントロール:SVG

PROC OPTIONS ANIMATION

GROUP= SVG

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は 0 です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

SVG アニメーションにのみ有効なオプションです。

構文

SVGFADEOUT=*n*

構文の説明

n

SVG フレームがフェードアウトする間の秒数を指定します。有効な値は、任意の数值表現(たとえば、.01、5 または 6.5)が可能です。

関連項目:

- “About Animated GIF Images and SVG Documents” (*SAS Language Reference: Concepts*)

システムオプション:

- “ANIMATION=システムオプション” (54 ページ)
- “ANIMDURATION=システムオプション” (55 ページ)
- “ANIMLOOP=システムオプション” (56 ページ)
- “ANIMOVERLAY システムオプション” (57 ページ)
- “SVGAUTOPLAY システムオプション” (258 ページ)

- “**SVGFADEIN=システムオプション**”(259 ページ)
- “**SVGFADEMODE=システムオプション**”(260 ページ)

SVGHEIGHT=システムオプション

SVG 出力が別の SVG 出力に埋め込まれていない場合のビューポートの高さを指定します。SVG ファイルの最も外側の<svg>要素の height 属性で値を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ
カテゴリ: ログおよびプロシージャ出力コントロール:SVG

PROC OPTIONS GROUP= SVG

制限事項: SVGHEIGHT=オプションでは、最も外側の<svg>要素でのみ height 属性を設定します。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

SVGHEIGHT=*number-of-units*<*unit-of-measure*> | " " | "

構文の説明

number-of-units

unit-of-measure の数値で高さを指定します。

要件 *number-of-units* は正の整数値にする必要があります。

操作 *number-of-units* が負の数の場合、SVG ドキュメントはブラウザに表示されません。

unit-of-measure

次のいずれかの測定単位を指定します。

% パーセント

cm センチメートル

em 要素のフォントの高さ

ex 文字 x の高さ

in インチ

mm ミリメートル

pc パイカ

pt ポイント

px ピクセル

デフォルト px

" " | "

高さをデフォルト値の 600 ピクセルにリセットするように指定します。

要件 間に空白を含まない 2 つの二重引用符または 2 つの一重引用符を使用します。

詳細

埋め込まれた`<svg>`要素の場合、SVGHEIGHT=オプションでは`<svg>`要素が含まれる四角形の高さを指定します。SVGHEIGHT="100%"の場合、SVG 出力は viewBox に合うようにサイズが調整されます。

SVGHEIGHT=オプションが指定されていない場合、`<svg>`要素の height 属性は設定されず、100%の高さを使用して完全なスケーラビリティを提供します。

SVGHEIGHT=オプションの値は、区切り文字を使用せず、一重引用符か二重引用符またはかっこで囲んで指定できます。

例

次の OPTIONS ステートメントでは、SVG 出力を縦のレターサイズに設定し、ビューポートの 100%に調整するように指定します。

```
options printerpath(svg orientation=portrait svgheight="100%" svgwidth="100%" papersize=letter);
```

これらのオプション値を使用した場合、SAS によって次の`<svg>`要素が作成されます。

```
<svg> xmlns="http://www.w3.org/2000/svg"
  xmlns:xlink="http://www.w3.org/1999/xlink"
  xml:space="preserve"
  onload='Init(evt)' version="1.1"
  width="100%" height="100%"
  viewBox="-1 -1 817 1057"
</svg>
```

SVGHEIGHT=オプションの値で"100%"とは、SVG 出力の高さが PAPER SIZE=オプションの値に基づいてビューポートの 100%に調整される指定です。用紙サイズは縦方向のレターサイズの高さ(100 dpi で 11 インチ)です。

関連項目:

- “Creating SVG (Scalable Vector Graphics) Files Using Universal Printing” (*SAS Language Reference: Concepts*)
- “The SAS Registry” (*SAS Language Reference: Concepts*)
- “[SAS システムオプションの使用](#)” (4 ページ)

システムオプション:

- “[SVGCONTROLBUTTONS システムオプション](#)” (258 ページ)
- “[SVGPRESERVEASPECTRATIO=システムオプション](#)” (264 ページ)
- “[SVGTITLE=システムオプション](#)” (267 ページ)
- “[SVGVIEWBOX=システムオプション](#)” (268 ページ)
- “[SVGWIDTH=システムオプション](#)” (270 ページ)
- “[SVGX=システムオプション](#)” (272 ページ)
- “[SVGY=システムオプション](#)” (274 ページ)

SVGMAGNIFYBUTTON システムオプション

SVG ドキュメントで SVG 拡大ツールが使用可能かどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、**SAS システムオプション**ウインドウ

カテゴリ: ログおよびプロシージャ出力コントロール:SVG

PROC OPTIONS GROUP= SVG

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は NOSVGMAGNIFYBUTTON です。

制限事項: SVG 拡大ツールは、SVGANIM および SVGT ユニバーサルプリンタではサポートされていません。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

SVGMAGNIFYBUTTON | NOSVGMAGNIFYBUTTON

構文の説明

SVGMAGNIFYBUTTON

SVG ドキュメントで SVG 拡大ツールを使用可能にする指定です。

NOSVGMAGNIFYBUTTON

すべての SVG ドキュメントで SVG 拡大ツールを使用不可にする指定です。

詳細

SVGMAGNIFYBUTTON を指定する場合、SVG ドキュメントで拡大ツールが使用可能になるかどうかは、SVG ユニバーサルプリンタが単一ページドキュメントと複数ページドキュメントのいずれの作成に使用されるかに依存します。

拡大ツール使用の制約をここにいくつか述べます。

- 拡大ツールは、SVGT プリンタおよびアニメーション SVG ドキュメントではサポートされていません。
- SVGnotip プリンタを使用する場合、拡大鏡が使用可能か不可かを示すツールチップは表示されません。
- 拡大ツールが使用可能な場合、複数ページドキュメントのインデックスページで拡大ツールの使用を止められます。

関連項目:

“Including the Magnify Tool in SVG Documents” (*SAS Language Reference: Concepts*)

SVGPRESERVEASPECTRATIO=システムオプション

SVG 出力の均一スケールを強制するかどうかを指定します。最も外側の<svg>要素で preserveAspectRatio 属性を指定します。

該当要素:	構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、 SAS システムオプション ウィンドウ
カテゴリ:	ログおよびプロシージャ出力コントロール:SVG
PROC OPTIONS GROUP=	SVG
制限事項:	SVGPRESERVEASPECTRATIO=オプションでは、最も外側の<svg>要素でのみ preserveAspectRatio 属性を設定します。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

SVGPRESERVEASPECTRATIO=*align* | *meetOrSlice* | NONE | ""

SVGPRESERVEASPECTRATIO="*align meetOrSlice*"

構文の説明

align

使用する配置方法を指定して均一スケールを強制するように指定します。*align* の値には、次のいずれかを指定できます。

xMinYMin

次の配置を使用して均一スケールを強制するように指定します。

- 要素の viewBox の<min-x>をビューポートの最小の X 値に合わせて配置します。
- 要素の viewBox の<min-y>をビューポートの最小の Y 値に合わせて配置します。

xMidYMin

次の配置を使用して均一スケールを強制するように指定します。

- 要素の viewBox の中間点の X 値をビューポートの中間点の X 値に合わせて配置します。
- 要素の viewBox の<min-y>をビューポートの最小の Y 値に合わせて配置します。

xMaxYMin

次の配置を使用して均一スケールを強制するように指定します。

- 要素の viewBox の<min-x>+<width>をビューポートの最大の X 値に合わせて配置します。
- 要素の viewBox の<min-y>をビューポートの最小の Y 値に合わせて配置します。

xMinYMid

次の配置を使用して均一スケールを強制するように指定します。

- 要素の viewBox の<min-x>をビューポートの最小の X 値に合わせて配置します。
- 要素の viewBox の中間点の Y 値をビューポートの中間点の Y 値に合わせて配置します。

xMidYMid

次の配置を使用して均一スケールを強制するように指定します。

- 要素の viewBox の中間点の X 値をビューポートの中間点の X 値に合わせて配置します。
- 要素の viewBox の中間点の Y 値をビューポートの中間点の Y 値に合わせて配置します。これがデフォルト設定です。

xMaxYMid

次の配置を使用して均一スケールを強制するように指定します。

- 要素の viewBox の $<\text{min-x}>+<\text{width}>$ をビューポートの最大の X 値に合わせて配置します。
- 要素の viewBox の中間点の Y 値をビューポートの中間点の Y 値に合わせて配置します。

xMinYMax

次の配置を使用して均一スケールを強制するように指定します。

- 要素の viewBox の $<\text{min-x}>$ をビューポートの最小の X 値に合わせて配置します。
- 要素の viewBox の $<\text{min-y}>+<\text{height}>$ をビューポートの最大の Y 値に合わせて配置します。

xMidYMax

次の配置を使用して均一スケールを強制するように指定します。

- 要素の viewBox の中間点の X 値をビューポートの中間点の X 値に合わせて配置します。
- 要素の viewBox の $<\text{min-y}>+<\text{height}>$ をビューポートの最大の Y 値に合わせて配置します。

xMaxYMax

次の配置を使用して均一スケールを強制するように指定します。

- 要素の viewBox の $<\text{min-x}>+<\text{width}>$ をビューポートの最大の X 値に合わせて配置します。
- 要素の viewBox の $<\text{min-y}>+<\text{height}>$ をビューポートの最大の Y 値に合わせて配置します。

meetOrSlice

縦横比の維持と viewBox の表示方法を指定します。*meetOrSlice* で有効な値は次のとおりです。

meet

SVG グラフィックのサイズを次のように調整します。

- 縦横比を維持する
- ビューポート内に viewBox 全体を表示する
- その他の基準を満たす最大のサイズに viewBox を拡大する

グラフィックの縦横比がビューポートに一致しない場合、ビューポートの一部は viewBox の境界からはみ出します。

slice

SVG グラフィックのサイズを次のように調整します。

- 縦横比を維持する
- ビューポートで viewBox 全体を覆う
- その他の基準を満たす最小のサイズに viewBox を縮小する

viewBox の縦横比がビューポートに一致しない場合、viewBox の一部はビューポートの境界からはみ出します。

NONE

均一スケールを強制せず、要素の境界ボックスがビューポートの四角形に完全に一致するように SVG 出力を不均一に調整します。

""

<svg>要素の `preserveAspectRatio` 属性を、デフォルト値の `xMidYMid meet` にリセットする指定です。

要件 間に空白を含まない 2 つの二重引用符を使用します。

詳細

SVGPRESERVEASPECTRATIO=オプションの値に `align` と `meetOrSlice` の両方が含まれる場合、一重引用符か二重引用符またはかっこを使用して値を区切ることができます。

`preserveAspectRatio` 属性は、同じ<svg>要素で viewBox の値が指定されている場合にのみ適用されます。viewBox 属性が指定されていない場合、`preserveAspectRatio` 属性は無視されます。

例

SVGPRESERVEASPECTRATIO=システムオプションを使用した OPTIONS ステートメントの例を次に示します。

```
options preserveaspectratio=xMinYMax;
options preserveaspectratio="xMinYMin meet";
options preserveaspectratio=(xMinYMin meet);
options preserveaspectratio="";
```

関連項目:

- “Creating SVG (Scalable Vector Graphics) Files Using Universal Printing” (*SAS Language Reference: Concepts*)

システムオプション:

- “SVGCONTROLBUTTONS システムオプション” (258 ページ)
- “SVGHEIGHT=システムオプション” (262 ページ)
- “SVGTITLE=システムオプション” (267 ページ)
- “SVGVIEWBOX=システムオプション” (268 ページ)
- “SVGWIDTH=システムオプション” (270 ページ)
- “SVGX=システムオプション” (272 ページ)
- “SVGY=システムオプション” (274 ページ)

SVGTITLE=システムオプション

SVG 出力のタイトルバーのタイトルを指定します。SVG ファイルの<title>要素の値を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ:	ログおよびプロシージャ出力コントロール:SVG
PROC OPTIONS GROUP=	SVG
注:	サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“ 制限されたオプション ”(6 ページ)を参照してください。

構文

SVGTITLE="*title***" | " "**

構文の説明

"*title***"**

SVG のタイトルを指定します。

" " | **" "**

タイトルを空白にリセットするように指定します。

要件 間に空白を含まない 2 つの二重引用符または 2 つの一重引用符を使用します。

詳細

SVGTITLE オプションが指定されていない場合、SVG 出力のタイトルバーには SVG 出力のファイル名が表示されます。

SVGTITLE=オプションの値は、一重引用符か二重引用符またはかっこで囲む必要があります。

関連項目:

- “Creating SVG (Scalable Vector Graphics) Files Using Universal Printing” (SAS Language Reference: Concepts)

システムオプション:

- “[SVGCONTROLBUTTONS システムオプション](#)” (258 ページ)
- “[SVGHEIGHT=システムオプション](#)” (262 ページ)
- “[SVGPRESERVEASPECTRATIO=システムオプション](#)” (264 ページ)
- “[SVGWIDTH=システムオプション](#)” (270 ページ)
- “[SVGVIEWBOX=システムオプション](#)” (268 ページ)
- “[SVGX=システムオプション](#)” (272 ページ)
- “[SVGY=システムオプション](#)” (274 ページ)

SVGVIEWBOX=システムオプション

最も外側の<svg>要素の viewBox 属性を設定するために使用する座標、幅および高さを指定します。これにより、ビューポートに合わせて SVG 出力のサイズを調整できます。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ:	ログおよびプロジェクト出力コントロール:SVG
PROC OPTIONS GROUP=	SVG
制限事項:	SVGVIEWBOX=オプションでは、最も外側の<svg>要素でのみ viewBox 属性を設定します。
注:	サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“ 制限されたオプション(6 ページ) ”を参照してください。

構文

SVGVIEWBOX="*min-x min-y width height*" | none | "" | "

構文の説明

min-x

viewBox の開始 x 座標をユーザー単位で指定します。

要件 *min-x* には、0 または正の整数値か負の整数値を指定できます。

min-y

viewBox の開始 y 座標をユーザー単位で指定します。

要件 *min-y* には、0 または正の整数値か負の整数値を指定できます。

width

viewBox の幅をユーザー単位で指定します。

要件 *width* は正の整数値にする必要があります。

height

viewBox の高さをユーザー単位で指定します。

要件 *height* は正の整数値にする必要があります。

none

最も外側の<svg>要素に viewBox 属性を設定しないように指定します。これにより、静的 SVG ドキュメントが作成されます。

"" | "

viewBox の幅と高さを SVG プリンタの用紙サイズの幅と高さにリセットするように指定します。

要件 間に空白を含まない 2 つの二重引用符または 2 つの一重引用符を使用します。

詳細

viewBox 属性が指定されている場合、SVG 出力がビューポート内にレンダリングされるように調整され、現在の座標系は viewBox 属性で指定されたディメンションに更新されます。指定されていない場合、最も外側の<svg>要素の viewBox 属性の高さと幅の引数は、PAPERSIZE=システムオプションで定義された用紙の高さと幅に設定されます。

viewBox 属性の座標、幅および高さは、preserveAspectRatio 属性の値を考慮して、ビューポートの座標、幅および高さにマッピングする必要があります。

SVGVIEWBOX=オプションの値は、一重引用符か二重引用符またはかっこで囲む必要があります。

出力で SVG ドキュメントを配置する *min-x* と *min-y* に負の値を指定できます。*min-x* が負の値の場合、出力は右にシフトされます。*min-y* が負の値の場合、出力は下にシフトされます。

例

次の OPTIONS ステートメントでは、出力を 100 ユーザー単位の幅と 200 ユーザー単位の高さに調整します。

```
options printerpath(svg) svgviewbox="0 0 100 200" dev=sasprtc;
```

これらのオプション値を使用した場合、SAS によって次の<svg>要素が作成されます。

```
<svg> xmlns="http://www.w3.org/2000/svg"
  xmlns:xlink="http://www.w3.org/1999/xlink"
  xml:space="preserve"
  onload='Init(evt)' version="1.1"
  viewBox="0 0 100 200"
</svg>
```

関連項目:

- “Creating SVG (Scalable Vector Graphics) Files Using Universal Printing” (*SAS Language Reference: Concepts*)

システムオプション:

- “[SVGCONTROLBUTTONS システムオプション](#)” (258 ページ)
- “[SVGHEIGHT=システムオプション](#)” (262 ページ)
- “[SVGPRESERVEASPECTRATIO=システムオプション](#)” (264 ページ)
- “[SVGTITLE=システムオプション](#)” (267 ページ)
- “[SVGWIDTH=システムオプション](#)” (270 ページ)
- “[SVGX=システムオプション](#)” (272 ページ)
- “[SVGY=システムオプション](#)” (274 ページ)

SVGWIDTH=システムオプション

SVG 出力が別の SVG 出力に埋め込まれていない場合のビューポートの幅を指定します。SVG ファイルの最も外側の<svg>要素の width 属性で値を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシージャ出力コントロール:SVG

PROC OPTIONS GROUP= SVG

制限事項: SVGWIDTH=オプションでは、最も外側の<svg>要素でのみ width 属性を設定します。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

`SVGWIDTH=number-of-units<unit-of-measure> | "" | "`

構文の説明

number-of-units

unit-of-measure の数値で幅を指定します。

要件 *number-of-units* は正の整数値にする必要があります。

操作 *number-of-units* が負の数の場合、SVG ドキュメントはブラウザに表示されません。

unit-of-measure

次のいずれかの測定単位を指定します。

% パーセント

cm センチメートル

em 要素のフォントの高さ

ex 文字 x の高さ

in インチ

mm ミリメートル

pc パイカ

pt ポイント

px ピクセル

デフォルト px

"" | "

幅をデフォルト値の 800 ピクセルにリセットするように指定します。

要件 間に空白を含まない 2 つの二重引用符または 2 つの一重引用符を使用します。

詳細

埋め込まれた`<svg>`要素の場合、`SVGWIDTH=`オプションでは`<svg>`要素が含まれる四角形の幅を指定します。`SVGWIDTH="100%"`の場合、SVG 出力は viewBox に合うようにサイズが調整されます。

`SVGWIDTH=`オプションが指定されていない場合、`<svg>`要素の width 属性は設定されず、100%の幅を使用して完全なスケーラビリティを提供します。

`SVGWIDTH=`オプションの値は、区切り文字を使用せず、一重引用符か二重引用符またはかっこで囲んで指定できます。

例

次の OPTIONS ステートメントでは、SVG 出力を縦のレターサイズに設定し、ビューポートの 100%に調整するように指定します。

```
options printerpath=svg orientation=portrait svgheight="100%" svgwidth="100%" papersize=letter;
```

これらのオプション値を使用した場合、SAS によって次の<svg>要素が作成されます。

```
<svg> xmlns="http://www.w3.org/2000/svg"
  xmlns:xlink="http://www.w3.org/1999/xlink"
  xml:space="preserve"
  onload='Init(evt)' version="1.1"
  width="100%" height="100%"
  viewBox="-1 -1 817 1057"
</svg>
```

SVGWIDTH=オプションの値で"100%"とは、SVG 出力の幅が PAPER SIZE=オプションの値に基づいてビューポートの 100%に調整される指定です。用紙サイズは縦方向のレターサイズの幅(96 dpi で 8.5 インチ)です。

関連項目:

- “Creating SVG (Scalable Vector Graphics) Files Using Universal Printing” (*SAS Language Reference: Concepts*)
- “The SAS Registry” (*SAS Language Reference: Concepts*)
- “[SAS システムオプションの使用](#)” (4 ページ)

システムオプション:

- “[SVGCONTROLBUTTONS システムオプション](#)” (258 ページ)
- “[SVGEHEIGHT=システムオプション](#)” (262 ページ)
- “[SVGPRESERVEASPECTRATIO=システムオプション](#)” (264 ページ)
- “[SVGTITLE=システムオプション](#)” (267 ページ)
- “[SVGVIEWBOX=システムオプション](#)” (268 ページ)
- “[SVGX=システムオプション](#)” (272 ページ)
- “[SVGY=システムオプション](#)” (274 ページ)

SVGX=システムオプション

埋め込まれた<svg>要素が含まれる四角形の 1 つの角の x 軸座標を指定します。SVG ファイルの最も外側の<svg>要素で x 属性を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシージャ出力コントロール:SVG

PROC OPTIONS GROUP= SVG

制限事項: SVGX=オプションでは、最も外側の<svg>要素でのみ x 属性を設定します。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

SVGX=*number-of-units*<*unit-of-measure*> | "" | "

構文の説明

number-of-units

unit-of-measure の数値で x 軸座標を指定します。

unit-of-measure

次のいずれかの測定単位を指定します。

%	パーセント
cm	センチメートル
em	要素のフォントの高さ
ex	文字 x の高さ
in	インチ
mm	ミリメートル
pc	パイカ
pt	ポイント
px	ピクセル

デフォルト px

"" | "

<*svg*>要素の x 属性、および埋め込まれた SVG の x 軸座標を 0 にリセットする指定です。

要件 間に空白を含まない 2 つの二重引用符または 2 つの一重引用符を使用します。

詳細

SVGX=オプションが設定されていない場合、<*svg*>要素の x 属性の値は 0 が有効になり、埋め込まれた SVG 出力に x 軸座標は設定されません。

SVGX=オプションの値は、区切り文字を使用せず、一重引用符か二重引用符またはかっこで囲んで指定できます。

最も外側の<*svg*>要素の x 属性は、SAS で作成される SVG ドキュメントには適用されません。SVG ドキュメントが SAS の外部で処理される場合、SVGX=システムオプションを使用して x 軸座標を指定できます。

関連項目:

- “Creating SVG (Scalable Vector Graphics) Files Using Universal Printing” (SAS Language Reference: Concepts)

システムオプション:

- “SVGCONTROLBUTTONS システムオプション” (258 ページ)
- “SVGHEIGHT=システムオプション” (262 ページ)
- “SVGPRESERVEASPECTRATIO=システムオプション” (264 ページ)

- “`SVGTITLE=システムオプション`” (267 ページ)
- “`SVGVIEWBOX=システムオプション`” (268 ページ)
- “`SVGWIDTH=システムオプション`” (270 ページ)
- “`SVGY=システムオプション`” (274 ページ)

SVGY=システムオプション

埋め込まれた`<svg>`要素が含まれる四角形の 1 つの角の y 軸座標を指定します。SVG ファイルの最も外側の`<svg>`要素で y 属性を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシージャ出力コントロール:SVG

PROC OPTIONS
GROUP=

制限事項: `SVGY=`オプションでは、最も外側の`<svg>`要素でのみ y 属性を設定します。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ) を参照してください。

構文

`SVGY=`*number-of-units*`<unit-of-measure>` | `""` | `"`

構文の説明

number-of-units

unit-of-measure の数値で y 軸座標を指定します。

unit-of-measure

次のいずれかの測定単位を指定します。

<code>%</code>	パーセント
<code>cm</code>	センチメートル
<code>em</code>	要素のフォントの高さ
<code>ex</code>	文字 x の高さ
<code>in</code>	インチ
<code>mm</code>	ミリメートル
<code>pc</code>	パイカ
<code>pt</code>	ポイント
<code>px</code>	ピクセル

デフォルト `px`

`""` | `"`

`<svg>`要素の y 属性、および埋め込まれた SVG 出力の y 軸座標を 0 にリセットする指定です。

要件 間に空白を含まない 2 つの二重引用符または 2 つの一重引用符を使用します。

詳細

SVGY=オプションが設定されていない場合、<svg>要素の y 属性の値は 0 が有効になり、埋め込まれた SVG 出力に y 軸座標は設定されません。

SVGY=オプションの値は、区切り文字を使用せず、一重引用符か二重引用符またはかっこで囲んで指定できます。

最も外側の<svg>要素の y 属性は、SAS で作成される SVG ドキュメントには適用されません。SVG ドキュメントが SAS の外部で処理される場合、SVGY=システムオプションを使用して y 軸座標を指定できます。

関連項目:

- “Creating SVG (Scalable Vector Graphics) Files Using Universal Printing” (*SAS Language Reference: Concepts*)

システムオプション:

- “[SVGCONTROLBUTTONS システムオプション](#)” (258 ページ)
- “[SVGHEIGHT=システムオプション](#)” (262 ページ)
- “[SVGPRESERVEASPECTRATIO=システムオプション](#)” (264 ページ)
- “[SVGTITLE=システムオプション](#)” (267 ページ)
- “[SVGVIEWBOX=システムオプション](#)” (268 ページ)
- “[SVGWIDTH=システムオプション](#)” (270 ページ)
- “[SVGX=システムオプション](#)” (272 ページ)

SYNTAXCHECK システムオプション

非対話型またはバッチ SAS セッションで、複数のステップの構文チェックモードを有効にするかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: 環境コントロール:エラー処理

PROC OPTIONS GROUP= ERRORHANDLING

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は SYNTAXCHECK です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

SYNTAXCHECK | NOSYNTAXCHECK

構文の説明

SYNTAXCHECK

非対話型またはバッチ SAS セッション内でサブミットされるステートメントの構文チェックモードを有効にします。

NOSYNTAXCHECK

非対話型またはバッチ SAS セッション内でサブミットされるステートメントの構文チェックモードを有効にしません。

注意 NOSYNTAXCHECK を設定するとデータが失われる可能性があります。テストされていないコードを使用してデータを操作したり削除したりすると、コードに無効な構文が含まれている場合はデータが失われる可能性があります。プロダクション環境で使用する前に、コードを完全にテストしてください。

詳細

SYNTAXCHECK オプションが設定された後に DATA ステップで構文エラーまたはセマンティックエラーが発生すると、SAS は構文チェックモードになります。構文チェックモードは、SAS でエラーが発生した時点から、サブミットされたコードが終了するまで有効です。SAS が構文チェックモードになった後は、それ以降のすべての DATA ステップステートメントおよび PROC ステップステートメントが検証されます。

構文チェックモード中は、限られた処理のみが実行されます。構文チェックモードの詳細については、“Syntax Check Mode” (*SAS Language Reference: Concepts*)を参照してください。

対象とするステップの前に、SYNTAXCHECK を有効にする OPTIONS ステートメントを挿入します。ステップ内に OPTIONS ステートメントを挿入すると、SYNTAXCHECK は次のステップの開始まで有効になりません。

NOSYNTAXCHECK は、構文エラー状況に関わらずステートメントを継続的に処理できます。

SYNTAXCHECK は、SAS ウィンドウ環境と SAS ラインモードセッションでは無視されます。

比較

SYNTAXCHECK システムオプションは、非対話型またはバッチ SAS セッションで構文を検証するために使用します。SAS ウィンドウ環境を使用して対話型セッションで構文を検証するには、DMSSYNCHK システムオプションを使用します。

ERRORCHECK=オプションを使用して、SAS/SHARE の LIBNAME ステートメント、FILENAME ステートメント、%INCLUDE ステートメント、LOCK ステートメントの構文チェックモードを有効または無効に設定できます。NOSYNTAXCHECK オプションと ERRORCHECK=STRICT オプションを指定すると、エラーの発生時に SAS は構文チェックモードになりません。

関連項目:

- “Error Processing in SAS” (*SAS Language Reference: Concepts*)

システムオプション:

- “DMSSYNCHK システムオプション” (114 ページ)
- “ERRORCHECK=システムオプション” (131 ページ)

SYSPRINTFONT=システムオプション

印刷に使用するデフォルトフォントを指定します。フォントと ODS スタイルの明示的な指定はこのデフォルトよりも優先されます。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、**SAS システムオプション** ウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシージャ出力コントロール:プロシージャ出力

PROC OPTIONS
GROUP= LISTCONTROL

注: サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

参照項目: “SYSPRINTFONT System Option: Windows” (*SAS Companion for Windows*)

構文

SYSPRINTFONT=("face-name" <weight> <style> <character-set> <point-size>
<NAMED "printer-name" | UPRINT="printer-name" | DEFAULT | ALL>)

構文の説明

“face-name”

印刷に使用するフォントフェイス名を指定します。

要件 *face-name* が複数の単語で構成される場合は、値を一重引用符または二重引用符で囲む必要があります。引用符は *face-name* とともに保存されます。

複数の引数を指定して SYSPRINTFONT=オプションを使用する場合、それらの引数をかっこで囲む必要があります。

操作 UPRINT=*printer-name* を指定する場合、*face-name* は *printer-name* で有効なフォントにする必要があります。

weight

BOLD などのフォントの太さを指定します。SAS: プリンタのプロパティウィンドウに、指定したプリンタに有効な値のリストが表示されます。

デフォルト NORMAL

style

ITALIC などのフォントのスタイルを指定します。SAS: プリンタのプロパティウィンドウに、指定したプリンタに有効な値のリストが表示されます。

デフォルト REGULAR

character-set

印刷に使用する文字セットを指定します。

デフォルト 指定した文字セットがフォントでサポートされていない場合、デフォルト文字セットが使用されます。このデフォルト文字セットがフォントでサポートされていない場合、フォントのデフォルト文字セットが使用されます。

範囲 SAS:プリンタのプロパティウィンドウのフォントタブに有効な値のリストが表示されます。

point-size

印刷に使用するポイントサイズを指定します。この引数を省略した場合、SAS はデフォルトを使用します。

要件 *point-size* は整数にする必要があります。また、*face-name*、*weight*、*style*、*character-set* 引数の後に配置する必要があります。

NAMED “*printer-name*”

これらの設定を適用する Windows 動作環境のプリンタを指定します。

制限 この引数は、Windows 動作環境のプリンタでのみ有効です。ユニバーサル
事項 プリンタを指定するには、UPRINT=引数を使用します。

要件 *printer-name* は、印刷設定ダイアログボックスに表示される名前と完全に一致する必要があります(大文字と小文字は区別されません)。

プリンタ名が複数の単語の場合、*printer-name* は二重引用符で囲む必要があります。引用符は *printer-name* とともに保存されます。

UPRINT=“*printer-name*”

これらの設定を適用するユニバーサルプリンタを指定します。

制限 この引数は、SAS レジストリのリストに含まれるプリンタでのみ有効です。
事項

要件 *printer-name* は、印刷設定ダイアログボックスに表示される名前と完全に一致する必要があります(大文字と小文字は区別されません)。

printer-name が複数の単語の場合、一重引用符または二重引用符で囲む必要があります。引用符は *printer-name* とともに保存されます。

DEFAULT | ALL

フォント設定をデフォルトプリンタに適用するか、すべてのプリンタに適用するかを指定します。

DEFAULT

SYSPRINT=システムオプションで指定された現在のデフォルトプリンタにフォント設定を適用するように指定します。

ALL

インストールされたすべてのプリンタにフォント設定を適用するように指定します。

詳細

SYSPRINTFONT=システムオプションでは、現在のデフォルトプリンタ、指定したプリンタまたはすべてのプリンタへの印刷時に使用するフォントを設定します。

場合によっては、SAS プログラムからフォントを指定する必要があります。この場合は、SAS: プリンタのプロパティウィンドウで使用可能なフォントの名前、スタイル、太さ、サイズを確認できます。SAS プログラムで SYSPRINTFONT=オプションを適用する方法の例については、“[比較](#) (279 ページ)を参照してください。

DEFAULT を使用するかキーワードを使用せずに SYSPRINTFONT=を指定した後に、印刷設定ダイアログボックスを使用して現在のデフォルトプリンタを変更した場合、現在のデフォルトプリンタで使用されるフォントは SYSPRINTFONT で指定したフォント

になります(プリンタにその指定フォントが存在する場合)。指定したフォントが現在のプリンタでサポートされていない場合、プリンタのデフォルトフォントが使用されます。

次のフォントが一般的にサポートされています。

- Helvetica
- Times
- Courier
- Symbol

通常、SAS プログラムでこのいずれかのフォントを指定することでエラーの発生を防ぐことができます。特定のフォントがサポートされていない場合、そのかわりに似たフォントが印刷されます。

すべてのユニバーサルプリンタと多くの SAS/GRAFPH デバイスでは、FreeType エンジンを使用して TrueType フォントをレンダリングします。詳細については、“Using Fonts with Universal Printers and SAS/GRAFPH Devices” (*SAS Language Reference: Concepts*) を参照してください。

注: SYSPRINTFONT=システムオプションを使用するかわりに、SAS: プリンタのプロパティウィンドウのフォントタブでフォントを設定できます。ドロップダウンメニューから、ファイル ⇒ 印刷設定 ⇒ プロパティ ⇒ フォントを選択します。ダイアログボックスでは選択したプリンタがサポートするオプションのリストからフォント、スタイル、太さ、サイズ、文字セットを選択できるため、ダイアログボックスを使用するとすばやく簡単に設定できます。

比較

デフォルトプリンタのフォントの指定

この例では、デフォルトプリンタに 12 ポイントの Times フォントを指定します。

```
options sysprintfont= ("times" 12);
```

Windows プリンタ名によるフォントの指定

この例では、HP LaserJet IIISi Postscript という名前のプリンタで Courier を使用するように指定します。SAS 印刷設定ダイアログボックスで指定されている名前と同じプリンタ名を指定します。

```
options sysprintfont= ("courier" named "hp laserjet 111s, postscript");
```

SAS コマンドラインでのユニバーサルプリンタのフォントの指定

この例では、PDF ユニバーサルプリンタに Albany AMT フォントを指定します。

```
sysprintfont= ('courier' 11 uprint='PDF')
```

TERMINAL システムオプション

端末デバイスを SAS セッションと関連付けるかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: 環境コントロール: 初期化および操作

**PROC OPTIONS
GROUP=** EXECMODES

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は TERMINAL です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ) を参照してください。

構文

TERMINAL | NOTERMINAL

構文の説明

TERMINAL

実行環境では物理的なディスプレイが使用可能であることを示します。

NOTERMINAL

実行環境では物理的なディスプレイが使用不可能であることを示します。ダイアログボックスは表示されません。

詳細

SAS はデフォルトの TERMINAL に設定しますが、そのセッションをバックグラウンドで実行すると判断した場合には NOTERMINAL が設定される可能性があります。

通常、TERMINAL オプションは次の実行モードで使用されます。

- SAS ウィンドウ環境モード
- 対話型ラインモード
- 非対話型モード

通常、NOTERMINAL オプションはサーバー実行モードで使用されます。

TERMSTMT=システムオプション

SAS の終了時に SAS ステートメントを実行するように指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: 環境コントロール: 初期化および操作

**PROC OPTIONS
GROUP=** EXECMODES

動作環境: 一部のオペレーティングシステム環境では、TERMSTMT=の値のサイズが制限されています。この制限を回避するため、%INCLUDE ステートメントを使用できます。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

TERMSTMT='statement(s)'

構文の説明

'statement(s)'

1 つ以上の SAS ステートメントです。

長さ 最大長は 2,048 文字です。

詳細

バッチモードでは、TERMSTMT=は完全にサポートされています。対話型モードでは、TERMSTMT=はエディタウィンドウから ENDSAS ステートメントをサブミットして SAS セッションを終了した場合にのみ実行されます。対話型モードでその他の方法を使用して SAS を終了した場合、TERMSTMT=は実行されません。

TERMSTMT=を指定する別 の方法として、バッチファイルの最後に %INCLUDE ステートメントを配置するか、対話型モードで SAS セッションを終了する前に %INCLUDE ステートメントをサブミットすることもできます。

比較

TERMSTMT=では、SAS の終了時に SAS ステートメントを実行するように指定します。INITSTMT=では、SAS の初期化時に SAS ステートメントを実行するように指定します。

関連項目:

ステートメント:

- “%INCLUDE Statement” (*SAS Statements: Reference*)

システムオプション:

- “INITSTMT=システムオプション” (162 ページ)

TEXTURELOC=システムオプション

ODS スタイルで使用されるテクスチャとイメージの場所を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシージャ出力コントロール:ODS 印刷

PROC OPTIONS
GROUP= ODSPRINT

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

TEXTURELOC=*location*

構文の説明

location

ODS スタイルで使用されるテクスチャとイメージの場所を指定します。*Location*には、ディレクトリの物理名または URL 参照名を指定できます。

制限事項 ステートメントごとに 1 つの場所のみが許可されています。

要件 *location* がファイル参照名でない場合、値を引用符で囲む必要があります。

ディレクトリ内のファイルは、gif、jpeg またはビットマップの形式にする必要があります。

Location は 1 つのディレクトリを示す必要があります。

関連項目:

“Dictionary of ODS Language Statements” (*SAS Output Delivery System: User's Guide*)

THREADS システムオプション

使用可能な場合は SAS でスレッド処理を使用するように指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、**SAS システムオプション** ウィンドウ

カテゴリ: システム管理:パフォーマンス

PROC OPTIONS GROUP= PERFORMANCE

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は THREADS です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

THREADS | NOTREADS

構文の説明

THREADS

スレッド処理をサポートする SAS アプリケーションでスレッド処理を使用するように指定します。

操作 THREADS が SAS システムオプションまたは PROC SORT で指定されていて、別のプログラムで SPD エンジンを使用して読み込み、書き込みまたは更新用に入力 SAS データセットが開かれている場合、プロシージャが失敗してそのメッセージが SAS ログに書き込まれる可能性があります。

NOTREADS

スレッド処理をサポートする SAS アプリケーションでスレッド処理を使用しないように指定します。

操作 NOTREADS を指定した場合、NOTREADS システムオプションより優先されるプロシージャを指定しない限り CPUCOUNT= は無視されます。

詳細

THREADS システムオプションは、スレッドに対応した従来の一部の SAS プロセスを有効にし、処理と I/O 操作をスレッド化することで複数の CPU を活用します。処理と I/O 操作のスレッド化によって、CPU リソースの追加消費が必要な可能性のある特定の操作に対して、多くの場合実際の完了時間が短縮される並行処理を実現できます。スレッド対応プロセスには次のものが含まれます。

- Base SAS エンジンインデックス

- Base SAS プロジェク: MEANS、REPORT、SORT、SUMMARY、TABULATE、SQL
- SMP (対称型マルチプロセッサ)モードの SAS/STAT スレッド対応プロジェクト: ADAPTIVEREG、FMM、GLM、GLMSELECT、LOESS、MIXED、QUANTLIFE、QUANTREG、QUANTSELECT、ROBUSTREG。

たとえば、小さいデータセットを処理する場合は、SAS で単一スレッド操作が使用される可能性があります。

スレッド化でパフォーマンスが改善されない場合、または原因不明な問題にスレッド化が関係している可能性がある場合は、このオプションを NOTHREADS に設定して、SAS の動作が SAS 9 以前のリリースと互換性が最も高くなるようにします。製品が THREADS オプションで有効になる機能を備えているかどうかを確認するには、各製品固有のドキュメントを参照してください。

SAS 製品、ソリューションおよび処理モードでは、NOTHREADS オプションの指定がなければスレッド対応テクノロジを使用している場合があります。

- 分散コンピューティング環境において MPP (超並列処理)モードで実行される SAS 製品:
 - SAS High-Performance Analytic テクノロジ(SAS Grid Manager、SAS In-Database、SAS High-Performance Analytics Server、SAS Visual Analytics、SAS High-Performance Risk Management など)
 - SAS High-Performance Analytics プロジェク(HPSUMMARY、HPREG、HPDS2、HPLOGISTICS など)
 - SAS/OR
 - SAS/ETS
 - SAS Enterprise Miner
 - SAS LASR Analytic Server
 - SAS Data Integration Studio
- SAS/ACCESS エンジン(並列サーバーの場合に DBMS のデータの読み書き、または更新)
 - SAS Scalable Performance Data Server
 - SPD エンジンは読み込みとインデックス処理はスレッド化されました、SPD エンジンで実行されている SAS スレッド対応プロジェクトが引き続き有効になっています。
 - DS2 プログラム
 - SAS ログ機能
 - SAS Intelligence Platform の SAS サーバー
 - SAS Workspace Server
 - SAS Stored Process Server
 - SAS Pooled Workspace Server
 - SAS OLAP Server
 - SAS Metadata Server
 - SAS Object Spawner

Workspace Server、Pooled Workspace Server、または Stored Process Server で NOTHREADS システムオプションを検査するプロジェクトを含むコードがサブミットされた場合を除いて、NOTHREADS は無視されます。

- SAS Intelligence Platform の中間層(Web アプリケーションのインフラストラクチャ)
- SAS MP CONNECT

比較

システムオプション THREADS では、スレッド処理を実行するかどうかを決定します。SAS システムオプション CPUCOUNT= では、スレッド対応の SAS プロシージャで使用可能なシステム CPU 数を提案します。

関連項目:

- “Support for Parallel Processing” (*SAS Language Reference: Concepts*)

システムオプション:

- “CPUCOUNT=システムオプション” (94 ページ)
- “UTILLOC=システムオプション” (292 ページ)

TIMEZONE=システムオプション

ユーザーローカルタイムゾーンを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、**SAS システムオプション** ウィンドウ

カテゴリ: 環境コントロール:言語コントロール

PROC OPTIONS GROUP= LANGUAGECONTROL

別名: TZ=、ただし TIMEZONE= の使用が必須の制限されたオプション構成ファイル内は除く

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ) を参照してください。

構文

TIMEZONE='time-zone-name' | 'time-zone-ID'

構文の説明

time-zone-name

3または4文字のタイムゾーン名を指定します。たとえば、EST は東部標準時間のタイムゾーン名です。

デフォルト BLANK。SAS サーバータイムゾーンとクライアントタイムゾーンが同じであることを示します。

参照項目 タイムゾーン名のリストについては、[付録 1, “タイムゾーン ID とタイムゾーン名” \(355 ページ\)](#) を参照してください。

time-zone-ID

SAS で定義されている *region/area* の値を指定します。タイムゾーン ID を指定したとき、SAS が使用するタイムゾーンはタイムゾーン名と夏時間ルールを考慮して決定されます。

注	タイムゾーン ID は JAVA タイムゾーン名と互換性があります。
参照項目	タイムゾーン ID のリストについては、 付録 1, “タイムゾーン ID とタイムゾーン名”(355 ページ) を参照してください。

詳細

システムが特定のタイムゾーンを使用するように、TIMEZONE=オプションはタイムゾーン ID またはタイムゾーン名に対して設定します。タイムゾーン設定は次の SAS コンポーネントに影響します。

- イベントやログに記録される時間
- データセット作成や変更の時間
- DATE()関数
- DATETIME()関数
- TIME()関数
- TODAY()関数
- タイムゾーン関数 TZONEOFF(), TZONEID(), TZONENAME(), TZONE2U(), TZONEU2S(),
- タイムゾーン出力形式 B8601DXw., E8601DXw., B8601LXw., E8601LXw., B8601TXw., E8601TXw., NLDATMZw., NLDATMTZw., NLDATMWZw.

タイムゾーンを設定するには、タイムゾーン ID とタイムゾーン名を指定します。タイムゾーン ID では、リージョンとエリアをスラッシュ(/)で区切れます。たとえば、America/New_York や Asia/Osaka がタイムゾーン ID です。

タイムゾーン名は3または4文字のタイムゾーンの名前です。たとえば、EST は東部標準時間で JST は日本標準時間です。SAS は、時間値を使う前に夏時間を考慮したタイムゾーンルールに則って時間を決定します。

タイムゾーン名には異なるロケールで有効のものもあります。たとえば、CST は中部夏時間、キューバ夏時間、そして中国夏時間を意味します。SAS は LOCALE=システムオプションの値を使って、どのリージョンとエリアを使えばいいのか判断します。TIMEZONE='CST'で LOCALE='zh_CN'の場合、SAS は Asia/Beijing タイムゾーンを使用します。タイムゾーン名がそのロケールに存在しない場合、システムはすべてのタイムゾーンを検索して最初にマッチしたタイムゾーンを設定します。

このオプションが制限されていて TIMEZONE=の値がデフォルト値の BLANK である場合、タイムゾーンの動作はタイムゾーン情報を使用しないものになります。

関連項目:

[“Specifying Time Zones in SAS” \(SAS National Language Support \(NLS\): Reference Guide\)](#)

TOPMARGIN=システムオプション

ページの上の印刷余白を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシジャー出力コントロール:ODS 印刷

PROC OPTIONS ODSPRINT
GROUP=

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は 0.000 in です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

TOPMARGIN=*margin-size*<*margin-unit*>

構文の説明

margin-size

余白のサイズを指定します。

制限事項 下の余白は、上下の余白の合計が用紙の高さよりも小さくなるようなサイズで指定する必要があります。

操作 このオプションの値を変更すると、PAGESIZE=システムオプションの値が変更される可能性があります。

<*margin-unit*>

余白サイズの単位を指定します。*margin-unit* には、*in*(インチ)または*cm*(センチメートル)を使用できます。<*margin-unit*>は、TOPMARGIN システムオプションの値の一部として保存されます。

デフォルト インチ

詳細

すべての余白には、プリンタと用紙サイズに応じた最小値があります。TOPMARGIN システムオプションのデフォルト値は 0.00 in です。

関連項目:

- “Universal Printing” (*SAS Language Reference: Concepts*)

ステートメント:

- “ODS PRINTER Statement” (*SAS Output Delivery System: User's Guide*)

システムオプション:

- “BOTTONMARGIN=システムオプション”(65 ページ)
- “LEFTMARGIN=システムオプション”(173 ページ)
- “RIGHTMARGIN=システムオプション”(229 ページ)

TRAINLOC=システムオプション

SAS のオンライントレーニングコースの URL を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: 環境コントロール:ファイル

PROC OPTIONS ENVFILES
GROUP=

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

TRAINLOC="*base-URL*"

構文の説明

base-URL

SAS のオンライントレーニングコースが存在する場所のアドレスを指定します。

詳細

TRAINLOC=システムオプションでは、SAS のオンライントレーニングコースのベース位置(通常は URL)を指定します。通常、これらのオンライントレーニングコースには、インターネットサーバーかローカル CD-ROM からアクセスします。

例

base-URL の例を次に示します。

- "file:///e:\onlintut"
- "http://server.abc.com/SAS/sastrain"

UBUFNO=システムオプション

ユーティリティファイルに使用するバッファ数を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、**SAS システムオプション**ウインドウ

カテゴリ: ファイル:SAS ファイル

システム管理:パフォーマンス

PROC OPTIONS SASFILES

GROUP= PERFORMANCE

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は 0 です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

UBUFNO=*n* | *nK* | *nM* | *nG* | *hexX* | MIN | MAX

構文の説明

n | nK | nM | nG

割り当てるバッファ数を 1、1,024(キロバイト)、1,048,576(メガバイト)、1,073,741,824(ギガバイト)の倍数で指定します。たとえば、値 8 では 8 個のバッファ、値 .003k では 3 個のバッファが指定されます。

範囲 0–20

hexX

ユーティリティファイルのバッファ数を 16 進値で指定します。先頭が数値(0 から 9)、末尾が X の値を指定する必要があります。たとえば、値 0fx では 15 個のバッファが指定されます。

MIN

ユーティリティファイルの最小バッファ数を 0 に設定します。SAS はこれにより、動作環境に最適な最小値を使用します。

MAX

ユーティリティファイルのバッファ数を 20 に設定します。

詳細

バッファ数は、ユーティリティファイルの永続的属性ではなく、現在の SAS セッションまたはジョブでのみ有効です。UBUFNO=オプションは、入力、出力または更新用に開かれているユーティリティファイルに適用されます。

バッファのシステムオプションの最適値は、使用する動作環境に依存します。さまざまなバッファサイズで実際に検証を行い、これらのシステムオプションの最適値を決定します。

関連項目:

システムオプション:

- “BUFNO=システムオプション” (66 ページ)
- “UBUFSIZE=システムオプション” (288 ページ)

UBUFSIZE=システムオプション

ユーティリティファイルのバッファサイズを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、**SAS システムオプション** ウィンドウ

カテゴリ: ファイル:SAS ファイル

システム管理:パフォーマンス

PROC OPTIONS SASFILES

GROUP= PERFORMANCE

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は 0 です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ) を参照してください。

構文

UBUFSIZE=*n* | *nK* | *nM* | *nG* | *nT* | *hexX* | MIN | MAX

構文の説明

n | *nK* | *nM* | *nG* | *nT*

ユーティリティファイルのバッファサイズを 1 (バイト)、1,024 (キロバイト)、1,048,576 (メガバイト)、1,073,741,824 (ギガバイト)、1,099,511,627,776 (テラバイト) のいずれかの倍数で指定します。たとえば、値 8 では 8 バイト、値 3m では 3,145,728 バイトが指定されます。

hexX

ユーティリティファイルのバッファサイズを 16 進値で指定します。先頭が数値(0 から 9)、末尾が X の値を指定する必要があります。たとえば、値 2dx ではページサイズが 45 バイトに設定されます。

MIN

ユーティリティファイルのバッファサイズを 0 に設定します。0 の値は、バッファサイズが動作環境のデフォルトページサイズに設定されることを示します。

MAX

ユーティリティバッファサイズを動作環境で可能な最大値に設定します。4 バイト符号付き整数の最大値である $2^{31}-1$ (約 20 億バイト) 以下の値になります。

詳細

バッファサイズとは、1 回の入力/出力(I/O)操作で 1 個のバッファに転送できるデータ量です。バッファサイズは、ユーティリティファイルの永続的属性で、データセットが処理されるときに使用されます。UBUFSIZE=オプションは、SAS がデータセットの処理に使用するユーティリティファイルのバッファサイズを設定します。

バッファのシステムオプションの最適値は、使用する動作環境に依存します。さまざまなバッファサイズで実際に検証を行い、これらのシステムオプションの最適値を決定します。

関連項目:

システムオプション:

- “BUFSIZE=システムオプション” (68 ページ)
- “DATAPAGESIZE=システムオプション” (98 ページ)

UPRINTCOMPRESSION システムオプション

一部のユニバーサルプリンタおよび SAS/GRAPH デバイスで作成されたファイルの圧縮を有効にするかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシージャ出力コントロール:ODS 印刷

PROC OPTIONS GROUP= ODSPRINT

別名: UPC | NOUPC

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は UPRINTCOMPRESSION です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

UPRINTCOMPRESSION | NOUPRINTCOMPRESSION

構文の説明

UPRINTCOMPRESSION

一部のユニバーサルプリンタおよび SAS/GRAFH デバイスで作成されたファイルの圧縮が有効になるように指定します。

NOUPRINTCOMPRESSION

一部のユニバーサルプリンタおよび SAS/GRAFH デバイスで作成されたファイルの圧縮が無効になるように指定します。

詳細

UPRINTCOMPRESSION システムオプションの影響を受けるユニバーサルプリンタと SAS/GRAFH デバイスを次の表に示します。

ユニバーサルプリンタ	SAS/GRAFH デバイスドライバ
PCL5、PCL5C、PCL5E	PCL5、PCL5C、PCL5E
PDF	PDF、PDFA、PDFC
SVG	SVG
PS	SASPRTC、SASPRTG、SASPRTM

NOUPRINTCOMPRESSION が設定されていると、DEFLATION=オプションは無視されます。

ODS PRINTER ステートメントオプション COMPRESS=は、UPRINTCOMPRESSION システムオプションよりも優先されます。

関連項目:

ステートメント:

- “ODS PRINTER Statement” (*SAS Output Delivery System: User's Guide*)

システムオプション:

- “[DEFLATION=システムオプション](#)” (102 ページ)

URLENCODING=システムオプション

SAS セッションエンコーディングと UTF-8 エンコーディングのどちらを使用して URLENCODE 関数と URLDECODE 関数の引数が解釈されるのかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: 環境コントロール:言語コントロール

**PROC OPTIONS
GROUP=** LANGUAGECONTROL

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は SESSION です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

URLENCODING=SESSION | UTF8

構文の説明

SESSION

SAS セッションエンコーディングを使用して URLENCODE 関数と URLDECODE 関数の引数が解釈されるように指定します。

注 SAS セッションエンコーディングでは、URL エンコーディング標準 RFC1738 が使用されます。

ヒント SESSION は以前の SAS のリリースと互換性があります。

UTF8

UTF-8 エンコーディングを使用して URLENCODE 関数と URLDECODE 関数の引数が解釈されるように指定します。

注 UTF-8 エンコーディングでは、URL エンコーディング標準 RFC3986 が使用されます。

関連項目:

関数:

- “URLDECODE Function” (*SAS Functions and CALL Routines: Reference*)
- “URLENCODE Function” (*SAS Functions and CALL Routines: Reference*)

USER=システムオプション

デフォルトの永久 SAS ライブラリを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: 環境コントロール:ファイル

**PROC OPTIONS
GROUP=** ENVFILES

注: サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

参照項目: “USER System Option: UNIX” (*SAS Companion for UNIX Environments*)

“USER System Option: Windows” (*SAS Companion for Windows*)

“USER= System Option: z/OS” (SAS Companion for z/OS)

構文

USER=*library-specification*

構文の説明

library-specification

SAS ライブラリのライブラリ参照名または物理名を指定します。

詳細

このオプションが指定されている場合は、SAS ステートメントで永久 SAS ファイルを参照する 1 レベルの名前を使用できます。ただし、USER=WORK が指定されている場合は、1 レベルの名前で参照されるファイルは一時作業ファイルを参照するとみなされます。

UTILLOC=システムオプション

有効にされたスレッド化アプリケーションがユーティリティファイルを保存できるファイルシステムの場所を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: ファイル:SAS ファイル

PROC OPTIONS SASFILES
GROUP=

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は Work です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#) (6 ページ) を参照してください。

参照項目: “UTILLOC= System Option: z/OS” (SAS Companion for z/OS)

構文

UTILLOC=WORK | *filename* | *location* | (*location-1* *location-2* ...)

構文の説明

WORK

Work ライブラリと同じディレクトリにユーティリティファイルが作成されるように指定します。

filename

SAS で、ディレクトリと省略可能キーワードのリストを含むファイルからユーティリティファイルの場所が選択されるように指定します。SAS で選択されたディレクトリは、現在の SAS セッションのユーティリティファイルの場所として有効です。

z/OS 固有 *filename* は、z/OS 動作環境では無効です。

注 この引数は、SAS 9.4 のメンテナンスリリース 2 から提供されました。

参照項目 “SAS でのユーティリティファイルの場所選択の許可” (293 ページ)

location

アプリケーションによって作成されるユーティリティファイルの既存のディレクトリの場所を指定します。*location* に空白が含まれる場合は、一重または二重引用符で囲みます。

z/OS 固有 z/OS では、各 *location* はユーティリティファイルの作成時に使用される DCM および SMS オプションのリストです。

(location-1 location-2 ...)

アプリケーションによって作成されるユーティリティファイルの並列アクセスができる既存のディレクトリのリストを指定します。1 つのユーティリティファイルが複数の場所にまたがることはできません。場所に空白が含まれる場合は、一重または二重引用符で囲みます。存在しない場所は、UTILLOC=システムオプションの値から削除されます。

要件 複数の場所を指定する場合は、場所のリストをかっこで囲む必要があります。

z/OS 固有 z/OS では、各 *location* はユーティリティファイルの作成時に使用される DCM および SMS オプションのリストです。

詳細**基本**

UTILLOC オプションでは、SAS 9 アーキテクチャの一部として導入されるユーティリティファイルの種類に場所を指定します。これらのユーティリティファイルは、UTILITY という種類の SAS ファイルと似ていますが、Work ライブラリやそれ以外の SAS ライブラリのいずれのメンバでもありません。UTILLOC ユーティリティファイルは、主に実行のマルチスレッドに対応するアプリケーションで使用されます。

UTILLOC オプションに指定される各場所は、ユーティリティファイルを作成できる 1 つの場所を示します。複数の場所が指定されている場合、ユーティリティファイルが必要とされると、これらの場所が SAS アプリケーションによって順番に使用されます。

同時に複数のユーティリティファイルを使用するアプリケーションの場合は、別個の物理 I/O デバイスに対応する複数の場所を指定し、デバイスリソースの競合を削減することにより、処理速度が向上することがあります。

SAS でのユーティリティファイルの場所選択の許可

filename オプションには、ユーティリティファイルの場所選択に使用されるディレクトリのリストが含まれます。次のメソッドのうち 1 つをファイルに追加すると、SAS によるユーティリティファイルの場所選択方法を指定できます。

METHOD=RANDOM

SAS で、ユーティリティファイルの場所がディレクトリのリストからランダムに選択されるように指定します。SAS では、SAS セッションごとに 1 つずつユーティリティファイルの場所が選択されます。この選択により、複数のハードウェアシステムにわたって I/O 負荷のバランスをとれます。Windows では、ファイル c:\sasinfo\utilfiles.txt は次のようにになります。

```
c:\disk1\sastempfiles
c:\disk2\sastempfiles
c:\disk3\sastempfiles
method=random
```

METHOD=SPACE

SAS で、使用可能な領域が最大のディレクトリが選択されるように指定します。

UNIX では、ファイル/sasinfo/utilfiles/は次のようになります。

```
/disk1/sastempfiles
/disk2/sastempfiles
/disk3/sastempfiles
method=space
```

METHOD キーワードが指定されなければ、SAS では、デフォルトでディレクトリがランダム選択されます。

ユーティリティファイルと SORT プロシージャ

SORT プロシージャでは、UTILLOC=システムオプションは、マルチスレッド SAS の並べ替えが使用されている場合にのみ、ユーティリティファイルの配置に影響します。マルチスレッド SAS の並べ替えは、THREAD システムオプションが指定されており、CPUCOUNT=システムオプションの値が 1 より大きいときに起動できます。マルチスレッド SAS の並べ替えは、PROC SORT ステートメントで THREADS オプションを指定しているときにも起動できます。マルチスレッド並べ替えでは、UTILLOC=システムオプションで指定される場所のいずれかにある 1 つのユーティリティファイルにすべての一時データが保存されます。このユーティリティファイルのサイズは、入力データセットから読み込まれるデータ量に比例します。入力データセットから読み込まれるデータ量が大きいとき、または SORT プロシージャで使用可能なメモリ量が小さいとき、同じサイズの 2 つ目のユーティリティファイルをこれらの場所のいずれかに作成できます。

関連項目:

- “Support for Parallel Processing” (*SAS Language Reference: Concepts*)

プロシージャ:

- “SORT Procedure” (*Base SAS Procedures Guide*)

システムオプション:

- “CPUCOUNT=システムオプション” (94 ページ)
- “THREADS システムオプション” (282 ページ)

UUIDCOUNT=システムオプション

UUID ジェネレーターモンから取得する UUID の数を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、**SAS システムオプション** ウィンドウ

カテゴリ: 環境コントロール:ファイル

PROC OPTIONS ENVFILES

GROUP=

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は 100 です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“**制限されたオプション**” (6 ページ)を参照してください。

構文

UUIDCOUNT=*n* | MIN | MAX

構文の説明

n

取得する UUID の数を指定します。ゼロは、UUID ジェネレーターデーモンが必要ないことを示します。

範囲 0–1000

MIN | MAX

MIN

取得する UUID の数をゼロに指定し、UUID ジェネレーターデーモンが必要ないことを示します。

MAX

UUID ジェネレーターデーモンから一度に 1000 個の UUID が取得されるように指定します。

詳細

SAS アプリケーションで多数の UUID が生成される場合は、SAS セッションで SAS UUID ジェネレーターデーモンに接続する回数を減らすために、SAS セッション中はいつでもこの値を調整できます。

関連項目:

- “Universal Unique Identifiers and the Object Spawner” (*SAS Language Reference: Concepts*)

関数:

- “UUIDGEN Function” (*SAS Functions and CALL Routines: Reference*)

システムオプション:

- “UUIDGENHOST=システムオプション” (295 ページ)

UUIDGENHOST=システムオプション

UUID ジェネレーターデーモンが実行されるホストとポートまたは LDAP URL を示します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: 環境コントロール:ファイル

PROC OPTIONS ENVFILES
GROUP=

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

UUIDGENDHOST=*'host-string'*

構文の説明

'host-string'

host-name:port という形式、または LDAP URL のいずれかです。値は 1 つの文字列にする必要があります。LDAP URL 文字列は引用符で囲みます。

詳細

SAS では、すべての UUID が重複しないという保証はありません。確実に重複しない UUID を取得するには、SAS UUID ジェネレーターモン(UUIDGEN)を使用してください。

例

- *host-name:port* を '*host-string*' として指定する

```
sas -UUIDGENDHOST 'myhost.com:5306'
```

または

```
sas UUIDGENDHOST= 'myhost.com:5306'
```

- LDAP URL を '*host-string*' として指定する

```
"ldap://ldaphost/sasspawner-distinguished-name"
```

- '*host-string*' として指定する LDAP URL の詳細な例

```
"ldap://ldaphost/sasspawnercn=UUIDGEN,sascomponent=sasServer, cn=ABC, o=ABC Inc, c=US"
```

- LDAP サーバーが保護されている場合は *binddn* と *bind-password* を指定する

```
"ldap://ldaphost/sasspawner-distinguished-name????  
bindname=binddn,password=bind-password"
```

- *bindname* 値と *password* 値を使用した例

```
"ldap://ldaphost/  
sasspawnercn=UUIDGEN,sascomponent=sasServer, cn=ABC, o=ABC Inc, c=US  
????bindname=cn=me%2co=ABC Inc %2cc=US,  
password=itsme"
```

注: *bindname* と *password* の値を指定する場合、指定した値に含まれるカンマを文字列 "%2c" に置きかえる必要があります。前述の例では、*bindname* 値は次のようにになります。

```
cn=me, o=ABC Inc, c=US
```

関連項目:

関数:

- “UUIDGEN Function” (*SAS Functions and CALL Routines: Reference*)

システムオプション:

- “UUIDCOUNT=システムオプション” (294 ページ)

V6CREATEUPDATE=システムオプション

バージョン 6 のデータセットを作成または更新するときに SAS ログに書き込まれるメッセージの種類を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: ファイル:SAS ファイル

PROC OPTIONS SASFILES
GROUP=

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は NOTE です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

V6CREATEUPDATE=ERROR | NOTE | WARNING | IGNORE

構文の説明

ERROR

V6 エンジンを使用して作成または更新するために SAS データセットを開くと、SAS ログにエラーが書き込まれるように指定します。バージョン 6 形式で SAS データセットを作成または更新しようとすると、失敗します。バージョン 6 のデータセットの読み込みではエラーは生成されません。

NOTE

V6 エンジンを使用すると SAS ログに NOTE が書き込まれるように指定します。その他の処理はすべて正常に行われます。

WARNING

V6 エンジンを使用すると SAS ログに警告が書き込まれるように指定します。その他の処理はすべて正常に行われます。

IGNORE

V6CREATEUPDATE=システムオプションを無効にします。V6 エンジンを使用しても、SAS ログには何も書き込まれません。

VALIDFMTNAME=システムオプション

これを超えるとエラーまたは警告が発行される、ユーザー作成の出力形式名および入力形式名の最大サイズ(32 文字または 8 文字)を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: ファイル:SAS ファイル

PROC OPTIONS SASFILES
GROUP=

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は LONG です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

VALIDFMTNAME=LONG | FAIL | WARN

構文の説明

LONG

出力形式名および入力形式名に最大で 32 文字までの英数字を使用できるように指定します。

FAIL

8 文字を超える出力形式名または入力形式名を作成すると、エラーメッセージが表示されるように指定します。

操作 LIBNAME ステートメントなどで V7 または V8 Base SAS エンジンを明示的に指定すると、これらのエンジンに関連付けられているデータセットには自動的に VALIDFMTNAME=FAIL の動作が使用されます。

ヒント この設定は、SAS 9 および以前の SAS リリースの両方で有効な入力形式と出力形式を使用する場合に指定します。

WARN

8 文字を超える出力形式名または入力形式名が作成されると警告メッセージが出され、SAS 9 より以前のリリースではその出力形式または入力形式が使用できないことを通知する指定です。

詳細

SAS 9 では、最大で 32 文字までの出力形式名および入力形式名を定義できます。以前のリリースでは上限は 8 文字でした。VALIDFMTNAME=システムオプションは、データセットと出力形式カタログの両方の出力形式名と入力形式名に適用されます。

VALIDFMTNAME=では、出力形式名と入力形式名の長さは制御されません。制御されるのは、SAS データセットの作成時に変数に関連付ける出力形式名と入力形式名の長さのみです。

SAS データセットに長い出力形式名または入力形式名を使用した変数がある場合、SAS 9 より前のリリースではこのデータセットを読み込めません。以前のリリースでこのデータセットにアクセスできるようにするには長い名前を削除します。ただし、変数の出力形式属性を保持するには、短い名前を使用した同じ出力形式をこの変数に適用する必要があります。

注: 8 文字を超える名前を使用して出力形式または入力形式を作成した後に、8 文字以下の名前に変更すると、SAS 9 より前のリリースではこの出力形式または入力形式を使用できません。短い名前を使用して出力形式または入力形式を作成し直す必要があります。

関連項目:

- “Names in the SAS Language” (*SAS Language Reference: Concepts*)
- “SAS 9.4 Compatibility with SAS Files from Earlier Releases” (*SAS Language Reference: Concepts*)

プロジェクト:

- “FORMAT” (*Base SAS Procedures Guide*)

VALIDMEMNAME=システムオプション

SAS データセット、SAS データビューおよびアイテムストアの命名規則を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、**SAS システムオプション** ウィンドウ

カテゴリ: ファイル:SAS ファイル

PROC OPTIONS
GROUP= SASFILES

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は COMPATIBLE です。

適用対象: Base SAS エンジンと SPD エンジン

制限事項: VALIDMEMNAME=オプションは、テープエンジン V9TAPE、V8TAPE、V7TAPE、V6TAPE ではサポートされません。

VALIDMEMNAME の値に関係なく、メンバ名の最後に特殊文字#を付けて、その後に 3 衔の数字を続けることはできません。これは、世代データセットの命名規則と競合するためです。このようなメンバ名を使用すると、結果としてエラーが発生します。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#) (6 ページ)を参照してください。

構文

VALIDMEMNAME=COMPATIBLE | EXTEND

構文の説明

COMPATIBLE

SAS データセット名、SAS データビューネ名またはアイテムストア名が次の規則に従う必要があることを指定します。

- 名前の長さは、最大 32 文字まで指定できます。
- 名前は、英字(A から Z, a から z)またはアンダースコアで始める必要があります。開始文字以外には、英字、数字、アンダースコアを使用できます。
- 名前には、空白またはアンダースコア以外の特殊文字を含めることができません。
- 名前には大文字と小文字を混在させることができます。メンバ名は SAS 内部で大文字に変換されます。このため、メンバ名の大文字と小文字の組み合わせを変更して、異なる変数を表すことはできません。たとえば、customer、Customer、および CUSTOMER はすべて同じメンバ名を表します。ディスク上に名前がどのように保存されるかは、動作環境によって決まります。

別名 COMPAT

EXTEND

SAS データセット名、SAS データビューネ名またはアイテムストア名が次の規則に従う必要があることを指定します。

- 名前には各国語文字を含めることができます。
- 名前には/*?"<>|:-.以外の特殊文字を含めることができます。

注: SPD エンジンでは、メンバ名のどこにも`'(ピリオド)を使用できません。

- 名前には、少なくとも 1 文字が必要です(文字、数字、有効な特殊文字、および各国語文字)。
- 名前の長さは、最大 32 バイトまで指定できます。
- NULL のバイトは使用できません。
- 名前は空白または'.'(ピリオド)で始めることはできません。
注: SPD エンジンでは、メンバ名の最初の文字に'\$'を使用できません。
- メンバが作成されるときに先頭と末尾の空白は削除されます。
- 名前には大文字と小文字を混在させることができます。メンバ名は SAS 内部で大文字に変換されます。このため、メンバ名の大文字と小文字の組み合わせを変更して、異なる変数を表すことはできません。たとえば、*customer*、*Customer*、および *CUSTOMER* はすべて同じメンバ名を表します。名前がどのように表示されるかは、動作環境によって決まります。

要件 VALIDMEMNAME=EXTEND が設定されていて、SAS データセット名、SAS データビューネームおよびアイテムストア名に空白や特殊文字や各国語文字が含まれる場合、それらは SAS 名リテラルとして書き込まれなければなりません。パーセント記号(%)またはアンパサンド(&)のいずれかを使用する場合、SAS マクロ機能との交互作用を避けるために、名前リテラルに一重引用符を使用する必要があります。詳細については、“SAS Name Literals” (*SAS Language Reference: Concepts*)を参照してください。

動作環境 Windows および UNIX 動作環境では、VALIDMEMNAME=EXTEND が設定されている場合、すべての Base SAS ウィンドウで拡張規則がサポートされます。

Windows および UNIX 動作環境では、SAS ファイルを物理名によって直接参照する場合、最後の埋め込みピリオドが拡張子の区切り文字になります。ファイルの物理参照でピリオドを含む SAS メンバ名を使う場合、ファイルの拡張子を必ず追加してください。たとえば、データセット名 *my.member* を物理ファイルとして参照する場合は、SET ステートメント set './saslib/my.member.sas7bdat'のように、参照名にファイル拡張子 *sas7bdat* を追加します。

**z/O
S 固
有** VALIDMEMNAME=EXTEND が設定されている場合、Base SAS ウィンドウ環境はエディタ、ログ、アウトプットウィンドウで拡張規則をサポートします。その他の SAS ウィンドウ(VIEWTABLE ウィンドウなど)では拡張規則をサポートしません。

SAS ファイルを物理名によって直接参照する場合、ピリオドの後に有効な SAS 拡張子が続いているときに限り、最後の埋め込みピリオドが拡張子区切り文字であると見なされます。それ以外は、ピリオドはメンバ名の一部とみなされます。たとえば、*my.member* という名前の member は、ファイルの拡張子ではなくメンバ名とみなされます。*'my.member.sas7bdat'* という名前では、メンバ名は*'my.member'*でファイルの拡張子が *sas7bdat* となります。

ヒント 名前は大文字で表示されます。

参照項目 “How Many Characters Can I Use When I Measure SAS Name Lengths in Bytes?” (*SAS Language Reference: Concepts*)

例 data "August Purchases"n;

 data 'Años de empleo'n; ;

注意 SAS 全体で、名前リテラル構文に 32 バイト制限を超える SAS メンバ名を指定したり、埋め込まれている引用符が多すぎたりする場合、予期しない結果になる可能性があります。VALIDMEMNAME=EXTEND システムオプションの目的は、埋め込み空白や各国語文字を許可するなど、他の DBMS メンバの命名規則との互換性を持たせることです。

詳細

VALIDMEMNAME=EXTEND の場合、SAS データセット名、SAS データビューネームおよびアイテムストア名で使用できる有効な文字は、次の文字まで拡張されます。

- 各国語文字
- サードパーティのデータベースでサポートされる文字
- ファイル名で一般的に使用される文字

DATA、VIEW および ITEMSTORE という SAS メンバの種類のみで、文字の拡張がサポートされます。CATALOG や PROGRAM などのその他のメンバの種類では、拡張文字はサポートされません。関連付けられた DATA メンバがある場合のみ存在する INDEX と AUDIT では、拡張文字がサポートされます。

関連項目:

- “Rules for Words and Names in the SAS Language” (*SAS Language Reference: Concepts*)

システムオプション:

- “[VALIDVARNAME=システムオプション](#)” (301 ページ)

VALIDVARNAME=システムオプション

SAS セッション中に作成および処理可能な有効な SAS 変数名の規則を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: ファイル:SAS ファイル

**PROC OPTIONS
GROUP=** SASFILES

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は V7 です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ) を参照してください。

構文

VALIDVARNAME=[V7 | UPCASE | ANY](#)

構文の説明

V7

変数名が次の規則に従う必要があることを指定します。

- SAS 変数名の長さは、最大 32 文字まで指定できます。
- 最初の文字には、英字(A から Z, a から z)またはアンダースコアを使用する必要があります。開始文字以外には、英字、数字、アンダースコアを使用できません。
- 末尾の空白は無視されます。変数名の配置は左揃えになります。
- 変数名には、空白またはアンダースコア以外の特殊文字を含めることができません。
- 変数名には大文字と小文字を混在させることができます。SAS では、変数を初めて参照した際に使用されていた大文字と小文字の組み合わせと同じ組み合わせで変数名の保存、書き込みが行われますが、変数名の処理時には、SAS 内部ではすべて大文字に変換されます。このため、変数名の大文字と小文字の組み合わせを変更して、異なる変数を表すことはできません。たとえば、`cat`、`Cat`、および `CAT` はすべて同じ変数を表します。
- 変数には、特殊な SAS 自動変数名(`_N_`、`_ERROR_`など)や、変数リスト名(`_NUMERIC_`、`_CHARACTER_`、`_ALL_`など)を割り当てないでください。

例 `season='summer';`

`percent_of_profit=percent;`

UPCASE

変数名が V7 同じ規則に従うように指定します。ただし、SAS の以前のバージョンにある変数名が大文字という規則は除きます。

ANY

SAS 変数名が次の規則に従う必要があることを指定します。

- 名前には、空白、各国語文字、特殊文字、マルチバイト文字など、どの文字でも使用できます。
- 名前の長さは最大 32 バイトです。
- 名前に NULL のバイトを含めることはできません。
- 先頭の空白は保持されますが、末尾の空白は無視されます。
- 名前には、少なくとも 1 文字が必要です。すべて空白の名前は使用できません。
- 名前には大文字と小文字を混在させることができます。SAS では、変数を初めて参照した際に使用されていた大文字と小文字の組み合わせと同じ組み合わせで変数名の保存、書き込みが行われますが、変数名の処理時には、SAS 内部ではすべて大文字に変換されます。このため、変数名の大文字と小文字の組み合わせを変更して、異なる変数を表すことはできません。たとえば、`cat`、`Cat`、および `CAT` はすべて同じ変数を表します。

要件 VALIDVARNAME システムオプションが V7 に設定されているときに、有効な文字(英数字またはアンダースコア)以外の文字を使用する場合は、変数名を名前リテラルとして表す必要があり、VALIDVARNAME=ANY に設定する必要があります。名前にパーセント記号(%)またはアンパサンド(&)のいずれかが含まれている場合、SAS マクロ機能との交互作用を避けるために、名前リテラルに一重引用符を使用する必要があります。“SAS Name Literals” (SAS Language Reference: Concepts)および“Avoiding Errors When

Using Name Literals” (*SAS Language Reference: Concepts*)を参照してください。

参照項目
“How Many Characters Can I Use When I Measure SAS Name Lengths in Bytes?” (*SAS Language Reference: Concepts*)

例 ‘% of profit’n=percent;

‘items@warehouse’n=itemnum;

注意 SAS 全体で、名前リテラル構文に 32 バイト制限を超える SAS メンバ名を指定したり、埋め込まれている引用符が多すぎたりする場合、予期しない結果になる可能性があります。VALIDVARNAME=ANY システムオプションの目的は、埋め込み空白や各国語文字を許可するなど、他の DBMS 変数(列)の命名規則との互換性を持たせることです。

関連項目:

- “Rules for Words and Names in the SAS Language” (*SAS Language Reference: Concepts*)

システムオプション:

- “VALIDMEMNAME=システムオプション” (299 ページ)

VARINITCHK=システムオプション

変数が初期化されていない場合に DATA ステップの実行を停止するか継続するか、および SAS ログに書き込むメッセージの種類を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、**SAS システムオプション**ウインドウ

カテゴリ: ファイル:SAS ファイル

PROC OPTIONS SASFILES

GROUP=

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は NOTE です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#) (6 ページ)を参照してください。

構文

VARINITCHK=[NONOTE | NOTE | WARN | ERROR](#)

構文の説明

NONOTE

変数が初期化されていない場合、DATA ステップは実行を継続し、SAS ログにメッセージを書き込まない指定です。

NOTE

変数が初期化されていない場合、DATA ステップは実行を継続し、SAS ログに NOTE メッセージを書き込む指定です。

WARN

変数が初期化されていない場合、DATA ステップは実行を継続し、SAS ログに警告メッセージを書き込む指定です。

別名 WARNING

ERROR

変数が初期化されていない場合、DATA ステップは実行を停止し、SAS ログにエラーメッセージを書き込む指定です。

詳細

デフォルトでは、変数が初期化されていない場合、SAS は NOTE メッセージを SAS ログに書き込みます。VARINITCHK=オプションを使用して、変数が初期化されていない場合に実行を停止または継続できます。SAS ログに書き込むメッセージの種類を設定することもできます。SAS では、NOTE、警告、エラーメッセージを発行する、または NOTE メッセージを発行しないようにできます。VARINITCHK=ERROR の場合、SAS は処理を停止して SAS ログにエラーメッセージを書き込みます。VARINITCHK= の設定が ERROR 以外の場合は、DATA ステップの実行が継続されます。

変数が初期化されていない可能性がある場合のコンテキストをいくつか次に示します。

- 変数が割り当て演算子の左側または SUM ステートメントにある
- 変数が CALL ルーチンに対するパラメータである
- 変数が配列に含まれる
- 変数が SET、MERGE、MODIFY、UPDATE のステートメントで設定可能
- 変数が INPUT ステートメントに指定されている
- 変数が RETAIN ステートメントで初期化される

関連項目:

- “What Causes a DATA Step to Stop Executing” (*SAS Language Reference: Concepts*)
- “Using an Assignment Statement” (*SAS Language Reference: Concepts*)
- “Using System Options to Control Error Handling” (*SAS Language Reference: Concepts*)

VARLENCHK=システムオプション

SET、MERGE、UPDATE、MODIFY のいずれかのステートメントを使用して入力データセットが読み込まれるときに SAS ログに書き込まれるメッセージの種類を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: ファイル:SAS ファイル

PROC OPTIONS SASFILES
GROUP=

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は WARN です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

VARLENCHK=NOWARN | WARN | ERROR

構文の説明

NOWARN

読み込まれている変数の長さがその変数に定義されている長さを超えて、警告メッセージが発行されないように指定します。

WARN

読み込まれている変数の長さがその変数に定義されている長さを超えると、警告メッセージが発行されるように指定します。

ERROR

読み込まれている変数の長さがその変数に定義されている長さを超えると、エラーメッセージが発行されるように指定します。

詳細

注意:

変数の長さを変更すると、データが切り捨てられる可能性があります。変数が定義された後、変数の長さは LENGTH ステートメントのみで変更できます。変数が SET、MERGE、UPDATE、MODIFY のいずれかのステートメントで読み込まれ、変数の長さが同じ名前の変数より長い場合、警告メッセージが発行され、短い元の長さの変数が使用されます。SAS では短い方が使用されるため、データが切り捨てられる可能性があります。

文字変数からの不要な空白の削除など、ユーザーが意図的にデータを切り捨てた場合に発行される警告メッセージは、ユーザーにとって有用なものではない場合があります。警告メッセージが発行されないように指定、またはゼロ以外のリターンコードを設定するには、VARLENCHK=システムオプションを NOWARN に設定します。 VARLENCHK=NOWARN の場合は、警告メッセージが発行されず、リターンコードが SYSRC=0 に設定されます。

別の方法として、VARLENCHK=ERROR を設定し、読み込まれている変数の長さがその変数に定義されている長さを超えている場合、エラーが発行され、リターンコード SYSRC=8 が設定されます。

VARLENCHECK=システムオプションは、SET、MERGE または UPDATE ステートメントの後の BY ステートメントで指定される BY 変数には影響しません。

VARLENCHK=オプションは、複数のデータセットで長さが異なる同じ名前の変数にのみ適用されます。BY 変数は意図的に除外されています。

注: BY 変数の長さが複数のデータセットで異なる場合、別の警告メッセージが生成されます。これは正常な動作です。

Warning:Multiple lengths were specified for the BY variable x by input data sets.This may cause unexpected results.

この警告メッセージを避けるには、SET、MERGE または UPDATE ステートメントの前に LENGTH ステートメントを指定し、BY 変数を同じ長さに設定します。

例

例 1: 変数の長さが異なる 2 つのデータセットを結合すると警告メッセージが発行される

この例では、sashelp.class と exam_schedule という 2 つのデータセットをマージします。変数 Name の長さは、最初の SET ステートメント `set sashelp.class;` によって 8 に設定されます。exam_schedule データセットでは、Name の長さが 10 に設定されます。2 つ目の SET ステートメント `set exam_schedule key=Name;` で exam_schedule が読み込まれると、exam_schedule データセットの Name の長さが sashelp.class データセットの Name の長さより長いため、警告メッセージが発行され、データが切り捨てられる場合があります。

```
/* Create the exam_schedule data set. */
data exam_schedule(index=(Name));
  input Name : $10. Exam_Date : mmddyy10.;
  format Exam_Date mmddyy10.;
  datalines;
  Carol      06/09/2011
  Hui        06/09/2011
  Janet      06/09/2011
  Geoffrey  06/09/2011
  John       06/09/2011
  Joyce      06/09/2011
  Helga      06/09/2011
  Mary       06/09/2011
  Roberto    06/09/2011
  Ronald     06/09/2011
  Barbara    06/10/2011
  Louise     06/10/2011
  Alfred     06/11/2011
  Alice      06/11/2011
  Henri      06/11/2011
  James      06/11/2011
  Philip     06/11/2011
  Tomas      06/11/2011
  William    06/11/2011
;
run

/* Merge the data sets sashelp.class and exam_schedule */
data exams;
  set sashelp.class;
  set exam_schedule key=Name;
run;
```

次の SAS ログには警告メッセージが表示されています。

アウトプット4.8 SAS ログの警告メッセージ

```

34   ods listing; 35 /* Create the exam_schedule data set.*/ 36   data
exam_schedule(index=(Name)); 37   input Name :$10.Exam_Date : mmddyy10.;
38   format Exam_Date mmddyy10.; 39   datalines; NOTE:The data set
WORK.EXAM_SCHEDULE has 19 observations and 2 variables.NOTE:DATA statement used
(Total process time): real time          0.09 seconds cpu time      0.00
seconds 59 ; 60   run; 61 62 /* Merge the data sets sashelp.class and
exam_schedule */ 63   data exams; 64   set sashelp.class; 65   set
exam_schedule key=Name; 66   run; WARNING:Multiple lengths were specified for
the variable Name by input data set(s).This may cause truncation of
data.Name=Henry Sex=M Age=14 Height=63.5 Weight=102.5 Exam_Date=06/09/2011
_ERROR_=1 _IORC_=1230015 _N_=5 Name=Jane Sex=F Age=12 Height=59.8 Weight=84.5
Exam_Date=06/11/2011 _ERROR_=1 _IORC_=1230015 _N_=7 Name=Jeffrey Sex=M Age=13
Height=62.5 Weight=84 Exam_Date=06/09/2011 _ERROR_=1 _IORC_=1230015 _N_=9
Name=Judy Sex=F Age=14 Height=64.3 Weight=90 Exam_Date=06/09/2011 _ERROR_=1
_ERROR_=1230015 _N_=12 Name=Robert Sex=M Age=12 Height=64.8 Weight=128
Exam_Date=06/11/2011 _ERROR_=1 _IORC_=1230015 _N_=16 Name=Thomas Sex=M Age=11
Height=57.5 Weight=85 Exam_Date=06/09/2011 _ERROR_=1 _IORC_=1230015 _N_=18
NOTE:There were 19 observations read from the data set SASHELP.CLASS.NOTE:The
data set WORK.EXAMS has 19 observations and 6 variables.

```

例 2: 警告メッセージをオフにし、LENGTH ステートメントを使用して変数の長さを合わせる

sashelp.class と exam_schedule という 2 つのデータセットをマージするには、exam_schedule の Name の値を確認します。8 文字を超える値がなく、データを失わずに Name の長さを変更することができます。

変数 Name の長さを変更するには、`set exam_schedule;`ステートメントの前に、DATA ステップで LENGTH=ステートメントを使用します。VARLENCHK の値が WARN (デフォルト)の場合、work.exam_schedule から読み込まれるときに Name の値が切り捨てられるという警告メッセージが発行されます。データを失わないことがわかっているため、警告メッセージをオフにできます。

```

options varlenchk=nowarn;
data exam_schedule(index=(Name));
  length Name $ 8;
  set exam_schedule;
run;

```

SAS ログ出力を次に示します。

```

67   options varlenchk=nowarn; 68   data exam_schedule(index=(Name)); 69
length Name $ 8; 70   set exam_schedule; 71   run; NOTE:There were 19
observations read from the data set WORK.EXAM_SCHEDULE.NOTE:The data set
WORK.EXAM_SCHEDULE has 19 observations and 2 variables.

```

関連項目:

“Looking at Sources of Common Problems” (*SAS Language Reference: Concepts*)

VBUFSIZE=システムオプション

表示バッファのサイズを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、システムオプションウィンドウ

カテゴリ: 入力コントロール:データ処理

システム管理:パフォーマンス

PROC OPTIONS	INPUTCONTROL
GROUP=	PERFORMANCE
デフォルト:	出荷時のデフォルト値は 65536 です。
制限事項:	VBUFSIZE=システムオプションは SQL ビューには適用されません。
注:	サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“ 制限されたオプション ”(6 ページ)を参照してください。

構文**VBUFSIZE=***n | nK | nM | nG | nT | hexX | MIN | MAX***必須引数*****n | nK | nM | nG | nT***

表示バッファのサイズを 1 (バイト)、1,024 (キロバイト)、1,048,576 (メガバイト)、1,073,741,824 (ギガバイト)、1,099,511,627,776 (テラバイト) のいずれかの倍数で指定します。たとえば、値 8 では 8 バイト、値 3m では 3,145,728 バイトが指定されます。

hexX

表示バッファのサイズを 16 進値で指定します。先頭が数値(0 から 9)、末尾が X の値を指定する必要があります。たとえば、値 0ffffex ではバッファサイズが 65,534 バイトに設定されます。

MIN

最小バッファ数を 0 に設定します。

MAX

表示バッファのサイズを $2^{63}-1$ 、つまり約 920 京バイトに設定します。

注 VBUFSIZE=MAX に設定し、システムに十分なメモリがない場合は、ビューの処理が停止されます。

詳細

表示バッファは、ビューに対して生成される出力オブザベーションを保持するために割り当てられたメモリのセグメントです。バッファのサイズによって、一度にメモリ内に保持できるデータ量が決定されます。

表示バッファは、ビューを開く要求(SAS プロシージャなど)とビュー自体の間で共有されます。2 つのコンピュータタスクは、データの要求とデータの生成や返送間で次のように調整されます。

- 要求タスク(PRINT プロシージャなど)がデータを要求すると、ビューを実行してオブザベーションを生成するために、要求タスクから表示タスクへのタスクの切り替えが発生します。ビューによって、表示バッファに可能な限り多くのオブザベーションが挿入されます。
- 表示バッファがいっぱいになると、要求されたデータを返すために表示タスクから要求タスクへのタスクの切り替えが発生します。オブザベーションは表示バッファから解除されます。

バッファのシステムオプションの最適値は、使用する動作環境に依存します。さまざまなバッファサイズで実際に検証を行い、これらのシステムオプションの最適値を決定します。

表示バッファのサイズとオブザベーションのサイズによって、保持できるオブザベーション数が決定されます。オブザベーションの長さを確認するには、ビューの PROC CONTENTS を使用します。次に、オブザベーション数によって、コンピュータが要求タスクと表示タスク間を切り替える必要がある回数が決定されます。表示バッファを大きくすると、ビューの処理に必要なタスクの切り替え数は少なくなり、実行時間が短縮されます。

効率を高めるには、デフォルトのバッファサイズに収まるオブザベーション数を最初に確認します。その後、より多く生成されるオブザベーションを保持できるように表示バッファを設定します。

ビューに OBSBUF= が設定されている場合は、VBUFSIZE= の値ではなく、OBSBUF= の値を使用して、表示バッファのサイズが決定されます。

表示バッファはビューの実行が完了すると解放されます。

比較

VBUFSIZE= システムオプションでは、バイト数に基づいて表示バッファのサイズを指定できます。表示バッファに一度に読み込むことができるオブザベーション数は、VBUFSIZE= の値をオブザベーションの長さで除算して計算します。VBUFSIZE= はシステムオプションで、SAS セッションの長さに対して設定されます。

OBSBUF= データセットオプションでは、指定された、表示バッファに一度に読み込むことができるオブザベーション数に基づいて表示バッファのサイズを設定します。表示バッファのサイズは、OBSBUF= の値をオブザベーションの長さで乗算して決定されます。OBSBUF= はデータセットオプションで、ビューの処理の長さに対して設定されます。

関連項目:

データセットオプション:

- “OBSBUF= Data Set Option” (*SAS Data Set Options: Reference*)

VNFERR システムオプション

BY 変数があるデータセットに存在して別のデータセットに存在せず、その他のデータセットが _NULL_ のときに、エラーまたは警告を発行するかどうかを指定します。このオプションは、SET、MERGE、UPDATE、MODIFY のいずれかのステートメントを処理するときに適用されます。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: 環境コントロール: エラー処理

PROC OPTIONS ERRORHANDLING

GROUP=

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は VNFERR です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#) (6 ページ) を参照してください。

構文

VNFERR | NOVNFERR

構文の説明

VNFERR

BY 変数が、あるデータセットに存在して別のデータセットに存在せず、その他のデータセットが_NULL_のときに、エラーを発行するように指定します。このオプションは、SET、MERGE、UPDATE、MODIFY のいずれかのステートメントを処理するときに適用されます。エラーが発生すると、SAS が構文チェックモードになります。

NOVNFERR

BY 変数があるデータセットに存在して別のデータセットに存在せず、その他のデータセットが_NULL_のときに、警告を発行するように指定します。このオプションは、SET、MERGE、UPDATE、MODIFY のいずれかのステートメントを処理するときに適用されます。警告が発生しても、SAS は構文チェックモードにはなりません。

詳細

VNF は Variable Not Found(変数が見つかりません)を表します。

このオプションは、マクロ変数にデータセット名が保存され、これらのマクロ変数が SET、MERGE、UPDATE、MODIFY のいずれかのステートメントで使用される場合に役に立ちます。NOVNFERR を設定し、これらのステートメントのいずれかに値 _NULL_ を使用したマクロ変数が含まれている場合、エラーのかわりに警告が発行され、処理は続行されます。

z/OS 固有

z/OS では、DDNAME で指定するデータセットが DUMMY ライブライを示している場合に、エラーまたは警告が発行されます。

比較

- VNFERR は、BYERR システムオプションに似ています。BYERR システムオプションでは、SORT プロシージャが_NULL_ データセットを並べ替えようとした場合に、エラーが発行され構文チェックモードになります。
- VNFERR は、SAS データセットが見つからないときにエラーが発行される DSNFERR システムオプションに似ています。

例

例 1

この例は、VNFERR オプションと NOVNFERR オプションの設定の結果を示しています。

```
/* treat variable not found on _NULL_ SAS data set as an error */

/* turn option off - should not get an error */ 
options novnferr; run;

data a;
  x = 1;
  y = 2;
run;

data b;
  x = 2;
  y = 3;
run;
```

```

data _null_;
y = 2;
run;

/* option is off - should not get an error */ 
data result;
merge a b _null_;
by x;
run;

/* turn option on - should get an error */ 
options vnferr; run;

data result2;
merge a b _null_;
by x;
run;

```

ログ4.1 VMFERR オプションおよびNOVNFMERR オプションの出力付きの SAS ログ

```

66 /* treat variable not found on _NULL_ SAS data set as an error */ 67
68 /* turn option off - should not get an error */ 69
options novnferr; run; 70 71 data a; 72      x = 1; 73      y = 2; 74
run; NOTE:The data set WORK.A has 1 observations and 2 variables.NOTE:DATA
statement used (Total process time): real time          0.01 seconds cpu
time          0.00 seconds 75 76 data b; 77      x = 2; 78      y = 3;
79 run; NOTE:The data set WORK.B has 1 observations and 2 variables.NOTE:DATA
statement used (Total process time): real time          0.00 seconds cpu
time          0.00 seconds 80 81 data _null_; 82      y = 2; 83      run;
NOTE:The data set WORK._NULL has 1 observations and 1 variables.NOTE:DATA
statement used (Total process time): real time          0.00 seconds cpu
time          0.00 seconds 84 85 /* option is off - should not get an
error           */ 86 data result; 87      merge a b _null_; 88
by x; 89 run;

```

```

WARNING:BY variable x is not on input data set WORK._null_.NOTE:There were 1
observations read from the data set WORK.A.NOTE:There were 1 observations read
from the data set WORK.B.NOTE:The data set WORK.RESULT has 2 observations and 2
variables.NOTE:DATA statement used (Total process time): real time
0.00 seconds cpu time          0.00 seconds 90 91 /* turn option on -
should get an error           */ 92      options vnferr; run; 93
94 data result2; 95      merge a b _null_; 96      by x; 97      run; ERROR:BY
variable x is not on input data set WORK._null_.NOTE:The SAS System stopped
processing this step because of errors.Warning:The data set WORK.RESULT2 may be
incomplete.When this step was stopped there were 0 observations and 2 variables.

```

例2

この例では、データセット Result は、SET ステートメントを使用して 3 つのデータセットから読み込みます。SET ステートメントの値はすべてマクロ変数です。これらのマクロ変数の 1 つ&dataset3 に値 _NULL_ が設定されています。SAS では、&dataset3; の読み込みを行うときに警告メッセージが発行され、DATA ステップはエラーを起こすことなく完了します。

```

options novnferr;

data a;
x = 1;
y = 2;
run;

```

```

data b;
  x = 2;
  y = 3;
run;

%let dataset1=a;
%let dataset2=b;
%let dataset3=_null_;

data result;
  set &dataset1 &dataset2 &dataset3;
  by x;
run;

```

ログ4.2 NULL 値の警告メッセージを示す SAS ログ

```

15   options novnferr; 16 17   data a; 18      x = 1; 19      y = 2; 20   run;
NOTE:The data set WORK.A has 1 observations and 2 variables.NOTE:DATA statement
used (Total process time): real time          0.01 seconds cpu time
0.01 seconds 21   data b; 22      x = 2; 23      y = 3; 24   run; NOTE:The data
set WORK.B has 1 observations and 2 variables.NOTE:DATA statement used (Total
process time): real time          0.00 seconds cpu time          0.00 seconds
25 26  %let dataset1=a; 27  %let dataset2=b; 28  %let dataset3=_null_; 29
30   data result; 31      set &dataset1 &dataset2 &dataset3; 32      by x; 33
run; WARNING:BY variable x is not on input data set WORK._null_.NOTE:There were
1 observations read from the data set WORK.A.NOTE:There were 1 observations read
from the data set WORK.B.

```

関連項目:

- “Syntax Check Mode” (*SAS Language Reference: Concepts*)

システムオプション:

- “BYERR システムオプション” (70 ページ)
- “DSNFERR システムオプション” (116 ページ)

WORK=システムオプション

Work ライブラリを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: 環境コントロール:ファイル

**PROC OPTIONS
GROUP=** ENVFILES

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は Work です。

注: UNIX では、サイト管理者はこのオプションを制限できます。Windows と z/OS では、サイ
ト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6
ページ) を参照してください。

参照項目: “[WORK System Option: UNIX](#)” (*SAS Companion for UNIX Environments*)

“[WORK System Option: Windows](#)” (*SAS Companion for Windows*)

“[WORK= System Option: z/OS](#)” (*SAS Companion for z/OS*)

構文

WORK=*library-specification*

構文の説明

library-specification

1 レベルの名前のすべてのデータセットが保存されるストレージ領域のライブラリ参照名または物理名を指定します。このライブラリは存在している必要があります。

動作環境 有効なライブラリの指定と構文は、動作環境に固有です。コマンドラインまたは構成ファイルでは、動作環境に固有の構文を使用します。詳細については、動作環境に関する SAS のドキュメントを参照してください。

詳細

デフォルトでは、このライブラリは SAS セッションの終了時に削除されます。ファイルが削除されないようにするには、NOWORKTERM システムオプションを指定します。

関連項目:

システムオプション:

- “[WORKTERM システムオプション](#)” (314 ページ)

WORKINIT システムオプション

SAS の起動時に Work ライブラリを初期化するかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: 環境コントロール:ファイル

PROC OPTIONS GROUP= ENVFILES

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は WORKINIT です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション \(6 ページ\)](#)”を参照してください。

参照項目: “[WORKINIT System Option: UNIX](#)” (*SAS Companion for UNIX Environments*)

構文

[WORKINIT | NOWORKINIT](#)

構文の説明

WORKINIT

SAS の起動時に既存の Work ライブラリ内の以前の SAS セッションのファイルを消去します。

NOWORKINIT

SAS の起動時に Work ライブラリからファイルを消去しません。

詳細

WORKINIT システムオプションでは、SAS の起動時に Work データライブラリを初期化し、以前の SAS セッションのすべてのファイルを消去します。WORKTERM システムオプションでは、SAS セッションの終了時に Work ファイルを消去するかどうかを制御します。

UNIX 固有

WORKINIT には、UNIX 動作環境に固有の動作および関数があります。詳細については、UNIX 動作環境に関する SAS のドキュメントを参照してください。

関連項目:

システムオプション:

- “[WORKTERM システムオプション](#)” (314 ページ)

WORKTERM システムオプション

SAS が終了するときに Work ファイルを消去するかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: 環境コントロール:ファイル

PROC OPTIONS ENVFILES
GROUP=

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は WORKTERM です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ) を参照してください。

構文

[WORKTERM | NOWORKTERM](#)

構文の説明

WORKTERM

SAS セッションの終了時に Work ファイルを消去します。

NOWORKTERM

Work ファイルを消去しません。

詳細

NOWORKTERM を使用すると、Work データセットが削除されないようにになりますが、SAS による Work ライブラリの初期化には影響しません。SAS では通常、各セッションの開始時に Work ライブラリが初期化され、既存の情報が効率的に破棄されます。

比較

起動時に既存の Work ファイルが消去されないようにするには、NOWORKINIT システムオプションを使用します。終了時に既存の Work ファイルが消去されないようにするには、NOWORKTERM システムオプションを使用します。

関連項目:

システムオプション:

- “[WORKINIT システムオプション](#)” (313 ページ)

YEARCUTOFF=システムオプション

2 桁の年を読み込むために日付入力形式および関数で使用される 100 年の期間の第 1 年を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: 入力コントロール:データ処理

PROC OPTIONS **INPUTCONTROL**
GROUP=

デフォルト: 出荷時のデフォルト値は 1926 です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

YEARCUTOFF=*nnnn* | *nnnnnn*

構文の説明

nnnn | *nnnnnn*

100 年の期間の第 1 年を指定します。

範囲 1582-19900

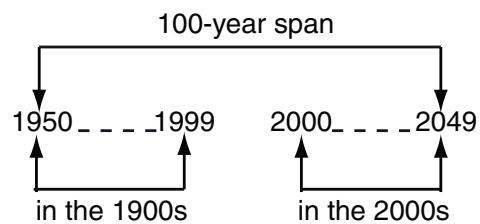
詳細

YEARCUTOFF=値は、さまざまな日付や日時の入力形式および関数で使用されるデフォルトです。

nnnn のデフォルト値(1926)が有効な場合、100 年の期間は 1926 年に始まり、2025 年で終了します。そのため、26 から 99 までの 2 桁の年の値を使用する入力形式または関数では、先頭に 19 が付くとみなされます。たとえば、値 92 は 1992 年を参照します。

YEARCUTOFF=で指定する値によっては、年の範囲が世紀をまたぐことがあります。たとえば、YEARCUTOFF=1950 を指定すると、50 から 99 まで(99 を含む)の 2 桁の値は 100 年の期間の前半を指し、これは 1900 年代になります。00 から 49 まで(49 を含む)の 2 桁の値は 100 年の期間の後半を指し、これは 2000 年代になります。次の図は、YEARCUTOFF=1950 である場合に、100 年の期間と 2 世紀の関係を示しています。

図 4.3 2 世紀の値を指定した 100 年の期間



注: YEARCUTOFF=は、既存の SAS の日付や 4 桁の年(先頭にゼロを使用する年を除く)を含む入力データから読み込まれる日付には影響しません。たとえば、yearcutoff=1990 を指定した 0076 は 2076 を示します。

関連項目:

“The Year 2000” (*SAS Language Reference: Concepts*)

4 部

SAS システムオプションを処理する SAS プロシージャ

5 章	OPTIONS プロシージャ	319
6 章	OPTLOAD プロシージャ	341
7 章	OPTSAVE プロシージャ	347

5 章

OPTIONS プロシージャ

概要: OPTIONS プロシージャ	319
構文: OPTIONS プロシージャ	320
PROC OPTIONS ステートメント	320
システムオプションリストの表示	325
オプションの情報の表示	326
システムオプショングループの情報を表示する	328
制限オプションの表示	332
保存可能オプションの表示	333
結果: OPTIONS プロシージャ	334
例: OPTIONS プロシージャ	335
例 1: 簡易形式のオプションリストを作成する	335
例 2: 単一オプションの設定を表示する	336
例 3: 拡張パス環境変数の表示	337
例 4: INSERT オプションと APPEND オプションで指定可能なオプションのリスト	338

概要: OPTIONS プロシージャ

OPTIONS プロシージャは、SAS システムオプションの現在の設定を SAS ログにリストします。

SAS システムオプションでは、SAS 出力形式による出力の制御、ファイルの処理、データセットの処理、動作環境との交互作用、単一の SAS プログラムや SAS データセットに固有ではないその他のタスクが実行されます。OPTIONS プロシージャを使用すると、オプションやオプショングループについての情報を得られます。OPTIONS プロシージャが提供する情報の一部を次に示します。

- オプションの現在の値とその設定内容
- オプションの説明
- オプションの有効な構文、有効なオプション値、および値の範囲
- システムオプションの設定条件
- サイト管理者によるオプションの制限が可能かどうか
- オプションが制限されているかどうか

- ・ システムオプショングループに属しているシステムオプション
- ・ 動作環境に固有のシステムオプション
- ・ オプション値が INSERT または APPEND システムオプションによって変更されているかどうか
- ・ OPTSAVE プロシージャまたは DMOPTSAVE コマンドにより保存できるシステムオプション

SAS システムオプションの詳細については、*SAS システムオプション: リファレンス*を参照してください。

構文: OPTIONS プロシージャ

- 参照項目:**
- “OPTIONS Procedure: UNIX” (*SAS Companion for UNIX Environments*)
 - “OPTIONS Procedure: Windows” (*SAS Companion for Windows*)
 - “OPTIONS Procedure: z/OS” (*SAS Companion for z/OS*)

PROC OPTIONS <option(s)>;

ステートメント	タスク	例
“PROC OPTIONS ステートメント”	現在のシステムオプション設定を SAS ログにリストします。	Ex. 1, Ex. 2, Ex. 3, Ex. 4

PROC OPTIONS ステートメント

SAS システムオプションの現在の設定を SAS ログにリストします。

- 例:**
- “例 1: 簡易形式のオプションリストを作成する” (335 ページ)
 - “例 2: 単一オプションの設定を表示する” (336 ページ)
 - “例 3: 拡張パス環境変数の表示” (337 ページ)
 - “例 4: INSERT オプションと APPEND オプションで指定可能なオプションのリスト” (338 ページ)

構文

PROC OPTIONS <option(s)>;

オプション引数の要約

LISTGROUPS

システムオプショングループならびに各グループの説明を表示します。

Choose the format of the listing

DEFINE

オプション、オプショングループおよびオプションの種類の概要説明を表示します。

EXPAND

文字オプションの表示時に、オプション値の環境変数を環境変数の値に置き換えます。オプションがブール値オプション(CENTER や NOCENTER など)の場合、またはオプションの値が数値の場合、EXPAND は無視されます。

HEXVALUE

システムオプション文字値を 16 進値で表示します。

LOGNUMBERFORMAT

ロケール固有の句読点を使用して数値システムオプション値を表示します。

LONG

各システムオプションを説明付きで別の行にリストします。

NOEXPAND

パスの表示時に、環境変数の値ではなく環境変数を使用してパスを表示します。これがデフォルトです。

NOLOGNUMBERFORMAT

カンマやピリオドなどの句読点を使用せずに数値システムオプション値を表示します。これがデフォルトです。

SHORT

オプションの圧縮されたリストを説明を省いて表示するよう指定します。

VALUE

オプションの値とスコープ、さらにその値が設定された方法を表示します。

Restrict the number of options displayed

GROUP=*group-name*

GROUP=(*group-name-1* ... *group-name-n***)**

group-name で指定した 1 つ以上のグループのオプションを表示します。

HOST

ホストオプションのみを表示します。

LISTINSERTAPPEND

INSERT および APPEND システムオプションで値の変更が可能なシステムオプションをリストにします。

LISTOPTSAVE

PROC OPTSAVE コマンドまたは DMOPTSAVE コマンドとともに保存できるシステムオプションを表示します。

LISTRESTRICT

サイト管理者によって制限可能なシステムオプションをリストします。

NOHOST

ポータブルオプションのみを表示します。

OPTION=*option-name*

OPTION=(*option-name-1* ... *option-name-n***)**

1 つ以上のシステムオプションについての情報を表示します。

RESTRICT

サイト管理者によって更新が制限されているシステムオプションを表示します。

オプション引数

DEFINE

オプション、オプショングループおよびオプションの種類の概要説明を表示します。SAS では、オプションを一つ設定できるか、オプションを制限できるかどうか、オプションの有効値、OPTSAVE プロジェクタがオプションを保存するかどうかについての情報が表示されます。

操作 SHORT を指定すると、このオプションは無視されます。

例 “[例 2: 単一オプションの設定を表示する](#)” (336 ページ)

EXPAND

文字オプションの表示時に、オプション値の環境変数を環境変数の値に置き換えます。オプションがブール値オプション(CENTER や NOCENTER など)の場合、またはオプションの値が数値の場合、EXPAND は無視されます。

制限事項 変数展開は、Windows および UNIX 動作環境でのみ有効です。

ヒント デフォルトでは、展開された変数と一緒に表示されるオプション値もあります。また、PROC OPTIONS ステートメントの EXPAND オプションが必須のオプションもあります。PROC OPTIONS ステートメントで DEFINE オプションを使用すると、デフォルトでオプション値によって変数が展開されるかどうか、または EXPAND オプションが必須かどうかを判断できます。PROC OPTIONS DEFINE からの出力で次の情報が示される場合は、EXPAND オプションを使用して変数値を展開する必要があります。

Expansion: Environment variables, within the option value,
are not expanded

参照項目 “[NOEXPAND](#)” (323 ページ) オプション。環境変数を表示するパスを示します。

例 “[例 3: 拡張パス環境変数の表示](#)” (337 ページ)

GROUP=*group-name*

GROUP=(*group-name-1* ... *group-name-n*)

group-name で指定した 1 つ以上のグループのオプションを表示します。

要件 2 つ以上のグループを指定する場合は、グループ名をかっこで囲み、スペースでグループ名を区切ります。

参照項目 “[システムオプショングループの情報を表示する](#)” (328 ページ)

HEXVALUE

システムオプション文字値を 16 進値で表示します。

HOST

ホストオプションのみを表示します。

参照項目 “[NOHOST](#)” (323 ページ) オプション。ポータブルオプションのみを表示します。

LISTINSERTAPPEND

INSERT および APPEND システムオプションで値の変更が可能なシステムオプションをリストにします。INSERT オプションは、システムオプション値リストの最初の値として挿入される値を指定します。APPEND オプションは、システムオプション値

リストの最終値として追加される値を指定します。どのシステムオプションで、値を値リストの最初に挿入したり最後に追加したりできるのかを表示するには、LISTINERTAPPEND を使用します。

参照項目 “[INSERT=システムオプション](#)”(163 ページ)および
目

“[APPEND=システムオプション](#)”(58 ページ)

例 “[例 4: INSERT オプションと APPEND オプションで指定可能なオプションのリスト](#)”(338 ページ)

LISTGROUPS

システムオプショングループならびに各グループの説明を表示します。

参照項目 “[システムオプショングループの情報を表示する](#)”(328 ページ)

LISTOPTSAVE

PROC OPTSAVE コマンドまたは DMOPTSAVE コマンドとともに保存できるシステムオプションを表示します。

LISTRESTRICT

サイト管理者によって制限可能なシステムオプションをリストします。

参照項目 “[RESTRICT](#)”(324 ページ)オプション。サイト管理者によって制限されているオプションをリストします。

LONG

各システムオプションを説明付きで別の行にリストします。これがデフォルトです。あるいは、説明なしの簡潔なリストを作成することもできます。

参照項目 “[SHORT](#)”(324 ページ)オプション。説明なしの簡潔なリストを作成します。

例 “[例 1: 簡易形式のオプションリストを作成する](#)”(335 ページ)

LOGNUMBERFORMAT

ロケール固有の句読点を使用して数値システムオプション値を表示します。

参照項目 “[NOLOGNUMBERFORMAT](#)”(324 ページ)オプション。カンマを使用せずに数値オプション値を表示します。

例 “[例 2: 単一オプションの設定を表示する](#)”(336 ページ)

NOEXPAND

パスの表示時に、環境変数の値ではなく環境変数を使用してパスを表示します。これがデフォルトです。

参照項目 “[EXPAND](#)”(322 ページ)オプション。環境変数の値を展開してパスを表示します。

NOHOST

ポータブルオプションのみを表示します。

別名 PORTABLE または PORT

参照項目 “[HOST](#)”(322 ページ)オプション。ホストオプションのみを表示します。

NOLOGNUMBERFORMAT

カンマやピリオドなどの句読点を使用せずに数値システムオプション値を表示します。これがデフォルトです。

参照項目 “[LOGNUMBERFORMAT](#)” (323 ページ) オプション。カンマを使用して数値システムオプション値を表示します。

OPTION=option-name**OPTION=(option-name-1 ... option-name-n)**

概要説明、および(存在する場合は)option-name で指定したオプションの値を表示します。DEFINE オプションと VALUE オプションは、オプションについての詳細情報提供します。

option-name

プロジェクトへの入力として使用するオプションを指定します。

要件 SAS システムオプションで等号(PAGESIZE=など)が使用されている場合、OPTION=に対するオプションの指定時にはその等号を含めないでください。

例 “[例 2: 単一オプションの設定を表示する](#)” (336 ページ)

RESTRICT

サイト管理者によって制限オプション構成ファイルに設定されたシステムオプションを表示します。ユーザーはこれらのオプションを変更できません。RESTRICT オプションは、制限されているオプションごとに、オプションの値、スコープおよび設定内容を表示します。

サイト管理者が一切のオプションを制限していない場合は、SAS ログに次のメッセージが表示されます。

```
Your Site Administrator has not restricted any SAS options.
```

参照項目 “[LISTRESTRICT](#)” (323 ページ) オプション。サイト管理者が制限できるオプションを掲載しています。

SHORT

オプションの圧縮されたリストを説明を省いて表示するよう指定します。

参照項目 “[LONG](#)” (323 ページ) オプション。オプションの説明があるリストを作成します。

VALUE

オプションの値とスコープ、さらにその値が設定された方法を表示します。構成ファイルを使用してこの値が設定された場合、SAS ログにはその構成ファイルの名前が表示されます。INSERT システムオプションまたは APPEND システムオプションを使用してこのオプションが設定された場合、SAS ログには挿入または追加された値が表示されます。

操作 SHORT を指定すると、このオプションは無効になります。

このオプションが TK システムオプションのグループ内にあるときは、How option value set の値が次のように表示されます

Internal

。

- 注 EMAILPW や METAPASS といったパスワードである SAS オプションにより、この値は実際のパスワードではなく xxxxxxxx に戻ります。
- 例 “[例 2: 単一オプションの設定を表示する”\(336 ページ\)](#)

システムオプションリストの表示

PROC OPTIONS の実行によって生じるログは、すべての動作環境で利用可能なオプションに対する、および単一の動作環境に特化したオプションに対するシステムオプションを表示できます。すべての動作環境で利用可能なオプションはポータブルオプションといいます。単一の動作環境に特化したオプションはホストオプションといいます。

次の例では、ポータブルオプションの設定を表示しているログの一部を示します。

```
proc options;
run;
```

ログ 5.1 SAS システムオプションのリストの一部を示す SAS ログ

Portable Options:

ANIMATION=STOP Specifies whether to start or stop animation.

ANIMDURATION=MIN Specifies the number of seconds that each animation frame displays.

ANIMLOOP=YES Specifies the number of iterations that animated images repeat.

ANIMOVERLAY Specifies that animation frames are overlaid in order to view all frames.

APPEND= Specifies an option=value pair to insert the value at the end of the existing option value.

APPLETLOC=*site-specific-path* Specifies the location of Java applets, which is typically a URL.

ARMAGENT= Specifies an ARM agent (which is an executable module or keyword, such as LOG4SAS) that contains a specific implementation of the ARM API.

ARMLOC=ARMLOG.LOG Specifies the location of the ARM log.

ARMSUBSYS=(ARM_NONE) Specifies the SAS ARM subsystems to enable or disable.

AUTOCORRECT Automatically corrects misspelled procedure names and keywords, and global statement names.

proc options;をサブミットすると、このログにはポータブルオプションとホストオプションの両方が表示されます。

ホストオプションのみを閲覧するには、このバージョンの OPTIONS プロシージャを使用してください。

```
proc options host;
run;
```

ログ5.2 SAS ログに表示されるホストオプションリストの一部

```
Host Options:  
  
ACCESSIBILITY=STANDARD  
Specifies whether accessibility features are enabled in the Customize Tool  
dialog box and in some Properties dialog boxes.  
ALIGNSASIOFILES Aligns SAS files on a page boundary for improved performance.  
ALTLOG= Specifies the location for a copy of the SAS log when SAS is running in batch  
mode.  
ALTPRINT= Specifies the location for a copy of the SAS procedure output when SAS is  
running in batch mode.  
AUTHPROVIDERDOMAIN=  
Specifies the authentication provider that is associated with a domain.  
AUTHSERVER= Specifies the domain server that finds and authenticates secure server logins.  
AWSCONTROL=(SYSTEMMMENU MINMAX TITLE)  
Specifies whether the main SAS window includes a title bar, a system control  
menu, and minimize and maximize buttons.  
AWSDEF=(0 0 79 80)  
Specifies the location and dimensions of the main SAS window when SAS  
initializes.  
AWSMENU Displays the menu bar in the main SAS window.
```

オプションの情報の表示

1つ以上の特定オプションの設定を表示するには、PROC OPTIONS ステートメントで OPTION=オプションと DEFINE オプションを使用します。次の例は、PROC OPTIONS が単一 SAS システムオプションに対して作成するログを示しています。

```
proc options option=errorcheck define;  
run;
```

ログ5.3 単一SASシステムオプションの設定

```

5 proc options option=errorcheck define;
6 run;

SAS (r) Proprietary Software Release xxx TS1M0

ERRORCHECK=NORMAL
Option Definition Information for SAS Option ERRORCHECK
Group= ERRORHANDLING
Group Description: Error messages and error conditions settings
Description: Specifies whether SAS enters syntax-check mode when errors are found in the
LIBNAME, FILENAME, %INCLUDE, and LOCK statements.
Type: The option value is of type CHARACTER
Maximum Number of Characters: 10
Casing: The option value is retained uppercased
Quotes: If present during "set", start and end quotes are removed
Parentheses: The option value does not require enclosure within parentheses. If
present, the parentheses are retained.
Expansion: Environment variables, within the option value, are not expanded
Number of valid values: 2
Valid value: NORMAL
Valid value: STRICT
When Can Set: Startup or anytime during the SAS Session
Restricted: Your Site Administrator can restrict modification of this option
Optsave: PROC Optsave or command Dmoptsave will save this option

```

2つ以上のオプションの設定を表示するには、オプションをかっこで囲み、スペースでオプションを区切ります。

```

proc options option=(pdfsecurity pdfpassword) define;
run;

```

ログ5.4 2つのSASシステムオプションの設定

```

7 proc options option=(pdfsecurity pdfpassword) define;
8 run;

SAS (r) Proprietary Software Release 9.4 TS1M0

PDFSECURITY=None
Option Definition Information for SAS Option PDFSECURITY
Group= PDF
Group Description: PDF settings
Group= SECURITY
Group Description: Security settings
Description: Specifies the level of encryption to use for PDF documents.
Type: The option value is of type CHARACTER
Maximum Number of Characters: 4
Casing: The option value is retained uppercased
Quotes: If present during "set", start and end quotes are removed
Parentheses: The option value does not require enclosure within parentheses. If
present, the parentheses are retained.
Expansion: Environment variables, within the option value, are not expanded
Number of valid values: 3
Valid value: HIGH
Valid value: LOW
Valid value: NONE
When Can Set: Startup or anytime during the SAS Session
Restricted: Your Site Administrator can restrict modification of this option
Optsave: PROC Optsave or command Dmoptsave will save this option
PDFPASSWORD=xxxxxxxx

```

```

Option Definition Information for SAS Option PDFPASSWORD
Group= PDF
Group Description: PDF settings
Group= SECURITY
Group Description: Security settings
Description: Specifies the password to use to open a PDF document and the password used by a
PDF document owner.
Type: The option value is of type CHARACTER
Maximum Number of Characters: 2048
Casing: The option value is retained with original casing
Quotes: If present during "set", start and end quotes are removed
Parentheses: The option value must be enclosed within parentheses. The parentheses are
retained.
Password Option Value: Can not Print or Display
Expansion: Environment variables, within the option value, are not expanded
When Can Set: Startup or anytime during the SAS Session
Restricted: Your Site Administrator cannot restrict modification of this option
Optsave: PROC Optsave or command Dmoptsave will not save this option

```

システムオプショングループの情報を表示する

各 SAS システムオプションは 1 つ以上のグループに属しています。このグループ分けは、エラー処理や並べ替えなどの機能に基づいています。システムオプショングループ、およびそのグループの 1 つ以上に属するシステムオプションのリストが表示されます。

システムオプショングループのリストを表示するには、LISTGROUPS オプションを使用します。

```

proc options listgroups;
run;

```

ログ5.5 SAS システムオプショングループのリスト

```
26 proc options listgroups;
27 run;

SAS (r) Proprietary Software Release xxx TS1B0

Option Groups
GROUP=ADABAS ADABAS

GROUP=ANIMATION Animation

GROUP=CODEGEN Code generation

GROUP=COMMUNICATIONS Networking and encryption

GROUP=DATACOM Datacom

GROUP=DATAQUALITY Data Quality

GROUP=DB2 DB2

GROUP=EMAIL E-mail

GROUP=ENVDISPLAY Display
```

```

GROUP=ENVFILES Files

GROUP=ERRORHANDLING Error handling

GROUP=EXECMODES Initialization and operation

GROUP=EXTFILES External files

GROUP=GRAPHICS Driver settings

GROUP=HELP Help

GROUP=IDMS IDMS

GROUP=IMS IMS

GROUP=INPUTCONTROL Data Processing

GROUP=INSTALL Installation

GROUP=ISPF ISPF

GROUP=LANGUAGECONTROL Language control

GROUP=LISTCONTROL Procedure output

GROUP=LOGCONTROL SAS log

GROUP=LOG_LISTCONTROL SAS log and procedure output

GROUP=MACRO SAS macro

GROUP=MEMORY Memory

GROUP=META Metadata

GROUP=ODSPRINT ODS Printing

GROUP=PDF PDF

GROUP=PERFORMANCE Performance

GROUP=REXX REXX

GROUP=SASFILES SAS Files

GROUP=SECURITY Security

GROUP=SMF SMF

GROUP=SORT Procedure options

GROUP=SQL SQL

GROUP=SVG SVG

GROUP=TK TK

```

特定のグループに属するシステムオプションを表示するには、GROUP=オプションを使用します。1つ以上のグループを指定できます。

```

proc options group=(svg graphics);
run;

```

ログ5.6 GROUP=オプションを使用したサンプル出力

```

5 proc options group=(svg graphics);
6 run;

SAS (r) Proprietary Software Release xxx TS1B0

Group=SVG
ANIMATION=STOP Specifies whether to start or stop animation.
ANIMDURATION=MIN Specifies the number of seconds that each animation frame displays.
ANIMLOOP=YES Specifies the number of iterations that animated images repeat.
ANIMOVERLAY Specifies that animation frames are overlaid in order to view all frames.
SVGAUTOPLAY Starts animation when the page is loaded in the browser.
NOSVGCONTROLBUTTONS
Does not display the paging control buttons and an index in a multipage SVG
document.
SVGFADEIN=0 Specifies the number of seconds for the fade-in effect for a graph.
SVGFADEMODE=OVERLAP
Specifies whether to use sequential frames or to overlap frames for the
fade-in effect of a graph.
SVGFADEOUT=0 Specifies the number of seconds for a graph to fade out of view.
SVGHEIGHT= Specifies the height of the viewport. Specifies the value of the height
attribute of the outermost SVG element.
NOSVGMAGNIFYBUTTON
Disables the SVG magnifier tool.
SVGPRESERVEASPECTRATIO=
Specifies whether to force uniform scaling of SVG output. Specifies the
preserveAspectRatio attribute on the outermost SVG element.
SVGTITLE= Specifies the text in the title bar of the SVG output. Specifies the value of
the TITLE element in the SVG file.
SVGVIEWBOX= Specifies the coordinates, width, and height that are used to set the viewBox
attribute on the outermost SVG element.
SVGWIDTH= Specifies the width of the viewport. Specifies the value of the width
attribute of the outermost SVG element.
SVGX= Specifies the x-axis coordinate of one corner of the rectangular region for
an embedded SVG element. Specifies the x attribute in the outermost SVG
element.
SVGY= Specifies the y-axis coordinate of one corner of the rectangular region for
an embedded SVG element. Specifies the y attribute in the outermost SVG
element.

Group=GRAPHICS
DEVICE= Specifies the device driver to which SAS/GPGRAPH sends procedure output.
GSTYLE Uses ODS styles to generate graphs that are stored as GRSEG catalog entries.
GWINDOW Displays SAS/GPGRAPH output in the GRAPH window.
MAPS="!sasroot\path-to-maps"
Specifies the location of SAS/GPGRAPH map data sets.
MAPSGFK=( "!sasroot\path-to-maps" )
Specifies the location of GfK maps.
MAPSSAS=( "!sasroot\path-to-maps" )
Specifies the location of SAS map data sets.
FONTALIAS= Assigns a Windows font to one of the SAS fonts.

```

次のグループ名を GROUP=オプションの値として使用すると、グループ内のシステム
オプションを表示できます。

ANIMATION	GRAPHICS	ODSPRINT
CODEGEN	HELP	PDF
COMMUNICATIONS	INPUTCONTROL	PERFORMANCE
DATAQUALITY	INSTALL	SASFILES
EMAIL	LANGUAGECONTROL	SECURITY

ENVDISPLAY	LOGCONTROL	SORK
ENVFILES	LOG_LISTCONTROL	SQL
ERRORHANDLING	MACRO	SVG
EXECMODES	MEMORY	TK
EXTFILES	META	

PROC OPTIONS を含む GROUP=オプションを使用する際に、次のグループを使用すれば、動作環境に特化しており利用可能となる可能性のある値を表示できます。

ADABAS	IDMS	REXX
CODEGEN	IMS	SMF
DATACOM	ISPF	
DB2	ORACLE	

動作環境の情報

これらのホスト固有のオプションの詳細については、動作環境に関する SAS ドキュメントを参照してください。

制限オプションの表示

サイト管理者は一部のシステムオプションを制限して、サイトに対して設定されたオプションに SAS セッションを適合させることができます。制限オプションを変更できるのはサイト管理者だけです。OPTIONS プロシージャでは、制限オプションについての情報を表示するオプションが 2 つ提供されます。RESTRICT オプションは、サイト管理者が制限したシステムオプションをリストします。LISTRESTRICT オプションは、サイト管理者による制限が可能なオプションをリストします。制限できないオプションのリストについては、[表 1.1 \(7 ページ\)](#)を参照してください。

次の SAS ログには、RESTRICT オプション指定時の出力、および LISTRESTRICT オプション指定時の出力の一部が表示されています。

ログ 5.7 サイト管理者によって制限されているオプションのリスト

```

1
proc options restrict;
2 run;
SAS (r) Proprietary Software Release xxx TS1B0

Option Value Information For SAS Option CMPOPT
Option Value: (NOEXTRAMATH NOMISSCHECK NOPRECISE NOGUARDCHECK
NOGENSYMNAMES NOFUNCDIFFERENCING)
Option Scope: SAS Session
How option value set: Site Administrator Restricted

```

ログ 5.8 制限可能なオプションをリストするログの一部

```
13 proc options listrestrict;
14 run;

SAS (r) Proprietary Software Release xxx TS1M0

Your Site Administrator can restrict the ability to modify the following Portable Options:

ANIMATION Specifies whether to start or stop animation.
ANIMDURATION Specifies the number of seconds that each animation frame displays.
ANIMLOOP Specifies the number of iterations that animated images repeat.
ANIMOVERLAY Specifies that animation frames are overlaid in order to view all frames.
APPLETLOC Specifies the location of Java applets, which is typically a URL.
ARMAGENT Specifies an ARM agent (which is an executable module or keyword, such
as LOG4SAS) that contains a specific implementation of the ARM API.
ARMLOC Specifies the location of the ARM log.
ARMSUBSYS Specifies the SAS ARM subsystems to enable or disable.
AUTOCORRECT Automatically corrects misspelled procedure names and keywords, and
global statement names.
AUTOSAVELOC Specifies the location of the Program Editor auto-saved file.
```

保存可能オプションの表示

PROC OPTSAVE コマンドまたは DMOPTSAVE コマンドを使用すれば、多くのシステムオプションを保存できます。これらのオプションは、後で、PROC OPTSAVE コマンドまたは DMOPTSAVE コマンドを使用して復元できます。PROC OPTIONS の LISTOPTSAVE オプションを使用すれば、保存して後で復元できるシステムオプションを表示できます。

次の SAS log は、PROC OPTSAVE コマンドまたは DMOPTSAVE コマンドを使用して保存できるオプションのリストの一部を示しています。

ログ 5.9 保存可能なシステムオプションのリストの一部

```

11 proc options listoptsave;
run;

SAS (r) Proprietary Software Release xxx TS1B0

Core options that can be saved with OPTSAVE

ANIMATION Specifies whether to start or stop animation.
ANIMDURATION Specifies the number of seconds that each animation frame displays.
ANIMLOOP Specifies the number of iterations that animated images repeat.
ANIMOVERLAY Specifies that animation frames are overlaid in order to view all frames.
APPLETLOC Specifies the location of Java applets, which is typically a URL.
AUTOCORRECT Automatically corrects misspelled procedure names and keywords, and
global statement names.
AUTOSAVELOC Specifies the location of the Program Editor auto-saved file.
AUTOSIGNON Enables a SAS/CONNECT client to automatically submit the SIGNON command
remotely with the RSUBMIT command.
BINDING Specifies the binding edge type of duplexed printed output.
BOMFILE Writes the byte order mark (BOM) prefix when a Unicode-encoded file is
written to an external file.
BOTTOMMARGIN Specifies the size of the margin at the bottom of a printed page.
BUFNO Specifies the number of buffers for processing SAS data sets.
BUFSIZE Specifies the size of a buffer page for output SAS data sets.

```

結果: OPTIONS プロシージャ

SAS では、SAS ログにオプションリストが書き込まれます。出力形式 *option* | *NOoption* の SAS システムオプションは、現在の設定に応じて、*option* か *NOoption* のどちらかとしてリストされます。これらは常に肯定形式で並べ替えられます。たとえば、NOCAPS は C にリストされます。

動作環境の情報

PROC OPTIONS は、SAS システムの実行環境に固有の詳細情報を作成します。その詳細と、ホスト固有オプションの説明については、動作環境に関する SAS ドキュメントを参照してください。

関連項目:

- *UNIX 版 SAS*
- *Windows 版 SAS*
- *z/OS 版 SAS*

例: OPTIONS プロシージャ

例 1: 簡易形式のオプションリストを作成する

要素: PROC OPTIONS ステートメントオプション
SHORT

詳細

この例では、SAS システムオプション設定の簡易形式のリストの生成方法を示します。この簡易形式を、“[システムオプションリストの表示](#)”(325 ページ)に示された長い形式と比較してください。

プログラム

```
proc options short;
run;
```

プログラムの説明

すべてのオプションとその設定をリストします。SHORT は、SAS システムオプションとその設定を説明なしでリストします。

```
proc options short;
run;
```

ログ

ログ 5.10 SHORT オプションのリストの一部

```
6 proc options short;
7 run;
SAS (r) Proprietary Software Release xxx TS1B0

Portable Options:

ANIMATION=STOP ANIMDURATION=MIN ANIMLOOP=YES ANIMOVERLAY APPEND=
APPLETLOC=your-directory ARMAGENT= ARMLOC=ARMLOG.LOG
ARMSUBSYS=(ARM_NONE) AUTOCORRECT AUTOEXEC= AUTOSAVELOC= NOAUTOSIGNON BINDING=DEFAULT BOMFILE
BOTTOMMARGIN=0.000 IN BUFNO=1 BUFSIZE=0 BYERR BYLINE BYSORTED NOCAPS NOCARDIMAGE CATCACHE=0
CBUFNO=0 CENTER CGOPTIMIZE=3 NOCHARCODE NOCHKPTCLEAN CLEANUP NOCMDMAC CMPLIB= CMPMODEL=BOTH
CMPOPT=(NOEXTRAMATH NOMISSCHECK NOPRECISE NOGUARDCHECK NOGENSYNAMES NOFUNCDIFFERENCING)
NOCOLLATE COLOPHON= COLORPRINTING COMAMID=TCP COMPRESS=NO NOCONNECTEVENTS CONNECTMETA CONNECTION
CONNECTOUTPUT=BUFFERED CONNECTPERSIST CONNECTREMOTE= CONNECTSTATUS CONNECTWAIT COPIES=1
CPUCOUNT=2 CPUID CSTGLOBALLIB= CSTSAMPLELIB= DATAPAGESIZE=CURRENT DATASTMTCHK=COREKEYWORDS DATE
DATESTYLE=MDY NDBFMTIGNORE NDBDIRECTEXEC DBSLICEPARM=(THREADED_APPS, 2) DBSRVTP=NONE
DCSHOST=LOCALHOST DCSPORT=7111 DECIMALCONV=COMPATIBLE DEFLATION=6 NODETAILS DEVICE=
DFLANG=ENGLISH DKRICOND=ERROR DKROCOND=WARN NODLCREATEDIR DLMGACTION=REPAIR NODMR DMS DMSEXP
DMSLOGSIZE=99999 DMSOUTSIZE=2147483647 DMSPGMLINESIZE=136 NODMSSYNCHK DQLOCALE= DQOPTIONS=
```

例 2: 単一オプションの設定を表示する

要素: PROC OPTIONS ステートメントオプション
OPTION=
DEFINE
LOGNUMBERFORMAT
VALUE

詳細

この例では、単一 SAS システムオプションの設定の表示方法を示します。ログには、SAS システムオプション MEMBLKSZ の現在の設定が表示されています。DEFINE オプションと VALUE オプションは、詳細情報を表示します。LOGNUMBERFORMAT は、カンマを使用して値を表示します。

プログラム

```
proc options option=memblksz define value lognumberformat;  
run;
```

プログラムの説明

MEMBLKSZ SAS システムオプションを指定します。 OPTION=MEMBLKSZ は、オプション値情報を表示します。DEFINE と VALUE は、詳細情報を表示します。
LOGNUMBERFORMAT は、カンマを使用した出力形式を値に適用するように指定します。

```
proc options option=memblksz define value lognumberformat;  
run;
```

ログ

ログ5.11 MEMBLKSZ オプションの指定によるログ出力

```

13 proc options option=memblksz define value lognumberformat;
14 run;

SAS (r) Proprietary Software Release xxx

Option Value Information For SAS Option MEMBLKSZ
Value: 16,777,216
Scope: Default
How option value set: Shipped Default

Option Definition Information for SAS Option MEMBLKSZ
Group= MEMORY
Group Description: Memory settings
Description: Specifies the memory block size for Windows memory-based libraries.
Type: The option value is of type INTMAX
Range of Values: The minimum is 0 and the maximum is 9223372036854775807
Valid Syntax(any casing): MIN|MAX|n|nK|nM|nG|nT|hexadecimal
Numeric Format: Usage of LOGNUMBERFORMAT impacts the value format
When Can Set: Session startup (command line or config) only
Restricted: Your Site Administrator can restrict modification of this option
Optsave: PROC Optsave or command Dmoptsave will not save this option

```

例3: 拡張パス環境変数の表示

要素: PROC OPTIONS ステートメントオプション
 OPTION=
 EXPAND
 NOEXPAND
 HOST

詳細

この例では、パスを表示する際の環境変数の値を示します。

プログラム

```

proc options option=msg expand;
run;
proc options option=msg noexpand;
run;

```

プログラムの説明

環境変数の値を表示します。EXPAND オプションでは、環境変数の代わりに環境変数の値が表示されます。NOEXPAND オプションでは、環境変数が表示されます。この例では、環境変数は!sasroot です。

```
proc options option=msg expand;
```

```

run;
proc options option=msg noexpand;
run;

```

ログ

ログ5.12 OPTIONS プロシージャによる展開パス名と非展開パス名の表示

```

6 proc options option=msg expand;
7 run;
SAS (r) Proprietary Software Release xxx TS1B0

MSG=( 'C:\Program Files\SASHome\SASFoundation\9.4\core\sasmsg' )
The path to the sasmsg directory
NOTE: PROCEDURE OPTIONS used (Total process time):
real time 0.01 seconds
cpu time 0.00 seconds

8 proc options option=msg noexpand;
9 run;
SAS (r) Proprietary Software Release 9.4 TS1B0

MSG=( '!sasroot\core\sasmsg' )
The path to the sasmsg directory

```

例 4: INSERT オプションと APPEND オプションで指定可能なオプションのリスト

要素: PROC OPTIONS ステートメントオプション
LISTINSERTAPPEND

詳細

この例では、INSERT および APPEND システムオプションで指定可能なオプションの表示方法を示します。

プログラム

```

proc options listinsertappend;
run;

```

プログラムの説明

INSERT オプションと APPEND オプションで指定可能なオプションをすべてリストします。
LISTINSERTAPPEND オプションは、これらのオプションのリストと説明を提供します。

```

proc options listinsertappend;
run;

```

ログ

ログ5.13 INSERT オプションとAPPEND オプションで指定可能なオプションの表示

```
9 proc options listinsertappend;
10 run;

SAS (r) Proprietary Software Release xxx TS1B0

Core options that can utilize INSERT and APPEND

AUTOEXEC Specifies the location of the SAS AUTOEXEC files.
CMPLIB Specifies one or more SAS data sets that contain compiler subroutines to
include during compilation.
FMTSEARCH Specifies the order in which format catalogs are searched.
MAPS Specifies the location of SAS/GRAFH map data sets.
SASAUTOS Specifies the location of one or more autocall libraries.
SASHELP Specifies the location of the Sashelp library.
SASSCRIPT Specifies one or more locations of SAS/CONNECT server sign-on script
files.

Host options that can utilize INSERT and APPEND

HELPLOC Specifies the location of the text and index files for the facility that
is used to view the online SAS Help and Documentation.
MSG Specifies the path to the library that contains SAS error messages.
SET Defines a SAS environment variable.
```


6 章

OPTLOAD プロシージャ

概要: OPTLOAD プロシージャ	341
構文: OPTLOAD プロシージャ	341
PROC OPTLOAD ステートメント	342
例: 保存済みシステムオプションのデータセットのロード	343

概要: OPTLOAD プロシージャ

OPTLOAD プロシージャは、SAS レジストリや SAS データセットに保存されている SAS システムオプション設定を読み込み、有効化します。

SAS データセットまたはレジストリキーから SAS システムオプション設定をロードするには、次のどちらかの方法を使用します。

- SAS ウィンドウ環境のコマンド行の DMOPTLOAD コマンド。たとえば、このコマンドにより、レジストリ DMOPTLOAD = “core\options”からシステムオプションがロードされます。
- PROC OPTLOAD ステートメント。

オプションがサイト管理者によって制限されており、なおかつ PROC OPTLOAD によって設定されるオプション値がサイト管理者の設定したオプション値と異なる場合、ログに警告メッセージが出力されます。

構文: OPTLOAD プロシージャ

PROC OPTLOAD <options>;

ステートメント	タスク	例
“PROC OPTLOAD ステ ートメント”	SAS レジストリや SAS データセットに保存されている SAS システムオプション設定を使用します。	Ex. 1

PROC OPTLOAD ステートメント

SAS レジストリや SAS データセットに保存されている SAS システムオプションの保存設定をロードします。

構文

PROC OPTLOAD <options>;

オプション引数の要約

DATA=libref.dataset

既存のデータセットから SAS システムオプション設定をロードします。

KEY="SAS registry key"

既存のレジストリキーから SAS システムオプション設定をロードします。

オプション引数

DATA=libref.dataset

SAS システムオプション設定のロード元のライブラリとデータセットの名前を指定します。SAS 変数 OPTNAME には SAS システムオプション名の文字値が含まれ、SAS 変数 OPTVALUE には SAS システムオプション設定の文字値が含まれます。

デフォルト DATA=オプションと KEY=オプションを省略すると、プロシージャはデフォルトの SAS ライブラリとデータセットを使用します。デフォルトライブラリは、現在のユーザープロファイルが存在する場所です。ライブラリを指定しなければ、デフォルトライブラリは SASUSER です。SASUSER が別のアクティブな SAS セッションで使用されている場合は、一時 WORK ライブラリが、データセットのロード元のデフォルトの場所になります。デフォルトのデータセット名は MYOPTS です。

要件 SAS ライブラリとデータセットが存在する必要があります。

KEY="SAS registry key"

保存された SAS システムオプション設定の SAS レジストリの場所を指定します。レジストリは SASUSER で保持されます。SASUSER が使用できない場合は、一時 WORK ライブラリが使用されます。たとえば、KEY="OPTIONS"により、OPTIONS レジストリキーからシステムオプションがロードされます。

要件 "SAS registry key" は、既存の SAS レジストリキーにする必要があります。

"SAS registry key" 名は引用符で囲んでください。複数のキー名を並べる場合は、バックスラッシュ(\)で名前を区切ります。たとえば、KEY="CORE\OPTIONS"により、CORE\OPTIONS レジストリキーからシステムオプションがロードされます。

例: 保存済みシステムオプションのデータセットのロード

要素: PROC OPTLOAD オプション
DATA=

詳細

この例では、OPTSAVE プロシージャを使用して現在のシステムオプション設定を保存し、YEARCUTOFF システムオプションを変更して、元のシステムオプションセットをロードします。

プログラム

```
libname mysas "c:\mysas";
proc options option=yearcutoff;
run;
proc optsave out=mysas.options;
run;
options yearcutoff=2000;
proc options option=yearcutoff;
run;
proc optload data=mysas.options;
run;

proc options option=yearcutoff;
run;
```

プログラムの説明

YEARCUTOFF オプションの表示を可能にするには、これらのステートメントとプロシージャを SAS プログラムとして実行するのではなく 1 つずつサブミットします。

ライブラリ参照名を割り当てます。

```
libname mysas "c:\mysas";
```

YEARCUTOFF=システムオプションの値を表示します。

```
proc options option=yearcutoff;
run;
```

現在のシステムオプション設定を mysas.options に保存します。

```
proc optsave out=mysas.options;
run;
```

OPTIONS ステートメントを使用して、YEARCUTOFF=システムオプションを値 2000 に設定します。

```
options yearcutoff=2000;
```

YEARCUTOFF=システムオプションの値を表示します。

```
proc options option=yearcutoff;  
run;
```

保存したシステムオプション設定をロードします。

```
proc optload data=mysas.options;  
run;
```

YEARCUTOFF=システムオプションの値を表示します。保存したシステムオプション設定をロードすると、YEARCUTOFF=オプションの値が元の値に戻ります。

```
proc options option=yearcutoff;  
run;
```

ログ

ログ6.1 PROC OPTLOAD によりオプションがロードされた後、SAS ログに YEARCUTOFF= 値を表示されます。

```

1 libname mysas "c:\mysas";
NOTE: Libref MYSAS was successfully assigned as follows:
      Engine: V9
      Physical Name: c:\mysas

2 proc options option=yearcutoff;
3 run;

SAS (r) Proprietary Software Release xxx TS1B0

YEARCUTOFF=1926 Specifies the first year of a 100-year span that is used by date
informats
and functions to read a two-digit year.

NOTE: PROCEDURE OPTIONS used (Total process time):
      real time 0.00 seconds
      cpu time 0.00 seconds

4 proc optsave out=mysas.options;
5 run;

NOTE: The data set MYSAS.OPTIONS has 259 observations and 2 variables.
NOTE: PROCEDURE OPTSAVE used (Total process time):
      real time 0.03 seconds
      cpu time 0.03 seconds

6 options yearcutoff=2000;

7 proc options option=yearcutoff;
8 run;

SAS (r) Proprietary Software Release xxx TS1B0

YEARCUTOFF=2000 Specifies the first year of a 100-year span that is used by date
informats
and functions to read a two-digit year.

NOTE: PROCEDURE OPTIONS used (Total process time):
      real time 0.00 seconds
      cpu time 0.00 seconds

9 proc optload data=mysas.options;
10 run;

NOTE: PROCEDURE OPTLOAD used (Total process time):
      real time 0.06 seconds
      cpu time 0.01 seconds

```

```
11 proc options option=yearcutoff;
12 run;

SAS (r) Proprietary Software Release xxx TS1B0

YEARCUTOFF=1926 Specifies the first year of a 100-year span that is used by date
informats
and functions to read a two-digit year.

NOTE: PROCEDURE OPTIONS used (Total process time):
      real time 0.00 seconds
      cpu time 0.00 seconds
```

7 章

OPTSAVE プロシージャ

概要: OPTSAVE プロシージャ	347
構文: OPTSAVE プロシージャ	347
PROC OPTSAVE ステートメント	348
單一オプションが保存可能かを指定する	349
保存可能なオプションのリストの作成	349
例: データセットのシステムオプションの保存	350

概要: OPTSAVE プロシージャ

PROC OPTSAVE は、SAS レジストリや SAS データセットに現在の SAS システムオプション設定を保存します。

SAS システムオプションは、SAS セッションをまたいで保存することはできません。 SAS データセットやレジストリキーに SAS システムオプションの設定を保存するには、次のどちらかの方法を使用します。

- SAS ウィンドウ環境のコマンド行の DMOPTSAVE コマンド。コマンドは、 DMOPTSAVE <save-location> のように使用します。
- PROC OPTSAVE ステートメント。

構文: OPTSAVE プロシージャ

PROC OPTSAVE <options>;

ステートメント	タスク	例
“PROC OPTSAVE ステー トメント”	現在の SAS システムオプション設定を SAS レジストリ や SAS データセットに保存します。	Ex. 1

PROC OPTSAVE ステートメント

現在の SAS システムオプション設定を SAS レジストリや SAS データセットに保存します。

構文

PROC OPTSAVE <options>;

オプション引数の要約

KEY="SAS registry key"

SAS システムオプション設定をレジストリキーに保存します。

OUT=libref.dataset

SAS システムオプション設定を SAS データセットに保存します。

オプション引数

KEY="SAS registry key"

保存された SAS システムオプション設定の SAS レジストリの場所を指定します。レジストリは SASUSER で保持されます。SASUSER が使用できない場合は、一時 WORK ライブラリが使用されます。たとえば、KEY="OPTIONS"により、システムオプションが OPTIONS レジストリキーに保存されます。

制限 複数行にわたる“SAS registry key”名は使用できません。
事項

要件 複数のキー名を並べる場合は、バックスラッシュ(\)で名前を区切れます。個々のキー名には、バックスラッシュ以外の任意の文字を含められます。

キー名の長さは 255 文字(バックスラッシュを含む)を超えないようにしてください。

“SAS registry key”名は引用符で囲んでください。

ヒント サブキーを指定するには、ルートキーで始まる複数のキー名を入力します。

注意 キーがすでに存在する場合は、上書きされます。指定したキーが現在の SAS レジストリに存在していない場合は、オプション設定が SAS レジストリに保存されるときに、自動的にキーが作成されます。

OUT=libref.dataset

SAS システムオプション設定の保存先のライブラリとデータセットの名前を指定します。SAS 変数 OPTNAME には、SAS システムオプション名の文字値が含まれます。SAS 変数 OPTVALUE には、SAS システムオプション設定の文字値が含まれます。

デフ OUT=オプションと KEY=オプションを省略すると、プロシージャはデフォルトの
オル SAS ライブラリとデータセットを使用します。デフォルト SAS ライブラリは、現
ト 在のユーザー・プロファイルが存在する場所です。SAS ライブラリを指定しな
ければ、デフォルトライブラリは SASUSER です。SASUSER が別のアクティ
ブな SAS セッションで使用されている場合は、一時 WORK ライブラリが、デ

ータセットを保存するデフォルトの場所になります。デフォルトのデータセット名は MYOPTS です。

注意 データセットがすでに存在する場合は、上書きされます。

單一オプションが保存可能かを指定する

オプションが保存可能かどうかを指定するには、OPTIONS プロシージャで DEFINE を指定します。ログ出力では、**Optsave:**で始まる行に、オプションが保存可能かどうかが示されます。

```
proc options option=pageno define;
run;
```

ログ7.1 オプションプロシージャDEFINE オプションの出力を表示している SAS ログ

```
8 proc options option=pageno define;
9 run;

SAS (r) Proprietary Software Release 9.4 TS1M0

PAGENO=1
Option Definition Information for SAS Option PAGENO
Group= LISTCONTROL
Group Description: Procedure output and display settings
Description: Resets the SAS output page number.
Type: The option value is of type LONG
Range of Values: The minimum is 1 and the maximum is 2147483647
Valid Syntax(any casing): MIN|MAX|n|nK|nM|nG|nT|hexadecimal
Numeric Format: Usage of LOGNUMBERFORMAT impacts the value format
When Can Set: Startup or anytime during the SAS Session
Restricted: Your Site Administrator can restrict modification of this option
Optsave: PROC Optsave or command Dmoptsave will save this option
```

保存可能なオプションのリストの作成

システムオプションには、保存できないものもあります。保存可能なオプションのリストを作成するには、SAS コードをサブミットします。

```
proc options listoptsav;
run;
```

保存可能なオプションのリストの一部をここに示します。

ログ7.2 保存可能なオプションのリストの一部

```

51 proc options listoptsav;
52 run;

SAS (r) Proprietary Software Release 9.4 TS1M0

Core options that can be saved with OPTSAVE

ANIMATION Specifies whether to start or stop animation.
ANIMDURATION Specifies the number of seconds that each animation frame displays.
ANIMLOOP Specifies the number of iterations that animated images repeat.
ANIMOVERLAY Specifies that animation frames are overlaid in order to view all
frames.
APPLETLOC Specifies the location of Java applets, which is typically a URL.
AUTOCORRECT Automatically corrects misspelled procedure names and keywords, and
global statement names.
AUTOSAVELOC Specifies the location of the Program Editor auto-saved file.
AUTOSIGNON Enables a SAS/CONNECT client to automatically submit the SIGNON
command
remotely with the RSUBMIT command.
BINDING Specifies the binding edge type of duplexed printed output.
BOMFILE Writes the byte order mark (BOM) prefix when a Unicode-encoded file is
written to an external file.
BOTTOMMARGIN Specifies the size of the margin at the bottom of a printed page.
BUFNO Specifies the number of buffers for processing SAS data sets.
BUFSIZE Specifies the size of a buffer page for output SAS data sets.
BYERR SAS issues an error message and stops processing if the SORT procedure
attempts to sort a _NULL_ data set.
BYLINE Prints the BY line above each BY group.
BYSORTED Requires observations in one or more data sets to be sorted in
alphabetic or numeric order.
CAPS Converts certain types of input, and all data lines, into uppercase
characters.
CARDIMAGE Processes SAS source code and data lines as 80-byte records.
CBUFNO Specifies the number of extra page buffers to allocate for each open SAS
catalog.
CENTER Center SAS procedure output.

```

例: データセットのシステムオプションの保存

要素: PROC OPTSAVE オプション:
OUT=

詳細

この例では、OPTSAVE プロシージャを使用して現在のシステムオプション設定を保存します。

プログラム

```

libname mysas "c:\mysas";

proc optsave out=mysas.options;
run;

```

プログラムの説明

ライブラリ参照名を作成します。

```
libname mysas "c:\mysas";
```

現在のシステムオプション設定を保存します。

```
proc optsave out=mysas.options;
run;
```

ログ

ログ7.3 SAS ログは PROC OPTSAVE の処理を示します。

```
1 libname mysas "c:\mysas";
NOTE: Libref MYSAS was successfully assigned as follows:
      Engine: V9
      Physical Name: c:\mysas

2 proc optsave out=mysas.options;
3 run;

NOTE: The data set MYSAS.OPTIONS has 285 observations and 2 variables.
NOTE: PROCEDURE OPTSAVE used (Total process time):
      real time 0.03 seconds
      cpu time 0.03 seconds
```


5 部

付録

付録 I
タイムゾーン ID とタイムゾーン名 355

付録1 タイムゾーン ID とタイムゾーン名

エリア: Africa (アフリカ)	355
エリア: エリア: America (アメリカ-北、中央、および南)	357
エリア: Antarctica	366
エリア: Asia	367
エリア: Atlantic	371
エリア: Australia	372
エリア: Miscellaneous	373
エリア: ヨーロッパ	379
エリア: Pacific	383

エリア: Africa (アフリカ)

タイムゾーン情報	タイムゾーン名	リージョン	タイムゾーンの説明	タイムゾーンのオフセット
Africa/Abidjan	GMT	CI	グリニッジ標準時間	00:00
Africa/Accra	GMT	GH	グリニッジ標準時間	00:00
Africa/Bamako	GMT	ML	グリニッジ標準時間	00:00
Africa/Banjul	GMT	GM	グリニッジ標準時間	00:00
Africa/Bissau	GMT	GW	グリニッジ標準時間	00:00
Africa/Conakry	GMT	GN	グリニッジ標準時間	00:00
Africa/Dakar	GMT	SN	グリニッジ標準時間	00:00
Africa/Freetown	GMT	SL	グリニッジ標準時間	00:00
Africa/Lome	GMT	TG	グリニッジ標準時間	00:00

356 付録1 • タイムゾーンIDとタイムゾーン名

タイムゾーン情報	タイムゾーン名	リージョン	タイムゾーンの説明	タイムゾーンのオフセット
Africa/Monrovia	GMT	LR	グリニッジ標準時間	00:00
Africa/Nouakchott	GMT	MR	グリニッジ標準時間	00:00
Africa/Ouagadougou	GMT	BF	グリニッジ標準時間	00:00
Africa/Sao_Tome	GMT	ST	グリニッジ標準時間	00:00
Africa/Timbuktu	GMT	ML	グリニッジ標準時間	0.00
Africa/Casablanca	WET	MA	西ヨーロッパ時間	00:00
	WEST	MA	西ヨーロッパ夏時間	01.00
Africa/El_Aaiun	WET	EH	西ヨーロッパ時間	00:00
	WEST	EH	西ヨーロッパ夏時間	01.00
Africa/Algiers	CET	DZ	中央ヨーロッパ時間	1:00
Africa/Ceuta	CET	ES	中央ヨーロッパ時間	1:00
	CEST		中央ヨーロッパ夏時間	2:00
Africa/Tunis	CET	TN	中央ヨーロッパ時間	1:00
Africa/Bangui	WAT	CF	西アフリカ時間	1:00
Africa/Brazzaville	WAT	CG	西アフリカ時間	1:00
Africa/Douala	WAT	CM	西アフリカ時間	1:00
Africa/Kinshasa	WAT	CD	西アフリカ時間	1:00
Africa/Lagos	WAT	NG	西アフリカ時間	1:00
Africa/Libreville	WAT	GA	西アフリカ時間	1:00
Africa/Luanda	WAT	AO	西アフリカ時間	1:00
Africa/Malabo	WAT	GQ	西アフリカ時間	1:00
Africa/Ndjamena	WAT	TD	西アフリカ時間	1:00
Africa/Niamey	WAT	NE	西アフリカ時間	1:00
Africa/Porto-Novo	WAT	BJ	西アフリカ時間	1:00
Africa/Windhoek	WAT	NA	西アフリカ時間	1:00
	WAST		西アフリカ夏時間	2:00
Africa/Blantyre	CAT	MW	中央アフリカ時間	2:00
Africa/Bujumbura	CAT	BI	中央アフリカ時間	2:00
Africa/Gaborone	CAT	BW	中央アフリカ時間	2:00

タイムゾーン情報	タイムゾーン名	リージョン	タイムゾーンの説明	タイムゾーンのオフセット
Africa/Harare	CAT	ZW	中央アフリカ時間	2:00
Africa/Kigali	CAT	RW	中央アフリカ時間	2:00
Africa/Lubumbashi	CAT	CD	中央アフリカ時間	2:00
Africa/Lusaka	CAT	ZM	中央アフリカ時間	2:00
Africa/Maputo	CAT	MZ	中央アフリカ時間	2:00
Africa/Cairo	EET	EG	東ヨーロッパ時間	02:00
	EET	EG	東ヨーロッパ夏時間	2:00
Africa/Tripoli	EET	LY	東ヨーロッパ時間	2:00
Africa/Johannesburg	SAST	ZA	南アフリカ標準時間	2:00
Africa/Maseru	SAST	LS	南アフリカ標準時間	2:00
Africa/Mbabane	SAST	SZ	南アフリカ標準時間	2:00
Africa/Addis_Ababa	EAT	ET	東アフリカ時間	3:00
Africa/Asmara	EAT	ER	東アフリカ時間	03:00
Africa/Asmera	EAT	ER	東アフリカ時間	3:00
Africa/Dar_es_Salaam	EAT	TZ	東アフリカ時間	3:00
Africa/Djibouti	EAT	DJ	東アフリカ時間	3:00
Africa/Juba	EAT	SS	東アフリカ時間	3:00
Africa/Kampala	EAT	UG	東アフリカ時間	3:00
Africa/Khartoum	EAT	SD	東アフリカ時間	3:00
Africa/Mogadishu	EAT	SO	東アフリカ時間	3:00
Africa/Nairobi	EAT	KE	東アフリカ時間	3:00

エリア:エリア: America (アメリカ-北、中央、および南)

タイムゾーン情報	タイムゾーン名	リージョン	タイムゾーンの説明	タイムゾーンのオフセット
America/Adak	HAST	US	ハワイ・アリューシャン標準時間	-10:00
America/Adak	HADT	US	ハワイ・アリューシャン夏時間	-9:00

358 付録1 • タイムゾーンIDとタイムゾーン名

タイムゾーン情報	タイムゾーン名	リージョン	タイムゾーンの説明	タイムゾーンのオフセット
America/Anchorage	AKST	US	アラスカ標準時間	-9:00
America/Anchorage	AKDT	US	アラスカ夏時間	-8:00
America/Anguilla	AST	AI	アトランティック標準時間	-4:00
America/Antigua	AST	AG	アトランティック標準時間	-4:00
America/Araguaina	BRT	BR	ブラジリア標準時間	-3:00
America/Argentina/Buenos_Aires	ART	AR	アルゼンチン標準時間	-3:00
America/Argentina/Catamarca	ART	AR	アルゼンチン標準時間	-3:00
America/Argentina/ComodRivadavia	ART	AR	アルゼンチン標準時間	-3:00
America/Argentina/Cordoba	ART	AR	アルゼンチン標準時間	-3:00
America/Argentina/Jujuy	ART	AR	アルゼンチン標準時間	-3:00
America/Argentina/La_Rioja	ART	AR	アルゼンチン標準時間	-3:00
America/Argentina/Mendoza	ART	AR	アルゼンチン標準時間	-3:00
America/Argentina/Rio_Gallegos	ART	AR	アルゼンチン標準時間	-3:00
America/Argentina/Salta	ART	AR	アルゼンチン標準時間	-3:00
America/Argentina/San_Juan	ART	AR	アルゼンチン標準時間	-3:00
America/Argentina/San_Luis	ART	AR	西アルゼンチン標準時間	-3:00
America/Argentina/Tucuman	ART	AR	アルゼンチン標準時間	-3:00
America/Argentina/Ushuaia	ART	AR	アルゼンチン標準時間	-3:00
America/Aruba	AST	AW	アトランティック標準時間	-4:00
America/Asuncion	PYT	PY	パラグアイ標準時間	-4:00
America/Asuncion	PYST	PY	パラグアイ夏時間	-3:00
America/Atikokan	EST	CA	東部標準時間	-5:00
America/Atka	HAST	US	ハワイ・アリューシャン標準時間	-10:00
America/Atka	HADT	US	ハワイ・アリューシャン夏時間	-9:00
America/Bahia	BRT	BR	ブラジリア標準時間	-3:00
America/Bahia_Banderas	CST	MX	中部標準時間	-6:00
America/Bahia_Banderas	CDT	MX	中部夏時間	-5:00
America/Barbados	AST	BB	アトランティック標準時間	-4:00

タイムゾーン情報	タイムゾーン名	リージョン	タイムゾーンの説明	タイムゾーンのオフセット
America/Belem	BRT	BR	ブラジリア標準時間	-3:00
America/Belize	CST	BZ	中部標準時間	-6:00
America/Blanc-Sablon	AST	CA	アトランティック標準時間	-4:00
America/Boa_Vista	AMT	BR	アマゾン標準時間	-4:00
America/Bogota	COT	CO	コロンビア標準時間	-5:00
America/Boise	MST	US	山岳部標準時間	-7:00
America/Boise	MDT	US	山岳部夏時間	-6:00
America/Buenos_Aires	ART	AR	アルゼンチン標準時間	-3:00
America/Cambridge_Bay	MST	CA	山岳部標準時間	-7:00
America/Cambridge_Bay	MDT	CA	山岳部夏時間	-6:00
America/Campo_Grande	AMT	BR	アマゾン標準時間	-4:00
America/Campo_Grande	AMST	BR	アマゾン夏時間	-3:00
America/Cancun	CST	MX	中部標準時間	-6:00
America/Cancun	CDT	MX	中部夏時間	-5:00
America/Caracas	VET	VE	ベネズエラ時間	-1:27
America/Catamarca	ART	AR	アルゼンチン標準時間	-3:00
America/Cayenne	GFT	GF	フランス領ギアナ時間	-3:00
America/Cayman	EST	KY	東部標準時間	-5:00
America/Chicago	CST	US	中部標準時間	-6:00
America/Chicago	CDT	US	中部夏時間	-5:00
America/Chihuahua	MST	MX	山岳部標準時間	-7:00
America/Chihuahua	MDT	MX	山岳部夏時間	-6:00
America/Coral_Harbour	EST	CA	東部標準時間	-5:00
America/Cordoba	ART	AR	アルゼンチン標準時間	-3:00
America/Costa_Rica	CST	CR	中部標準時間	-6:00
America/Creston	MST	CA	山岳部標準時間	-7:00
America/Cuiaba	AMT	BR	アマゾン標準時間	-4:00
America/Cuiaba	AMST	BR	アマゾン夏時間	-3:00

360 付録1 • タイムゾーンIDとタイムゾーン名

タイムゾーン情報	タイムゾーン名	リージョン	タイムゾーンの説明	タイムゾーンのオフセット
America/Curacao	AST	CW	アトランティック標準時間	-4:00
America/Danmarkshavn	GMT	GL	グリニッジ標準時間	00:00
America/Dawson	PST	CA	太平洋標準時間	-8:00
America/Dawson	PDT	CA	太平洋夏時間	-7:00
America/Dawson_Creek	MST	CA	山岳部標準時間	-7:00
America/Denver	MST	US	山岳部標準時間	-7:00
America/Denver	MDT	US	山岳部夏時間	-6:00
America/Detroit	EST	US	東部標準時間	-5:00
America/Detroit	EDT	US	東部夏時間	-4:00
America/Dominica	AST	DM	アトランティック標準時間	-4:00
America/Edmonton	MST	CA	山岳部標準時間	-7:00
America/Edmonton	MDT	CA	山岳部夏時間	-6:00
America/Eirunepe	ACT	BR	アマゾン標準時間	-5:00
America/El_Salvador	CST	SV	中部標準時間	-6:00
America/Ensenada	PST	MX	太平洋標準時間	-8:00
America/Ensenada	PDT	MX	太平洋夏時間	-7:00
America/Fort_Wayne	EST	US	東部標準時間	-5:00
America/Fort_Wayne	EDT	US	東部夏時間	-4:00
America/Fortaleza	BRT	BR	ブラジリア標準時間	-3:00
America/Glace_Bay	AST	CA	アトランティック標準時間	-4:00
America/Glace_Bay	ADT	CA	アトランティック夏時間	-3:00
America/Godthab	WGT	GL	西グリーンランド標準時間	-3:00
America/Godthab	WGST	GL	西グリーンランド夏時間	-2:00
America/Goose_Bay	AST	CA	アトランティック標準時間	-4:00
America/Goose_Bay	ADT	CA	アトランティック夏時間	-3:00
America/Grand_Turk	EST	TC	東部標準時間	-5:00
America/Grand_Turk	EDT	TC	東部夏時間	-4:00
America/Grenada	AST	GD	アトランティック標準時間	-4:00

タイムゾーン情報	タイムゾーン名	リージョン	タイムゾーンの説明	タイムゾーンのオフセット
America/Guadeloupe	AST	GP	アトランティック標準時間	-4:00
America/Guatemala	CST	GT	中部標準時間	-6:00
America/Guayaquil	ECT	EC	エクアドル時間	-5:00
America/Guyana	GYT	GY	ガイアナ時間	-4:00
America/Halifax	AST	CA	アトランティック標準時間	-4:00
America/Halifax	ADT	CA	アトランティック夏時間	-3:00
America/Havana	CST	CU	キューバ標準時間	-5:00
America/Havana	CDT	CU	キューバ夏時間	-4:00
America/Hermosillo	MST	MX	山岳部標準時間	-7:00
America/Indiana/Indianapolis	EST	US	東部標準時間	-5:00
America/Indiana/Indianapolis	EDT	US	東部夏時間	-4:00
America/Indiana/Knox	CST	US	中部標準時間	-6:00
America/Indiana/Knox	CDT	US	中部夏時間	-5:00
America/Indiana/Marengo	EST	US	東部標準時間	-5:00
America/Indiana/Marengo	EDT	US	東部夏時間	-4:00
America/Indiana/Petersburg	EST	US	東部標準時間	-5:00
America/Indiana/Petersburg	EDT	US	東部夏時間	-4:00
America/Indiana/Tell_City	CST	US	中部標準時間	-6:00
America/Indiana/Tell_City	CDT	US	中部夏時間	-5:00
America/Indiana/Vevay	EST	US	東部標準時間	-5:00
America/Indiana/Vevay	EDT	US	東部夏時間	-4:00
America/Indiana/Vincennes	EST	US	東部標準時間	-5:00
America/Indiana/Vincennes	EDT	US	東部夏時間	-4:00
America/Indiana/Winamac	EST	US	東部標準時間	-5:00
America/Indiana/Winamac	EDT	US	東部夏時間	-4:00
America/Indianapolis	EST	US	東部標準時間	-5:00
America/Indianapolis	EDT	US	東部夏時間	-4:00
America/Inuvik	MST	CA	山岳部標準時間	-7:00

362 付録1 • タイムゾーンIDとタイムゾーン名

タイムゾーン情報	タイムゾーン名	リージョン	タイムゾーンの説明	タイムゾーンのオフセット
America/Inuvik	MDT	CA	山岳部夏時間	-6:00
America/Iqaluit	EST	CA	東部標準時間	-5:00
America/Iqaluit	EDT	CA	東部夏時間	-4:00
America/Jamaica	EST	JM	東部標準時間	-5:00
America/Jujuy	ART	AR	アルゼンチン標準時間	-3:00
America/Juneau	AKST	US	アラスカ標準時間	-9:00
America/Juneau	AKDT	US	アラスカ夏時間	-8:00
America/Kentucky/Louisville	EST	US	東部標準時間	-5:00
America/Kentucky/Louisville	EDT	US	東部夏時間	-4:00
America/Kentucky/Monticello	EST	US	東部標準時間	-5:00
America/Kentucky/Monticello	EDT	US	東部夏時間	-4:00
America/Knox_IN	CST	US	中部標準時間	-6:00
America/Knox_IN	CDT	US	中部夏時間	-5:00
America/Kralendijk	AST	BQ	アトランティック標準時間	-4:00
America/La_Paz	BOT	BO	ボリビア時間	-4:00
America/Lima	PET	PE	ペルー標準時間	-5:00
America/Los_Angeles	PST	US	太平洋標準時間	-8:00
America/Los_Angeles	PDT	US	太平洋夏時間	-7:00
America/Louisville	EST	US	東部標準時間	-5:00
America/Louisville	EDT	US	東部夏時間	-4:00
America/Lower_Princes	AST	SX	アトランティック標準時間	-4:00
America/Maceio	BRT	BR	ブラジリア標準時間	-3:00
America/Managua	CST	NI	中部標準時間	-6:00
America/Manaus	AMT	BR	アマゾン標準時間	-4:00
America/Marigot	AST	MF	アトランティック標準時間	-4:00
America/Martinique	AST	MQ	アトランティック標準時間	-4:00
America/Matamoros	CST	MX	中部標準時間	-6:00
America/Matamoros	CDT	MX	中部夏時間	-5:00

タイムゾーン情報	タイムゾーン名	リージョン	タイムゾーンの説明	タイムゾーンのオフセット
America/Mazatlan	MST	MX	山岳部標準時間	-7:00
America/Mazatlan	MDT	MX	山岳部夏時間	-6:00
America/Mendoza	ART	AR	アルゼンチン標準時間	-3:00
America/Menominee	CST	US	中部標準時間	-6:00
America/Menominee	CDT	US	中部夏時間	-5:00
America/Merida	CST	MX	中部標準時間	-6:00
America/Merida	CDT	MX	中部夏時間	-5:00
America/Metlakatla	MEST	US	太平洋標準時間	-8:00
America/Mexico_City	CST	MX	中部標準時間	-6:00
America/Mexico_City	CDT	MX	中部夏時間	-5:00
America/Miquelon	PMST	PM	サンピエール・ミクロン標準時間	-3:00
America/Miquelon	PMDT	PM	サンピエール・ミクロン夏時間	-2:00
America/Moncton	AST	CA	アトランティック標準時間	-4:00
America/Moncton	ADT	CA	アトランティック夏時間	-3:00
America/Monterrey	CST	MX	中部標準時間	-6:00
America/Monterrey	CDT	MX	中部夏時間	-5:00
America/Montevideo	UYT	UY	ウルグアイ標準時間	-3:00
America/Montevideo	UYST	UY	ウルグアイ夏時間	-2:00
America/Montserrat	AST	MS	アトランティック標準時間	-4:00
America/Nassau	EST	BS	東部標準時間	-5:00
America/Nassau	EDT	BS	東部夏時間	-4:00
America/New_York	EST	US	東部標準時間	-5:00
America/New_York	EDT	US	東部夏時間	-4:00
America/Nipigon	EST	CA	東部標準時間	-5:00
America/Nipigon	EDT	CA	東部夏時間	-4:00
America/Nome	AKST	US	アラスカ標準時間	-9:00
America/Nome	AKDT	US	アラスカ夏時間	-8:00
America/Noronha	FNT	BR	フェルナンド・デ・ノローニャ標準時間	-2:00

364 付録1 • タイムゾーンIDとタイムゾーン名

タイムゾーン情報	タイムゾーン名	リージョン	タイムゾーンの説明	タイムゾーンのオフセット
America/North_Dakota/Beulah	CST	US	中部標準時間	-6:00
America/North_Dakota/Beulah	CDT	US	中部夏時間	-5:00
America/North_Dakota/Center	CST	US	中部標準時間	-6:00
America/North_Dakota/Center	CDT	US	中部夏時間	-5:00
America/North_Dakota/New_Salem	CST	US	中部標準時間	-6:00
America/North_Dakota/New_Salem	CDT	US	中部夏時間	-5:00
America/Ojinaga	MST	MX	山岳部標準時間	-7:00
America/Ojinaga	MDT	MX	山岳部夏時間	-6:00
America/Panama	EST	PA	東部標準時間	-5:00
America/Pangnirtung	EST	CA	東部標準時間	-5:00
America/Pangnirtung	EDT	CA	東部夏時間	-4:00
America/Paramaribo	SRT	SR	スリナム時間	-3:00
America/Phoenix	MST	US	山岳部標準時間	-7:00
America/Port-au-Prince	EST	HT	東部標準時間	-5:00
America/Port-au-Prince	EDT	HT	東部夏時間	-4:00
America/Port_of_Spain	AST	TT	アトランティック標準時間	-4:00
America/Porto_Acre	ACT	BR	アマゾン標準時間	-5:00
America/Porto_Velho	AMT	BR	アマゾン標準時間	-4:00
America/Puerto_Rico	AST	PR	アトランティック標準時間	-4:00
America/Rainy_River	CST	CA	中部標準時間	-6:00
America/Rainy_River	CDT	CA	中部夏時間	-5:00
America/Rankin_Inlet	CST	CA	中部標準時間	-6:00
America/Rankin_Inlet	CDT	CA	中部夏時間	-5:00
America/Recife	BRT	BR	ブラジリア標準時間	-3:00
America/Regina	CST	CA	中部標準時間	-6:00
America/Resolute	CST	CA	中部標準時間	-6:00
America/Resolute	CDT	CA	中部夏時間	-5:00

タイムゾーン情報	タイムゾーン名	リージョン	タイムゾーンの説明	タイムゾーンのオフセット
America/Rio_Branco	ACT	BR	アマゾン標準時間	-5:00
America/Rosario	ART	AR	アルゼンチン標準時間	-3:00
America/Santa_Isabel	PST	MX	太平洋標準時間	-8:00
America/Santa_Isabel	PDT	MX	太平洋夏時間	-7:00
America/Santarem	BRT	BR	ブラジリア標準時間	-3:00
America/Santiago	CLT	CL	チリ標準時間	-4:00
America/Santiago	CLST	CL	チリ夏時間	-3:00
America/Santo_Domingo	AST	DO	アトランティック標準時間	-4:00
America/Sao_Paulo	BRT	BR	ブラジリア標準時間	-3:00
America/Sao_Paulo	BRST	BR	ブラジリア夏時間	-2:00
America/Scoresbysund	EGT	GL	東グリーンランド標準時間	-1:00
America/Scoresbysund	EGST	GL	東グリーンランド夏時間	00:00
America/Shiprock	MST	US	山岳部標準時間	-7:00
America/Shiprock	MDT	US	山岳部夏時間	-6:00
America/Sitka	AKST	US	アラスカ標準時間	-9:00
America/Sitka	AKDT	US	アラスカ夏時間	-8:00
America/St_Barthelemy	AST	BL	アトランティック標準時間	-4:00
America/St_Johns	NST	CA	ニューファンドランド標準時間	-1:27
America/St_Johns	NDT	CA	ニューファンドランド夏時間	-1:27
America/St_Kitts	AST	KN	アトランティック標準時間	-4:00
America/St_Lucia	AST	LC	アトランティック標準時間	-4:00
America/St_Thomas	AST	VI	アトランティック標準時間	-4:00
America/St_Vincent	AST	VC	アトランティック標準時間	-4:00
America/Swift_Current	CST	CA	中部標準時間	-6:00
America/Tegucigalpa	CST	HN	中部標準時間	-6:00
America/Thule	AST	GL	アトランティック標準時間	-4:00
America/Thule	ADT	GL	アトランティック夏時間	-3:00
America/Thunder_Bay	EST	CA	東部標準時間	-5:00

366 付録1 • タイムゾーンIDとタイムゾーン名

タイムゾーン情報	タイムゾーン名	リージョン	タイムゾーンの説明	タイムゾーンのオフセット
America/Thunder_Bay	EDT	CA	東部夏時間	-4:00
America/Tijuana	PST	MX	太平洋標準時間	-8:00
America/Tijuana	PDT	MX	太平洋夏時間	-7:00
America/Toronto	EST	CA	東部標準時間	-5:00
America/Toronto	EDT	CA	東部夏時間	-4:00
America/Tortola	AST	VG	アトランティック標準時間	-4:00
America/Vancouver	PST	CA	太平洋標準時間	-8:00
America/Vancouver	PDT	CA	太平洋夏時間	-7:00
America/Virgin	AST	TT	アトランティック標準時間	-4:00
America/Whitehorse	PST	CA	太平洋標準時間	-8:00
America/Whitehorse	PDT	CA	太平洋夏時間	-7:00
America/Winnipeg	CST	CA	中部標準時間	-6:00
America/Winnipeg	CDT	CA	中部夏時間	-5:00
America/Yakutat	AKST	US	アラスカ標準時間	-9:00
America/Yakutat	AKDT	US	アラスカ夏時間	-8:00
America/Yellowknife	MST	CA	山岳部標準時間	-7:00
America/Yellowknife	MDT	CA	山岳部夏時間	-6:00

エリア:Antarctica

タイムゾーン情報	タイムゾーン名	リージョン	タイムゾーンの説明	タイムゾーンのオフセット
Antarctica/Casey	WST	AQ	オーストラリア西標準時間	8:00
Antarctica/Davis	DAVT	AQ	デービス時間	7:00
Antarctica/DumontDUrville	DDUT	AQ	デュモン・デュルヴィル時間	10:00
Antarctica/Macquarie	MIST	AU	マッコリー島時間	11:00
Antarctica/Mawson	MAWT	AQ	モーソン時間	5:00
Antarctica/Mcmurdo	NZST	AQ	ニュージーランド標準時間	12:00

タイムゾーン情報	タイムゾーン名	リージョン	タイムゾーンの説明	タイムゾーンのオフセット
Antarctica/Mcmurdo	NZDT	AQ	ニュージーランド夏時間	13:00
Antarctica/Palmer	CLT	AQ	チリ標準時間	-4:00
Antarctica/Palmer	CLST	AQ	チリ夏時間	-3:00
Antarctica/Rothera	ROTT	AQ	ロゼラ時間	-3:00
Antarctica/South_Pole	NZST	NZ	ニュージーランド標準時間	12:00
Antarctica/South_Pole	NZDT	NZ	ニュージーランド夏時間	13:00
Antarctica/Syowa	SYOT	AQ	昭和時間	3:00
Antarctica/Vostok	VOST	AQ	ボストーク時間	6:00

エリア:Asia

タイムゾーン情報	タイムゾーン名	リージョン	タイムゾーンの説明	タイムゾーンのオフセット
Asia/Aden	AST	YE	アラビア標準時間	3:00
Asia/Almaty	ALMT	KZ	東カザフスタン時間	6:00
Asia/Amman	EET	JO	東ヨーロッパ標準時間	2:00
Asia/Amman	EEST	JO	東ヨーロッパ夏時間	3:00
Asia/Anadyr	ANAT	RU	マガダン標準時間	12:00
Asia/Aqtau	AQTT	KZ	西カザフスタン時間	5:00
Asia/Aqtobe	AQTT	KZ	西カザフスタン時間	5:00
Asia/Ashgabat	TMT	TM	トルクメニアン標準時間	5:00
Asia/Ashkhabad	TMT	TM	トルクメニアン標準時間	5:00
Asia/Baghdad	AST	IQ	アラビア標準時間	3:00
Asia/Bahrain	AST	BH	アラビア標準時間	3:00
Asia/Baku	AZT	AZ	アゼルバイジャン標準時間	4:00
Asia/Baku	AZST	AZ	アゼルバイジャン夏時間	5:00
Asia/Bangkok	ICT	TH	インドシナ時間	7:00
Asia/Beijing	CST	CN	中国標準時間	8:00

368 付録1 • タイムゾーンIDとタイムゾーン名

タイムゾーン情報	タイムゾーン名	リージョン	タイムゾーンの説明	タイムゾーンのオフセット
Asia/Beirut	EET	LB	東ヨーロッパ標準時間	2:00
Asia/Beirut	EEST	LB	東ヨーロッパ夏時間	3:00
Asia/Bishkek	KGT	KG	キルギスタン時間	6:00
Asia/Brunei	BNT	BN	ブルネイ・ダルッサラーム時間	8:00
Asia/Calcutta	IST	IN	インド標準時間	5:30
Asia/Choibalsan	CHOT	MN	チョイバルサン標準時間	8:00
Asia/Chongqing	CST	CN	中国標準時間	8:00
Asia/Chungking	CST	CN	中国標準時間	8:00
Asia/Colombo	IST	LK	インド標準時間	5:30
Asia/Dacca	BDT	BD	バングラデシュ標準時間	6:00
Asia/Damascus	EET	SY	東ヨーロッパ標準時間	2:00
Asia/Damascus	EEST	SY	東ヨーロッパ夏時間	3:00
Asia/Dhaka	BDT	BD	バングラデシュ標準時間	6:00
Asia/Dili	TLT	TL	東ティモール時間	9:00
Asia/Dubai	GST	AE	(ペルシア)湾標準時間	4:00
Asia/Dushanbe	TJT	TJ	タジキスタン時間	5:00
Asia/Gaza	EET	PS	東ヨーロッパ標準時間	2:00
Asia/Gaza	EEST	PS	東ヨーロッパ夏時間	3:00
Asia/Harbin	CST	CN	中国標準時間	8:00
Asia/Hebron	EET	PS	東ヨーロッパ標準時間	2:00
Asia/Hebron	EEST	PS	東ヨーロッパ夏時間	3:00
Asia/Ho_Chi_Minh	ICT	VN	インドシナ時間	7:00
Asia/Hong_Kong	HKT	HK	香港標準時間	8:00
Asia/Hovd	HOVT	MN	ホブド標準時間	7:00
Asia/Irkutsk	IRKT	RU	イルクーツク標準時間	9:00
Asia/Istanbul	EET	TR	東ヨーロッパ標準時間	2:00
Asia/Istanbul	EEST	TR	東ヨーロッパ夏時間	3:00
Asia/Jakarta	WIB	ID	西インドネシア時間	7:00

タイムゾーン情報	タイムゾーン名	リージョン	タイムゾーンの説明	タイムゾーンのオフセット
Asia/Jayapura	WIT	ID	東インドネシア時間	9:00
Asia/Jerusalem	IST	IL	イスラエル標準時間	2:00
Asia/Jerusalem	IDT	IL	イスラエル夏時間	3:00
Asia/Kabul	AFT	AF	アフガニスタン時間	4:30
Asia/Kamchatka	PETT	RU	マガダン標準時間	12:00
Asia/Karachi	PKT	PK	パキスタン標準時間	5:00
Asia/Kashgar	CST	CN	中国標準時間	8:00
Asia/Kathmandu	NPT	NP	ネパール時間	5:45
Asia/Katmandu	NPT	NP	ネパール時間	5:45
Asia/Khandyga	YAKT	RU	ヤクーツク標準時間	10:00
Asia/Kolkata	IST	IN	インド標準時間	5:30
Asia/Krasnoyarsk	KRAT	RU	クラスノヤルスク標準時間	8:00
Asia/Kuala_Lumpur	MYT	MY	マレーシア時間	8:00
Asia/Kuching	MYT	MY	マレーシア時間	8:00
Asia/Kuwait	AST	KW	アラビア標準時間	3:00
Asia/Macao	CST	MO	中国標準時間	8:00
Asia/Macau	CST	MO	中国標準時間	8:00
Asia/Magadan	MAGT	RU	マガダン標準時間	12:00
Asia/Makassar	WITA	ID	中央インドネシア時間	8:00
Asia/Manila	PHT	PH	フィリピン標準時間	8:00
Asia/Muscat	GST	OM	(ペルシア)湾標準時間	4:00
Asia/Nicosia	EET	CY	東ヨーロッパ標準時間	2:00
Asia/Nicosia	EEST	CY	東ヨーロッパ夏時間	3:00
Asia/Novokuznetsk	NOVT	RU	ノヴォシビルスク標準時間	7:00
Asia/Novosibirsk	NOVT	RU	ノヴォシビルスク標準時間	7:00
Asia/Omsk	OMST	RU	オムスク標準時間	7:00
Asia/Oral	ORAT	KZ	西カザフスタン時間	5:00
Asia/Osaka	JST	JP	日本標準時間	9:00

370 付録1 • タイムゾーンIDとタイムゾーン名

タイムゾーン情報	タイムゾーン名	リージョン	タイムゾーンの説明	タイムゾーンのオフセット
Asia/Phnom_Penh	ICT	KH	インドシナ時間	7:00
Asia/Pontianak	WIB	ID	西インドネシア時間	7:00
Asia/Pyongyang	KST	KP	韓国標準時間	9:00
Asia/Qatar	AST	QA	アラビア標準時間	3:00
Asia/Qyzylorda	QYZT	KZ	東カザフスタン時間	6:00
Asia/Rangoon	MMT	MM	ミャンマー時間	6:30
Asia/Riyadh	AST	SA	アラビア標準時間	3:00
Asia/Saigon	ICT	VN	インドシナ時間	7:00
Asia/Sakhalin	SAKT	RU	サハリン標準時間	11:00
Asia/Samarkand	UZT	UZ	ウズベキスタン標準時間	5:00
Asia/Sapporo	JST	JP	日本標準時間	9:00
Asia/Seoul	KST	KR	韓国標準時間	9:00
Asia/Shanghai	CST	CN	中国標準時間	8:00
Asia/Singapore	SGT	SG	シンガポール標準時間	8:00
Asia/Taipei	CST	TW	台北標準時間	8:00
Asia/Tashkent	UZT	UZ	ウズベキスタン標準時間	5:00
Asia/Tbilisi	GET	GE	グルジア標準時間	4:00
Asia/Tehran	IRST	IR	イラン標準時間	3:30
Asia/Tel_Aviv	IST	IL	イスラエル標準時間	2:00
Asia/Tel_Aviv	IDT	IL	イスラエル夏時間	3:00
Asia/Thimbu	BTT	BT	ブータン時間	6:00
Asia/Thimphu	BTT	BT	ブータン時間	6:00
Asia/Tokyo	JST	JP	日本標準時間	9:00
Asia/Ujung_Pandang	WITA	ID	中央インドネシア時間	8:00
Asia/Ulaanbaatar	ULAT	MN	ウランバートル標準時間	8:00
Asia/Ulan_Bator	ULAT	MN	ウランバートル標準時間	8:00
Asia/Urumqi	CST	CN	中国標準時間	8:00
Asia/Ust-Nera	VLAT	RU	ウラジオストック標準時間	11:00

タイムゾーン情報	タイムゾーン名	リージョン	タイムゾーンの説明	タイムゾーンのオフセット
Asia/Vientiane	ICT	LA	インドシナ時間	7:00
Asia/Vladivostok	VLAT	RU	ウラジオストック標準時間	11:00
Asia/Yakutsk	YAKT	RU	ヤクーツク標準時間	10:00
Asia/Yekaterinburg	YEKT	RU	エカテリンブルク標準時間	6:00
Asia/Yerevan	AMT	AM	アルメニア標準時間	4:00

エリア:Atlantic

タイムゾーン情報	タイムゾーン名	リージョン	タイムゾーンの説明	タイムゾーンのオフセット
Atlantic/Azores	AZOT	PT	アゾレス標準時間	-1:00
Atlantic/Azores	AZOST	PT	アゾレス夏時間	00:00
Atlantic/Bermuda	AST	BM	アトランティック標準時間	-4:00
Atlantic/Bermuda	ADT	BM	アトランティック夏時間	-3:00
Atlantic/Canary	WET	ES	西ヨーロッパ標準時間	00:00
Atlantic/Canary	WEST	ES	西ヨーロッパ夏時間	1:00
Atlantic/Cape_Verde	CVT	CV	カーボベルデ標準時間	-1:00
Atlantic/Faeroe	WET	FO	西ヨーロッパ標準時間	00:00
Atlantic/Faeroe	WEST	FO	西ヨーロッパ夏時間	1:00
Atlantic/Faroe	WET	FO	西ヨーロッパ標準時間	00:00
Atlantic/Faroe	WEST	FO	西ヨーロッパ夏時間	1:00
Atlantic/Jan_Mayen	CET	NO	中央ヨーロッパ標準時間	1:00
Atlantic/Jan_Mayen	CEST	NO	中央ヨーロッパ夏時間	2:00
Atlantic/Madeira	WET	PT	西ヨーロッパ標準時間	00:00
Atlantic/Madeira	WEST	PT	西ヨーロッパ夏時間	1:00
Atlantic/Reykjavik	GMT	IS	グリニッジ標準時間	00:00
Atlantic/South_Georgia	GST	GS	サウスジョージア時間	-2:00
Atlantic/St_Helena	GMT	SH	グリニッジ標準時間	00:00

タイムゾーン情報	タイムゾーン名	リージョン	タイムゾーンの説明	タイムゾーンのオフセット
Atlantic/Stanley	FKST	FK	フォーカלנד諸島標準時間	-3:00

エリア:Australia

タイムゾーン情報	タイムゾーン名	リージョン	タイムゾーンの説明	タイムゾーンのオフセット
Australia/ACT	EST	AU	オーストラリア東部標準時間	10:00
Australia/ACT	EDT	AU	オーストラリア東部夏時間	11:00
Australia/Adelaide	CST	AU	オーストラリア中部標準時間	9:30
Australia/Adelaide	CDT	AU	オーストラリア中部夏時間	10:30
Australia/Brisbane	EST	AU	オーストラリア東部標準時間	10:00
Australia/Broken_Hill	CST	AU	オーストラリア中部標準時間	9:30
Australia/Broken_Hill	CDT	AU	オーストラリア中部夏時間	10:30
Australia/Canberra	EST	AU	オーストラリア東部標準時間	10:00
Australia/Canberra	EDT	AU	オーストラリア東部夏時間	11:00
Australia/Currie	EST	AU	オーストラリア東部標準時間	10:00
Australia/Currie	EDT	AU	オーストラリア東部夏時間	11:00
Australia/Darwin	CST	AU	オーストラリア中部標準時間	9:30
Australia/Eucla	CWST	AU	オーストラリア中西部標準時間	8:45
Australia/Hobart	EST	AU	オーストラリア東部標準時間	10:00
Australia/Hobart	EDT	AU	オーストラリア東部夏時間	11:00
Australia/LHI	LHST	AU	ロード・ハウ標準時間	10:30
Australia/LHI	LHDT	AU	ロード・ハウ夏時間	11:00
Australia/Lindeman	EST	AU	オーストラリア東部標準時間	10:00
Australia/Lord_Howe	LHST	AU	ロード・ハウ標準時間	10:30
Australia/Lord_Howe	LHDT	AU	ロード・ハウ夏時間	11:00
Australia/Melbourne	EST	AU	オーストラリア東部標準時間	10:00
Australia/Melbourne	EDT	AU	オーストラリア東部夏時間	11:00

タイムゾーン情報	タイムゾーン名	リージョン	タイムゾーンの説明	タイムゾーンのオフセット
Australia/NSW	EST	AU	オーストラリア東部標準時間	10:00
Australia/NSW	EDT	AU	オーストラリア東部夏時間	11:00
Australia/North	CST	AU	オーストラリア中部標準時間	9:30
Australia/Perth	WST	AU	オーストラリア西標準時間	8:00
Australia/Queensland	EST	AU	オーストラリア東部標準時間	10:00
Australia/South	CST	AU	オーストラリア中部標準時間	9:30
Australia/South	CDT	AU	オーストラリア中部夏時間	10:30
Australia/Sydney	EST	AU	オーストラリア東部標準時間	10:00
Australia/Sydney	EDT	AU	オーストラリア東部夏時間	11:00
Australia/Tasmania	EST	AU	オーストラリア東部標準時間	10:00
Australia/Tasmania	EDT	AU	オーストラリア東部夏時間	11:00
Australia/Victoria	EST	AU	オーストラリア東部標準時間	10:00
Australia/Victoria	EDT	AU	オーストラリア東部夏時間	11:00
Australia/West	WST	AU	オーストラリア西標準時間	8:00
Australia/Yancowinna	CST	AU	オーストラリア中部標準時間	9:30
Australia/Yancowinna	CDT	AU	オーストラリア中部夏時間	10:30

エリア:Miscellaneous

タイムゾーン情報	タイムゾーン名	リージョン	タイムゾーンの説明	タイムゾーンのオフセット
Arctic/Longyearbyen	CET	SJ	中央ヨーロッパ標準時間	1:00
Arctic/Longyearbyen	CEST	SJ	中央ヨーロッパ夏時間	2:00
Brazil/Acre	ACT	BR	アマゾン標準時間	-5:00
Brazil/DeNoronha	FNT	BR	フェルナンド・デ・ノロニヤ標準時間	-2:00
Brazil/East	BRT	BR	ブラジリア標準時間	-3:00
Brazil/East	BRST	BR	ブラジリア夏時間	-2:00

374 付録1 • タイムゾーンIDとタイムゾーン名

タイムゾーン情報	タイムゾーン名	リージョン	タイムゾーンの説明	タイムゾーンのオフセット
Brazil/West	AMT	BR	アマゾン標準時間	-4:00
CST6CDT	CST		中部標準時間	-6:00
CST6CDT	CDT		中部夏時間	-5:00
Canada/Atlantic	AST	CA	アトランティック標準時間	-4:00
Canada/Atlantic	ADT	CA	アトランティック夏時間	-3:00
Canada/Central	CST	CA	中部標準時間	-6:00
Canada/Central	CDT	CA	中部夏時間	-5:00
Canada/East-Saskatchewan	CST	CA	中部標準時間	-6:00
Canada/Eastern	EST	CA	東部標準時間	-5:00
Canada/Eastern	EDT	CA	東部夏時間	-4:00
Canada/Mountain	MST	CA	山岳部標準時間	-7:00
Canada/Mountain	MDT	CA	山岳部夏時間	-6:00
Canada/Newfoundland	NST	CA	ニューファンドランド標準時間	-1:27
Canada/Newfoundland	NDT	CA	ニューファンドランド夏時間	-1:27
Canada/Pacific	PST	CA	太平洋標準時間	-8:00
Canada/Pacific	PDT	CA	太平洋夏時間	-7:00
Canada/Saskatchewan	CST	CA	中部標準時間	-6:00
Canada/Yukon	PST	CA	太平洋標準時間	-8:00
Canada/Yukon	PDT	CA	太平洋夏時間	-7:00
Chile/Continental	CLT	CL	チリ標準時間	-4:00
Chile/Continental	CLST	CL	チリ夏時間	-3:00
Chile/EasterIsland	EAST	CL	イースター島標準時間	-6:00
Chile/EasterIsland	EASST	CL	イースター島夏時間	-5:00
Cuba	CST	CU	キューバ標準時間	-5:00
Cuba	CDT	CU	キューバ夏時間	-4:00
EST5EDT	EST		東部標準時間	-5:00
EST5EDT	EDT		東部夏時間	-4:00

タイムゾーン情報	タイムゾーン名	リージョン	タイムゾーンの説明	タイムゾーンのオフセット
Egypt	EET	EG	東ヨーロッパ標準時間	3:00
	EET	EG	東ヨーロッパ夏時間	0.00
Eire	GMT	IE	グリニッジ標準時間	00:00
Eire	IST	IE		1:00
Etc/GMT	GMT		グリニッジ標準時間	00:00
Etc/GMT+0	GMT		グリニッジ標準時間	00:00
Etc/GMT+1	GMT-01		GMT より 1 時間遅い	-1:00
Etc/GMT+10	GMT-10		GMT より 10 時間遅い	-10:00
Etc/GMT+11	GMT-11		GMT より 11 時間遅い	-11:00
Etc/GMT+12	GMT-12		GMT より 12 時間遅い	-12:00
Etc/GMT+2	GMT-02		GMT より 2 時間遅い	-2:00
Etc/GMT+3	GMT-03		GMT より 3 時間遅い	-3:00
Etc/GMT+4	GMT-04		GMT より 4 時間遅い	-4:00
Etc/GMT+5	GMT-05		GMT より 5 時間遅い	-5:00
Etc/GMT+6	GMT-06		GMT より 6 時間遅い	-6:00
Etc/GMT+7	GMT-07		GMT より 7 時間遅い	-7:00
Etc/GMT+8	GMT-08		GMT より 8 時間遅い	-8:00
Etc/GMT+9	GMT-09		GMT より 9 時間遅い	-9:00
Etc/GMT-0	GMT		グリニッジ標準時間	00:00
Etc/GMT-1	GMT+01		GMT より 1 時間早い	1:00
Etc/GMT-10	GMT+10		GMT より 10 時間早い	10:00
Etc/GMT-11	GMT+11		GMT より 11 時間早い	11:00
Etc/GMT-12	GMT+12		GMT より 12 時間早い	12:00
Etc/GMT-13	GMT+13		GMT より 13 時間早い	13:00
Etc/GMT-14	GMT+14		GMT より 14 時間早い	14:00
Etc/GMT-2	GMT+02		GMT より 2 時間早い	2:00
Etc/GMT-3	GMT+03		GMT より 3 時間早い	3:00
Etc/GMT-4	GMT+04		GMT より 4 時間早い	4:00

376 付録1 • タイムゾーンIDとタイムゾーン名

タイムゾーン情報	タイムゾーン名	リージョン	タイムゾーンの説明	タイムゾーンのオフセット
Etc/GMT-5	GMT+05		GMTより5時間早い	5:00
Etc/GMT-6	GMT+06		GMTより6時間早い	6:00
Etc/GMT-7	GMT+07		GMTより7時間早い	7:00
Etc/GMT-8	GMT+08		GMTより8時間早い	8:00
Etc/GMT-9	GMT+09		GMTより9時間早い	9:00
Etc/GMT0	GMT		グリニッジ標準時間	00:00
Etc/Greenwich	GMT		グリニッジ標準時間	00:00
Etc/UCT	UCT		グリニッジ標準時間	00:00
Etc/UTC	UTC		グリニッジ標準時間	00:00
Etc/Universal	UTC		グリニッジ標準時間	00:00
Etc/Zulu	UTC		グリニッジ標準時間	00:00
GB	GMT	GB	グリニッジ標準時間	00:00
GB	BST	GB		1:00
GB-Eire	GMT	GB	グリニッジ標準時間	00:00
GB-Eire	BST	GB		1:00
GMT	GMT		グリニッジ標準時間	00:00
GMT+0	GMT		グリニッジ標準時間	00:00
GMT-0	GMT		グリニッジ標準時間	00:00
GMT0	GMT		グリニッジ標準時間	00:00
Greenwich	GMT		グリニッジ標準時間	00:00
Hongkong	HKT	HK	香港標準時間	8:00
Iceland	GMT	IS	グリニッジ標準時間	00:00
Indian/Antananarivo	EAT	MG	東アフリカ時間	3:00
Indian/Chagos	IOT	IO	インド洋時間	6:00
Indian/Christmas	CXT	CX	クリスマス島時間	7:00
Indian/Cocos	CCT	CC	ココス島時間	6:30
Indian/Comoro	EAT	KM	東アフリカ時間	3:00
Indian/Kerguelen	TFT	TF	フランス領極南時間	5:00

タイムゾーン情報	タイムゾーン名	リージョン	タイムゾーンの説明	タイムゾーンのオフセット
Indian/Mahe	SCT	SC	セーシェル時間	4:00
Indian/Maldives	MVT	MV	モルディブ時間	5:00
Indian/Mauritius	MUT	MU	モーリシャス標準時間	4:00
Indian/Mayotte	EAT	YT	東アフリカ時間	3:00
Indian/Reunion	RET	RE	レユニオン時間	4:00
Iran	IRST	IR	イラン標準時間	3:30
Israel	IST	IL	イスラエル標準時間	2:00
Israel	IDT	IL	イスラエル夏時間	3:00
Jamaica	EST	JM	東部標準時間	-5:00
Japan	JST	JP	日本標準時間	9:00
Kwajalein	MHT	MH	マーシャル諸島時間	12:00
Libya	EET	LY	中央ヨーロッパ標準時間	2:00
MST7MDT	MST		山岳部標準時間	-7:00
MST7MDT	MDT		山岳部夏時間	-6:00
Mexico/BajaNorte	PST	MX	太平洋標準時間	-8:00
Mexico/BajaNorte	PDT	MX	太平洋夏時間	-7:00
Mexico/BajaSur	MST	MX	山岳部標準時間	-7:00
Mexico/BajaSur	MDT	MX	山岳部夏時間	-6:00
Mexico/General	CST	MX	中部標準時間	-6:00
Mexico/General	CDT	MX	中部夏時間	-5:00
NZ	NZST	NZ	ニュージーランド標準時間	12:00
NZ	NZDT	NZ	ニュージーランド夏時間	13:00
NZ-CHAT	CHAST	NZ	チャタム標準時間	12:45
NZ-CHAT	CHADT	NZ	チャタム夏時間	13:45
Navajo	MST	US	山岳部標準時間	-7:00
Navajo	MDT	US	山岳部夏時間	-6:00
PRC	CST	CN	中国標準時間	8:00
PST8PDT	PST		太平洋標準時間	-8:00

378 付録1 • タイムゾーンIDとタイムゾーン名

タイムゾーン情報	タイムゾーン名	リージョン	タイムゾーンの説明	タイムゾーンのオフセット
PST8PDT	PDT		太平洋夏時間	-7:00
Poland	CET	PL	中央ヨーロッパ標準時間	1:00
Poland	CEST	PL	中央ヨーロッパ夏時間	2:00
Portugal	WET	PT	西ヨーロッパ標準時間	00:00
Portugal	WEST	PT	西ヨーロッパ夏時間	1:00
ROC	CST	TW	台北標準時間	8:00
ROK	KST	KR	韓国標準時間	9:00
Singapore	SGT	SG	シンガポール標準時間	8:00
Turkey	EET	TR	東ヨーロッパ標準時間	2:00
Turkey	EEST	TR	東ヨーロッパ夏時間	3:00
UCT	UCT		グリニッジ標準時間	00:00
US/Alaska	AKST	US	アラスカ標準時間	-9:00
US/Alaska	AKDT	US	アラスカ夏時間	-8:00
US/Aleutian	HAST	US	ハワイ・アリューシヤン標準時間	-10:00
US/Aleutian	HADT	US	ハワイ・アリューシヤン夏時間	-9:00
US/Arizona	MST	US	山岳部標準時間	-7:00
US/Central	CST	US	中部標準時間	-6:00
US/Central	CDT	US	中部夏時間	-5:00
US/East-Indiana	EST	US	東部標準時間	-5:00
US/East-Indiana	EDT	US	東部夏時間	-4:00
US/Eastern	EST	US	東部標準時間	-5:00
US/Eastern	EDT	US	東部夏時間	-4:00
US/Hawaii	HST	US	ハワイ・アリューシヤン標準時間	-10:00
US/Indiana-Starke	CST	US	中部標準時間	-6:00
US/Indiana-Starke	CDT	US	中部夏時間	-5:00
US/Michigan	EST	US	東部標準時間	-5:00
US/Michigan	EDT	US	東部夏時間	-4:00
US/Mountain	MST	US	山岳部標準時間	-7:00

タイムゾーン情報	タイムゾーン名	リージョン	タイムゾーンの説明	タイムゾーンのオフセット
US/Mountain	MDT	US	山岳部夏時間	-6:00
US/Pacific	PST	US	太平洋標準時間	-8:00
US/Pacific	PDT	US	太平洋夏時間	-7:00
US/Pacific-New	PST	US	太平洋標準時間	-8:00
US/Pacific-New	PDT	US	太平洋夏時間	-7:00
US/Samoa	SST	AS	サモア標準時間	-11:00
UTC	UTC		グリニッジ標準時間	00:00
Universal	UTC		グリニッジ標準時間	00:00
W-SU	MSK	RU	モスクワ標準時間	4:00
Zulu	UTC		グリニッジ標準時間	00:00

エリア:ヨーロッパ

タイムゾーン情報	タイムゾーン名	リージョン	タイムゾーンの説明	タイムゾーンのオフセット
Europe/Amsterdam	CEST	NL	中央ヨーロッパ夏時間	2:00
Europe/Andorra	CET	AD	中央ヨーロッパ標準時間	1:00
Europe/Andorra	CEST	AD	中央ヨーロッパ夏時間	2:00
Europe/Athens	EET	GR	東ヨーロッパ標準時間	2:00
Europe/Athens	EEST	GR	東ヨーロッパ夏時間	3:00
Europe/Belfast	GMT	GB	グリニッジ標準時間	00:00
Europe/Belfast	BST	GB		1:00
Europe/Belgrade	CET	RS	中央ヨーロッパ標準時間	1:00
Europe/Belgrade	CEST	RS	中央ヨーロッパ夏時間	2:00
Europe/Berlin	CET	DE	中央ヨーロッパ標準時間	1:00
Europe/Berlin	CEST	DE	中央ヨーロッパ夏時間	2:00
Europe/Bratislava	CET	SK	中央ヨーロッパ標準時間	1:00
Europe/Bratislava	CEST	SK	中央ヨーロッパ夏時間	2:00

380 付録1 • タイムゾーンIDとタイムゾーン名

タイムゾーン情報	タイムゾーン名	リージョン	タイムゾーンの説明	タイムゾーンのオフセット
Europe/Brussels	CET	BE	中央ヨーロッパ標準時間	1:00
Europe/Brussels	CEST	BE	中央ヨーロッパ夏時間	2:00
Europe/Bucharest	EET	RO	東ヨーロッパ標準時間	2:00
Europe/Bucharest	EEST	RO	東ヨーロッパ夏時間	3:00
Europe/Budapest	CET	HU	中央ヨーロッパ標準時間	1:00
Europe/Budapest	CEST	HU	中央ヨーロッパ夏時間	2:00
Europe/Busingen	CET	DE	中央ヨーロッパ標準時間	1:00
Europe/Busingen	CEST	DE	中央ヨーロッパ夏時間	2:00
Europe/Chisinau	EET	MD	東ヨーロッパ標準時間	2:00
Europe/Chisinau	EEST	MD	東ヨーロッパ夏時間	3:00
Europe/Copenhagen	CET	DK	中央ヨーロッパ標準時間	1:00
Europe/Copenhagen	CEST	DK	中央ヨーロッパ夏時間	2:00
Europe/Dublin	GMT	IE	グリニッジ標準時間	00:00
Europe/Dublin	IST	IE		1:00
Europe/Gibraltar	CET	GI	中央ヨーロッパ標準時間	1:00
Europe/Gibraltar	CEST	GI	中央ヨーロッパ夏時間	2:00
Europe/Guernsey	GMT	GG	グリニッジ標準時間	00:00
Europe/Guernsey	BST	GG		1:00
Europe/Helsinki	EET	FI	東ヨーロッパ標準時間	2:00
Europe/Helsinki	EEST	FI	東ヨーロッパ夏時間	3:00
Europe/Isle_of_Man	GMT	IM	グリニッジ標準時間	00:00
Europe/Isle_of_Man	BST	IM		1:00
Europe/Istanbul	EET	TR	東ヨーロッパ標準時間	2:00
Europe/Istanbul	EEST	TR	東ヨーロッパ夏時間	3:00
Europe/Jersey	GMT	JE	グリニッジ標準時間	00:00
Europe/Jersey	BST	JE		1:00
Europe/Kaliningrad	FET	RU	東ヨーロッパ標準時間	3:00
Europe/Kiev	EET	UA	東ヨーロッパ標準時間	2:00

タイムゾーン情報	タイムゾーン名	リージョン	タイムゾーンの説明	タイムゾーンのオフセット
Europe/Kiev	EEST	UA	東ヨーロッパ夏時間	3:00
Europe/Lisbon	WET	PT	西ヨーロッパ標準時間	00:00
Europe/Lisbon	WEST	PT	西ヨーロッパ夏時間	1:00
Europe/Ljubljana	CET	SI	中央ヨーロッパ標準時間	1:00
Europe/Ljubljana	CEST	SI	中央ヨーロッパ夏時間	2:00
Europe/London	GMT	GB	グリニッジ標準時間	00:00
Europe/London	BST	GB		1:00
Europe/Luxembourg	CET	LU	中央ヨーロッパ標準時間	1:00
Europe/Luxembourg	CEST	LU	中央ヨーロッパ夏時間	2:00
Europe/Madrid	CET	ES	中央ヨーロッパ標準時間	1:00
Europe/Madrid	CEST	ES	中央ヨーロッパ夏時間	2:00
Europe/Malta	CET	MT	中央ヨーロッパ標準時間	1:00
Europe/Malta	CEST	MT	中央ヨーロッパ夏時間	2:00
Europe/Mariehamn	EET	AX	東ヨーロッパ標準時間	2:00
Europe/Mariehamn	EEST	AX	東ヨーロッパ夏時間	3:00
Europe/Minsk	FET	BY	東ヨーロッパ標準時間	3:00
Europe/Monaco	CET	MC	中央ヨーロッパ標準時間	1:00
Europe/Monaco	CEST	MC	中央ヨーロッパ夏時間	2:00
Europe/Moscow	MSK	RU	モスクワ標準時間	4:00
Europe/Nicosia	EET	CY	東ヨーロッパ標準時間	2:00
Europe/Nicosia	EEST	CY	東ヨーロッパ夏時間	3:00
Europe/Oslo	CET	NO	中央ヨーロッパ標準時間	1:00
Europe/Oslo	CEST	NO	中央ヨーロッパ夏時間	2:00
Europe/Paris	CET	FR	中央ヨーロッパ標準時間	1:00
Europe/Paris	CEST	FR	中央ヨーロッパ夏時間	2:00
Europe/Podgorica	CET	ME	中央ヨーロッパ標準時間	1:00
Europe/Podgorica	CEST	ME	中央ヨーロッパ夏時間	2:00
Europe/Prague	CET	CZ	中央ヨーロッパ標準時間	1:00

382 付録1 • タイムゾーンIDとタイムゾーン名

タイムゾーン情報	タイムゾーン名	リージョン	タイムゾーンの説明	タイムゾーンのオフセット
Europe/Prague	CEST	CZ	中央ヨーロッパ夏時間	2:00
Europe/Riga	EET	LV	東ヨーロッパ標準時間	2:00
Europe/Riga	EEST	LV	東ヨーロッパ夏時間	3:00
Europe/Rome	CET	IT	中央ヨーロッパ標準時間	1:00
Europe/Rome	CEST	IT	中央ヨーロッパ夏時間	2:00
Europe/Samara	SAMT	RU	モスクワ標準時間	4:00
Europe/San_Marino	CET	SM	中央ヨーロッパ標準時間	1:00
Europe/San_Marino	CEST	SM	中央ヨーロッパ夏時間	2:00
Europe/Sarajevo	CET	BA	中央ヨーロッパ標準時間	1:00
Europe/Sarajevo	CEST	BA	中央ヨーロッパ夏時間	2:00
Europe/Simferopol	MSK	UA	東ヨーロッパ標準時間	4:00
Europe/Skopje	CET	MK	中央ヨーロッパ標準時間	1:00
Europe/Skopje	CEST	MK	中央ヨーロッパ夏時間	2:00
Europe/Sofia	EET	BG	東ヨーロッパ標準時間	2:00
Europe/Sofia	EEST	BG	東ヨーロッパ夏時間	3:00
Europe/Stockholm	CET	SE	中央ヨーロッパ標準時間	1:00
Europe/Stockholm	CEST	SE	中央ヨーロッパ夏時間	2:00
Europe/Tallinn	EET	EE	東ヨーロッパ標準時間	2:00
Europe/Tallinn	EEST	EE	東ヨーロッパ夏時間	3:00
Europe/Tirane	CET	AL	中央ヨーロッパ標準時間	1:00
Europe/Tirane	CEST	AL	中央ヨーロッパ夏時間	2:00
Europe/Tiraspol	EET	MD	東ヨーロッパ標準時間	2:00
Europe/Tiraspol	EEST	MD	東ヨーロッパ夏時間	3:00
Europe/Uzhgorod	EET	UA	東ヨーロッパ標準時間	2:00
Europe/Uzhgorod	EEST	UA	東ヨーロッパ夏時間	3:00
Europe/Vaduz	CET	LI	中央ヨーロッパ標準時間	1:00
Europe/Vaduz	CEST	LI	中央ヨーロッパ夏時間	2:00
Europe/Vatican	CET	VA	中央ヨーロッパ標準時間	1:00

タイムゾーン情報	タイムゾーン名	リージョン	タイムゾーンの説明	タイムゾーンのオフセット
Europe/Vatican	CEST	VA	中央ヨーロッパ夏時間	2:00
Europe/Vienna	CET	AT	中央ヨーロッパ標準時間	1:00
Europe/Vienna	CEST	AT	中央ヨーロッパ夏時間	2:00
Europe/Vilnius	EET	LT	東ヨーロッパ標準時間	2:00
Europe/Vilnius	EEST	LT	東ヨーロッパ夏時間	3:00
Europe/Volgograd	VOLT	RU	ヴォルゴグラード標準時間	4:00
Europe/Warsaw	CET	PL	中央ヨーロッパ標準時間	1:00
Europe/Warsaw	CEST	PL	中央ヨーロッパ夏時間	2:00
Europe/Zagreb	CET	HR	中央ヨーロッパ標準時間	1:00
Europe/Zagreb	CEST	HR	中央ヨーロッパ夏時間	2:00
Europe/Zaporozhye	EET	UA	東ヨーロッパ標準時間	2:00
Europe/Zaporozhye	EEST	UA	東ヨーロッパ夏時間	3:00
Europe/Zurich	CET	CH	中央ヨーロッパ標準時間	1:00
Europe/Zurich	CEST	CH	中央ヨーロッパ夏時間	2:00

エリア:Pacific

タイムゾーン情報	タイムゾーン名	リージョン	タイムゾーンの説明	タイムゾーンのオフセット
Pacific/Apia	WST	WS	サモア標準時間	13:00
Pacific/Apia	WSDT	WS	サモア夏時間	14:00
Pacific/Auckland	NZST	NZ	ニュージーランド標準時間	12:00
Pacific/Auckland	NZDT	NZ	ニュージーランド夏時間	13:00
Pacific/Chatham	CHAST	NZ	チャタム標準時間	12:45
Pacific/Chatham	CHADT	NZ	チャタム夏時間	13:45
Pacific/Chuuk	CHUT	FM	チューク時間	10:00
Pacific/Easter	EAST	CL	イースター島標準時間	-6:00
Pacific/Easter	EASST	CL	イースター島夏時間	-5:00

384 付録1 • タイムゾーンIDとタイムゾーン名

タイムゾーン情報	タイムゾーン名	リージョン	タイムゾーンの説明	タイムゾーンのオフセット
Pacific/Efate	VUT	VU	バヌアツ標準時間	11:00
Pacific/Enderbury	PHOT	KI	フェニックス諸島時間	13:00
Pacific/Fakaofo	TKT	TK	トケラウ時間	13:00
Pacific/Fiji	FJT	FJ	フィジー標準時間	12:00
	FJST	FJ	フィジー夏時間	12:00
Pacific/Funafuti	TVT	TV	ツバル時間	12:00
Pacific/Galapagos	GALT	EC	ガラパゴス時間	-6:00
Pacific/Gambier	GAMT	PF	ガンビア時間	-9:00
Pacific/Guadalcanal	SBT	SB	ソロモン諸島時間	11:00
Pacific/Guam	CHST	GU	チャモロ標準時間	10:00
Pacific/Honolulu	HST	US	ハワイ・アリューシヤン標準時間	-10:00
Pacific/Johnston	HST	UM	ハワイ・アリューシヤン標準時間	-10:00
Pacific/Kiritimati	LINT	KI	ライン諸島時間	14:00
Pacific/Kosrae	KOST	FM	コスラエ時間	11:00
Pacific/Kwajalein	MHT	MH	マーシャル諸島時間	12:00
Pacific/Majuro	MHT	MH	マーシャル諸島時間	12:00
Pacific/Marquesas	MART	PF	マルキーズ時間	-6:27
Pacific/Midway	SST	UM	サモア標準時間	-11:00
Pacific/Nauru	NRT	NR	ナウル時間	12:00
Pacific/Niue	NUT	NU	ニウエ時間	-11:00
Pacific/Norfolk	NFT	NF	ノーフォーク島時間	11:30
Pacific/Noumea	NCT	NC	ニューカレドニア標準時間	11:00
Pacific/Pago_Pago	SST	AS	サモア標準時間	-11:00
Pacific/Palau	PWT	PW	パラオ時間	9:00
Pacific/Pitcairn	PST	PN	ピトケアン時間	-8:00
Pacific/Pohnpei	PONT	FM	ポンペイ(ボナペ)時間	11:00
Pacific/Ponape	PONT	FM	ポンペイ(ボナペ)時間	11:00
Pacific/Port_Moresby	PGT	PG	パプアニューギニア時間	10:00

タイムゾーン情報	タイムゾーン名	リージョン	タイムゾーンの説明	タイムゾーンのオフセット
Pacific/Rarotonga	CKT	CK	クック諸島標準時間	-10:00
Pacific/Saipan	CHST	MP	チャモロ標準時間	10:00
Pacific/Samoa	SST	AS	サモア標準時間	-11:00
Pacific/Tahiti	TAHT	PF	タヒチ時間	-10:00
Pacific/Tarawa	GILT	KI	ギルバート諸島時間	12:00
Pacific/Tongatapu	TOT	TO	トンガ標準時間	13:00
Pacific/Truk	CHUT	FM	チューク時間	10:00
Pacific/Wake	WAKT	UM	ウェーク島時間	12:00
Pacific/Wallis	WFT	WF	ウォリス・ツツナ時間	12:00
Pacific/Yap	CHUT	FM	チューク時間	10:00

推奨資料

このタイトルに関連した推奨される参考資料のリストを次に示します。

- [Base SAS Glossary](#)
- *Base SAS プロシージャガイド*
- *Base SAS Utilities: リファレンス*
- *Carpenter's Complete Guide to PROC REPORT*
- *Cody's Data Cleaning Techniques Using SAS, Second Edition*
- *Combining and Modifying SAS Data Sets: Examples, Second Edition*
- *Learning SAS by Example*
- *Output Delivery System: The Basics and Beyond*
- *UNIX 版 SAS*
- *Windows 版 SAS*
- *z/OS 版 SAS*
- *SAS データセットオプション: リファレンス*
- *SAS 出力形式と入力形式: リファレンス*
- *SAS 関数と CALL ルーチン: リファレンス*
- *SAS Functions by Example, Second Edition*
- *SAS Language Interfaces to Metadata*
- *SAS 言語リファレンス: 解説編*
- *SAS ステートメント: リファレンス*
- *SAS 各国語サポート(NLS): リファレンスガイド*
- *SAS Output Delivery System: ユーザーガイド*
- *SAS Scalable Performance Data Engine: リファレンス*
- *SAS XML LIBNAME Engine: ユーザーガイド*
- *Step-by-Step Programming with Base SAS*
- *The Little SAS Book: A Primer, Fifth Edition*

SAS 刊行物の一覧については、sas.com/store/books から入手できます。必要な書籍についての質問は SAS 担当者までお寄せください:

SAS Books

SAS Campus Drive
Cary, NC 27513-2414
電話: 1-800-727-0025
ファクシミリ: 1-919-677-4444
メール: sasbook@sas.com
Web アドレス: sas.com/store/books

キーワード

LAST=システムオプション 172

%

%INCLUDE ステートメント
可変サイズレコード入力の読み込み開始位置 236

1

16 進値
システムオプション 4

2

2 次ソースステートメント
SAS ログに書き込む 248

A

ALIGNSASIOFILES システムオプション 53
ANIMATION=システムオプション 54
ANIMDURATION=システムオプション 55
ANIMLOOP=システムオプション 56
ANIMOVERLAY システムオプション 57
APPEND=システムオプション 58
システムオプション値の変更 12
APPLETLOC=システムオプション 60
AUTHPD 60
AUTHPROVIDERDOMAIN システムオプション 60
AUTOCORRECT システムオプション 62
AUTOEXEC ファイル
ログへのエコー出力 118
AUTOSAVELOC=システムオプション 64

B

BINDING=システムオプション 64

BOTTOMMARGIN=システムオプション 65

buffers

size of 68
BUFNO=システムオプション 66
BUFSIZE= system option 68
BYERR システムオプション 70
BYLINE システムオプション 71
BYSORTED システムオプション 72
BY 行
表示 71
BY 変数
あるデータセットに存在して別のデータセットには存在しない 309

C

CAPS システムオプション 73
CARDIMAGE システムオプション 74
CATCACHE=システムオプション 75
CBUFNO=システムオプション 76
CENTER システムオプション 77
CGOPTIMIZE=システムオプション 78
CHARCODE システムオプション 79
CHKPTCLEAN システムオプション 80
CLEANUP システムオプション 81
CMPLIB 83
CMPLIB=システムオプション 83
CMPMODEL=システムオプション 85
CMPOPT=システムオプション 85
COLLATE システムオプション 88
COLOPHON=システムオプション 89
COLORPRINTING システムオプション 91
COMPRESS=システムオプション 92
COPIES 94
COPIES=システムオプション 94
CPUCOUNT=システムオプション 94
CPUID システムオプション 96
CSTGLOBAL=システムオプション 97
CSTSAMPLELIB=システムオプション 97

D

data sets
 buffer size 68
 DATA=オプション
 PROC OPTLOAD ステートメント 342
 DATALINES ステートメント
 データ長 232
 DATAPAGESIZE=システムオプション 98
 DATASTMTCHK=システムオプション 99
 DATA ステートメント
 使用できるキーワード 99
 DATA ステップ 115
 DATESTYLE=システムオプション 100
 DATE システムオプション n 99
 DECIMALCONV=システムオプション 101
 DEFINE オプション
 PROC OPTIONS ステートメント 322
 Deflate 圧縮アルゴリズム 102
 DEFLATION 102
 DEFLATION=システムオプション 102
 DETAILS システムオプション 103
 DKRICOND=システムオプション 104
 DKROCOND=システムオプション 105
 DLCREATEDIR システムオプション 106
 DLLDMGACTION=システムオプション 107
 DMOPTLOAD コマンド 341
 DMOPTSAVE コマンド 347
 DMR システムオプション 108
 DMSEXP システムオプション 110
 DMSLOGSIZE=システムオプション 111
 DMSOUTSIZE=システムオプション 112
 DMSPGMILINESIZE=システムオプション 113
 DMSSYNCHK システムオプション 114
 DMS システムオプション 109
 DROP= DATA ステップオプション
 出力データセットのエラー検出 105
 DROP=データセットオプション
 入力データセットのエラー検出 104
 DROP ステートメント
 出力データセットのエラー検出 105
 DSACCEL=システムオプション 115
 DSNFERR システムオプション 116
 DTRESET システムオプション 117
 DUPLEX 117
 DUPLEX システムオプション 117

E

ECHOAUTO システムオプション 118
 EMAILACKWAIT-システムオプション 119

EMAILAUTHPROTOCOL=システムオプション 120
 EMAILCUTOFFSET=システムオプション 128
 EMAILFROM システムオプション 121
 EMAILHOST システムオプション 122
 EMAILID=システムオプション 124
 EMAILPORT システムオプション 125
 EMAILPW=システムオプション 126
 ENGINE 129
 ENGINE=システムオプション 129
 EOC=システムオプション 136
 ERRORABEND システムオプション 129
 ERRORBYABEND システムオプション 130
 ERRORCHECK=システムオプション 131
 ERRORS=システムオプション 132
 EVENTDS=システムオプション 133
 EXPLORER システムオプション 135
 EXTENDOBSCOUNTER=システムオプション 136

F

FILENAME ステートメントの EMAIL (SMTP)
 UTC オフセット 128
 FILESYNC=システムオプション 137
 FIRSTOBS=システムオプション 138
 FMTERR システムオプション 140
 FMTSEARCH=システムオプション 141
 FONTEMBEDDING システムオプション 144
 FONTRENDERING=システムオプション 145
 FONTSLOC=システムオプション 146
 FORMCHAR=システムオプション 147
 FORMDLIM=システムオプション 148
 FORMS=システムオプション 149
 FROM 電子メールオプション 121

G

GETOPTION 関数 21
 YEARCUTOFF システムオプションの変更 24
 レポートオプションの取得 24
 GROUP=オプション
 PROC OPTIONS ステートメント 322

H

HELPBROWSER=システムオプション 149
 HELPENCMOD システムオプション 150

HELPHOST=システムオプション 151
 HELPPORT=システムオプション 152
 HEXVALUE オプション
 PROC OPTIONS ステートメント 322
 HOSTINFOLONG システムオプション
 153
 HOST オプション
 PROC OPTIONS ステートメント 322
 HTTPSERVERPORTMAX=システムオプション 154
 HTTPSERVERPORTMIN=システムオプション 154
 HTTP サーバー
 最小ポート番号 154
 最大ポート番号 154

I
 I/O 最適化 53
 IBUFNO=システムオプション 155
 IBUFSIZE 157
 IBUFSIZE=システムオプション 157
 IMLPACKAGEPRIVATE=システムオプション 158
 IMLPACKAGEPUBLIC=システムオプション 159
 IMLPACKAGESYSTEM=システムオプション 160
 INITCMD システムオプション 160
 INITSTMT=システムオプション 162
 INSERT=システムオプション
 システムオプション値の変更 12
 INSERT システムオプション 163
 INTERVALDS=システムオプション
 ユーザー指定の祝日 164
 INVALIDDATA=システムオプション 166
 IS=システムオプション 162

J
 Java アプレットの場所 60
 JPEGQUALITY=システムオプション
 166
 JPEG ファイル
 品質係数 166

K
 KEEP= DATA ステップオプション
 出力データセットのエラー検出 105
 KEEP=データセットオプション
 入力データセットのエラー検出 104
 KEEP ステートメント
 出力データセットのエラー検出 105
 KEY=オプション
 PROC OPTLOAD ステートメント 342

PROC OPTSAVE ステートメント 348

L
 LABELCHKPTLIB システムオプション
 169
 LABELCHKPT システムオプション 168
 LABELRESTART システムオプション
 171
 LABEL システムオプション 167
 LEFTMARGIN=システムオプション 173
 LINESIZE=システムオプション 174
 LISTGROUPS オプション
 PROC OPTIONS ステートメント 323
 LISTINSERTAPPEND オプション
 PROC OPTIONS ステートメント 322
 LISTOPTSAVE オプション
 PROC OPTIONS ステートメント 323
 LISTRESTRICT オプション
 PROC OPTIONS ステートメント 323
 LOGNUMBERFORMAT オプション
 PROC OPTIONS ステートメント 323
 LOGPARM=システムオプション 175
 LONG オプション
 PROC OPTIONS ステートメント 323
 LRECL=システムオプション 181
 LS=システムオプション 174

M
 MERGENOBY システムオプション 182
 MERGE 処理
 BY ステートメントを使用しない 182
 MISSING=システムオプション 182
 MODEL プロジェクタ
 出力モデルの種類 85
 MSGLEVEL=システムオプション 183
 MULTENVAPPL システムオプション
 184

N
 NEWS=システムオプション 185
 NOEXPAND オプション
 PROC OPTIONS ステートメント 323
 NOHOST オプション
 PROC OPTIONS ステートメント 323
 NOLOGNUMBERFORMAT オプション
 PROC OPTIONS ステートメント 324
 NOTE
 SAS ログに書き込む 186
 NOTES システムオプション 186
 NOUPC=システムオプション 289
 NUMBER システムオプション 186

- O**
- OBS=システムオプション 187
 - WHERE 処理 190
 - オブザベーションが削除されたデータ
 セット 193
 - 詳細 188
 - 比較 189
 - 例 189
 - ODS 出力
 - ブラウザ 149
 - OPTION=オプション
 - PROC OPTIONS ステートメント 324
 - OPTIONS ステートメント 27
 - システムオプションの指定 4
 - OPTIONS プロシージャ
 - オプショングループの設定を表示する
 328
 - 概要 319
 - 結果 334
 - 構文 320
 - OPTLOAD プロシージャ
 - 概要 341
 - 構文 341
 - タスクテーブル 0
 - OPTSAVE プロシージャ
 - 概要 347
 - 構文 347
 - タスクテーブル 0
 - ORIENTATION=システムオプション 196
 - OUT=オプション
 - PROC OPTSAVE ステートメント 348
 - OVP システムオプション 199
- P**
- PAGEBREAKINITIAL システムオプション 199
 - PAGENO=システムオプション 200
 - PAGESIZE=システムオプション 201
 - PAPERDEST=システムオプション 202
 - PAPERSIZE=システムオプション 203
 - PAPERSOURCE=システムオプション 205
 - PAPERTYPE=システムオプション 206
 - PARM=システムオプション 206
 - PARMCARDS=システムオプション 207
 - PARMCARDS ステートメント
 - 開くファイル参照 207
 - PDFACCESS システムオプション 208
 - PDFASSEMBLY システムオプション 209
 - PDFCOMMENT システムオプション 210
 - PDFCONTENT システムオプション 211
 - PDFCOPY システムオプション 212
 - PDFFILLIN システムオプション 213
- PDFPAGE_LAYOUT=システムオプション** 215
- PDFPAGEVIEW=システムオプション** 216
- PDFPASSWORD=システムオプション** 216
- PDFSECURITY=システムオプション** 219
- PDF ドキュメント**
 - アセンブリ 209
 - 印刷権限 219
 - 印刷の解像度 218
 - コピー 212
 - コメントの変更 210
 - 視覚障害者のためのスクリーンリーダー
 — 208
 - 内容の変更 211
 - パスワード 216
 - ページ表示モード 216
 - ページレイアウト 215
- PDF フォーム**
 - 入力 213
- PREENV システムオプション** 221
- PRIMARYPROVIDERDOMAIN=システムオプション** 222
- PRIMPD=システムオプション** 222
- PRINTERPATH** 223
- PRINTERPATH=システムオプション** 223
- PRINTINIT システムオプション** 225
- PRINTMSGLIST システムオプション** 225
- PROC OPTIONS ステートメント** 320
- PROC OPTLOAD ステートメント** 342
- PROC OPTSAVE ステートメント** 348
- PS=システムオプション** 201
- QUOTELENMAX システムオプション** 226
- R**
- RENAME= DATA ステップオプション**
 - 出力データセットのエラー検出 105
 - RENAME=データセットオプション**
 - 入力データセットのエラー検出 104
 - RENAME ステートメント**
 - 出力データセットのエラー検出 105
 - REPLACE システムオプション** 227
 - RESTRICT オプション**
 - PROC OPTIONS ステートメント 324
 - REUSE=システムオプション** 228

- RIGHTMARGIN=システムオプション 229
 RLANG システムオプション 230
 RSASUSER システムオプション 231
R 言語
 SAS へのインターフェイス 230
- S**
- S=システムオプション 232
 S2=システムオプション 234
 S2V=システムオプション 236
 SAS オプションウインドウ, OPTIONS ステートメントとの比較 28
 SAS/AF
 ウィンドウの非表示 160
 SAS/CONNECT
 リモートセッション機能 108
 SAS/GRAFH ファイル
 圧縮 289
 SAS/IML パッケージ
 SAS/IML パッケージの場所の設定 160
 個人用パッケージの場所の設定 158
 パブリックパッケージの場所の設定 159
 SASHELP=システムオプション 238
 SASHELP ライブラリ
 場所 238
 SASUSER=システムオプション 239
 SASUSER ライブラリ
 使用する SAS ライブラリ 239
 読み込みアクセスまたは読み込み/書き込みアクセスで開く 231
 SAS ウィンドウ環境
 起動 109
 構文チェック 114
 SAS 環境保持 221
 SAS 起動
 Work ライブラリの初期化 313
 SAS システムオプション
 値の変更 27
 SAS ステートメント
 Work データライブラリ内のユーティリティデータセットに書き込む 248
 起動時に実行する 162
 SAS セッション
 終了時にステートメントを実行する 280
 端末デバイスの関連付け 279
 SAS セッションエンコーディング
 URLENCODE 関数と URLDECODE
 関数の設定 290
 SAS データセット
 最適化 98
 命名 299
 SAS データビュー
- 命名 299
 SAS プロシージャ
 変数ラベルの使用 167
 SAS プロシージャ出力ファイル
 初期化 225
 SAS ログ
 2 次ソースステートメントの書き込み 248
 AUTOEXEC 入力 118
 NOTE を書き込む 186
 ソースステートメントの書き込み 247
 日時, 表示 99
 ハードウェア情報の書き込み 96
 ホスト情報の書き込み 153
 メッセージの出力, すべてまたはトップレベル 225
 メッセージの詳細のレベル 183
 メッセージを書き込む news ファイル 185
 SEQ=システムオプション 239
 SETINIT システムオプション 241
 SET システムオプション 240
 SHORT オプション
 PROC OPTIONS ステートメント 323, 324
 SKIP=システムオプション 241
 SOLUTIONS システムオプション 242
 SOLUTIONS メニュー
 SAS ウィンドウに挿入する 242
 SORTDUP=システムオプション 243
 SORTEQUALS 244
 SORTEQUAL システムオプション 244
 SORTSIZE=システムオプション 245
 SORTVALIDATE システムオプション 246
 SORT プロシージャ
 エラーメッセージ 70
 重複する変数の削除 243
 メモリ 245
 ユーザー指定の並べ替え順序の検証 246
 SOURCE2 システムオプション 248
 SOURCE システムオプション 247
 SPOOL システムオプション 248
 STARTLIB システムオプション 249
 STEPCHKPTLIB=システムオプション 252
 STEPCHKPT システムオプション 250
 STEPRESTART システムオプション 253
 STRIPESIZE=システムオプション 255
 SUMSIZE=システムオプション 256
 SVGAUTOPLAY システムオプション 258
 SVGCONTROLBUTTONS システムオプション 258
 SVGFADEIN=システムオプション 259

- S**
- SVGFADEMODE=システムオプション 260
 - SVGFADEOUT=システムオプション 261
 - SVGHEIGHT=システムオプション 262
 - SVGMAGNIFYBUTTON システムオプション 264
 - SVGPRESERVEASPECTRATIO 264
 - SVGPRESERVEASPECTRATIO=システムオプション 264
 - SVGTITLE=システムオプション 267
 - SVGVIEWBOX=システムオプション 268
 - SVGWIDTH=システムオプション 270
 - SVGX=システムオプション 272
 - SVGY=システムオプション 274
 - SVG 出力
 - viewBox の設定 268
 - XML ファイルのタイトル要素の値 267
 - 均一スケールの適用 264
 - 縦横比の維持 264
 - タイトルバーのタイトル 267
 - ビューポートの高さ 262
 - ビューポートの幅 270
 - SVG ドキュメント
 - ページ制御ボタン 258
 - SYNTAXCHECK システムオプション 275
 - SYSPRINTFONT=システムオプション 277
- T**
- TERMINAL システムオプション 279
 - TERMSTMT=システムオプション 280
 - TEXTURELOC=システムオプション 281
 - THREADS システムオプション 282
 - TIMESZONE=システムオプション 284
 - TOPMARGIN 285
 - TOPMARGIN=システムオプション 285
 - TRAINLOC=システムオプション 286
 - TZ=システムオプション 284
- U**
- UBUFNO=システムオプション 287
 - UBUFSIZE=システムオプション 288
 - UPC=システムオプション 289
 - UPRINTCOMPRESSION システムオプション 289
 - URLENCODING=システムオプション 290
 - USER=システムオプション 291
 - UTF-8 エンコーディング 290
 - UTILLOC=システムオプション 292
 - UUIDCOUNT=システムオプション 294
- V**
- UUIDGENHOST=システムオプション 295
 - UUID ジェネレーターモン 取得する UUID の数 294
 - ホストとポート 295
- W**
- WHERE 処理
 - OBS=システムオプション 190
 - WORK=システムオプション 312
 - WORKINIT システムオプション 313
 - Workk データライブラリ
 - ユーティリティデータセットへの SAS ステートメントの書き込み 248
 - WORKTERM システムオプション 314
 - Work データライブラリ
 - SAS 起動時の初期化 313
 - 指定 312
 - チェックポイント-再開データの消去 80
 - Work ファイル
 - セッション終了時に消去する 314
- X**
- XML ファイル
 - タイトル要素の値 267
- Y**
- YEARCUTOFF=システムオプション 315
 - GETOPTION 関数を用いた変更 24
- あ**
- アイテムストア
 - 命名 299
 - アウトプットウィンドウ

- 起動 110
 - 最大行数 112
 - 非表示 160
 - 圧縮
 - Deflate アルゴリズムをサポートするデバイスドライバ 102
 - ユニバーサルプリンタと SAS/GRAPH ファイル 289
 - 圧縮データセット
 - オブザベーション追加時の領域の再利用 228
 - アニメーション 54, 55, 56, 57, 258, 259, 260, 261
 - アプレットの場所 60
 - 印刷
 - PDF ドキュメント 218, 219
 - SAS プロシージャ出力ファイルの初期化 225
 - 印刷部数 94
 - エラーメッセージの重ね打ち 199
 - 各ページのタイトル行にページ番号 186
 - カラー印刷 91
 - デフォルトの用紙 149
 - トレイの指定 202
 - ページの向き 196
 - 用紙サイズ 203
 - 用紙トレイの名前 205
 - 用紙の種類 206
 - 両面印刷の制御 117
 - 印刷部数の指定 94
 - インデックスファイル
 - ナビゲーションに使用する追加バッファ 155
 - 上の余白 285
 - エクスプローラウインドウ
 - 起動 110, 135
 - エラー検出レベル
 - 出力データセット 105
 - 入力データセット 104
 - エラー処理
 - BY グループ処理 130
 - カタログ 107
 - 出力形式が見つからない 140
 - 初期化されない変数 303
 - 数値データ 166
 - バッチ処理 131
 - エラーに対する対応 129
 - エラーメッセージ
 - SORT プロシージャ 70
 - あるデータセットに存在して別のデータ セットには存在しない BY 変数 309
 - 重ね打ち 199
 - 最大出力数 132
 - エラーメッセージの重ね打ち 199
 - エンコーディング
 - URLENCODE 関数と URLDECODE
 - 関数の設定 290
 - 大文字
 - 入力の変換 73
 - オブザベーション
 - エラーメッセージ, 出力数 132
 - 数を増やす 136
 - 指定したオブザベーションから開始 138
 - 出力の圧縮 92
 - 処理の停止 187
 - オブザベーション数
 - 増やす 136
 - オブザベーションの圧縮 92
 - オンライントレーニングコース 286
- か**
- 開始位置
 - 可変サイズレコード入力の読み込み 236
 - 解像度
 - PDF ドキュメントの印刷 218
 - 外部ファイル
 - 読み込みと書き込みの論理レコード長 181
 - 外部プログラム
 - パラメータ文字列を渡す 206
 - 改ページ
 - 区切り 148
 - カタログ
 - エラー処理 107
 - 検索順序 141
 - ページバッファ 76
 - 開いておける数 75
 - 可変サイズレコード入力の読み込み 236
 - 可変サイズレコードの入力
 - 読み込み開始位置 236
 - カラー印刷 91
 - 間隔値
 - ユーザー指定の祝日 164
 - キーボード 79
 - キーボードにない特殊文字 79
 - キーワード, DATA ステートメントでの使用 99
 - 起動
 - ユーザー定義の永久ライブラリ参照名を割り当てる 249
 - 起動時
 - SAS ステートメントの実行 162
 - 行サイズ
 - プログラムエディタ 113
 - 行のスキップ 241
 - グラフィックオプション
 - 値を返す 21

- グローバルステートメント
 - 保持 [221](#)
- 結果ウィンドウ
 - 起動 [110](#)
- 欠損値
 - 欠損数値のかわりに印刷する文字 [182](#)
- 権限
 - PDF ドキュメントの印刷 [219](#)
- 検索順序
 - フォーマットカタログ [141](#)
- コードコンパイル
 - 最適化レベル [78](#)
- コード生成の最適化 [85](#)
- 構文チェック [275](#)
 - SAS ウィンドウ環境 [114](#)
- コピー
 - PDF ドキュメント [212](#)
- コメント
 - PDF ドキュメント [210](#)
 - 出力に埋め込み [89](#)
- コンパイラサブルーチン [83](#)
- コンパイル
 - 最適化レベル [78](#)
- コンパライラの最適化 [85](#)

- さ**
- 最適化
 - コードコンパイル中 [78](#)
- サイトライセンス情報
 - 変更 [241](#)
- シーケンスフィールド
 - 数値部分の長さ [239](#)
- 視覚障害者
 - PDF ドキュメントのスクリーンリーダー [208](#)
- システムオプション [3](#)
 - 16 進値 [4](#)
 - INSERT と APPEND を使用した変更 [12](#)
 - OPTIONS ステートメントでの指定 [4](#)
 - OPTIONS プロシージャ [319](#)
 - 値の設定の確認 [10](#)
 - 値を返す [21](#)
 - 簡易形式のリスト [335](#)
 - グループの設定を表示する [328](#)
 - 現在の設定の確認 [5](#)
 - 現在の設定のリスト [319](#)
 - 現在の設定を保存する [347](#)
 - 構成ファイルでの指定 [4](#)
 - 構文 [4](#)
 - コマンドラインでの指定 [4](#)
 - 情報 [11](#)
 - 情報の表示 [326](#)
 - 制限 [6](#)
- 制限オプションの表示 [332](#)
- 制限されたオプションの確認 [6](#)
- 設定期間 [15](#)
- 設定の確認 [10](#)
- 設定の変更 [11](#)
- 単一オプションの設定を表示する [336](#)
- データセットオプション [17](#)
- デフォルト設定 [4](#)
- デフォルト値と開始値のリセット [14, 21](#)
- 保存とロード [5](#)
- 優先順位 [16](#)
- リストの表示 [325](#)
- レジストリまたはデータセットから読み込む [341](#)
- システムオプション s
 - 比較 [17](#)
 - システムオプション値のリセット [14, 21](#)
 - システムオプション情報の表示 [326](#)
- 自動実行ファイル
 - 可変サイズレコード入力の読み込み開始位置 [236](#)
- 自動保存ファイル
 - 場所 [64](#)
- 自動呼び出しマクロファイル
 - 可変サイズレコード入力の読み込み開始位置 [236](#)
- 祝日
 - ユーザー指定 [164](#)
- 出力
 - 圧縮 [92](#)
 - 印刷のデフォルト用紙 [149](#)
 - 上の余白 [285](#)
 - エラーメッセージの重ね打ち [199](#)
 - 改ページに使用する区切り文字 [148](#)
 - 行のスキップ [241](#)
 - スプール [248](#)
 - トレイの指定 [202](#)
 - 配置 [77](#)
 - 左の余白 [173](#)
 - フォーマッティング文字 [147](#)
 - 部単位印刷 [88](#)
 - ページサイズ [201](#)
 - 右の余白 [229](#)
 - 出力形式
 - 名前の長さ [297](#)
 - 見つからない [140](#)
 - 出力データセット
 - エラー検出 [105](#)
 - オブザベーション数を増やす [136](#)
 - パフォーマンスの最適化 [53](#)
 - 出力の配置 [77](#)
 - 出力の部単位印刷 [88](#)
 - 出力モデルの種類 [85](#)
 - 数値データ
 - 欠損値のかわりに印刷する文字 [182](#)
 - 無効 [166](#)

数値の区切り 323
 スクリーンリーダー
 視覚障害者のための PDF ドキュメント 208
 ステートメント
 SAS セッションの終了時に実行する 280
 Work データライブラリ内のユーティリティデータセットに書き込む 248
 長さ 232, 234
 スペルミスの名前
 自動修正 62
 スレッド
 並行処理 94
 スレッド処理 282
 制限されたオプション 6
 ソース行
 カードイメージ 74
 ソースステートメント
 SAS ログに 2 次ステートメントを書き込む 248
 SAS ログに書き込む 247
 長さ 232, 234

システムオプションのロード 341
 出力の圧縮 92
 破損 107
 バッファ数 66
 バッファサイズ 98
 見つからない 116
 データセットオプション
 システムオプション 17
 ディレクトリ
 作成 106
 デバイスドライバ
 Deflate 圧縮アルゴリズムのサポート 102
 電子メール
 UTC オフセット 128
 認証プロトコル 120
 パスワード 126
 とじ辺 64
 ドメインサフィックス
 認証プロバイダと関連付ける 60
 トレーニングコース, オンライン 286
 トレイの指定
 印刷出力 202
 用紙トレイの名前 205

た

タイトル
 SVG 出力 267
 タイトル行
 ページ番号の印刷 186
 タイムスタンプ 99
 縦方向 196
 端末デバイス
 SAS セッションとの関連付け 279
 チェックポイント-再開データ
 DATA ステップと PROC ステップの記録 250
 DATA ステップライブラリと PROC ステップライブラリのライブラリ参照名 252
 Work ライブラリの消去 80
 パッチプログラムの指定 171, 253
 ラベル付きコードセクションの記録 168
 ラベル付きコードセクションライブラリのライブラリ参照名 169
 データ行
 カードイメージ 74
 シーケンスフィールドの長さ 239
 データセット
 圧縮されたデータセットの領域の再利用 228
 永久保存の置換 227
 オブザベーション数を増やす 136
 コンパイラサブルーチン 83
 最後に作成された 172
 システムオプション設定の保存 347

な

並べ替え順序
 ユーザー指定の検証 246
 日時の入力形式と関数
 年カットオフ 315
 入力
 大文字変換 73
 カードイメージ 74
 入力形式
 あいまいなデータ 100
 名前の長さ 297
 入力ソース行
 シーケンスフィールドの数値部分の長さ 239
 入力データセット
 エラー検出レベル 104
 認証プロバイダ 60

は

ハードウェア情報, SAS ログに書き込む 96
 パスワード
 PDF ドキュメント 216
 破損したデータセットまたはカタログ 107
 パッチ処理
 DATA ステップと PROC ステップのチェックポイント-再開データ 253
 エラー処理 131

- チェックポイント-再開データの記録
 250
- ラベル付きコードセクションチェックポイ
ント-再開データ 171
- バッチプロセス
 - チェックポイント-再開データの記録
 168
- バッファ
 - I/O 最適化のためのデータ配置 53
 - インデックスファイルのナビゲーション
 に使用する追加バッファ 155
 - カタログで使用するページバッファ 76
 - 最適サイズ 98
 - データセットで使用する数 66
 - ディスクへの書き込み 137
 - 表示サイズ 307
 - ユーティリティ 287
 - パフォーマンス 255
 - パラメータ文字列
 - 外部プログラムに渡す 206
 - 左の余白 173
 - 日付スタンプ 99
 - 日付の入力形式と関数
 - 年カットオフ 315
 - フォーマッティング文字 147
 - フォーマットカタログ
 - 関連ロケール 141
 - 検索順序 141
 - フォント
 - オペレーティングシステムまたは
 FreeType エンジンを使用してレンダ
 リングする 145
 - フォント埋め込み 144
 - フォントの選択ウィンドウ
 - SAS フォントのみ表示 184
 - ブラウザ
 - ODS 出力 149
 - SAS ヘルプ 149
 - プリンタ
 - デフォルトプリンタのフォント 277
 - とじ辺 64
 - ユニバーサル印刷 223
 - 用紙サイズ 203
 - プログラムエディタ
 - 1 行の最大文字数 113
 - 自動保存ファイル 64
 - プログラムエディタウィンドウ
 - 起動 110
 - 非表示 160
 - プロシージャ
 - 変数ラベルの使用 167
 - プロシージャ出力
 - 行サイズ 174
 - 配置 77
 - プロシージャ出力ファイル
 - 初期化 225
 - プロシージャ出力ファイルの初期化 225
 - ページサイズ 201
 - ページ制御ボタン
 - SVG ドキュメント 258
 - ページバッファ
 - カタログ 76
 - ページ番号
 - 各ページのタイトル行に印刷 186
 - リセット 200
 - ページ表示モード 216
 - ページレイアウト
 - PDF ドキュメント 215
 - 並列処理 115
 - ヘルプ
 - オンライントレーニングコース 286
 - ブラウザ 149
 - リモートヘルプクライアント 152
 - リモートヘルプブラウザ 151
 - 変数
 - 出力形式が見つからない 140
 - ラベルの使用, SAS プロシージャ 167
 - 変数名
 - 有効な命名規則 301
 - ポート番号
 - リモートブラウザクライアント 152
 - リモートブラウジングの HTTP サーバ
 — 154
 - ま**
 - マクロ変数
 - 保持 221
 - 無効なデータ
 - 数値 166
 - メッセージ
 - BY ステートメントを使用しない
 MERGE 処理 182
 - SAS ログに書き込まれる news ファイ
 ル 185
 - SAS ログへの出力, すべてまたはトッ
 プレベル 225
 - 詳細のレベル 183
 - メニュー
 - SAS ウィンドウの SOLUTIONS メニュー
 — 242
 - メモリ
 - SORT プロシージャ 245
 - データ要約プロシージャ 256
 - 文字の組み合わせ 79
 - や**
 - ユーザー指定の祝日 164
 - ユーザー定義のライブラリ参照名
 - 起動時に割り当てる 249
 - ユーティリティファイル

- バッファ数 [287](#)
- バッファサイズ [98](#), [288](#)
- ユニバーサル印刷
 - コメント, 出力に埋め込み [89](#)
 - フォント埋め込み [144](#)
 - プリンタの指定 [223](#)
 - ユニバーサルプリンタ
 - ファイルの圧縮 [289](#)
 - 用紙
 - 印刷のデフォルト用紙 [149](#)
 - 用紙サイズ [203](#)
 - 用紙の種類 [206](#)
 - 用紙の向き [196](#)
 - 用紙の向き, 印刷 [196](#)
 - 横方向 [196](#)
 - 余白
 - 上の余白 [285](#)
 - 下の余白のサイズ [65](#)
 - 左の余白 [173](#)
 - 右の余白 [229](#)
- ら**
- ライセンス情報
- 変更 [241](#)
- ライブラリ
 - SASUSER ライブラリとして使用する
 - SAS ライブラリ [239](#)
 - 詳細リスト [103](#)
 - 存在しないライブラリの作成 [106](#)
 - デフォルトアクセスメソッド [129](#)
 - デフォルトの永久 SAS ライブラリ [291](#)
 - 破損したデータセットまたはカタログ [107](#)
- ライブラリ参照名
 - ユーザー定義の割り当て, 起動 [249](#)
- ラベル
 - SAS プロシージャで変数に使用する [167](#)
- リソース不足状態 [81](#)
- リターンコード [226](#)
- リモート SAS セッション [108](#)
- リモートブラウ징
 - HTTP サーバーの最小ポート番号 [154](#)
 - HTTP サーバーの最大ポート番号 [154](#)
- リモートヘルプクライアント
 - ポート番号 [152](#)
- リモートヘルプブラウザ [151](#)
- 両面印刷 [117](#)
- レイアウト
 - PDF ドキュメント [215](#)
- レコード
 - 処理の停止 [187](#)
- レジストリ
 - システムオプション設定の保存 [347](#)
 - システムオプションのロード [341](#)
- ログウィンドウ
 - 起動 [110](#)
 - 最大行数 [111](#)
 - 非表示 [160](#)
 - ログファイル [175](#)
- ロケール
 - 関連カタログ [141](#)
- 論理レコード長
 - 外部ファイルの読み込みと書き込み [181](#)

